

| | | | |
|---------|----------|-------|-----|
| プレゼミナール | | 青山 悦子 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本プレゼミナールは、3・4年次の専門ゼミナールへの導入がスムーズに行われるよう、その基礎となる部分を、履修者自身が作り上げていくことを目的としている。そのため、①年間を通して新聞を活用することで、経営、経済、社会問題への関心を広げていく、②履修者の問題関心を考慮しながら、入門書となるような本を選定し、その内容の報告、質疑、討論を重ねていくことで、報告、討論する力を養う、③自分の頭で考える力を養う等を、到達目標とする。 |
| (2)授業の方法 | 年間を通して、新聞の活用を図る。履修者の問題関心を考慮した上で選定したテキストを、その内容の報告と、質疑、討論を中心に、学生主体に運営する。必要に応じて、ビデオも使用する。 |
| (3)授業の体系 | 専門科目学習のための導入教育 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ゼミナールなので、出席と、ゼミへの関わり方が、すべてである。当然、課題の提出は、評価の前提となる。 |
| (5)履修の条件 | プレゼミを共に、作っていかうとする意欲のある学生は、大歓迎。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------------------------|-----------|-------|-----|
| プレゼминаール「社会問題との出会い、そして市民であること」 | | 内田 和夫 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>皆さんに社会問題に出会ってもらうところからこのゼミは始まります。当面予定しているのはつぎの問題です。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 豊かな日本での貧困問題とその解決 2) アフガニスタン民衆からみた9.11米国同時多発テロの意味 3) 阪神大震災後の地域の再生 4) 学校給食に今も公共性はあるか。 5) マンション林立と市民の地域づくり 6) 地域における企業と環境保全の両立はあるか 7) 世界的な水不足と日本の市民の国際協力 <p>問題を市民として受け止めた時、どう解決が考えられるでしょうか。議論しあいます。市民であるための第1条件はいい意味での好奇心があることです。思わず、身を乗り出す人になってしまった、気がついたら調べていた、となっているのがこのゼミの第1目標です。</p> |
| (2)授業の方法 | ドキュメンタリービデオを見る。現場レポートの論文を読む。問題の現場にいてみる。自分の考えをどんどん書く。そして議論すること。 |
| (3)授業の体系 | <p>いろいろな媒体で、社会問題に出会ってもらって、各人に感想・意見レポートを書いてきてもらいます。それをもとに議論による共同作業で、問題の成り立ち、解決のための課題と仕組みについて輪郭を描きだします。</p> <p>議論は、人としての問題の受け止め方、市民としてのありよう、公共的解決、解決の担い手それぞれの課題が中心になります。</p> <p>課題の担い手は、市民自身、家族、地域社会、NGO/NPO、地域政府たる自治体企業、中央政府、国際機関、というものを考えることができます。</p> <p>また、問題の理解や課題の解決の考える上で、諸学問の分析方法や基本概念、基礎理論の素養が必要なことにも気づいていきたいと思います。</p> <p>希望があれば、諸学の入門的基本書もいっしょに読みたいと思います。</p> <p>最後にそれぞれの関心で、いいレポートを仕上げてみたい。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>おりおりの感想・意見レポートや議論への参加、そして最後のレポートで評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | 社会問題を考えてみたい人はだれでも歓迎しますが、公共的な解決、市民としてのあり方、地域社会、NGO/NPO、自治体、に関心があるとさらにいいです。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-----------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 久田恵 | 「日本貧困最前線」 | 文春文庫 | |
| | 中西準子 | 「水の環境戦略」 | 岩波新書 | |
| | 中村哲 | 「アフガニスタンの診療所から」 | 筑摩書房 | |
| (7)使用参考書 | 松下圭一 | 「転換期自治体の発想と手法」 | 公人の友社 | |
| | 兼子仁 | 「自治体・住民の法律入門」 | 岩波新書 | |
| | 延藤安弘 | 「何をめざして生きるんや」 | プレジデント社 | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|-----|
| プレゼミナール | | 戎野淑子 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「ゼミナール」という授業のあり方を理解し、3年生から始まる専門的なゼミナールに必要な基礎知識を修得することを目的としている。したがって、経済・経営に関して、自分なりに問題意識を持ち、そのテーマについて文献や資料等を用いて調べ、理解できるようになることが重要である。そして、その内容およびそれに対する自分の意見をレポートとしてまとめること、また、他の人にそれを理解してもらえるように発表すること、他の人の発表について自分なりの意見を持つことが要求される。 |
| (2)授業の方法 | 文献・資料を検索し、レポートの作成、発表、ディスカッション等を行う。パソコンを使用することもある。 |
| (3)授業の体系 | 経済・経営に関するテーマについて、 1、文献・資料を読む 2、レポート作成 3、発表 を行う。テーマについては、「企業」「仕事」「労働」などの課題を考えているが、受講者の興味・関心、希望を取り入れて決めたい。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 原則として、レポートと発表によって評価するが、授業態度等の平常点も考慮する。 |
| (5)履修の条件 | 基礎ゼミナール履修者 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|---|
| プレゼミナール | | 尾村敬二 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 本プレゼミナールは国際経済コースを選択する学生のための科目として位置付ける。学習の課題は「グローバル経済と地域・国家経済の展望」とする。その内容はWTO、NAFTA、二国間自由貿易協定などの国際自由貿易体制、経済危機とアジア経済、環境経済学、など多岐にわたる。本ゼミナールの目的は各履修学生が明確な学習目的を設定し、その目的を実現するための準備段階である学習方法を取得することにある。学習の過程で履修学生の国際問題についての意識を高め、それを実社会においていかに活用するかを理解させる。 |
| (2)授業の方法 | 基本的には各履修学生がそれぞれ学習テーマを設定し、それについての調査および発表する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 調査設定のための基礎的講義の実施 2. 資料の検索と分析 3. 調査レポートの発表と討論 3. 実際的応用策の作成 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>原則として平常点評価とする。レポート提出を怠るもの、年間10回以上の欠席者は採点評価されない。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>秋学期「国際援助論」を必ず履修すること。</p> <p>英文資料を読みこなす努力ができること。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | ベルトラン・シュナイダー | 国際援助の限界(ローマクラブ・レポート) | 朝日新聞社 | 1996 |
| | クリスファー・フライヴイン | 地球環境データブック | 家の光協会 | 2001 |
| (7)使用参考書 | レイチェル・カーソン | 沈黙の春 | 新潮社 | 1987 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|-------|---|
| プレゼミナール(国内政治と外交) | | 下河邊元春 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 外交の原点は、国内政治です。その国内政治が国際連合や世界貿易機関（WTO）など国際機構を舞台とした外交交渉や日米日欧、アジア諸国などとの2国間における政治・経済外交にどのような影響を与えているのか、また、これら外交交渉が私たちの日々の生活にどうかかわっているのか—を学びます。 |
| (2)授業の方法 | 私たちの日常生活から縁遠く、分かり難いと敬遠される政治と外交の関係について、身近な話題を検証のテーマに選び、小講義とプリントの輪読、小レポート発表、討論を通じて政治と外交の関係についての理解と問題意識を深めていきます。 |
| (3)授業の体系 | 授業では 1) 外交とは何か 2) 日本の平和主義と国際社会 3) 日本型政治経済システム 4) 経済摩擦 5) 国際貢献 を検証テーマの柱とします。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末に提出を義務づける課題レポートに、輪読、小レポート発表、討論への参加状況などからなる平常点を加味して、評価点を決定する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------|-----------|-------|---|
| プレゼミナール(日本経済を考える) | | 鷺見 研作 | |
| 通年 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>プレゼミナールは、専門科目を勉強するに当たって必要な、技法や思考方法などを、比較的専門性の高い文献を利用しながら身につけていくものです。</p> <p>本プレゼミナールでは、混迷の度合いを深めつつある日本経済の現状をテーマにしながら、できる限り多角的に問題の所在を考えることにその重点を置く予定です。</p> <p>同時に、論理的に考えるということについての訓練をおこないます。社会科学学習のためには、きちんとした論理的思考を身につけることは非常に大切なことです。論理的思考はどのような場面においても役立つ思考方法であり、大学の学習できちんと身につけておくべき事柄でしょう。</p> |
| (2)授業の方法 | 輪読と議論の繰り返しです。 |
| (3)授業の体系 | <p>ゼミナールで実際におこなう予定のところは以下の通りです。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 輪読（テキストを定め、分担を決め、担当者が報告をする形で議論の材料を提供し、議論を進めるという方法です。） 輪読のテキストは最終的には受講者との相談で決定しますが、さしあたっては下記の一冊を考えています。 2. レポート作成（各履修者がそれぞれ定められた範囲でテーマを決め、それについてのレポート作成をします。レポート作成過程の報告もゼミナールの重要な内容です。1年間で、6千～8千字程度のレポートが書けることを目標とします。） |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>何よりも日常のプレゼミナールへの参加と努力を評価します。レポートも評価しますが、出来映えよりもその過程を評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|------|------|------|
| (6)使用教科書 | 野村 正實 | 雇用不安 | 岩波書店 | 1998 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-----|---|
| プレゼミナール | | 内藤勝 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 「環境経済」「農業経済論」の専門的な講義を受けるための、準備、及び基礎を学習する。 考えの土台に「自然」を据える。 |
| (2)授業の方法 | 文献からの考察をする。その後自然の観察、田植え、稲刈り、餅つき等を通じて自然と人、農業と民族の生活、文化、経済の本質を体得する。 |
| (3)授業の体系 | 現代の政治、経済、哲学、宗教、都市、コンピュータ、自動車、ミサイル等すべて人の脳が生み出したものである。それが今や限界に達しようとしている。二酸化炭素の増大による地球の温暖化、酸性雨による生態系の汚染、フロンによるオゾン層の破壊（その穴は最大日本の面積の約8倍に至っている。）もはや脳やその集積である過去の学問を基準としていたのではこれらに回答を出せないであろう。脳を越える尺度は「自然」だけである。自然の摂理を知りこれに従う、「自然順応」の生活こそ今後の方向であろう。そこで学問の基礎に自然体験を置く。この土台の上に学問、思想の再構築を試みる。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 平常点による。 |
| (5)履修の条件 | 自然に興味があり、自然に順応しようとする「志」のある学生。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----|--------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 自然と人のための経済学 | 内藤勝 | 高文堂出版社 | 1996 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|---|
| プレゼミナール | | 中村 修 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ゼミナールに先立ち、その準備として、情報処理に関連する基礎・要素技術／システムについて理解を深める。具体的には、以下の修得および実践を目標に学習を進める。 (1)マルチメディアを主体に情報処理に関する幅広い知識 (2)関連情報の収集と整理の方法 (3)調査・研究結果のまとめ方と発表の方法 (4)研究テーマの設定方法 (5)研究テーマに関連する文献調査 |
| (2)授業の方法 | 講義またはゼミナール形式で行う 受講者による発表を随時行う |
| (3)授業の体系 | 1. 講義形式の授業 (1)春季：音声・音響／文書・画像・映像処理 コンピュータ・グラフィックス／放送・通信方式 (2)秋季：ヒューマンインタフェース／新しいマルチメディア技術 コンピュータハードウェア／周辺機器／システムソフトウェア メディア処理ソフトウェア／インターネット マルチメディア応用システム 2. ゼミナール形式の授業(必要に応じ随時) (1)課題設定 (2)インターネット等による情報収集と整理 (3)発表 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 受講態度、レポート、発表、期末テストにより評価する。 |
| (5)履修の条件 | 情報処理技術に特に関心があり視野を広めたいと希望する者 自主的に学習を進める意欲のある者 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|---------------------------|------------|--------|
| (6)使用教科書 | CG-ARTS 協会 | マルチメディア標準テキストブック 基礎・要素技術編 | CG-ARTS 協会 | 1997 |
| | 田代菊雄編著 | 「学生・院生のための研究ハンドブック」 | 大学教育出版 | 2001.5 |
| (7)使用参考書 | | (必要に応じ適宜授業中に指示する) | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|---|
| プレゼミナール | | 平井東幸 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「小売業の研究」を共通テーマとします。経済活動を人体に例えると、流通業（卸売業、小売業）は血管のように極めて重要な機能を果たしています。このプレゼミでは、小売業の主要な業態（百貨店、総合スーパー、コンビニエンスストア、無店舗販売業等）とその代表的な企業を取り上げて、その仕組、役割や成功要因等について初歩的な研究をします。従来からの商店街が不振で、他方、ショッピングセンターやアウトレットモールはなぜ繁盛するのかなど、具体的な問題を取り上げましょう。小売業を含めた流通業について理解を深めておくことは、経済や産業、企業経営を理解するにも、就職するうえでも、将来ビジネスをするためにも不可欠です。皆さん一人ひとりが独自のテーマを選び（流通業に限りません）、調査を試みて、3年次からの演習への準備をしてください。 |
| (2)授業の方法 | 随時、流通業等に関する時事問題（トピック）を取り上げ、ビデオを活用するほか、学外からの講師の招聘や実地見学も企画します。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 流通とは？流通業とは？ 2. 流通業を学ぶと何が解るか 3. 流通の機能と役割 4. 流通業の種類 5. 小売業の業態比較 6. 商店街の盛衰 7. コンビニエンスストアは何故伸びるか 8. 100円ショップの経営 9. アウトレットとは？ 10. ユニクロと無印良品の比較 11. 優れた流通企業とは？ 12. これからの流通業 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 課題、平常点（受講態度等）、定期試験の成績で評価します。 |
| (5)履修の条件 | 基礎ゼミナールを修得していることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|-------------------|---------|-------|
| (6)使用教科書 | 大枝・松尾ほか | 『図説流通業界ハンドブック』 | 東洋経済新報社 | 2001年 |
| | 池田香代子 | 『世界がもし100人の村だったら』 | マガジンハウス | 2001年 |
| (7)使用参考書 | 伊藤元重 | 『流通は進化する』(中公新書) | 中央公論社 | 2001年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------------|-----------|-------|-----|
| プレゼминаール(環境問題をめぐる国際協力) | | 安田 利枝 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>国境を越える地球規模の問題群、人権、紛争と平和、貧困と開発のなかで、みなさんが最も関心をもつ問題領域は「環境問題」でしょう。地球環境問題は、現代の産業社会、高度大衆消費社会の問題であり、私達自身の日常的な生活意識と生活の問題であると同時に、国家間における対立と協力の問題を扱う国際政治の問題でもあります。地球環境問題に取り組む国際組織、国家、市民運動、企業の動きを学んでいきましょう。教科書としてとりあげる本は、国際レジーム論の立場で、越境大気汚染、オゾン層破壊、捕鯨、地球温暖化等、個別のテーマごとに問題解決に向けてどのような仕組みができあがりつつあるのかというレジーム形成と展開を扱っています。国際政治学的観点を基礎に、法学、経済学、さらに企業行動の問題にも視野を広げていきます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>春学期は文献講読と地球環境問題についてのドキュメンタリ番組の視聴を中心に演習を行ないます。秋学期は、各ゼミ生が関心をもつテーマに沿って、文献・資料を読み込み、あるいは足で調べた成果をもとに発表してもらい、全員でディスカッションをする形式をとります。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 地球環境政治の出現：人口・資源・食糧 2. 環境の分野における国際社会のアクター 3. 環境レジームの形成・発展：9つの事例研究 4. 地球規模の開発と経済：南北問題と貿易 5. 地球環境政治へのアプローチ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参加度 15% 授業の理解度（小設問への回答 15%＋授業内小テスト 30%） 勉学の成果（小レポート） 40%</p> |
| (5)履修の条件 | <p>勉学への姿勢と意欲をもった学生</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------------|-------------|------|------|
| (6)使用教科書 | G. ポーター&J. ブラウン | 『入門 地球環境政治』 | 有斐閣 | 1998 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | J. L. サイツ | 『地球的諸問題入門』 | 三嶺書房 | 1999 |
| | J. ウェストビー | 『森と人間の歴史』 | 築地書館 | 1992 |
| | アン・ナダカブカレン | 『地球環境と人間』 | 三一書房 | 1995 |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|---|
| プレゼミナール | | 山田 寛 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「世界の中の日本」 プレゼミナールは3年次以後のゼミナールのための予行演習だが、私のプレゼミでは「世界が日本と日本人をどう見ているか」「どんな交流が行われているか」を調べ、研究する。例えば、中国や韓国などアジア近隣諸国の人たちが実際に日本をどう見ているのだろうか。外国の教科書では日本をどう取り上げているのだろうか。インターネットでは、日本についてどんな意見が飛び交っているのだろうか。サッカーのワールドカップを機会に、日本と韓国、日本と外国間でどんな交流が行われるだろうか。日本にいる外国人たちは実際に「ここが変だよ、日本人」と思っているのだろうか。そういった問題、その他の問題に、それぞれの方法で取り組んでみよう。 |
| (2)授業の方法 | 演習 ビデオはしばしば使う。パソコンもときに使う予定。 |
| (3)授業の体系 | ① 新聞やテレビ、書籍などの情報をチェックする。 ② 外国の教科書について調べる。 ③ インターネットを検索する。 ④ 在日外国青年を交えた会合に出席する。 ⑤ 外国映画で日本がどう取り上げられたかを見る。 ⑥ 日本にいる外国人に話を聞く。 ⑦ 日本在住の難民の子どもたちの生活と意見を調べる。 ⑧ 日本人の専門家の話を聞く。 など、いろいろな方法をやってみる。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験は実施しない。調査結果のレポートと平常点を見る。 |
| (5)履修の条件 | なし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|--------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使わない。印刷物は配る。 | | |
| (7)使用参考書 | | 参考書は、授業の中でそのつど説明する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------------------|----------|------|-----|
| プレゼミナール(中小企業論・事業創造論) | | 和田耕治 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>中小企業論、事業創造論を専門として、研究を行っていかうとする学生を対象として、その基礎となる知識の修得を目的として授業を実施する。</p> <p>今日までの経営学は、大企業の経営行動を中心にその体系が構築されており、中小企業、創業、企業化等を取り扱ったものは多くない。本ゼミナールでは、従来型の経営学を意識しながらも、中小企業の経営行動および創業、企業化等に焦点あてて、研究を進めることとする。</p> <p>卒業後の進路として、家業を継ぐもの、自分で創業を考えているもの、中小企業診断士等の経営コンサルタント目指しているもの、行政および公的機関において中小企業に対する支援を職業とすることを希望しているもの等の入ゼミを歓迎する。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>基本的な文献の輪読</p> <p>視聴覚教材（中小企業庁の施策普及ビデオ）による実態の把握</p> |
| (3)授業の体系 | <p>1. 春学期</p> <p>(1) 中小企業論および事業創造論に関するガイダンス</p> <p>(2) 基本的な文献の輪読</p> <p>2. 秋学期</p> <p>(1) 中小企業白書の輪読を通じてのわが国中小企業の実態把握</p> <p>(2) 視聴覚教材による実態の把握</p> <p>※ 授業中、必ず1回以上は発言すること。</p> <p>※ 休暇中、商店街や工場団地等の視察を行う。</p> <p>※ ゼミ生は日本経済新聞の切抜き(クリッピング)作業を行うこと。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>年度末のレポート4割</p> <p>授業時の発表、発言3割</p> |
| (5)履修の条件 | ゼミナールへの出席を最優先させることのできる人 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|----------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 清成忠男 | 中小企業読本(第3版) | 東洋経済 | 1997 |
| | 中小企業庁 | 平成14年版中小企業白書 | | 2002 |
| (7)使用参考書 | 三井逸友編 | 現代中小企業の創業と革新 | 同友館 | 2001 |
| | 福島久一編 | 中小企業政策の国際比較(仮) | 新評論 | 2002 |
| | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|-------|---|
| ゼミナール（知恵の輪クラブ） | | 井口 浩一 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4 |

| | | | | | | | | | | | | | |
|----------|--|------------------------------------|------|---|------|----------------------------|--------------------|---|----|---|-------|---|--------|
| (1)科目の概要 | 日本・外国を問わず昔の人の知恵は、驚くべきものがあります。無論、その知恵は、現在に於いてもじゅうぶん私達の生活に役立ちます。いや、役立つどころではありません。私達の平素、よしとしていた生活を根本から一変させるほどの力をもっているものです。どうしてかと申しますと、知恵とは、創造力のことだからです。その創造力は私達・人類に生命として誰にも永遠に授けられているのみならず日を追いや年を追うごとに増加していく性質があるからなのです。したがって、知恵を知れば知るほど、自然とそれを生活に活かしたくてならなくなります。すると、生活が美しくなります。こういう人類全体の宝を、現在の私達は、ともすれば技術文明の便利さにおぼれ、あまりにもないがしろにしているのではないのでしょうか？そこで、この科目は、知っておきたい見知らぬ知恵を拾い集め、その意味を確認し、毎日の生活に、また生涯にわたっても大いに活かし、自分も他人も幸福であることを柔軟に期そう、とするものなのです。 | | | | | | | | | | | | |
| (2)授業の方法 | 講義・演習 | | | | | | | | | | | | |
| (3)授業の体系 | 本年は、次のテーマより、任意に1つを選び、原則として、その選定したテーマを自分の年間のテーマと定め、主として演習形式により学習を深めていきたいと思えます。(EX A-4 ; 和歌) | | | | | | | | | | | | |
| | A 日本 | 1 | ことわざ | 2 | 名言 | 3 | 家訓 | 4 | 和歌 | 5 | 道歌 | 6 | 古典の中から |
| | B 外国 | 1 | ことわざ | 2 | 名言 | 3 | 儒学 | 4 | 仏教 | 5 | キリスト教 | 6 | 古典の中から |
| | 4月 | 昨年度までの足跡紹介。人数の授業（演習）のすすめ方。知恵 | | | } 講義 | 10月 | ※飛翔祭に向けて諸準備（秋の知恵） | | | | | | |
| | 5月 | 1時間1人として発表・討議・講義※飛翔祭参加のことと責任者・会計選出 | | | | 11月 | ※飛翔祭参加。「私の格言集」案・印刷 | | | | | | |
| | 6月 | 「私の格言集」作成について（春の知恵）※ | | | | 12月 | ※年末・年始における知恵（冬の知恵） | | | | | | |
| 7月 | 「私の格言集」案・提出（春の知恵）※（合宿） | | | | 1月 | 総まとめ 卒業式後、最終版の「私の格言集」を受領する | | | | | | | |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の態度・提出物 | | | | | | | | | | | | |
| (5)履修の条件 | ◎ ◎◎ 知恵を1つでも多く身に付けたいとする志と、常に情熱をもってコトにあたろうとする態度のあること。 | | | | | | | | | | | | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| ゼミナール(AFP) | | 井上行忠 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ファイナンシャル・プランナー（FP）は、顧客の家族構成をはじめ、収入・支出の内容、資産・負債、保険などあらゆるデータを集め、要望や希望・目標を聞き、現状を分析した上でそれに基づいて、顧客のライフプラン上の目標を達成するために、必要に応じて弁護士、税理士、保険・不動産等の専門家の協力を得ながら、貯蓄計画、保険、投資対策、などの包括的な資産設計を立案し、その実行の手助けをしていく専門家である。本ゼミナールでは、資格取得を目標に学習を行う。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体型は、FP基礎・金融資産運用設計・不動産運用設計・ライフプランニング・リタイアメントプランニング・リスクと保険・タックスプランニング・相続・事業継承設計等について学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 1年度AFPの授業を履修した学生を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 未定 | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|------|
| ゼミナール（文学） | | 大澤 薫 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 本ゼミナールのテーマは「生きる」です。文学作品にはその国の風土や時代背景、社会構造、生活習慣、さらにはそこに生きる人々の心が映し出されています。読書という旅の中で出会う人々の考えや行動を通して、その喜びや痛みを思いをめぐらし自分の世界を見つめなおすこと、言いかえれば自分自身の生き方を確かめること、これが皆さんの取り組む目標です。はじめに幾つかの課題作品を挙げ、テーマに添った解釈・分析等の方法を説明し、ゼミ生が主体的に作品に取り組めるよう方向付けをします。ゼミ生は各自テキストになる作品を選び、毎回一名が自分の選んだ作品について発表、全員で討論し、理解を深めます。 |
| (2)授業の方法 | 読書会形式。リポーターが取り上げた作品を事前に全員が読み、その作品について討論・意見交換を行います。 |
| (3)授業の体系 | <p>テーマ「生きる」</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 生命維持のレベルから精神生活の充実まで 2) 社会と個人の関わり 3) 人間関係とコミュニケーションの重要性 4) 言語表現と非言語表現 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 発表の内容、方法。討論・意見交換の際の積極性。卒業レポート。以上を総合して評価。 |
| (5)履修の条件 | 毎回所定の作品を読了してこること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| ゼミナール | | 加藤敦宣 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | このゼミナールは経営学系のゼミナールで、その中でも経営戦略論を中心に研究することを予定しています。企業はどのようなことをすることで競争力を強化しているのか、そのときその中で働いている人たちはどのような活動をしているのか、競い合っている相手の企業はどのようなことをするのか、など企業活動を自分たちの視点で考える能力を養うことを目的とし、その成果として最終授業における卒業論文（卒論）の提出を義務付けています。 |
| (2)授業の方法 | 演習形式（テキストの輪読、発表およびそれに基づく討論） |
| (3)授業の体系 | 春学期 <ul style="list-style-type: none"> ・テキストの輪読を中心に行う。 ・並行作業として卒論テーマを決定する。 秋学期 <ul style="list-style-type: none"> ・卒業論文の途中報告を中心に行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 卒業論文を中心に、ゼミナール参画程度を加味して行う。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|---------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | ロバート・レスター | ウェルチの戦略ノート | 日経 BP | 2000 |
| | クレイトン・クリステンセン | イノベーションのジレンマ | 翔泳社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 日本能率協会(編) | 日本企業の21世紀経営革新 | JAMA | 2000 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|----------|------|---|
| ゼミナール(日本経済論) | | 久保 真 | |
| 通年 | 80分×28コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 春学期は、後述の教科書をゼミ生全体で輪読し、小泉政権誕生前後よりマスコミを賑わし続けている「構造改革論」を批判的に検討します。秋学期には、春学期の輪読によって得られた知識や視点をヒントに、履修者各自の興味あるテーマを設定し、卒業論文を何度かの中間報告を経て書き上げてもらいます。卒業論文のテーマは必ずしも日本経済に限られるわけではないので、経済・社会・歴史を幅広い視点から考察することに興味を持つ学生諸君の参加を期待しています。 |
| (2)授業の方法 | 演習形式でおこなうます。詳細は「授業の体系」欄をご覧ください。 |
| (3)授業の体系 | 春学期の行う輪読というのは、一人で読了するのが難しいような文献を集団で読破する方法で、グループのなかの一人（もしくは数名）に文献の特定部分の内容やその問題点を報告してもらい、他の参加者がそれについての質問をすることによって、内容を理解していくものです。また、秋学期に行う卒業論文の中間報告とは、自らが書きつつある論文について、その時点でぶつかっている問題やその後どのように執筆をすすめていくかを報告してもらうものです。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・演習中の報告内容・卒業論文を総合して評価します。 |
| (5)履修の条件 | 二月のゼミナール説明会に参加すること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 野口旭・田中秀臣 | 構造改革論の誤解 | 東洋経済新報社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第 14 回授業 | |
| | |

授業計画 2

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 15 回授業 | |
| 第 16 回授業 | |
| 第 17 回授業 | |
| 第 18 回授業 | |
| 第 19 回授業 | |
| 第 20 回授業 | |
| 第 21 回授業 | |
| 第 22 回授業 | |
| 第 23 回授業 | |
| 第 24 回授業 | |
| 第 25 回授業 | |
| 第 26 回授業 | |
| 第 27 回授業 | |
| 第 28 回授業 | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 3

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 29 回授業 | |
| 第 30 回授業 | |
| 第 31 回授業 | |
| 第 32 回授業 | |
| 第 33 回授業 | |
| 第 34 回授業 | |
| 第 35 回授業 | |
| 第 36 回授業 | |
| 第 37 回授業 | |
| 第 38 回授業 | |
| 第 39 回授業 | |
| 第 40 回授業 | |
| 第 41 回授業 | |
| 第 42 回授業 | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| ゼミナール | | 倉田 安里 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>戦争は全ての国の文明活動に多大な影響を与えてきた。前大戦の祈り、日本は物質・精神・行動の面で、良くも悪しくも諸外国とは違った文明発達を現出し、それが現代社会に多大な影響を与えていることは否めない。</p> <p>本講座では、日本文明の中でも、特に近代以降の機械工業・電子技術といった物質的な要素と、思想・概念といった精神文化的な要素の両面から、日本の文明とは何か、戦争が戦後の日本文明に与えた影響とは何かを考察し、受講生独自の結果を導き出すものである。</p> |
| (2)授業の方法 | 春学期は主として教員主導のもと、ここの指定された事例を検証し、受講生が私見を述べる。秋学期は受講生自身の特定したテーマに基づき、発表・討議を中心とする。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 明治開国からの日本の文化的発展 2. 諸外国との関係 3. 軍備の増強と世界的情勢の推移 4. 太平洋戦史（忠実の確認） 5. 太平洋戦史（作戦思想、政治的配慮等について） 6. 戦争を背景とした文化技術的発展とその功罪 7. 戦後の発展 <p>以上7点を討議項目の最低条件とし、毎回活発な議論を展開できるようにする。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>出席と年度末提出の論文により評価する。如何なる理由があろうとも、年度終了時に論文を提出しないものは評価を一切行わない。</p> |
| (5)履修の条件 | 近現代史、特に明治以降の日本の政治、経済、外交に精通し、太平洋戦争の大まかな経緯を把握している、もしくは履修までに把握できる者とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|------------|-------|---|
| ゼミナール(レトリックの文学性) | | 高野 秀之 | |
| 通年 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>私たちの日常生活の中に浸透しているレトリックについて学びます。そのために、基本的な法則を順に紹介していきますので、受講生はその法則を用いて具体的な例を日常の言語表現の中から捜し出す作業をします。</p> <p>一般的な法則を一通り学んだ後に「効果的な言語表現」の例をいくつか鑑賞します。レトリックがさまざまなジャンルの中で用いられていることを知ると、とても新鮮な発見となります。また、歴史的にレトリックがどのように用いられてきたかを学べば、「論理的な思考」と「説得の技術」の訓練ができます。</p> <p>最終的には一人ひとりが自由に「言葉をつむぐ」ことによって自己表現の可能性を追求し、言語使用域を開拓していくことが求められます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>科目担当者からの刺激に対し、常に何かしらの反応が期待される形式で授業は進みます。テキストはWEBで配信されるので、教室で加工することが可能です。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>受講生が「レトリックの一般的な法則」を理解する上で必要と思われることは説明しますが、ゼミナールですから、学生相互の語り合いを基本に進めていきます。</p> <p>学期の初めには、その後の授業やプレゼンテーションの準備に必要な資料の検索や収集の方法を学びます。また、発表のマナーやハンドアウトの作り方も指導します。夏合宿では互いに持ち寄ったテキストについて議論し合い、何をどのように工夫することが「効果的な表現」となるのかを探求します。</p> <p>学園祭前後からは、いくつかのテーマについて議論し合う中で、これまでに学んだレトリックを取り入れる練習をします。冬休み中に卒業論文を書き上げるためには、この時期の授業が非常に重要なものとなります。</p> <p>1月は個別指導期間となります。論文の手直しに時間をかけ、完成度の高いものを作り上げてください。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>毎回の授業評価に加えて、12月中に行われるプレゼンテーションと、1月中に提出される論文の内容で評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>春休み中に（少なくとも第一回目の授業前に）使用参考書を入手し、レトリックの基本的な知識を得ておくことが望ましい。通常の授業に加え、ゼミ合宿や学園祭にも参加する積極的な学生が集まることを期待しています。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|-----------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | 佐藤 信夫 | レトリック感覚 | 講談社学術文庫 | 1992 |
| | 佐藤 信夫 | レトリック認識 | 講談社学術文庫 | 1992 |
| (7)使用参考書 | 井筒 三郎・柳沼 聰一郎 | 別冊宝島25号 レトリックの本 | JICC 出版局 | 1981 |
| | 阿刀田 高 | 詭弁の話術 即応する頭の回転 | 角川文庫 | 1993 |

| | | | |
|--------------|-----------|-------|-----|
| ゼミナール（ごみと環境） | | 生井 良一 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>ダイオキシンの発生、埋立地不足、リサイクルの促進など、ごみ問題は社会的に大きな関心を呼んでいる。この様々なごみ問題を中心としながらも、水汚染など他の環境問題にも目を向けていきたい。理解を深めるには、実践を通して学んでいきたいと考えている。</p> <p>まず我々にできることは、生ごみの処理である。生ごみ処理器を使って、全員に生ごみのリサイクルを体験してもらいたい。生ごみはごみの30%以上と量も多く、焼却場ではダイオキシン発生の一因ともなっているものである。</p> <p>二つには、ビンやカン、紙、ペットボトルやトレイ、その他のプラスチックなどのリサイクルについて、各自治体の実践例を調べる。そしてリサイクルの流れや問題点、我々にもできることは何かを考える。一方、ごみの有料化も最近増えつつある。これらリサイクルと有料化についてもぜひ議論を深めたい。</p> |
| (2)授業の方法 | |
| (3)授業の体系 | <p>環境を大事にする心と、生きた知識を身につけて欲しい。そのために、以下のことを考えている。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義形式の授業でそれぞれのテーマについて説明する。 2. リサイクルセンターやごみ埋立地、浄水場や下水処理場などの見学。 生ごみ処理の実践。 3. そうした中から、それぞれが自分のテーマを決めて、テーマに沿って自分で調べてくること。テーマについては、「概要」に挙げたような様々なものがある。 4. これらの結果として、互いの疑問や意見を出し合い、議論を深める。 5. 学園祭にも参加して、日頃の取り組みについて発表する。 <p>なお、ビデオも活用し、理解を深める手立てとしたい。雑誌「月刊廃棄物」の目次を毎月配布して、ごみ問題の現状を把握する。</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-------------------|-----------|-------|-------|
| ゼミナール（情報技術を解き明かす） | | 滑川 光裕 | |
| 学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4（通年） |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>すでに迎えた「21世紀」という言葉は、社会が情報技術に飲み込まれてしまうことを意味する。現在、先進国に住んでいる人間は、情報技術なくして生きられなくなってしまった。例えば、若者にとって最新技術の塊である携帯電話は最大のコミュニケーションツールである。また、家庭の中を見れば、炊飯器、洗濯機、エアコン、掃除機、電子レンジ・・・どの機器にもマイコンと呼ばれる小さなコンピュータが実装されている。今後、これらはインターネットと結ばれることになるであろう。</p> <p>しかしながら、情報技術は、我々の知的好奇心を消失させるに十分なほど複雑難解である。本ゼミナールでは、携帯電話や改札システムなど、身の回りの情報技術をわかりやすく解き明かし、さらにその中の一部について深く解き明かすことを目的とする。</p> |
| (2)授業の方法 | 前半は、輪講形式で進めていく。後半は、各自が題目を決め、卒論としてまとめる。 |
| (3)授業の体系 | 携帯電話 情報機器 ネットワーク 情報システム 情報セキュリティ ファジィ ニューラルネット |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>自分で調べた内容についての論文とそのプレゼンテーションで評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にないが、コンピュータ関係に興味のあること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-----------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 授業にて指示する。 | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------------|-----------|------|-----|
| ゼミナール（情報化時代のパソコン活用） | | 南 憲一 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | コンピュータの用途はかつての計算機能にとどまらず、さまざまな分野に及んでいる。現在では、インターネットに代表される通信、画像・音声を含むマルチメディアの処理などが脚光をあびている。本ゼミナールでは最も身近なコンピュータであるパソコンの活用方法を中心に学習を進める。Windowsの構成と機能について学んだ上で、インターネットの利用、ホームページの作成、画像・音声情報の処理について学んでいく。 |
| (2)授業の方法 | 実習を中心として授業を進める |
| (3)授業の体系 | Windowsの構成と機能 インターネットの利用 ホームページの作成 画像処理 音声処理 ビデオ画像の処理 ホームページ上のプログラミング |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 随時提出するレポートで評価する |
| (5)履修の条件 | 夏期合宿・学園祭への参加ができること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|----------|------|---|
| ゼミナール(経営とコンピュータ) | | 宮本 勉 | |
| 通年 | 80分×週1コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>今日企業活動はコンピュータの存在なくしては語れない。この現状はますますIT化の進行とともにさらに進んでいます。</p> <p>その結果、新たなビジネスも出るとしてSOHOや無線LANの導入ということが出てきました。</p> <p>この授業ではSOHOや無線LANの事例の研究を行い実際の状況を再現して実際に学び研究する。</p> <p>この授業では見学、合宿等を行うので全員参加で学習する。</p> |
| (2)授業の方法 | 自ら授業に取り組む意欲的な学生の参加を希望する。さらにパソコンを利用するのでパソコンの習得に意欲のある学生が望ましい。 |
| (3)授業の体系 | <p>春学期の課題</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) パソコンとネットワークについて 2) 2) 企業における実態の研究 3) 無線LANの実習 <p>夏合宿</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 文献を通しての研究 2) SOHO、無線LANのパソコンの実習 <p>秋学期</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 各自のレポートのテーマ 2) SOHO、無線LANについての実習 <p>まとめとレポート作成</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>平常の授業の意欲と最終的なレポート、それらを総合して評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>自ら学ぶ意思のある学生</p> <p>特にパソコンのマニア歓迎、パソコンの利用に興味のある学生</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 授業時に指示する | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 授業時に指示する | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------|-----------|-------|-----|
| ゼミナール(多民族国家・アメリカ) | | 安富 成良 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | アメリカは建国以来、世界各地から様々な民族的背景をもった人々を受け入れ、移住してきた人々を抱き込んでそれぞれの多様性を認めてモザイク国家として発展してきた。このゼミでは多様性に満ちたアメリカを構成している人種、民族のうち主に黒人、インディアン、そして日系アメリカ人（「戦争花嫁」を含む）をとりあげその歴史と文化を研究しアメリカの全体像を探る。日曜日には数回横田基地を訪問する予定である。最終的には各ゼミ学生の個別の件休テーマをゼミ論文にまとめ、口頭発表を行う。 |
| (2)授業の方法 | それぞれのテーマについては概略をプリントして説明するが、個々の問題については受講生が参考文献を各自読んで発表する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 多民族国家アメリカ 2. アメリカの歴史概説 3. ネイティブアメリカン（先住アメリカ人、アメリカインディアン） 4. 日系「戦争花嫁」 5. 日系アメリカ人 6. アフリカンアメリカン（アメリカ黒人） 7. ゼミ論文研究 8. ゼミ論文発表 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 春学期レポート(テーマは「私のアメリカ論」、4000字以上:9/27 金曜日、締切) ゼミ論文(テーマは自由、40×36で7枚以上、レジュメ提出、1月第1週締切) |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 飯野正子・明石紀雄 | エスニック・アメリカ [新版] | 有斐閣選書 | 1997 |
| (7)使用参考書 | その都度指示 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|------------|------|-----|
| ゼミナール | | 森 康夫 | |
| 通年 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>芸術は古くから「人間の心の癒し」と関わりがあると考えられてきた。現代も人々は様々な悩みや不安を抱えている訳だが、どうしたらそれを解消できるのか。または、和らげられるのか。当ゼミではそれを美術の面から考えていく。悩みや不安は考えているだけでは解消されない。頭で考えているだけでなく行動することが大事であり、体験することで何かが始まると考える。そこで、当ゼミでは「造形の遊び」を通して心の解放を目指し、どんなことが「心の癒し」に効果があるのかを探究していく。様々な体験を通して、新たな発見や感動、創造することの喜びなどを実感して欲しい。</p> |
| (2)授業の方法 | 前提講義の後、各テーマに添って作業をする。主に立体に取り組む。 |
| (3)授業の体系 | <p>造形とは何か、人とどのように関わっているのかについて講義する。</p> <p><各テーマの講義と実習></p> <p>1、抽象的な立体を作る。(既成概念にとらわれない自由な表現)</p> <p>2、具体的な立体を作る。(心地良い形、かわいい形の物を作る)</p> <p>3、自由な発想を養う。(既製品を使って再構成する)</p> <p>4、発想の転換を試みる。(創造することの喜びの中に充実感と心の安らぎを得る)</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への取り組み及び、口頭発表と作品提出状況により決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | 手を使って何かを創造することが本当に好きなこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| ゼミナール(心理学) | | 石川 直弘 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>この演習は、心理現象を自分の主観によってではなく、行動科学的に把握することを目的とする。</p> <p>春学期には、心理学の基本的な実験を実施する。学生は自ら実験者あるいは被験者となって実験に参加する。実験に際して、刺激操作、条件統制がいかに厳密に行なわれるか、いかに細心の注意をもって被験者を扱い、その反応を観察、記録、測定していかねばならないかを学んでいく。実験後にはレポートの提出が求められる。</p> <p>秋学期には、子どもの認知発達に関する心理学を、文献購読を中心にして学んでいく。意欲的にこれに取り組もうとする学生の参加を求める。</p> |
| (2)授業の方法 | 文献購読、実験、レポート作成をくり返す。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 実験 2. 文献購読 3. レポート作成 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>実験レポートおよび、平常点によって評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|--------------------|------|-----|
| (6)使用教科書 | ポール・E・マッギー | 子どものユーモア ―その起源と発達― | 誠信書房 | |
| (7)使用参考書 | 外林大作他編 | 心理学辞典 | 誠信書房 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| ゼミナール | | 古閑 博美 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>魅力行動学は、「さまざまな出会いを通して魅力的な自己形成や人間関係を求める行動の学」と定義した表現の人間学である。授業以外に、さまざまな学外研修（体験学習）を実施する。本ゼミは、人間の魅力行動を幅広く探求することを目的としている。</p> <p>学生は、各自の持ち味を生かし、人として幅広い魅力行動を身につけることを追究されたい。学外研修は、茶道が包括するものを経験するように構成されている。内容は、テーブルマナー、茶事、円覚寺学生大撰心、歌舞伎・文楽鑑賞、三峰合宿、日本文化講座、投扇興ほか。</p> |
| (2)授業の方法 | 研究発表。演習。学外研修。学園祭参加。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「魅力行動」の研究（論文作成） 2. 日本文化に親しむ 3. 学外研修の充実 4. 態度能力の育成と自己表現能力の向上 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参加態度および研究論文提出、学外研修・学園祭参加を加味する。提出物は、指示に従うこと。</p> |
| (5)履修の条件 | できうる限り学外研修に参加のこと。品位と集中の態度で授業に参加することを希望します。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|---------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 古閑博美 | 魅力行動学入門 | 学文社 | 1996 |
| (7)使用参考書 | 本明寛 | 第三のモノサシ | ダイヤモンド社 | 1997 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| ゼミナール | | 藤井秀子 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>社会人を目前にした短大生としての常識・教養を深めるため、日本語表現能力開発のひとつとして四字熟語を採りあげる。</p> <p>故事に基づく四字熟語を学ぶことにより、言葉の意味のみならず、その基となっている歴史的背景から現在の表現方法に至るまで、深い理解と知識の修得を目指す。</p> <p>さらにその言葉を自分のものとして十分使いこなせるようにする為、短文を作成し、プレゼンテーション能力開発も兼ねて、口答での発表を行う。</p> <p>発表者だけではなく、聴く側も『上手な聴き方』を学習する。</p> |
| (2)授業の方法 | 二人1組になって、選んだ四字熟語の研究発表と質疑応答をする。その後全員がその言葉を使って短文を作成し、発表する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 自己紹介 2 グループ分け 3 研究テーマの確定 4 研究発表 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>研究発表・期末テスト・小テスト・授業態度からの総合評価とする。</p> |
| (5)履修の条件 | 研究発表のレジュメ作成のため、パソコンを習得しておくこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|---------------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | (編)日本文芸社 | 知っておきたい四字熟語辞典 | 日本文芸社 | 平10 |
| (7)使用参考書 | (編)旺文社 | 成語林 | 旺文社 | |
| | (編)鈴木裳三 | 故事ことわざ辞典 | 創拓社 | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|--------------|--------|---|
| 観光都市・東京の研究 | | 柴生田 俊一 | |
| 通年 | 80分×週1コマ×28週 | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>都市は仕事や生活の場であるが、同時に、情報を交換し新しい文化を創造する場である。都市住民にとっては日常的な生活や生活環境が、その都市を訪れる観光客にとっては魅力的な観光対象になる。</p> <p>今、もっとも人気の高い「都市観光」、その本質は生活観光、人間観光なのである。</p> <p>東京は日本を代表する情報・文化都市であり、パリ、ニューヨーク、ロンドン、北京などと並ぶ、世界の主要都市である。しかし、観光面からみると、まだ観光的魅力に乏しく、訪れる外国人観光客も少ない。観光都市・東京の魅力を見直し、もっと魅力的な都市にしていくには何をすればいいか。</p> <p>観光都市・東京の現状と課題を様々な視点から研究し、提案をつくる。</p> |
| (2)授業の方法 | ①講義。②グループ研究、個人研究（臨地調査を含む）。④ミニ演習、レポート、論文。⑤パネル・ディスカッション。 |
| (3)授業の体系 | <p>日常を「異」の目をもって、見る手法・技術に習熟してもらう。</p> <p>第1～10回：都市観光に関する基礎知識を、毎回30分程度講義する。</p> <p>第3回～：グループに分れ、共同研究テーマに着手する。</p> <p>第11回～：個人研究の論文テーマの検討に着手する。随時、指導する。</p> <p>第13回：共同研究の中間レポート提出。パネル・ディスカッション。</p> <p>第14回：共同研究に関する個人レポート提出。ゼミ旅行打ち合わせ。</p> <p>第15～16回：都市観光に関する論文作成の要領を講義する。</p> <p>第16回：個人研究の論文テーマを決定する。</p> <p>第17回～：共同研究及び個人研究の論文作成に着手する。随時、指導。</p> <p>第24回：共同研究のレポート提出。第26回：個人研究の論文提出。</p> <p>第27、28回：共同研究、個人研究に関するパネル・ディスカッション。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポート作成能力、研究発表能力、グループ活動能力、研究意欲</p> |
| (5)履修の条件 | ゼミ旅行（夏休み中）への参加、使用参考書の購入・必読 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 陣内秀信 | 東京 | 文芸春秋 | 1992 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|-------------|-------|---|
| 英語 I | | 嘉悦 康太 | |
| 春学期 | 80分×14週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら語彙を増やすとともに基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英語力の総合的な向上を図る。具体的には春学期 14 週を掛けて高校英語を文法・語彙の両面において総括し、大学 1 年の春学期終了時には「大学での英語学習」（原書を辞書を片手に読み進められる）のスタートラインに立てることを主眼とする。</p> <p>また上記の過程・結果が、TOEIC のスコアアップを通じて客観的かつ国際的標準で判断できるようにするために、本認定試験の対策も念頭に起き、過去問等の演習を通じ、随時そのための実戦力も鍛える。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>基本的には教室での講義授業であるが、上に述べた TOEIC 対策の他にも、毎回の授業開始時の単語・熟語小テストを行う演習授業も含まれる。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>本授業は以下の 3 つの柱を組み合わせる：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「5 文型」「動詞・時制」「助動詞」「準動詞」、…、「仮定法」等の高校英語で重要な 10 の文法項目を復習する。 受験英語で必要とされた単語・熟語等の語彙力（約 1500 語レベル）を毎週の授業開始時に行う 10 分程度の小テストで補強・確認する。 上の 1~2 の学習成果を、TOEIC の過去問題を授業内でといてみることを通じて実践的に試す。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>毎回の小テストの合計 10 %。（第 7 週目に予定している）中間テストの結果 10 %。期末試験の結果 80 %。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|---------------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 通常はオリジナルテキストを使用。小テストの元になる単語・熟語帳に関しては第一回目の授業時に紹介。TOEIC の演習問題に関しても、適宜こちらで用意する。その他に、高校時代に使用していた、もしくは自分に合った英語の「文法書」をなんでもよいので一冊持っていることを薦める。 | | | |
| (7)使用参考書 | 稲田 一 | 『高校 3 年間の英語を 10 日間で復習する本』 | 中経出版 | 2000 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|-------------|-------|---|
| 英語 I | | 嘉悦 康太 | |
| 春学期 | 80分×14週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>すでに学んできた英語の知識を再度点検・確認しながら語彙を増やすとともに基本的な文章構造・文法を確実に身につけ、英語力の総合的な向上を図る。具体的には春学期 14 週を掛けて高校英語を文法・語彙の両面において総括し、大学 1 年の春学期終了時には「大学での英語学習」（原書を辞書を片手に読み進められる）のスタートラインに立てることを主眼とする。</p> <p>また上記の過程・結果が、TOEIC のスコアアップを通じて客観的かつ国際的標準で判断できるようにするために、本認定試験の対策も念頭に起き、過去問等の演習を通じ、随時そのための実戦力も鍛える。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>基本的には教室での講義授業であるが、上に述べた TOEIC 対策の他にも、毎回の授業開始時の単語・熟語小テストを行う演習授業も含まれる。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>本授業は以下の 3 つの柱を組み合わせる：</p> <ol style="list-style-type: none"> 「5 文型」「動詞・時制」「助動詞」「準動詞」、…、「仮定法」等の高校英語で重要な 10 の文法項目を復習する。 受験英語で必要とされた単語・熟語等の語彙力（約 1500 語レベル）を毎週の授業開始時に行う 10 分程度の小テストで補強・確認する。 上の 1~2 の学習成果を、TOEIC の過去問題を授業内でといてみることを通じて実践的に試す。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>毎回の小テストの合計 10 %。（第 7 週目に予定している）中間テストの結果 10 %。期末試験の結果 80 %。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|---------------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 通常はオリジナルテキストを使用。小テストの元になる単語・熟語帳に関しては第一回目の授業時に紹介。TOEIC の演習問題に関しても、適宜こちらで用意する。その他に、高校時代に使用していた、もしくは自分に合った英語の「文法書」をなんでもよいので一冊持っていることを薦める。 | | | |
| (7)使用参考書 | 稲田 一 | 『高校 3 年間の英語を 10 日間で復習する本』 | 中経出版 | 2000 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|----------|------|---|
| 英語 I | | 安富成良 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>① Reading の力を強化する為に、プリント教材を使い、英語の基本的な語法・文法を7項目に分けて、それぞれの文法的な説明とその練習問題を解き、高校までに学習した英語を復習する。尚、練習問題は TOEIC の Part V 及び VI の出題方式の問題である。</p> <p>② 旅行英語のテキストを使い、海外旅行の色々な場面で必要な英語表現を学ぶ。Listening の力の向上を目指し、テキストのテープを使い、Dictation などの練習問題を解くとともに、テープの発音を参考にしてテキストにある Essay の Reading Test を各学期、教室外の時間帯に行う。</p> <p>③ 随時、ビデオ教材を取り入れる（プリント配布）</p> |
| (2)授業の方法 | テキストに沿って学習をしますが、 hearing 上達のために随時補助教材を使って Native Speaker の発音に慣れる学習もします。 |
| (3)授業の体系 | <p>1) プリントに沿って重要な文法事項の説明</p> <p>2) プリントの文法の練習問題とその解説</p> <p>3) テキストの旅行英語学習によるリスニング練習</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>テスト及び平常点（毎回の練習問題、旅行英語のテープ問題、Speech と Reading テスト）70%、出席点 30%</p> |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-----------------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 古閑・ネイラー・安富 | Travel English | 研究社 | 1995 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|----------|------|---|
| 英語 I | | 安富成良 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>① Reading の力を強化する為に、プリント教材を使い、英語の基本的な語法・文法を7項目に分けて、それぞれの文法的な説明とその練習問題を解き、高校までに学習した英語を復習する。尚、練習問題は TOEIC の Part V 及び VI の出題方式の問題である。</p> <p>② 旅行英語のテキストを使い、海外旅行の色々な場面で必要な英語表現を学ぶ。Listening の力の向上を目指し、テキストのテープを使い、Dictation などの練習問題を解くとともに、テープの発音を参考にしてテキストにある Essay の Reading Test を各学期、教室外の時間帯に行う。</p> <p>③ 随時、ビデオ教材を取り入れる（プリント配布）</p> |
| (2)授業の方法 | テキストに沿って学習をしますが、 hearing 上達のために随時補助教材を使って Native Speaker の発音に慣れる学習もします。 |
| (3)授業の体系 | <p>1) プリントに沿って重要な文法事項の説明</p> <p>2) プリントの文法の練習問題とその解説</p> <p>3) テキストの旅行英語学習によるリスニング練習</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>テスト及び平常点（毎回の練習問題、旅行英語のテープ問題、Speech と Reading テスト）70%、出席点 30%</p> |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-----------------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 古閑・ネイラー・安富 | Travel English | 研究社 | 1995 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 英語 II | | 嘉悦康太 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経営経済学部1年次春学期で総括した英文法の知識を基礎に、秋学期の本科目では英語の構文について学習する。英文法の知識が英語を学ぶ上で、最低限必要となる「ルールの習得」だとすれば、本講義がその習得を目指す構文は、英文を組み立てる際の様々な「テクニック」と位置付けることが出来る。前提となるルールに加え、実用的なテクニックを学ぶことにより、自分で英文を意識的に組み立てることができるようになり、学期末までに各自が英語を読み、書き、そして話す総合的な力をもう数レベル上げられる事を目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義＋練習 |
| (3)授業の体系 | 上記の目的を達成するために踏むべきステップは以下の通り： 1) 主語と動詞を確認する 2) 補語という概念になじむ 3) どこまでがブロックかを把握する 4) 修飾要素という「化粧品」の扱い方を知る 5) カスタマイズの方法を知る（その1）；否定文、疑問文 6) カスタマイズの方法を知る（その2）；倒置 7) カスタマイズの方法を知る（その3）；比較 8) カスタマイズの方法を知る（その4）；挿入 9) カスタマイズの方法を知る（その5）；共通関係 10) 「別世界」の英語に触れる；時制と仮定法 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 毎回の小テスト（10回分）10%＋中間テスト20%＋期末テスト70%＝100% |
| (5)履修の条件 | 特に無いが、英語Iを履修し、単位を取得済みであることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|---------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | 上垣暁雄 | 『入試英熟語のエッセンス』 | 語学ルネッサンス | 2001 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 伊藤和夫 | 『英文解釈教室』 | 研究社 | 1990 |
| | 伊藤和夫 | 『英文解釈教室』(入門編) | 研究社 | 1997 |
| | 伊藤和夫 | 『英文解釈教室』(基礎編) | 研究社 | 2001 |
| | 向山淳子・向山貴彦 | 『世界一簡単な英語の本』 | 幻冬舎 | 2002 |
| | | 他 | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 英語 II | | 嘉悦康太 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経営経済学部1年次春学期で総括した英文法の知識を基礎に、秋学期の本科目では英語の構文について学習する。英文法の知識が英語を学ぶ上で、最低限必要となる「ルールの習得」だとすれば、本講義がその習得を目指す構文は、英文を組み立てる際の様々な「テクニック」と位置付けることが出来る。前提となるルールに加え、実用的なテクニックを学ぶことにより、自分で英文を意識的に組み立てることができるようになり、学期末までに各自が英語を読み、書き、そして話す総合的な力をもう数レベル上げられる事を目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義＋練習 |
| (3)授業の体系 | 上記の目的を達成するために踏むべきステップは以下の通り： 1) 主語と動詞を確認する 2) 補語という概念になじむ 3) どこまでがブロックかを把握する 4) 修飾要素という「化粧品」の扱い方を知る 5) カスタマイズの方法を知る（その1）；否定文、疑問文 6) カスタマイズの方法を知る（その2）；倒置 7) カスタマイズの方法を知る（その3）；比較 8) カスタマイズの方法を知る（その4）；挿入 9) カスタマイズの方法を知る（その5）；共通関係 10) 「別世界」の英語に触れる；時制と仮定法 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 毎回の小テスト（10回分）10%＋中間テスト20%＋期末テスト70%＝100% |
| (5)履修の条件 | 特に無いが、英語Iを履修し、単位を取得済みであることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|---------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | 上垣暁雄 | 『入試英熟語のエッセンス』 | 語学ルネッサンス | 2001 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 伊藤和夫 | 『英文解釈教室』 | 研究社 | 1990 |
| | 伊藤和夫 | 『英文解釈教室』(入門編) | 研究社 | 1997 |
| | 伊藤和夫 | 『英文解釈教室』(基礎編) | 研究社 | 2001 |
| | 向山淳子・向山貴彦 | 『世界一簡単な英語の本』 | 幻冬舎 | 2002 |
| | | 他 | | |

| | | | |
|-----|----------|------|---|
| 英語Ⅱ | | 安富成良 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>① Reading の力を強化する為に、プリント教材を使い、英語の基本的な語法・文法を7項目に分けて、それぞれの文法的な説明とその練習問題を解き、高校までに学習した英語を復習する。尚、各項目についてはその都度実施する練習問題の小テストは TOEIC の Part V 及び VI の出題方式の問題である。</p> <p>② 旅行英語のテキストを使い、海外旅行の色々な場面で必要な英語表現を学ぶ。Listening の力の向上を目指し、テキストのテープを使い、Dictation などの練習問題を解くとともに、テープの発音を参考にしてテキストにある Essay の Reading Test を各学期、教室外の時間帯に行う。</p> <p>③ 随時、ビデオ教材を取り入れる（プリント配布）</p> |
| (2)授業の方法 | テキストに沿って学習をしますが、 hearing 上達のために随時補助教材を使って Native Speaker の発音に慣れる学習もします。 |
| (3)授業の体系 | <p>1) プリントに沿って重要な文法事項の説明</p> <p>2) プリントの文法の練習問題とその解説</p> <p>3) テキストの旅行英語学習によるリスニング練習</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>テスト及び平常点（毎回の練習問題、旅行英語のテープ問題、Speech と Reading テスト）70%、出席点 30%</p> |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-----------------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 古閑・ネイラー・安富 | Travel English | 研究社 | 1995 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|----------|------|---|
| 英語Ⅱ | | 安富成良 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>① Reading の力を強化する為に、プリント教材を使い、英語の基本的な語法・文法を7項目に分けて、それぞれの文法的な説明とその練習問題を解き、高校までに学習した英語を復習する。尚、各項目についてはその都度実施する練習問題の小テストは TOEIC の Part V 及び VI の出題方式の問題である。</p> <p>② 旅行英語のテキストを使い、海外旅行の色々な場面で必要な英語表現を学ぶ。Listening の力の向上を目指し、テキストのテープを使い、Dictation などの練習問題を解くとともに、テープの発音を参考にしてテキストにある Essay の Reading Test を各学期、教室外の時間帯に行う。</p> <p>③ 随時、ビデオ教材を取り入れる（プリント配布）</p> |
| (2)授業の方法 | テキストに沿って学習をしますが、 hearing 上達のために随時補助教材を使って Native Speaker の発音に慣れる学習もします。 |
| (3)授業の体系 | <p>1) プリントに沿って重要な文法事項の説明</p> <p>2) プリントの文法の練習問題とその解説</p> <p>3) テキストの旅行英語学習によるリスニング練習</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>テスト及び平常点（毎回の練習問題、旅行英語のテープ問題、Speech と Reading テスト）70%、出席点 30%</p> |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-----------------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 古閑・ネイラー・安富 | Travel English | 研究社 | 1995 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|------|------|
| 英文講読 I | | 大澤 薫 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 英語の基礎・基本を再確認しながら、物語 (Folktales of Ireland) を読みます。伝承物語や民話からは昔の人々の喜びや悲しみ、怒り、願い、理解の及ばない自然現象への畏怖などと共に、時代背景や社会構造を読み取ることができます。ごく平易な英文を通してこのような内容を読み解いて行きます。 日本語の特徴との比較や、同意語・反意語を取り上げて語彙を豊かにし、併せて英文の基本構造を把握して、文意を正確に理解できるようにすることを目標にします。 |
| (2)授業の方法 | 毎回指名された者が paragraph 毎の要約と和訳を発表、問題点を挙げて講評を行います。毎回 2 ページ以上読み進みます。 |
| (3)授業の体系 | 1) 英語の基本構造の確認 2) 語彙の習得 3) 文意の把握 4) 作品全体の理解 5) 翻訳 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 授業中の発表と小テスト、課題、定期試験等の結果を総合して評価します。 |
| (5)履修の条件 | 辞書とテキストは必ず持参すること。発表を重視するので十分な予習をすること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|----------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | James Kirkup | Folktales of Ireland | 成美堂 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-------------|-------|---|
| 英文講読 I | | 嘉悦 康太 | |
| 春学期 | 80分×14週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「英語 I・II」で学習した基礎知識をもとに、比較的平易な長文を読み、英語と日本語の発想の違い、表現方法の違いなどを学び、長文読解力とあわせて英語で考え、意見を交換できる能力の養成を目指す。具体的には、英語の原文で書かれたものとして比較的取り掛かりやすいと思われる、英字新聞・雑誌等の抜粋記事をテキストとして用い、これまで培った英語力がどこまで通用するか、またしないとしたらこれまでの英語に対する取り組み方にどのような問題があって、今後はどのような姿勢で英語に對峙してゆけばそのような問題が解決されるのか等を実地で学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | |
| (3)授業の体系 | 本講義は以下のステップを踏むことによって、最終的に <i>NEWS WEEK</i> や <i>FINANCIAL TIMES</i> 等の論説記事を原文で理解し、またその大づかみの意味を口頭で述べられるようになることを目指す： 1. まず「政治」「経済」「IT」等のテーマごとの頻出語彙（キーワード）を例文を通じて修得する。 2. そうした上で各テーマごとの関連記事を講読するが、進度にあわせて媒体の難易度を簡単なものから難しいものへと換えてゆく（e.g.『週間ST』、 <i>Asahi Weekly</i> 等の日本人向け一般紙を経て、徐々に <i>Japan Times</i> , <i>News Week</i> , <i>Financial Times</i> 等のネイティブ・クオリティー紙に移っていく） 3. 英文要約（レジюме）や口頭発表のテクニックは別途、随時指導する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 上記キーワードの習得状況を問う中間テスト（30%）と最終の期末テスト（70%）で総合評価を行う。 |
| (5)履修の条件 | 英語 I,II の単位履修者が望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|-------------------------------|--------------|------|
| (6)使用教科書 | 特になし。テキストは適宜こちらで用意する。テキストとなる(上で言及したような)英字新聞・雑誌等はいずれも本学図書館で講読契約しているものなので、日ごろから目を通しておくことを薦める。また日本の一般紙の定期講読も、テキストに関連した背景知識が母国語で得られるということなので、これも薦める。 | | | |
| (7)使用参考書 | 藤原敬一・棚井亨 | 『フィナンシャル タイムズの読み方』 | 日本能率協会マネジメント | 1996 |
| | 滝澤 大 | 『フィナンシャル タイムズが中学英語で面白いように読める』 | ぶんか社 | 2001 |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-------------|-------|---|
| 英文講読 I | | 嘉悦 康太 | |
| 春学期 | 80分×14週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「英語 I・II」で学習した基礎知識をもとに、比較的平易な長文を読み、英語と日本語の発想の違い、表現方法の違いなどを学び、長文読解力とあわせて英語で考え、意見を交換できる能力の養成を目指す。具体的には、英語の原文で書かれたものとして比較的取り掛かりやすいと思われる、英字新聞・雑誌等の抜粋記事をテキストとして用い、これまで培った英語力がどこまで通用するか、またしないとしたらこれまでの英語に対する取り組み方にどのような問題があって、今後はどのような姿勢で英語に對峙してゆけばそのような問題が解決されるのか等を実地で学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | |
| (3)授業の体系 | 本講義は以下のステップを踏むことによって、最終的に <i>NEWS WEEK</i> や <i>FINANCIAL TIMES</i> 等の論説記事を原文で理解し、またその大づかみの意味を口頭で述べられるようになることを目指す： 1. まず「政治」「経済」「IT」等のテーマごとの頻出語彙（キーワード）を例文を通じて修得する。 2. そうした上で各テーマごとの関連記事を講読するが、進度にあわせて媒体の難易度を簡単なものから難しいものへと換えてゆく（e.g.『週間ST』、 <i>Asahi Weekly</i> 等の日本人向け一般紙を経て、徐々に <i>Japan Times</i> , <i>News Week</i> , <i>Financial Times</i> 等のネイティブ・クオリティー紙に移っていく） 3. 英文要約（レジюме）や口頭発表のテクニックは別途、随時指導する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 上記キーワードの習得状況を問う中間テスト（30%）と最終の期末テスト（70%）で総合評価を行う。 |
| (5)履修の条件 | 英語 I,II の単位履修者が望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|-------------------------------|--------------|------|
| (6)使用教科書 | 特になし。テキストは適宜こちらで用意する。テキストとなる(上で言及したような)英字新聞・雑誌等はいずれも本学図書館で講読契約しているものなので、日ごろから目を通しておくことを薦める。また日本の一般紙の定期講読も、テキストに関連した背景知識が母国語で得られるということなので、これも薦める。 | | | |
| (7)使用参考書 | 藤原敬一・棚井亨 | 『フィナンシャル タイムズの読み方』 | 日本能率協会マネジメント | 1996 |
| | 滝澤 大 | 『フィナンシャル タイムズが中学英語で面白いように読める』 | ぶんか社 | 2001 |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-------------|-------|---|
| 英文講読 I | | 嘉悦 康太 | |
| 春学期 | 80分×14週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「英語 I・II」で学習した基礎知識をもとに、比較的平易な長文を読み、英語と日本語の発想の違い、表現方法の違いなどを学び、長文読解力とあわせて英語で考え、意見を交換できる能力の養成を目指す。具体的には、英語の原文で書かれたものとして比較的取り掛かりやすいと思われる、英字新聞・雑誌等の抜粋記事をテキストとして用い、これまで培った英語力がどこまで通用するか、またしないとしたらこれまでの英語に対する取り組み方にどのような問題があって、今後はどのような姿勢で英語に對峙してゆけばそのような問題が解決されるのか等を実地で学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | |
| (3)授業の体系 | 本講義は以下のステップを踏むことによって、最終的に <i>NEWS WEEK</i> や <i>FINANCIAL TIMES</i> 等の論説記事を原文で理解し、またその大づかみの意味を口頭で述べられるようになることを目指す： 1. まず「政治」「経済」「IT」等のテーマごとの頻出語彙（キーワード）を例文を通じて修得する。 2. そうした上で各テーマごとの関連記事を講読するが、進度にあわせて媒体の難易度を簡単なものから難しいものへと換えてゆく（e.g.『週間ST』、 <i>Asahi Weekly</i> 等の日本人向け一般紙を経て、徐々に <i>Japan Times</i> , <i>News Week</i> , <i>Financial Times</i> 等のネイティブ・クオリティー紙に移っていく） 3. 英文要約（レジюме）や口頭発表のテクニックは別途、随時指導する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 上記キーワードの習得状況を問う <u>中間テスト</u> （30%）と最終の <u>期末テスト</u> （70%）で総合評価を行う。 |
| (5)履修の条件 | 英語 I,II の単位履修者が望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|-------------------------------|--------------|------|
| (6)使用教科書 | 特になし。テキストは適宜こちらで用意する。テキストとなる(上で言及したような)英字新聞・雑誌等はいずれも本学図書館で講読契約しているものなので、日ごろから目を通しておくことを薦める。また日本の一般紙の定期講読も、テキストに関連した背景知識が母国語で得られるということなので、これも薦める。 | | | |
| (7)使用参考書 | 藤原敬一・棚井亨 | 『フィナンシャル タイムズの読み方』 | 日本能率協会マネジメント | 1996 |
| | 滝澤 大 | 『フィナンシャル タイムズが中学英語で面白いように読める』 | ぶんか社 | 2001 |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|------|-----|
| TOEIC英語 III | | 小野 勝 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>TOEICとは、国際ビジネス社会における英語運用能力の測定を目的としたテストである。今日では企業の採用活動におけるTOEICスコアの積極的な利用により、その重要性が社会的に注目をあびていることは言うまでもない。</p> <p>このクラスでは、TOEICのリーディング・セクションにおける問題形式を利用しながら、日常生活やビジネスの場において用いられる語彙、文法、文章に多く触れることで、英語のコミュニケーション能力を養うことが目的である。TOEICのスコアは、その結果として向上するであろう。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>テキストにそった演習が中心となる。文法や演習問題の解説は、できるだけわかりやすく行っていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>TOEIC英語ⅢとⅣをひとつながりの授業と考え、同じくテキストを用いる。春学期のⅢにおいては、特に基礎的な傾向を取り上げ、秋学期へとつなげていく。その内容はおよそ次のようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 動詞の時制 2. 名詞 3. 形容詞 4. 副詞 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>単語のスモール・テストと2～3回行う復習テストの点数を70%、授業への参加姿勢を30%として、その合計で行う。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>特別にはないが、携帯電話などによる授業の妨害を厳禁とする。社会的マナーを守って授業に参加してもらいたい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|-------------------|-----|-------|
| (6)使用教科書 | 北尾 謙治 他 | TOEICのためのリーディング演習 | 金星堂 | 1997年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| TOEIC 英語Ⅲ | | 栗野 恵子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本講座では、TOEIC TEST “READING PART(PartV、VI、VII、)” の補強対策を目的とします。</p> <p>TOEIC 文法（コミュニケーション文法）をじっくり基礎から取り組みその定着をはかります。「英語の勉強」という発想から、「トレーニング」へ発想転換させ、五感を通し、スキルアップしていきましょう。</p> <p>まずは TOEIC 350点突破を第一目標としますが気持としては、470点近くまで一気に！を目標において下さい。「もう一度、英語をやり直したい」「苦手な構文を克服したい」「もっと表現力の幅を広げたい」…そんな方に最適な講座です。</p> |
| (2)授業の方法 | 教科書を中心にプリント、参考書、音声教材等を随時使用する。 |
| (3)授業の体系 | <p>(1) その日に学ぶ文法事項を図やイラストでイメージ付け。</p> <p>(2) 設定テーマの文法事項の解説。</p> <p>(3) 問題とその解法。</p> <p>(4) 音声確認。</p> <p>(5) その日に学んだ文法事項のチェック。</p> <p>(1)～(5)を基本体系とし、随時ネイティブスピーカーから見た文法エッセーを紹介していきます。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、QUIZ、提出物状況。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|----------------------------------|-----------|-----|
| (6)使用教科書 | SHIBATA VANESSA | READY,SET,GO! TOEIC TEST-READING | NAN'UN-DO | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | TOEIC 文法 | アルク | |
| | 岩村圭南、プレーブン・スマイラー | 理屈じゃ英語は話せない！英文法の急所 | アルク | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| TOEIC英語 IV | | 小野 勝 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>TOEICとは、国際ビジネス社会における英語運用能力の測定を目的としたテストである。今日では企業の採用活動におけるTOEICスコアの積極的な利用により、その重要性が社会的に注目をあびていることは言うまでもない。</p> <p>このクラスでは、TOEICのリーディング・セクションにおける問題形式を利用しながら、日常生活やビジネスの場において用いられる語彙、文法、文章に多く触れることで、英語のコミュニケーション能力を養うことが目的である。TOEICのスコアは、その結果として向上するであろう。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>テキストにそった演習が中心となる。文法や演習問題の解説は、できるだけわかりやすく行っていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>このクラスでは春学期のTOEICⅢと同じテキストを続けて使用し、基礎知識のまとめとする。取り上げる傾向は主に次のようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 代名詞 2. 前置詞 3. 助動詞 4. 不定詞、動名詞 5. 受動態、仮定法 6. 比較 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>単語のスモール・テストと2～3回行う復習テストの点数を70%、授業への参加姿勢を30%として、その合計で行う。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>できるだけTOEIC英語Ⅲを履修していることが望まれるが、その限りではない。(Ⅲと同一の教科書を、続きから使用する。)</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|-------------------|-----|-------|
| (6)使用教科書 | 北尾 謙治 他 | TOEICのためのリーディング演習 | 金星堂 | 1997年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| TOEIC 英語IV | | 栗野 恵子 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>本講座では、“PARTVI、PARTVII” 対策を中心に TOEIC (III) を発展させた内容で授業展開を試みます。PARTVI、VIIに出題される英文は、すべて日常生活やビジネス等具体的なシチュエーションの中で実際にコミュニケーション手段として使うことを想定したもの（広告、告知、依頼書等）です。ですからそれぞれの英文が使用される状況についての現実的知識が解答上必要となります。このような背景知識が自然に身につくよう、本講座では海外からとりよせた英語素材に基づく現実的英文に多く触れ、英語そのものだけでなくそれを使用する人々の生活にも興味を持って学習できるよう工夫していくつもりです。</p> |
| (2)授業の方法 | 教科書とプリント教材中心。 |
| (3)授業の体系 | <p>(1) Warm Up Quiz (前回の復習) (2) Today' Points (3) 英文と日本語の速読 (4) 音声確認 (5) カルチャートーク</p> <p>(1)～(5)を基本体系としますが、とりあげるテーマにより若干変更する場合があります。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、QUIZ、提出物状況。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----------------------------------|-----------|-----|
| (6)使用教科書 | ECC 外語学院 | Basic Reading for the TOEIC TEST | NAN'UN-DO | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|----------|---|
| TOEIC 英語 V | | クレイ サイモン | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | TOEIC の Listening Section を中心にして、TOEIC テキストブックと実際の試験問題を使って実施的トレーニングを行ないます。 小テストを通して、「word power」を身に付ける事もできます。 |
| (2)授業の方法 | テキストブックと実際の試験問題を使って Listening Section の問題を練習します。 |
| (3)授業の体系 | 毎回出てくる、役に立つ単語を事前にウェブに載せます。毎回覚えてきてもらうので、授業での勉強がやりやすくなります。 リスニングの練習になるので、もちろん授業内に英語を使うけど、問題点を日本語でも説明します。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 評価は、平常点（+小テスト等）によります。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|--|---------|------|
| (6)使用教科書 | Lougheed, Lin | Longman Preparation Series for the TOEIC Test, Introductory Course | Longman | 1996 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

授業計画 1

| | 内容 |
|--------|---|
| 第1回授業 | 毎回テキストブックを使います。 授業の前に必ずこの授業計画をチェックして下さい。 |
| 第2回授業 | |
| 第3回授業 | |
| 第4回授業 | |
| 第5回授業 | |
| 第6回授業 | |
| 第7回授業 | |
| 第8回授業 | |
| 第9回授業 | |
| 第10回授業 | |
| 第11回授業 | |
| 第12回授業 | |
| 第13回授業 | |

| | | | |
|-------------|----------|----------|---|
| TOEIC 英語 VI | | クレイ サイモン | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | TOEIC の Listening Section を中心にして、TOEIC テキストブックと実際の試験問題等を使って実施的トレーニングを行ないます。 小テストを通して、「word power」を身に付ける事もできます。 |
| (2)授業の方法 | テキストブックと実際の試験問題等を使って Listening Section の問題を練習します。 |
| (3)授業の体系 | 毎回出てくる、役に立つ単語を事前にウェブに載せます。毎回覚えてきてもらうので、授業での勉強がやりやすくなります。 リスニングの練習になるので、もちろん授業内に英語を使うけど、問題点を日本語でも説明します。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 評価は、平常点（+小テスト等）によります。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|--|---------|------|
| (6)使用教科書 | Lougheed, Lin | Longman Preparation Series for the TOEIC Test, Introductory Course | Longman | 1996 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|----------|---|
| 基礎英会話 I | | クレイ サイモン | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>簡単な、すぐ使える英会話を練習します。</p> <p>「Communication」は目的なので、完全な構文などを作れなくてもOKです。</p> <p>英語だけでなく、日本語での説明も付け加えるので安心して楽しく勉強できます。</p> |
| (2)授業の方法 | テキスト無しで、色々な方法を使います。 |
| (3)授業の体系 | 毎回色々な形で英会話の練習をします。ゲーム、スキット、ビデオ等を使います。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>評価は、平常点（+小テスト等）によります。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|----------|----------|----------|---|
| 基礎英会話 II | | クレイ サイモン | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>簡単な、すぐ使える英会話を練習します。 今学期は、特に海外旅行で使える英語を練習します。 「Communication」は目的なので、完全な構文などを作れなくてもOKです。 英語だけじゃなく、日本語での説明も付け加えるので安心して楽しく勉強できます。</p> |
| (2)授業の方法 | テキスト無しで、色々な方法を使います。 |
| (3)授業の体系 | 毎回色々な形で英会話の練習をします。ゲーム、スキット、ビデオ等を使います。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 評価は、平常点（+小テスト等）によります。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|--------|----------|----------|---|
| 海外集中英語 | | クレイ サイモン | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 英国ケンブリッジで行なう集中講座。 内容はネイティブスピーカーによる英会話です。 |
| (2)授業の方法 | |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 評価は、平常点（+小テスト等）によります。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|---|
| 英文講読 II | | 嘉悦康太 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経営経済学部1年次に履修した英語 I,II で習得した諸知識を武器に、実際に英語で書かれたテキストを読み進む2年次設置科目である「英文講読」のII。春学期にテキストとして時事問題を扱った英字新聞を用いた「英文講読 I」の続編にあたるこの科目では、テキストとして今度は英語運用能力の検定試験として世界的に用いられる TOEIC の Reading パートで実際に使われるものを使用し、学年末に予定されている同模擬テスト (IP テスト) の受験に備える。英文講読 I で鍛えたスピード+要旨を大づかみにする能力の加え、英文講読 II では実際の出題形式にそった様々な種類の英文をテキストにすることにより、規定時間内で解答に至るための解法テクニックを習得するとともに、解答に至る道筋を考えることを通じて、英文の読解力を総合的に強化することを目的としている。 |
| (2)授業の方法 | 演習問題を実際に行った上で、それに対する解答法の講義を行う形式が中心となる。 |
| (3)授業の体系 | 以下のステップを踏んで、英語の読解力を伸ばし、その進展を最終的に TOEIC の当該 Part でのスコア・アップを通じて実感できるようにします。 1) TOEIC とはどのようなテストか? の理解 2) Reading Part で求められる読解力のテストパターンを網羅 3) 各パターン毎の演習・解答 4) 他の Part の概観 5) 模擬 IP テストの実施 以上。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 中間 40% 期末 60% |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----------------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | | 適宜こちらで用意します。 | | |
| (7)使用参考書 | 中川昭 | 『はじめて受ける TOEIC TEST』 | アスカ | 2002 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-----|-----|
| 中国語会話入門 I | | 朱徳君 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この授業は、「聞く」「話す」「読む」「書く」の4技能のうち特に「聞く」「話す」技能を高めるために設定された科目であり、簡単な日常会話を中心に、聞く・話す訓練を行い、さらに数多くの練習問題を解くことによって一年次に学習した中国語の基礎を固めながら、中国語の実用的運用能力をつけることを目標とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | この春学期(半年間)予定されるテーマは次の通りである。 1、挨拶 2、姓名を尋ねる 3、身の廻りに関する表現 4、専攻は 5、相手の都合を尋ねる 6、家族構成について 7、買い物 8、道を尋ねる 9、出迎え 10、友人について 11、工芸品について 12、家族に関する話題 13、万里の長城 本文の意味等を説明した上で、場面を設定して口頭による応用練習を行い、反復練習を通して上記の目標の達成を目指す。またテープによるヒアリングも行う予定である。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや授業への参加度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅱを修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・朱徳君・劉海芳 | 実用中国語(応用編Ⅰ) | 白帝社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-----|-----|
| 中国語会話入門Ⅱ | | 朱徳君 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 中国語会話入門Ⅰに引き続き、中国語の4技能のうち特に「聞く」「話す」技能の習得を目指す。日常の様々な場面での実用的な会話を中心に、耳と口の訓練を行い、それによって今まで学んだ中国語の知識の定着を図りながら、各種場面での応用会話力をつけてゆく。最終的な目標としては、様々な日常場面での基本的な表現をマスターし、実践的な伝達能力の向上を目指す。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | この秋学期(半年間)予定されるテーマは次の通りである。 1、バスに乗って 2、約束 3、相手の予定を尋ねる 4、友人宅を訪問する 5、週末の予定について 6、キャンパス生活 7、天候について 8、海外旅行 9、デパートで 10、夏休みに 11、勉強について 12、友達を誘う 13、郵便局で 本文の意味等を説明した上で、場面を設定して口頭による応用練習を行い、反復練習を通して上記の目標の達成を目指す。またテープによるヒアリングも行う予定である。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや授業への参加度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語会話入門Ⅰを修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・朱徳君・劉海芳 | 実用中国語(応用編Ⅰ) | 白帝社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-----|-----|
| 中国語 I | | 賈軍 | |
| 春学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。</p> <p>入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“吗”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、</p> <p>後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“过”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p> |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 初学者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編 I) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-----|-----|
| 中国語 I | | 馮雪梅 | |
| 春学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。</p> <p>入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“吗”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、</p> <p>後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“过”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p> |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 初学者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編 I) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-----|-----|
| 中国語 I | | 林平 | |
| 春学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>この授業では現代中国語を習得するための初歩を学習する。</p> <p>入門期に正しい発音を身につけるために先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意しながら、基本的な文型・文法を日常の初級程度の口語表現を学ぶ中で学習する。</p> <p>最終的な目標を、基本的に中国語の発音をマスターし、文法の基礎的事項を身につけ、表現や理解の基礎を作ることに置く。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | <p>授業の前半では、主として発音、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“吗”を用いる疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、選択疑問文、構造助詞“的”、助数詞、連用修飾、数量補語、結果補語を、</p> <p>後半では、動態助詞“了”、語気助詞“了”、動態助詞“过”、連体修飾、語気助詞“吧”、連動文、方向補語、不定代詞“什么”、否定を表す副詞、比較表現、主な程度を表す副詞、程度補語、主述述語文などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p> |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 初学者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編 I) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|-----|-----|
| 中国語Ⅱ | | 賈軍 | |
| 秋学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅰ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編Ⅰ) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|-----|-----|
| 中国語Ⅱ | | 馮雪梅 | |
| 秋学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅰ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編Ⅰ) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|-----|-----|
| 中国語Ⅱ | | 林平 | |
| 秋学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅰ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編Ⅰ) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-----|-----|
| 中国語Ⅱ(再履修) | | 朱徳君 | |
| 春学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 中国語Ⅰで学んだ中国語の基礎に基づき、日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって中国語の構文と日常の様々な場面での基本的な表現に慣れ親しみながら、中国語の基礎をマスターする。 最終的には中国語の基本文法、日常生活に必要な基礎表現法の習得を目指すこととする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | 授業の前半では、主として前置詞、未来の表現、動作の持続を表す表現、「進行」を表す“在”、特殊疑問文、概数表現、可能補語、助動詞、仮定表現、動態助詞“着”、様態補語、構造助詞“地”、兼語文、接続詞を、後半では、反語表現、受け身文、“動詞の重ね型等+看”、接頭語、方向補語の派生用法、緊縮文、縮略語、“把”構文による処置の表現、4種類の述語文、使役表現、前置詞などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅰ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編Ⅰ) | 白帝社 | 2000 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|---------|-----|
| 中国語Ⅲ | | 馮雪梅・朱徳君 | |
| 春学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようにしっかりした基礎作りをする。 最終的にはHSK2級程度の実力がつくことを目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | 授業の前半では、結果補語“给”、疑問詞の連用、“有时～有时～”構文、使役の“让”、前置詞“为”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、让、叫”、“连～带～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已经～了”、“先～，又～，然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是谁～呢？”、“只～过”、“没～过”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“给～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅱ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|----------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 孫暉・劉平・史建偉 | 留学気分て中国語 | 白帝社 | 2001 |
| | 焦凡・勝股 高志 | 私の毎日 | 白帝社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |

| | | | |
|------|-----------|-----|-----|
| 中国語Ⅲ | | 朱徳君 | |
| 春学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 一年次に習得した中国語の成果をふまえ、引き続き日常生活での様々な場面での口語表現を学ぶ中で中国語文法の一般的事項を学習する。それによって日常場面での基本的な表現を習得し、体系的な文法の知識を身につけ、やや高度な表現ができるようにしっかりした基礎作りをする。 最終的にはHSK2級程度の実力がつくことを目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | 授業の前半では、結果補語“给”、疑問詞の連用、“有时～有时～”構文、使役の“让”、前置詞“为”、中止を表す“不～了”、“好好儿”、二重否定“非～不可”“不～不行”、離合動詞、方向動詞と方向補語、受身を表す“被、让、叫”、“连～带～”、方向補語“上去”の派生用法、行為の順序を表す“先～再～”を、後半では、“一心想～”、助動詞“想”と“要”、“一口气儿能～”、“已经～了”、“先～，又～，然后～”、完了の“了”、変化の“了”、“是谁～呢？”、“只～过”、“没～过”、“别提多～了”、“～都没～”、動量補語、“给～的”、“又开始～了”、“再也没有～了”、時量補語、程度補語、結果補語などについて学習する。具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅱ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|----------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 孫暉・劉平・史建偉 | 留学気分で中国語 | 白帝社 | 2001 |
| | 焦凡・勝股 高志 | 私の毎日 | 白帝社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |

| | | | |
|------|-----------|-----|-----|
| 中国語Ⅳ | | 朱徳君 | |
| 秋学期 | 80分×週 3コマ | 単位数 | 3単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 今までに身につけた基礎学力をもとに、平易な文体で書かれた中国語のまとまった文章を読むことを通して文法、表現の面でより高度なものを学習しながら、読解力を中心に総合的中国語力、豊かな表現力を身につける。体系的な文法の知識と基礎的表現法を修得することによって中国語の基礎力の定着を図る。 最終的にはHSK3級程度の実力がつくことを目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | この半年間取り扱っていくトピックは次のようなものである。 漢字の中日交流、人気の専攻、お茶の飲み方、煙草を勧める、宴会、商売のコツ、若者のアフター、音楽、スポーツ、中国女性、貴族学校、住宅、出稼ぎラッシュ、方言、健康づくりは何？、「かみさん」は「神様」ではない、ユーモア、夢を実現しよう、共通の願い、数字言葉、うまくいかない、記憶力アップの鍵は右脳を鍛えることにある、ボディランゲージ 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後本文の訳読と数多くの練習問題を学生が解答する。それによって既習文法事項の再確認、新出文法の習得、語彙力の一層の充実、中国語構文の把握などをも図りながら、中国の文化、社会についてさらに理解を深めていく。 |
| (4)評価の方法 | 授業への参加度、平常点(授業中の訳読の出来ばえ等)と2回の授業内テスト等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語Ⅲ修了者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|---------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 児野道子・渡部昭夫等 | 現代中国展望台 | 三修社 | 1998 |
| | 金路 | ユーモア中国語 | 駿河台出版社 | 2002 |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |

| | | | |
|---------|-----------|-----|-----|
| 基礎中国語 I | | 劉暢 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この授業では、中国語の学習を進めていく上での基礎的知識を学習する。 中国語という言語に慣れ親しむことを中心に据え、入門期に正しい発音を身につけるために 先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意し ながら、中国語の初歩的な文法知識を簡単な口語表現を学ぶ中で学習する。 基礎中国語 I が終了した時点で中国語の発音に慣れ、初歩的な文法と簡単な文の表現力 を身につけることを目標とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | この授業の前半では、主として発音を、 後半では、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“吗”を用いる 疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、構造助詞“的”、連用修飾、姓名の尋ね 方と答え方、人称代名詞、指示代名詞などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教 師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定 着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 初学者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編 I) | 白帝社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-----|-----|
| 基礎中国語 I | | 劉暢 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この授業では、中国語の学習を進めていく上での基礎的知識を学習する。 中国語という言語に慣れ親しむことを中心に据え、入門期に正しい発音を身につけるために 先ず音声面の学習に重点を置き、次に中国語のリズムと日中両国語の発想の違いに注意し ながら、中国語の初歩的な文法知識を簡単な口語表現を学ぶ中で学習する。 基礎中国語 I が終了した時点で中国語の発音に慣れ、初歩的な文法と簡単な文の表現力 を身につけることを目標とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | この授業の前半では、主として発音を、 後半では、形容詞述語文、動詞述語文、名詞述語文、語気助詞“吗”を用いる 疑問文、疑問詞疑問文、反復疑問文、構造助詞“的”、連用修飾、姓名の尋ね 方と答え方、人称代名詞、指示代名詞などについて学習する。 具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教 師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定 着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。 |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 初学者を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編 I) | 白帝社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-----|-----|
| 基礎中国語Ⅱ | | 劉暢 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>春学期授業で学習した基礎中国語Ⅰの持ち上がり授業である。</p> <p>内容的には、基礎中国語Ⅰの学習内容を継続し、発音の矯正をしながら、初級口語表現を中心に、基本的な文型、文法と表現法を学び、会話の基礎力をつける。</p> <p>基礎中国語Ⅱの学習を終えるまでには、中国語文法の基礎的事項の前半を習得し、基本的な文の構造を理解して、簡単な表現ができるようにしっかりした基礎作りをする。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | <p>この授業の前半では、主として助数詞、場所を示す指示代詞、二重目的語文、方位詞、疑問代詞、選択疑問文、時刻の表現、数量補語を、後半では、動態助詞“了”、伝聞を表す表現、語気助詞“呢”、語気助詞“呢”、年齢の尋ね方、動態助詞“过”、概数表現、連体修飾などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p> |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 基礎中国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編Ⅰ) | 白帝社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-----|-----|
| 基礎中国語Ⅱ | | 劉暢 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>春学期授業で学習した基礎中国語Ⅰの持ち上がり授業である。</p> <p>内容的には、基礎中国語Ⅰの学習内容を継続し、発音の矯正をしながら、初級口語表現を中心に、基本的な文型、文法と表現法を学び、会話の基礎力をつける。</p> <p>基礎中国語Ⅱの学習を終えるまでには、中国語文法の基礎的事項の前半を習得し、基本的な文の構造を理解して、簡単な表現ができるようにしっかりした基礎作りをする。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。黒板に出てもらって板書する機会が多い。 |
| (3)授業の体系 | <p>この授業の前半では、主として助数詞、場所を示す指示代詞、二重目的語文、方位詞、疑問代詞、選択疑問文、時刻の表現、数量補語を、後半では、動態助詞“了”、伝聞を表す表現、語気助詞“呢”、語気助詞“呢”、年齢の尋ね方、動態助詞“过”、概数表現、連体修飾などについて学習する。</p> <p>具体的な授業の進め方としては、先ず文法、本文等について必要な説明を教師が行い、その後数多くの練習問題を学生が解答する。それによって知識の定着をはかると共に応用力をつけ、上記の目標の達成を目指す。</p> |
| (4)評価の方法 | 普段の小テストや受講態度等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 基礎中国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|-------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 馮雪梅・李芳傑 | 実用中国語(基礎編Ⅰ) | 白帝社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-----|-----|
| 海外集中中国語 | | 馮雪梅 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>会話、ヒアリング、発音特訓等の授業を中心に、嘉悦の研修参加者だけのクラスを編成し、独自のカリキュラムで提携校の武漢大学で実施する中国語の特別授業である。</p> <p>現地で中国の生活と文化を実体験し、武漢大学の学生や他の国々からの留学生と触れ合いながら、生きた中国語の習得と実践的な中国語運用能力の向上を目指す。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>午前中は、基礎中国語、会話、ヒアリング、発音特訓などの授業を中心に、50分授業を1日4時限行い、午後には、荊楚文化、書道、京劇、武術等の中国文化講座、キャンパス見学、武漢市内見学、観劇、武漢大学の学生との交流などを実施する。</p> <p>先ず各回のテーマにそって必要な説明を教師が行い、その後知識の定着のために演習問題を行う。</p> |
| (4)評価の方法 | 授業への取り組み姿勢を重視する。これに出席及び演習などを総合して評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語 I・II を修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 康玉華・来思平 | 漢語会話301句 | 北京語言学院 | 1990 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 上野恵司 | 標準中国語辞典 | 白帝社 | 1991 |
| | 上野恵司・顧明耀 | 標準日中辞典 | 白帝社 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|----------|---|
| 時事外国語 I | | クレイ サイモン | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | Practice in understanding the world today through English. In a style that is as close to a seminar as possible, we will look each week at a variety of texts taken from British, American and other English-language newspapers and magazines. The most up-to-date information is available instantly on the Internet. Watch out for each week's text, which will be posted on this course's web page. |
| (2)授業の方法 | Reading, translating, discussion (in English and Japanese!) |
| (3)授業の体系 | Each week a text will be posted which students will be expected to translate and understand as best they can before the class. The texts will be of different lengths and about different subjects, but will always be taken straight from newspapers and magazines available on the Net. We will translate and discuss in class. There will also be weekly vocabulary tests – boring, yes, but a great way to increase your word power! The texts chosen will not be too difficult, and I promise to find interesting ones! |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 You will be evaluated according to how much you work you do before and in each class. |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-----|-----|
| 時事外国語 I | | 馮雪梅 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 中国語で時事問題を理解することを目的とする。時事外国語 I では新聞を材料に、過去一年間の中国国内の状況、中国を取り巻く国際情勢を10のテーマに分けて取り上げ、それぞれ最新の時事用語、新聞独特の表現方法などを理解できる知識、技能を習得させながら、目覚しく発展する現代中国について理解を深めていく。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | この半年間取り扱っていくトピックは次の通りである。 1、バカンス消費がヒートアップ 2、中国製のアニメの星、ブルーキャット 3、砂嵐がわが国の北方地区を襲った 4、中国でのファーストリテイリング 5、2000年大学入試ドキュメント 6、北京の茶館の話 7、台湾の新しい指導者とは如何なる人物？ 8、また華南ドラを発見 9、病院、5つの恐怖 10、月下老人の前で結婚式 中国語の語彙と文法事項等について必要な説明を行った後、本文の訳読を中心に授業を進める。訳読終了後は音読の練習を行う。 |
| (4)評価の方法 | 年数回の小テストや授業への参加度(授業中の訳読の出来ばえ)等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 中国語 II を修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------------|-----------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 三瀧正道・陳祖蓓 | 時事中国語の教科書 | 朝日出版社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 北京对外経済貿易大学・北京商務印書館・小学館 | 日中辞典 | 小学館 | 2002 |
| | 北京商務印書館・小学館 | 中日辞典 | 小学館 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|----------|----------|----------|---|
| 時事外国語 II | | クレイ サイモン | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | Practice in understanding the world today through English. In a style that is as close to a seminar as possible, we will look each week at a variety of texts taken from British, American and other English-language newspapers and magazines. The most up-to-date information is available instantly on the Internet. Watch out for each week's text, which will be posted on this course's page. |
| (2)授業の方法 | Reading, translating, discussion (in English and Japanese!) |
| (3)授業の体系 | Each week a text will be posted which students will be expected to translate and understand as best they can before the class. The texts will be of different lengths and about different subjects, but will always be taken straight from newspapers and magazines available on the Net. We will translate and discuss in class. There will also be weekly vocabulary tests – boring, yes, but a great way to increase your word power! The texts chosen will not be too difficult, and I promise to find interesting ones! |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 You will be evaluated according to how much you work you do before and in each class. |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-----|-----|
| 時事外国語Ⅱ | | 馮雪梅 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 時事外国語Ⅰと同様、中国語で時事問題を理解することを目的とする。時事外国語Ⅱではより高度な専門誌を材料に、過去一年間の中国国内の状況、中国を取り巻く国際情勢を10のテーマに分けて取り上げ、時事問題についてのレベルの高い議論を理解し、そして考えることができるような知識・技能を習得させる。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | この半年間取り扱っていくトピックは次の通りである。 1、西部大開発——新疆ウイグル自治区 2、美味しいウサギの肉 3、中国人は日本人より背が低い？ 4、空から陸からイナゴ退治 5、中国初の車椅子大学生 6、商人は農民に気配りを 7、どう表現する？ 8、個人企業の流行 9、ネット上での清明節 10、敦煌百年 中国語の語彙と文法事項等について必要な説明を行った後、本文の訳読を中心に授業を進める。訳読終了後は音読の練習を行う。 |
| (4)評価の方法 | 年数回の小テストや授業への参加度(授業中の訳読の出来ばえ)等を加味して総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 時事外国語Ⅰを修了した程度の人を対象とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------------|-----------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 三瀧正道・陳祖蓓 | 時事中国語の教科書 | 朝日出版社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 北京对外経済貿易大学・北京商務印書館・小学館 | 日中辞典 | 小学館 | 2002 |
| | 北京商務印書館・小学館 | 中日辞典 | 小学館 | 1996 |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|-----|
| イタリア語 I | | 嘉悦 克 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 長い歴史と文化を誇るイタリアは、美術、音楽等芸術の分野で魅力に満ちている。取分け昨今、ミラノを発信地とするファッション、或はイタリア料理に興味と魅力を感じる女性が増えているようである。イタリア人は陽気で人なつっこい性格の国民であると共に、長い歴史と伝統をもつ自分達の文化に誇りを持っている。勿論、自分達の言語であるイタリア語に関しても同じである。外国人旅行者がたどたどしいイタリア語で話しかけると本当に嬉しそうな顔をする。そして、そこから心の交流が始るのである。 |
| (2)授業の方法 | 春学期はイタリア語になれる為に簡単な日常的な挨拶等を中心に授業を進め、またイタリア語独自の文法にも多少触れる。 |
| (3)授業の体系 | <p>①教科書が簡単な会話を中心に構成されているので、必ず声をだして反復練習をし、イタリア語の発音に慣れる。</p> <p>②毎回の授業の流れの中で、ラテン系言語特有の文法事項、名詞の性と数、それに伴う冠詞、形容詞等の変化を学ぶ。</p> <p>③これもラテン系言語の特徴である動詞の人称活用を重点的に学ぶ。</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 テスト、プラス平常点 |
| (5)履修の条件 | 予習と復習の履行 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 畑 舜一郎 | 語学王 イタリア語 | 三修者 | 99年 |
| (7)使用参考書 | 下位英一・坂本鉄男 | イタリア語小辞典 | 大学書林 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|----------|-----|-----|
| イタリア語Ⅱ | | 嘉悦克 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 長い歴史と文化を誇るイタリアは、美術、音楽等芸術の分野で魅力に満ちている。取分け昨今、ミラノを発信地とするファッション、或はイタリア料理に興味と魅力を感じる女性が増えているようである。イタリア人は陽気で人なつっこい性格の国民であると共に、長い歴史と伝統をもつ自分達の文化に誇りを持っている。勿論、自分達の言語であるイタリア語に関しても同じである。外国人旅行者がたどたどしいイタリア語で話しかけると本当に嬉しそうな顔をする。そして、そこから心の交流が始るのである。 |
| (2)授業の方法 | 秋学期は、春学期で学んだ内容を展開しながら外国語を学ぶ際の基本である応用力を実践的に身につけるようにする。 |
| (3)授業の体系 | <p>①教科書が簡単な会話を中心に構成されているので、必ず声をだして反復練習をし、イタリア語の発音に慣れる。</p> <p>②毎回の授業の流れの中で、ラテン系言語特有の文法事項、名詞の性と数、それに伴う冠詞、形容詞等の変化を学ぶ。</p> <p>③これもラテン系言語の特徴である動詞の人称活用を重点的に学ぶ。</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 テスト、プラス平常点 |
| (5)履修の条件 | 予習と復習の履行 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 畑 舜一郎 | 語学王 イタリア語 | 三修社 | 99年 |
| (7)使用参考書 | 下位英一・坂本鉄男 | イタリア語小事典 | 大学書林 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|---------|-----|
| フランス語 I | | ポール・エトガ | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 初めてフランス語を学ぶ人のために、発音やつづりの練習を通じて、フランスの文化にふれていきます。細かい文法よりも、まずはフランス語の楽しさを味わってください。 |
| (2)授業の方法 | L'utilisation de la video, cassette audio, livre, et dictionnaire est de mise. |
| (3)授業の体系 | フランス語の基礎をしっかりと学び、日常生活に必要な単語や表現を身につけていきます。このコースの終わりには、フランス人との簡単な会話ができるようになることを目指します。 例えばホテルやレストランなどで行われている場面 |
| (4)評価の方法 | 出席と参加 10% ; 課題 40% ; 小テスト 50% |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------------------|------------------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | CARDINAL | L'HEURE DU FRANÇAIS | CARDINAL | 2002 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 山田、G.メランベルジェ | LE DICO、現代フランス語辞典「第2版」 | 白水社 | |
| | または | | | |
| | 山田、JEAN HENRI LAMARE | CROWN 学習仏和辞典「第5版」 | 三省堂 | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|---------|-----|
| フランス語Ⅱ | | ポール・エトガ | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 初めてフランス語を学ぶ人のために、発音やつづりの練習を通じて、フランスの文化にふれていきます。細かい文法よりも、まずはフランス語の楽しさを味わってください。 |
| (2)授業の方法 | L'utilisation de la video, cassette audio, livre, et dictionnaire est de mise. |
| (3)授業の体系 | フランス語の基礎をしっかりと学び、日常生活に必要な単語や表現を身につけていきます。このコースの終わりには、フランス人との簡単な会話ができるようになることを目指します。 例えばホテルやレストランなどで行われている場面 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席と参加10%；課題40%；小テスト50% |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------------------------|------------------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | CARDINAL | L'HEURE DU FRANÇAIS | CARDINAL | 2002 |
| (7)使用参考書 | 山田、G.メランベルジェ | LE DICO、現代フランス語辞典「第2版」 | 白水社 | |
| | または 山田、JEAN HENRI LAMARE | CROWN 学習仏和辞典「第5版」 | 三省堂 | |

| | | | |
|--------|-----------|---------|-----|
| フランス語Ⅲ | | ポール・エトガ | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 初めてフランス語を学ぶ人のために、発音やつづりの練習を通じて、フランスの文化にふれていきます。細かい文法よりも、まずはフランス語の楽しさを味わってください。(LEVEL UP) |
| (2)授業の方法 | L'utilisation de la video, cassette audio, livre, et dictionnaire est de mise. |
| (3)授業の体系 | フランス語の基礎をしっかりと学び、日常生活に必要な単語や表現を身につけていきます。このコースの終わりには、フランス人との簡単な会話ができるようになることを目指します。 例えばホテルやレストランなどで行われている場面 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席と参加10%；課題40%；小テスト50% |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------------------------|------------------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | CARDINAL | L'HEURE DU FRANÇAIS | CARDINAL | 2002 |
| (7)使用参考書 | 山田、G.メランベルジェ | LE DICO、現代フランス語辞典「第2版」 | 白水社 | |
| | または 山田、JEAN HENRI LAMARE | CROWN 学習仏和辞典「第5版」 | 三省堂 | |

| | | | |
|----------|-----------|---------|-----|
| フランス語 IV | | ポール・エトガ | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 初めてフランス語を学ぶ人のために、発音やつづりの練習を通じて、フランスの文化にふれていきます。細かい文法よりも、まずはフランス語の楽しさを味わってください。(LEVEL UP) |
| (2)授業の方法 | L'utilisation de la video, cassette audio, livre, et dictionnaire est de mise. |
| (3)授業の体系 | フランス語の基礎をしっかりと学び、日常生活に必要な単語や表現を身につけていきます。このコースの終わりには、フランス人との簡単な会話ができるようになることを目指します。 例えばホテルやレストランなどで行われている場面 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席と参加10%；課題40%；小テスト50% |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------------------------|------------------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | CARDINAL | L'HEURE DU FRANÇAIS | CARDINAL | 2002 |
| (7)使用参考書 | 山田、G.メランベルジェ | LE DICO、現代フランス語辞典「第2版」 | 白水社 | |
| | または 山田、JEAN HENRI LAMARE | CROWN 学習仏和辞典「第5版」 | 三省堂 | |

| | | | |
|---------|------------|------|-----|
| 芸術と社会 1 | | 森 康夫 | |
| 春学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。 |
| (2)授業の方法 | 毎回、テーマのポイントを書きプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 |
| (3)授業の体系 | <p><年間授業計画と芸術全般について説明> *ルネサンスを中心として印象派までを解説する</p> <p>／導入として「エジプト美術」のねじれた人物について解説 ／ギリシャ／ローマ／ヴィザンチン ／ロマネスク／ゴシック ／ルネサンス（イタリア）（北方） ／バロック／ロココ ／新古典派／ロマン派 ／バルビゾン派／写実派／印象派</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>基本的にはレポート提出によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 高階秀爾 | 西洋美術史 | 美術出版社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|------------|------|-----|
| 芸術と社会 1 | | 森 康夫 | |
| 春学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし。「社交」という面からも必ず役立つはずです。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>毎回、テーマのポイントを書きプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。</p> |
| (3)授業の体系 | <p><年間授業計画と芸術全般について説明> *ルネサンスを中心として印象派までを解説する</p> <p>／導入として「エジプト美術」のねじれた人物について解説 ／ギリシャ／ローマ／ヴィザンチン ／ロマネスク／ゴシック ／ルネサンス（イタリア）（北方） ／バロック／ロココ ／新古典派／ロマン派 ／バルビゾン派／写実派／印象派</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 基本的にはレポート提出によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 高階秀爾 | 西洋美術史 | 美術出版社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|------|-----|
| 芸術と社会2 | | 森 康夫 | |
| 秋学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし、社交」という面からも必ず役立つはずです。 |
| (2)授業の方法 | 毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 |
| (3)授業の体系 | <p><年間の授業計画を説明する> * 印象派から現代美術までを解説する</p> <p>印象派／後期印象派／象徴派／アールヌーボー／新印象派／ナビ派／ ナイーブ派／野獣派（フォーヴィズム）／立体派（キューヴィズム） ドイツ表現派／超現実派（シュールレアリズム）／エコールドパリ 抽象絵画／バウハウス／アールデコ／アメリカの現代美術</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>基本的にはレポート提出によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 高階秀爾 | 西洋美術史 | 美術出版社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|------|-----|
| 芸術と社会2 | | 森 康夫 | |
| 秋学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 日常生活の中で「芸術」はどのような意味を持っているのか。そしてそれはどのような働きをしているのか。現代は物質欲を満足させることで豊かさを感じる傾向にある。しかし、真の豊かさとは精神面の充実や心の豊かさであり、それを求めなくてはならないことを分かってはいるが、そのアプローチは様々であり、大変難しい。当科目はこの問題を「美術」の面からとらえ、考えていこうというものです。具体的には、西洋美術史を中心に展開するが単に知識の吸収に止まらず、見学などを通して自分の目で確認し、自分なりの物の見方や感じ方を磨いて欲しい。「感情」を学ぶ良い機会ですし、社交」という面からも必ず役立つはずです。 |
| (2)授業の方法 | 毎回、テーマのポイントを書いたプリントを配り、それに沿って講義を行う。画集やビデオを見ながら進めるので理解しやすいと思う。 |
| (3)授業の体系 | <p><年間の授業計画を説明する> * 印象派から現代美術までを解説する</p> <p>印象派／後期印象派／象徴派／アールヌーボー／新印象派／ナビ派／ ナイーブ派／野獣派（フォーヴィズム）／立体派（キューヴィズム） ドイツ表現派／超現実派（シュールレアリズム）／エコールドパリ 抽象絵画／バウハウス／アールデコ／アメリカの現代美術</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>基本的にはレポート提出によるが、授業態度も加味して総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 高階秀爾 | 西洋美術史 | 美術出版社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 女性と社会 | | 佐田 節子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 「これから社会人になっていく女性に」 創立者の建学の精神、教育理念を理解し、職業を通して学んでいく心構え、生活者としての知識、知恵を学ぶ。女性の資質向上を図る。 |
| (2)授業の方法 | 講義のほかに、講演者による講演とキャリアOGの話を聞く。 |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 各週ごとの提出レポートの総評価（講義時間内） |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 女性と社会 | | 佐田 節子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 「これから社会人になっていく女性に」 創立者の建学の精神、教育理念を理解し、職業を通して学んでいく心構え、生活者としての知識、知恵を学ぶ。女性の資質向上を図る。 |
| (2)授業の方法 | 講義のほかに、講演者による講演とキャリアOGの話を聞く。 |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 各週ごとの提出レポートの総評価（講義時間内） |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 現代社会と倫理 I | | 半田 栄一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 倫理学や哲学の立場から、近代、現代に至るまでの倫理、政治、宗教について考えていく。現代社会の抱える問題を解決し、未来を志向する上で、特に古代ギリシアにおける哲学と政治的理想（ポリス）、日本固有の文化的伝統や倫理思想、宗教意識に力点が置かれるであろう。近代市民社会以降における権利、人権、自由、平等、公正、正義等の理念と実現は現代の政治的状況を結実させたといえるが、その成果と矛盾について考えてみる。常に、人間として社会に生きるということ（権利と義務など）を中心に据え、21世紀の国際社会の中における日本のあるべき姿をも問う。自らの社会的あり方を学生各自が考えて欲しい。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心とするが、必要に応じて学生による発表、討議も行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 倫理学への理解を通し、人が生きることは、社会的に他者と共にあることであるということを知る。 2. 古代ギリシアから近現代に至る倫理思想と政治のあり方を理解する。 3. われわれ現代の日本および日本人は、国際社会の中でどうあるべきか、いかに生きるべきかを日本文化と国際社会の現状を通して考えていく。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 習得した知識の量よりも、授業に対する取り組みの熱意（どのくらい自分で考えたか）、および授業態度を重視する。 |
| (5)履修の条件 | 授業において社会人としてのエチケットが守られること。（遅刻、授業中の私語、携帯電話、メールなどは禁止する。） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------------|-----------------------------|-----|-------|
| (6)使用教科書 | | (使用せず) ※必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| (7)使用参考書 | 小笠原弘親・小野紀明・藤原保信 | 『政治思想史』 (その他、適宜指示する。) | 有斐閣 | 2000年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| 現代社会と倫理 II | | 半田 栄一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 近現代の科学・技術の発達は目ざましく、われわれに多大な恩恵を与えているが、同時に、地球環境問題、生命倫理や現代医療の抱える問題等が生じ、コンピューターの発達もかつてない便利さをもたらしたが、これに伴う犯罪の増加や人間疎外が問題となりつつあり、科学・技術は人類の危機、脅威をも生ずる。こうした問題を取り上げつつ、倫理学の立場から科学技術を扱う人間のあるべき姿を問いたい。関連する宗教、コミュニケーション、性、現代文化等にも触れることになろう。常に人が生きるということ、「いのち」や「自然」の本来の姿を問いつつ文明・文化の意味をふりかえる。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心とするが、必要に応じて学生による発表、討議も行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 科学・技術とは何か？ 2. 現代科学技術文明の現状 3. 科学技術とわれわれの生き方や文化（自然観、生命観等） 4. 21世紀の光と闇を分けるもの 5. 宗教と科学 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>習得した知識の量よりも、授業に対する取り組みの熱意（どのくらい自分で考えたか）、および授業態度を重視する。</p> |
| (5)履修の条件 | 授業において社会人としてのエチケットが守られること。（遅刻、授業中の私語、携帯電話、メールなどは禁止する。） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------------------|-----|-------|
| (6)使用教科書 | | (使用せず) | | |
| | | ※必要に応じてプリントを配布する。 | | |
| (7)使用参考書 | 中山 愈 | 『現代世界の思想的課題』 | 弘文堂 | 平成10年 |
| | | (その他、適宜指示する。) | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|-------|-----|
| 現代日本の政治 I | | 冠木 敦子 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>日本の政治に事例を取りながら政治学の基本概念を学び、現代社会に生きる上で基本的な、政治に関する教養を身につけることを目標とする。日本においては行政改革の停滞や汚職の蔓延などから、政治を語ることが著しく魅力を失っているが、それでも生きている限り政治を避けて通ることはできない。本講義では、日本の政治の仕組みと問題点を認識し、このような政治制度がどのような理念のもとに形成されて来たかを学ぶ。</p> <p>政治とはそもそも他の多くの分野との関係の上に成立するものであるから、経済、法、倫理、社会、歴史などに言及しながら講義を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式で進める。講義内容によってプリントを配布し、映像教材も使用する。 |
| (3)授業の体系 | <p>以下のような体系で講義を進める予定である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 政治の仕組み <ol style="list-style-type: none"> ①国会と内閣 ②政党 ③議院内閣制の問題点 ④首相公選制と大統領制 ⑤官僚と政治家 2 マスメディアの機能と問題点 3 政治と経済 4 国際社会と日本の外交 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| | 学期末に筆記試験、またはレポートを課す予定。 |
| (5)履修の条件 | 条件は特にない。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|---------------|-----------|------|
| (6)使用教科書 | 真淵勝・久米郁男・北山俊哉 | はじめて出会う政治学 | 有斐閣アルマ | 1997 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 阿部齊・新藤宗幸・川人貞氏 | 概説 現代日本の政治 | 東京大学 | 1990 |
| | 高島道敏 | 増補新版 政治学への道案内 | 三一書房 | 1976 |
| | 山口二郎 | 現代日本の政治変動 | 放送大学教育振興会 | 1999 |
| | | | | |

| | | | |
|----------|----------|-------|-----|
| 現代日本の政治Ⅱ | | 冠木 敦子 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現代日本の政治をより深く理解するために、近代から現代にかけての政治史と思想の変遷をたどり、日本の政治文化の特徴を学ぶ。敗戦から五十余年がたった今、現代の政治を語るのに、近代にさかのぼって学ぶのはなぜか。それは近代化において日本が抱えていた政治的・思想的課題が、現代に至るまで連続しているからに他ならない。本講義では明治・大正期における近代化の特質や帝国主義、敗戦後の民主化の特質などについて学び、各人が現代政治を見る自分なりの視角を養うことを目標としている。講義は特に政治と政治思想に絞ったものになるが、政治はそもそも他分野との関係の上に成り立つものであり、歴史、文化、倫理、法、経済などの諸分野に足を踏み入れながら講義を進めていく。 |
| (2)授業の方法 | 履修人数によって、講義または演習形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | 以下のような体系で講義を行う予定。 1 近代の政治思想 2 近代国家の形成過程と明治の啓蒙思想 3 自由民権運動 4 明治国家 5 軍部独裁への道 6 東京裁判の意義と問題点 7 戦後の民主化過程 8 戦後の民主主義思想 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 筆記試験、またはレポートを課す予定。詳細は授業の最初にお知らせします。 |
| (5)履修の条件 | 「現代日本の政治Ⅰ」を履修していることが望ましいが、履修していなくとも、意欲のある学生は歓迎する。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 長谷川宏 | 丸山真男をどう読むか | 講談社現代新書 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 福田歓一 | 近代の政治思想 | 岩波新書 | 1970 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|---|
| 国際社会と日本 I | | 山田 寛 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | アジアの現代史を中心に講義する。21世紀の日本にとって、やはりアジアの隣人たちとの関係が最も重要になる。そして、21世紀の新しい頁を開くには、古い頁、それもすぐ前の頁を読んでおかなければならない。そこで、20世紀の第2次大戦以後、現在までアジアで起きたことを学ぼう。だいたい、日本は、第2次大戦でアジア諸国に対し大きな損害を与えたことについて、きちんとわびていないと、よく批判される。実際のところ、わびているのか、いないのか。いろいろな立場の人がさまざまに言うから、なかなかわからない。何がおきてきたか、日本がそれに対してどのように対応してきたか、できるだけ客観的に、基本的な事実を知ってもらうことが、この講義の目的となる。 |
| (2)授業の方法 | 講義。ビデオなどをできるだけ使う。 |
| (3)授業の体系 | ① アジアの中で日本が抱える問題 ② 朝鮮半島 ③ 中国 ④ ベトナム ⑤ カンボジア ⑥ ミャンマー ⑦ 東南アジア諸国連合 (ASEAN) ⑧ 日米同盟 などのできごと、問題を順に取り上げる。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の成績（理解の度合い）と平常点（関心の度合い）をあわせて評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使わない。 | | |
| (7)使用参考書 | | 参考図書は、講義の中で紹介する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|---|
| 国際社会と日本Ⅱ | | 山田 寛 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>いま世界で何がおきているか、世界的にどんな問題があるかを知ること。そして、21世紀の世界はどうなっていくのか、その中で日本、日本人はどのように生きて行くべきだろうか。それを考える。</p> <p>グローバル化時代の国際社会、国際政治、国際経済、国際文化、安全保障などさまざまな分野の問題を取り上げたい。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義。ビデオなどをできるだけ使う。 |
| (3)授業の体系 | <p>1) 戦争、テロ、飢餓、国連、難民、エイズ、貧困、民主主義、人権、環境、国際経済秩序、地域協力、開発援助、世界の子供の苦難、など取り上げたいテーマはたくさんある。</p> <p>2) できるだけ具体的に、新しい角度からわかりやすく取り上げていく。平成13年度、9月11日の同時多発テロ、田中真紀子問題と日本の外交などもすぐ取り上げたように、現実のできごとに即応して、学習を進めたい。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の成績と平常点をあわせて評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 春学期に「国際社会と日本Ⅰ」を履修しているほうが望ましいが、条件ではない。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-----------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使用しない。 | | |
| (7)使用参考書 | | 参考書は、授業のなかで、そのつど紹介する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|---|
| 社会認識の歩み I | | 久保 真 | |
| 春学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 我々が住まう近代社会は、それ以前の前近代社会とは根本的に異なるものと考えられてきました。そのような差異ゆえに、社会を如何に認識するかはここ数百年間繰り返し人類のテーマとされてきたのです。本講義では、過去の思想家が「近代社会」を如何に特徴づけてきたかを見てみることで、「近代社会」の「近代性」とはどのようなものかを考えていきたいと思います。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | 以下のテーマを扱う予定です。 <ul style="list-style-type: none"> ● 西洋と東洋との対照 ——福沢諭吉—— ● 私的利害と公共の利害との一致 ——アダム・スミス—— ● 資本と労働 ——カール・マルクス—— ● 平等と民主主義 ——アレクシス・ド・トクヴィル—— ● 大衆 ——オルテガ・イ・ガゼット—— |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験期間に行う筆答試験（持ち込み可）によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第 14 回授業 | |
| | |

授業計画 2

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 15 回授業 | |
| 第 16 回授業 | |
| 第 17 回授業 | |
| 第 18 回授業 | |
| 第 19 回授業 | |
| 第 20 回授業 | |
| 第 21 回授業 | |
| 第 22 回授業 | |
| 第 23 回授業 | |
| 第 24 回授業 | |
| 第 25 回授業 | |
| 第 26 回授業 | |
| 第 27 回授業 | |
| 第 28 回授業 | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 3

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 29 回授業 | |
| 第 30 回授業 | |
| 第 31 回授業 | |
| 第 32 回授業 | |
| 第 33 回授業 | |
| 第 34 回授業 | |
| 第 35 回授業 | |
| 第 36 回授業 | |
| 第 37 回授業 | |
| 第 38 回授業 | |
| 第 39 回授業 | |
| 第 40 回授業 | |
| 第 41 回授業 | |
| 第 42 回授業 | |

| | | | |
|----------|----------|------|---|
| 社会認識の歩みⅡ | | 久保 真 | |
| 秋学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 現在地球上のほとんどの人々は、利益社会 —市場社会とか商業社会とか資本主義社会とも呼ばれる— のなかで生活をしています。そこでは、人々は他人とお金を介して関係し、お金を巡って競争し、お金が全てという風潮が支配しています。そのために、人々はかつて経験できなかったような自由と富裕を満喫していますが、他方で、そのような自由や富裕を享受できない人間や、身勝手な人間などの存在が問題にされることもしばしばです。本講義では、過去の思想家が、このような利益社会の功罪をどのようにとらえてきたのかを示すことによって、受講生の経済社会認識の第一歩となることを目的としています。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | 以下のテーマを扱う予定です。 <ul style="list-style-type: none"> ● 発見の過程としての市場 —フリードリッヒ・ハイエク— ● 自由放任の終焉 —ジョン・ケインズ— ● グローバリゼーションとメガコンペティション |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験期間に行う筆答試験（持ち込み可）によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第 14 回授業 | |
| | |

授業計画 2

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 15 回授業 | |
| 第 16 回授業 | |
| 第 17 回授業 | |
| 第 18 回授業 | |
| 第 19 回授業 | |
| 第 20 回授業 | |
| 第 21 回授業 | |
| 第 22 回授業 | |
| 第 23 回授業 | |
| 第 24 回授業 | |
| 第 25 回授業 | |
| 第 26 回授業 | |
| 第 27 回授業 | |
| 第 28 回授業 | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 3

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 29 回授業 | |
| 第 30 回授業 | |
| 第 31 回授業 | |
| 第 32 回授業 | |
| 第 33 回授業 | |
| 第 34 回授業 | |
| 第 35 回授業 | |
| 第 36 回授業 | |
| 第 37 回授業 | |
| 第 38 回授業 | |
| 第 39 回授業 | |
| 第 40 回授業 | |
| 第 41 回授業 | |
| 第 42 回授業 | |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|-----|
| 文化に見る現代社会 I | | 有原 誠治 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>アニメーションやさまざまな文化に反映された現代社会のさまざまな断面を明らかにしつつ、現実社会を理解する手助けとする。加えて、文化の役割を明らかにし、文化と社会のあり方を考える。</p> <p>学期末には、学生自身が文化(作品)を題材に、そこに現れた現代社会を小論文によって明らかにすることを到達目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>テキスト(レジュメ)に添っての講義。</p> <p>映像鑑賞を多用して授業を進める。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「アニメーションと現代の日本の文化」 2. 「アニメなどの映像メディアの役割」 3. 「メディアとコマースリズム」 4. 「メディアと子どもの発達」 5. 「メディア・リテラシーの役割」 6. 「メディア・リテラシー、スポーツ、情報戦略、映像表現の実際」 7. 「平和の文化と日本社会」 8. 「教育と文化と人間」 9. 「人間と文化と自然環境」 10. 「核の時代と文化」 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題論文の提出で30点。内容や表現力で50点。</p> <p>出席や授業態度で20点。合計で100点。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 有原 誠治 | 映像文化と現代社会(各授業ともレジュメを用意) | なし | |
| (7)使用参考書 | 有原誠治 | 子どもたちに夢と平和を | 新日本出版社 | |
| | 菅谷明子 | メディア・リテラシー | 岩波書店 | |
| | 高木貞敬 | 子育ての脳生理学 | 朝日新聞社 | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| 文化に見る現代社会Ⅱ | | 有原 誠治 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>アニメーションやさまざまな芸術文化に反映された現代社会のさまざまな断面を明らかにしつつ、現実社会を理解する手助けとする。加えて、文化の役割を明らかにし、文化と社会のあり方を考える。</p> <p>学期末には、学生自身が文化(作品)を題材にそこに現れた現代社会を小論文によって明らかにすることを到達目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>テキスト(レジュメ)に添っての講義。</p> <p>映像鑑賞を多用して授業を進める。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 「アニメーションの影響と現代の日本の文化」 2. 「表現の自由のあり方と表現規制」 3. 「戦争の文化と平和の文化」 4. 「芸術と現代社会」 5. 「文化としての日本国憲法」 6. 「アニメーションに見る世界の文化」 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題論文の提出で30点。内容や表現力で50点。</p> <p>出席や授業態度で20点。合計で100点。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 有原 誠治 | 映像文化と現代社会(各授業ともレジュメを用意) | なし | |
| (7)使用参考書 | 有原誠治 | 子どもたちに夢と平和を | 新日本出版社 | |
| | 菅谷明子 | メディア・リテラシー | 岩波書店 | |
| | 高木貞敬 | 子育ての脳生理学 | 朝日新聞社 | |

| | | | |
|---------|------------|-------|------|
| 現代企業と社会 | | 天野 義也 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ① 大学生として、なぜこの科目を学ぶのか。 ② 日本の企業はどのように変化しているのか、変化していくのか。 ③ 「世界観」を持って社会をみるということは。 ④ 企業との帰属関係と人間の価値観の変化とは。 ⑤ 女性の企業進出と社会構造の変化とは。 ⑥ アメリカの企業と日本の企業とは、何が違うのか。 ⑦ 人間は「企業」を通じ、「社会」とどう接していくか。 ⑧ 「風格ある人間づくり」とは。 |
| (2)授業の方法 | 社会や企業の具体的動向（新聞・雑誌等の記事を参考）を例示しながら企業の経営理念や人間の行動について講義。 |
| (3)授業の体系 | <p>様々な社会現象を通じ、企業の在り方・人間としての生き方を考察する。具体的には</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 企業の在り方のみではなく、その中で働く人間の在り方にスポットをあてる。 ② 「企業とは何か」ということを通じ、人間らしい生き方を探る。 ③ 最終的には、「自分で考え」「物事の本質を見きわめ、自分の力で解決する力」を養成する。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>ある問題に対して、客観的な評価を下しつつ、自分の頭で考え、自分なりの解決策を見つけ出すことを主眼とする。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|----------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 日本経済新聞社 | 「会社のしくみ」 | 日経出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|------------|-------|------|
| 現代企業と人材 | | 天野 義也 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <ul style="list-style-type: none"> ① 大学生として、何故この科目を履修するか。 ② 企業への帰属意識と真の「自分本位」「自己の価値観」とは。 ③ 労働者の質的变化とは。 ④ 世界の中での日本の役割の変化と、それへの対応について。 ⑤ 日本企業の経営基盤の変化と、企業の求める人材とは。 ⑥ 日本企業の人材評価システムについて。 ⑦ 「風格」ある人物とは。 |
| (2)授業の方法 | 身近な社会現象の変化・IT社会への移行等が若者の生活体系にどんな影響を与えているのか。この中でどんな人間像を目指すかを講義。 |
| (3)授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> ① アメリカの企業と日本の違いを社会的背景をもとに説明。 ② 様々な人物像を議論し、社会に貢献する人間像を模索する。 ③ 企業の役割を理解すると同時に、人間として社会の中で納得できる人生をおくるにはどうしたらよいか。 ④ 最終的には「自分で考え」「物事の本質を見きわめ、自分で解決する力」を養成することを当授業の目的とする。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>ある問題に対して、客観的な評価を下しつつ、自分の頭で考え、自分なりの解決策を見つけ出せるか否かが評価の対象となる。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|----------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 日本経済新聞社 | 「会社のしくみ」 | 日経出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|-------|-----|
| 人間社会とテクノロジー I | | 生井 良一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>20世紀に科学技術は急激な発達をとげた。すなわち、エネルギー、機械、家庭電化製品、自動車や飛行機などの交通機関、医療技術、遺伝子技術、各種情報機器、それに巨大な都市化を支える技術などである。これらが普及したおかげで、我々の生活は快適で便利なものとなった。冷暖房が完備し、テレビもパソコンもある。障害者もパソコンのおかげで世界が広がった。その一方で、ややもすると人間が機械に使われてはいないだろうか。便利になったのに、生活が忙しくなってはいないだろうか。技術と人間の関係をこうした技術のプラス面とマイナス面から、それに技術が社会のあり方に及ぼした影響という観点から考える。</p> <p>生殖医療やクローン技術、その倫理的問題、あるいは脳死や臓器移植といったことに、より多くの時間をさきたいと考えている。また、福祉にかかわる技術や環境にかかわる技術についてもぜひ取り上げたい。なお、人類と火の使用といった技術の歴史にも言及したい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じプリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、各テーマごとにそのつど参考資料を紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|-------|-----|
| 人間社会とテクノロジーⅡ | | 生井 良一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>現代はエネルギー、交通、情報、医療などの分野で革新的とも言える技術が数多く進展しており、それはいろいろな意味でこれからの社会と生活を大きく変えていくと予想される。たとえば、情報化社会の進展によってさまざまなネットでの人の輪が広がる一方で、人間関係の希薄化が問題となってきた。また、物をつくるということを中心としたこれまでの技術は生活を豊かにする一方で、環境問題を引き起こした。生産、流通、消費を動脈とすれば、廃棄は静脈に相当する。これからは静脈技術、静脈産業にも注目して循環型社会を目指す必要があるのではないだろうか。このように技術そのものにはプラス面とマイナス面とがある。これらの観点からさまざまな技術と人間、そして社会との関係を考えたい。</p> <p>具体的には、まず情報化によって社会がどのように変わり、人間がどのように変化したかを考える。ついで、エネルギーや交通、機械など、その歴史も含めて、人間社会との関係を考えてみる。さらに、福祉技術や環境に関する技術についても紹介する。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じてプリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、各テーマごとにそのつど参考資料を紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 人間・社会・性 I | | 河村 重行 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>この科目の目標は人間の性をジェンダーの視点で捉えて、性の関係性を理解することにある。</p> <p>「性を学ぶとは」ではその理由を明らかにする。「男と女、なにがちがうか、なにがちがわないか I」では男性と女性の異同を、発生文化のプロセスから説明する。「人権と性と社会 I」ではジェンダーと労働の問題を扱う。女性差別撤廃条約と雇用機会均等法を検討し、そのもとでの女性の現状、職場や大学におけるセクシュアル・ハラスメントの実態と本質を考え、今も生活の深部に性差別が根を下ろしていることを明らかにする。そして性差別をなくすにはどうするかを考える。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義を中心に進めるが、視聴覚教材でそれを補う。学生との対話で進めることも考えている。必要に応じてプリントなどを配布する。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 性を学ぶ方向性を明らかにする。 2 自己の性の認識には脳の性分化が影響することを知る。 3 ジェンダーとは何かを学ぶ。 4 セクシュアル・アビュースの実態を知り、性差別をなくすにはどうするかを考える。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>レポート、感想文の提出で評価。授業の進捗状況によっては授業中に提出の場合もある。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>特にありません。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------------|-------------------|-------------|------|
| (6)使用教科書 | 村瀬 幸浩 | ニューセクソロジー・ノート | 十月舎(発売・星雲社) | 2002 |
| (7)使用参考書 | 伊藤公雄・樹村みのり・国信潤子 | 女性学・男性学—ジェンダー論入門— | 有斐閣 | 2002 |
| | 角田 由紀子 | 性差別と暴力 | 有斐閣 | 2001 |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| 人間・社会・性Ⅱ | | 河村 重行 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>この科目の目標はセクシュアリティの視点に立ち、性と生の学習教育によって科学と人権を柱とし、自立と共生の能力をつけるところにある。</p> <p>「男と女、なにがちがうか、なにがちがわないかⅡ」では性的欲求と性行動、性の多様性特にマイノリティの性を扱う。「生殖をめぐる科学と人間関係」では中絶、妊娠、出産、避妊をリプロダクティブ・ヘルス/ライツとして位置づけ両性との関係性の重要性を学ぶ。「人権と性と社会Ⅱ」は女性への暴力ー強姦や売買春をとりあげ、その実態と本質を解明する。「真の共生への展望と課題」では説得と妥協ではなく、理解と共感を土台に抑圧と攻撃のない共生のあり方を探る。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義を中心に進めるが、視聴覚教材でそれを補う。学生との対話で進めることもある。必要に応じて資料を配布する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 人間の性的欲求と性行動の違いを明らかにする。性の多様性の認識を深める。 2 科学的な性知識と人間関係を学び、人権感覚を身につける。 3 性暴力や性差別の本質を知る。 4 共生への展望と課題を考える。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポート、感想文の提出で評価。授業の進捗状況によっては授業中に提出の場合もある。</p> |
| (5)履修の条件 | 条件というほどではありませんがⅠを履修していれば望ましいと思います。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|---------------|-------------|------|
| (6)使用教科書 | 村瀬 幸浩 | ニューセクソロジー・ノート | 十月舎(発売・星雲社) | 2002 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 角田 由紀子 | 性差別と暴力 | 有斐閣 | 2001 |
| | 渡辺 和子(編著) | 女性・暴力・人権 | 学陽書房 | 1998 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|-----|
| 現代社会とファッション | | 谷口 正和 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <現代社会におけるファッションの意味と役割>への理解と興味を目的とする。目標は、ファッションを構成するジャンルに対して、自ら体験し、興味を自ら表現する事で体感的な学習をする。自分の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸に置くことを重視する。 |
| (2)授業の方法 | テーマ設定による講義。Q & Aをベースにした対話。自分で感想とアイデアをまとめる企画書実習。プロジェクター・VTR活用。 |
| (3)授業の体系 | ① 講義／情報学習／30分 ② 対話／参加型／20分 ③ 実習／企画書／20分 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ①対話発言の積極性 ②企画書採点／着眼／展開／表現 |
| (5)履修の条件 | ファッション・トレンド学習シート |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|--------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 谷口 正和 | 「ライフスタイル市場」 | 織研新聞社 | 1999 |
| | 谷口 正和 | 「ライフソリューション」 | 織研新聞社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | ファッション雑誌 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 現代社会とデザイン | | 谷口 正和 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p><現代社会におけるデザインの意味と役割>への理解と興味を目的とする。目標は、デザインを構成するジャンルに対して自ら体験し、興味を自ら表現する事で体感的な学習をする。自分の日常的出来事に繋がる情報学習を中軸に置くことを重視する。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>テーマ設定による講義。Q & Aをベースにした対話。自分で感想とアイデアをまとめる企画書実習。プロジェクター・V T R活用。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>① 講義／情報学習／30分</p> <p>② 対話／参加型／20分</p> <p>③ 実習／企画書／20分</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>①対話発言の積極性 ②企画書採点／着眼／展開／表現</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-----------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 谷口 正和 | プレゼンの成功法則 | 東洋経済新報社 | 2002 |
| | 谷口 正和 | ポリシーとスタイル | ビジネス社 | 1993 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| 社会と生涯スポーツ | | 坂口憲政 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。 |
| (2)授業の方法 | 春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、12月ごろ（予定）の海外スポーツ研修に参加する。 |
| (3)授業の体系 | <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール パラオにてダイビングライセンス取得を目的としたコース。</p> <p>② カナダ・スキーコース（ウイスラー） *カナダスケジュール レベル別にスキーのレッスンを受けながら、カナダスキーを楽しむ。（スノーボード可）</p> <p>③ ハワイ・スポーツコース *ハワイスケジュール ハワイにてゴルフを中心にスポーツを楽しむ。ゴルフはインストラクターの指導によるレッスンと18ホールをラウンドする。</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 春学期の授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | 秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| 社会と生涯スポーツ | | 平田 貴 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。 |
| (2)授業の方法 | 春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、12月ごろ（予定）の海外スポーツ研修に参加する。 |
| (3)授業の体系 | <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール パラオにてダイビングライセンス取得を目的としたコース。</p> <p>② カナダ・スキーコース（ウイスラー） *カナダスケジュール レベル別にスキーのレッスンを受けながら、カナダスキーを楽しむ。（スノーボード可）</p> <p>③ ハワイ・スポーツコース *ハワイスケジュール ハワイにてゴルフを中心にスポーツを楽しむ。ゴルフはインストラクターの指導によるレッスンと18ホールをラウンドする。</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 春学期の授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | 秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| 社会と生涯スポーツ | | 星ひろみ | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日々、高齢化がすすむ現代社会において、どのようにしたら充実したライフスタイルが築けるだろうか。そのことをスポーツという視点から考えてみると、「健康の維持・増進に励み、スポーツを楽しむ、ゆとりある生活」ということが大前提である。IT化が進む中、自然に目をむけながらスポーツを楽しむことや、恵まれた食生活という反面、健康を害する中高年世代にとって、適度な運動というものはとても重要なはずである。「社会と生涯スポーツ」の授業では、まず、恵まれた自然の中でからだを動かし、汗を流すことの快適さをしり、そして、スポーツを「文化」ととらえて学んでいきたい。 |
| (2)授業の方法 | 春学期は実技（各種スポーツ）と講義を行う。秋学期は学内での授業はなく、12月ごろ（予定）の海外スポーツ研修に参加する。 |
| (3)授業の体系 | <p>《コース紹介》</p> <p>① パラオ・ライセンス取得コース *パラオスケジュール パラオにてダイビングライセンス取得を目的としたコース。</p> <p>② カナダ・スキーコース（ウイスラー） *カナダスケジュール レベル別にスキーのレッスンを受けながら、カナダスキーを楽しむ。（スノーボード可）</p> <p>③ ハワイ・スポーツコース *ハワイスケジュール ハワイにてゴルフを中心にスポーツを楽しむ。ゴルフはインストラクターの指導によるレッスンと18ホールをラウンドする。</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 春学期の授業の参加と秋学期の海外スポーツ実習の参加・内容によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | 秋学期の海外スポーツ実習に参加するには、春学期の授業の履修が必須である。（履修希望者は必ず第1週目の授業に参加すること。） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| 現代企業とジェンダー | | 青山 悦子 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ジェンダー（社会的性差）の問題は、様々な分野で取り上げられているが、本講義では、企業が、労働の場において、ジェンダーの問題をいかに取り扱ってきたのか、あるいは、これからいかに取り扱おうとしているのかという点を学びながら、男女が共に平等に処遇される社会について、海外の例も参考にしつつ考察する。 |
| (2)授業の方法 | 教科書は特に指定しないが、参考文献は、その都度紹介する。資料も随時配布し、最新の統計、情報を使用しながら、履修者参加型の授業を出来るだけ作り上げていく予定。 |
| (3)授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> 1、 労働におけるジェンダー・アプローチ 2、 雇用の女性化とジェンダー構造 3、 ジェンダー・ニュートラル（性に偏らない）な社会の構築 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 原則として、春学期末の定期試験で評価するが、平常の授業への参加度も加味される。 |
| (5)履修の条件 | 広く男女の履修者を希望する。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|--------|-----|
| 現代社会と法 I | | 古川 史麻呂 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 今日、市民生活を営み、様々な社会の出来事や政治の問題を考える上で、法の仕組みや憲法の基本原理についての正しい知識や理解を欠くことは出来ない。授業では、いわゆる実用的（How to ー的）な法知識や法技術を学ぶことを直接の目的とするのではなく、実際に即して広く「法的なものの考え方」ができるように、まず基本的な法の知識を学び、法の理念を理解することを目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心としながら、ビデオ教材や各種資料を使用していく。 |
| (3)授業の体系 | 次の諸点を中心に授業を行う。 1. 法とは何か 2. 法の歴史 3. 法源と効力 4. 法の体系 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の小レポート、発表等により総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | 小六法 他 随時指示する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|--------|-----|
| 現代社会と法 II | | 古川 史麻呂 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 春学期の「現代社会と法 I」を基に、公法—特に日本国憲法を中心に講義を行う。憲法は政治とどのような関係にあるのか、あるいは日常の市民生活と具体的にどのようなかかわりを持っているのか。日本国憲法をはじめ、いわゆる近代的民主憲法にみられる諸原理や思想はどのように形成され確立されてきたのか、その社会的、歴史的、政治的背景にも目を向け、比較憲法的な視点も加えながら考察し、解説する。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心としながら、ビデオ教材や各種資料を使用していく。 |
| (3)授業の体系 | 次の諸点を中心に授業を行う。 1. 憲法とは何か 2. 日本国憲法の制定過程 3. 日本国憲法の基本原理 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の小レポート、発表等により総合的に評価する。 |
| (5)履修の条件 | 現代社会と法 I を履修しておくことが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | 小六法 他 随時指示する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|---|
| 経済学史 I | | 鷲見 研作 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>「経済学史」とは経済学の成立から発展の過程を考察する経済学の歴史を取り扱うものです。あるものの性格をよりはっきりとされるためには、そのものがどのような過程を経て生まれ、成長したか、ということの分析は不可欠です。</p> <p>経済学史は、単に過去の経済学を掘り起こしているだけではなく、より良く経済学の持つ性格を知ることにより、現在の経済学への有効な提言を可能にするために、あるいは、現代社会をどのように分析するかということの材料を提供するものとして、重要な役割を果たしています。</p> <p>こうした視点から、講義を進めていきます。</p> |
| (2)授業の方法 | 主に講義を中心としますが、受講者との対話を出来る限り重視するようにしたいと考えています。 |
| (3)授業の体系 | <p>講義でテーマとなるものは以下の3点である。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 重商主義 2. 重農主義 3. アダム・スミス <p>経済学史を考えるときには、その時代の時代背景を理解しておく必要がある。その時代とその時代に対応する経済理論との関係を理解できるように話を進めたいと思います。</p> <p>特にアダム・スミスに重点を置き、経済学的に思考する場合に重要なことが何であるかを確認します。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参加の程度とレポート試験により判断する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|---|
| 経済学史Ⅱ | | 鷲見 研作 | |
| 秋学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>経済学史Ⅰに引き続き、経済学の歴史を振り返る。経済学史Ⅱでは、経済学成立後のその発展の過程を追い、科学としての経済学の有効性、限界について考えます。こうした作業を通じて、経済学的に考えるということの意味、経済学の役割、などを理解し、現代における経済学の抱えている問題を浮き彫りにすることが目的です。経済学史を学習するときにはその時代背景が重要な意味を持つので、そうした知識を含めて学習をするようにします。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>主に講義を中心としますが、受講者との対話を出来る限り重視するようになりたいと考えています。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>次のような諸項目を取り扱います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. リカードウとマルサス 2. J.S.ミル 3. マルクス 4. ケインズ <p>いずれも現代の経済学に大きな影響を残している巨匠たちです。彼らが彼らの時代において、何を問題にし、どのような解決を提言したかを考えます。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参加の程度とレポート試験により判断する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-----|---|
| 戦後日本経済史 | | 劉暢 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | この授業は歴史的観点から、現代日本経済システムの特徴と問題点について、戦後復興・高度成長が多種多様な要因の相互作用、総合的な働きによる結果であることを説明する予定である。その中で、特に戦後日本経済の劇的変化がアメリカの対日政策と密接に関連するという視角から、以下のようにそれぞれの発展時期における特定の問題を取り上げ検討を行う。これらを通して、日本経済はどうあるべきかという問題を考えてみたい。 |
| (2)授業の方法 | 授業は通常の講義形式で行う。 「使用参考書」は特に購入する必要はない。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 受講の手引き 2. 戦後の経済発展 3. 現代日本経済の把握 4. 経済復興とアメリカの占領政策① 5. 経済復興とアメリカの占領政策② 6. 「特需」の役割 7. 強力な国家経済政策 8. 日米の経済協力関係 9. ベトナム戦争の効果 10. 「経済大国」化 11. 七十年代日本経済の激動 12. 八十年代日本経済の展開 13. まとめ① 14. まとめ② |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 筆記試験、受講態度などを総合して、成績を評価する。 |
| (5)履修の条件 | 来年度秋開講の「日中比較経済論」を受講したい場合は、この授業を履修することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 南亮進 | 日本の経済発展(第三版) | 東洋経済新報社 | 2002 |
| | 井村喜代子 | 現代日本経済論(新版) | 有斐閣 | 2000 |
| | 土志田征一(編) | 戦後日本経済の歩み | 有斐閣 | 2001 |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|------|---|
| 経済数学 I | | 山崎康之 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。 その基礎的知識の習得とそれが経済学とどのように関係しているかを理解することがその目的です。 経済数学 I では、その内、行列（高校の数学では、「数学 C」にあります。）と行列式などの線形代数を使って、連立方程式の一般的解法について学びます。</p> |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>行列と線形計算</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 行列 2. 連立方程式と行列 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果（50%）および毎週出題する宿題（50%）により評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | ありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|------------------|-----------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 野崎昭弘他 | 数学 C | 三省堂 | 1995 |
| | A・C・チャン | 現代経済学の数学的基礎(上・下) | マグロウヒル好学社 | 1979 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 経済数学Ⅱ | | 山崎康之 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>経済学の理論を学習する上で必要となる数学について講義します。 その基礎理論の習得とそれが経済学とどのように関係しているのかを理解することがその目的です。 経済数学Ⅱでは、その内、微分と積分などの解析（高校の数学では、「数学Ⅱ」と「数学Ⅲ」にあります。）について、その初歩的理論と経済学的応用について学びます。</p> |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | <p>この授業で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。</p> <p>関数の値の変化</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 微分係数と導関数。 2. 導関数の応用。 3. 積分。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果（50%）および毎週出題する宿題（50%）により評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | ありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|------------------|---------------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 野崎昭弘他 | 数学Ⅱ | 三省堂 | 1995 |
| | A・C・チャン | 現代経済学の数学的基礎（上・下） | マグロウヒル好 学社 | 1979 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| 統計学 I | | 木村 剛 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>統計学 I では統計のごく初歩的な学習を行います。統計学は与えられたデータを記述したり、整理したりして、データからある傾向を読み取るための手法です。</p> <p>現在、コンピュータが普及しインターネットを活用することによって、データは比較的集めやすいものになりました。しかし、そのデータから何を読み取り、そこからどのような傾向をつかみとればよいのかは難しい課題です。そして、その重要性は情報化社会といわれる中であってますます高まっています。</p> <p>統計学で学ぶ色々な手法は、こうした課題にひとつの答えを導き出してくれます。そのデータからどのようなことがいえるのか、そうした手法を一から学習していきます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>実際の企業の具体的なデータを使った分析なども取り入れたいと考えています。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>統計学 I では統計の初歩から平均、分散、相関までの意味と計算公式などについて学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 統計とは何か 2. 度数分布とは 3. グラフの意味 4. 代表値と散布度 5. 平均とは 6. 分散とは |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験、授業態度等を総合的に評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>特にありませんが、数学的な知識よりも、分析に興味がある学生の履修を望みます。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------------|-------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 郡山彬+和泉沢正隆 | 「統計・確率のしくみ」 | 日本実業出版社 | |
| (7)使用参考書 | 参考書については適宜紹介していきます。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|------|-----|
| 統計学 II | | 木村 剛 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>経営学 I で学んだ基礎的な知識をベースに、引き続き、経済分析や経営分析で使用する統計的手法の初歩的な解説を行います。授業の体系をみると難しそうに思えるかもしれませんが、こうした確率の知識は、天気予報でも活用されるなど、より私たちの身近なモノになりつつあります。</p> <p>確率はどのように使えるのか、また、これを使い学ぶことによって何がわかるのか、そうした理解を深めていきます。</p> |
| (2)授業の方法 | なるべく、生のデータ等を使い、実務的な分析を取り入れた解説を行います。 |
| (3)授業の体系 | <p>統計学 II では、確率変数、確率分布の基礎及び推測や検定の手法、回帰分析などについて解説します。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.相関係数とは 2.確率変数とは 3.確率分布とは～正規分布や二項分布 4.推測統計とは①～標本分布 5.推測統計とは②～区間推定と仮説検定 6.検定とは 7.回帰分析とは |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験、授業態度等を総合的に評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にありませんが、数学的な知識よりも、分析に興味がある学生の履修を望みます。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------------|-------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 郡山彬+和泉沢正隆 | 「統計・確率のしくみ」 | 日本実業出版社 | |
| (7)使用参考書 | 参考書については適宜紹介していきます。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|------|---|
| 経済政策 I | | 渡辺広明 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 本講座は専門共通基礎科目の一つにあげられています。ここでは、経済政策の基礎理論と経済政策の史的展開を学びます。すなわち、社会科学としての経済政策論の対象や方法、主体を明らかにするとともに、資本主義の歴史的展開とその時々を生じる経済問題やそれを解決するための経済政策を学びます。現実を生起する経済現象や経済問題を解決するための経済政策の基本的な方法や学説・理論を学びます。これが本講座の狙いです。 |
| (2)授業の方法 | この講座は講義方式の授業方法で行われます。ビデオやスライドなどの視聴覚機器を利用して授業を進めたいと考えております。 |
| (3)授業の体系 | 本講座は経営経済学部 名称にある経済学体系の一分野に属します。すなわち、通常、経済学の体系ではつぎのようなものになります。 1. 経済理論 2. 経済史論 3. 経済政策論 の3つの体系が掲げられています。その中で経済政策論に本講座は位置します。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 学期末に行われるテストの成績と宿題や授業中の課題達成度によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 「経済学入門」や「経済学史」の科目を受講していると本講座を理解するのに役立ちます。また、経済新聞を読む事を進めます。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 清水嘉治・松原昭 | 経済政策論を学ぶ(新版) | 有斐閣 | 1987 |
| | 田代・萩原・金澤 | 現代の経済政策(新版) | 有斐閣 | 2000 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 経済政策Ⅱ | | 渡辺広明 | |
| 秋学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本講座は専門共通科目の一つにあげられています。経済政策Ⅰの内容を前提にしつつも、特に日本の経済政策を取り上げ、現代日本の経済政策を多面的に学びます。すなわち、産業政策、金融政策、財政政策などの各論を取り上げます。また、日常的に生じている経済問題を学び、それによって経済新聞を理解する事も狙いとします。 |
| (2)授業の方法 | この講座は講義方式の授業方法で行われます。ビデオやスライドなどの視聴覚機器を利用して授業を進めたいと考えております。 |
| (3)授業の体系 | 本講座は経営経済学部 名称にある経済学体系の一分野に属します。すなわち、通常、経済学の体系ではつぎのようなものになります。 1. 経済理論 2. 経済史論 3. 経済政策論 の3つの体系が掲げられています。その中で経済政策論に本講座は位置します。経済政策Ⅰは経済政策の総論に位置し、経済政策Ⅱは、各論と言う事になります。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 学期末に行われるテストの成績と宿題や授業中の課題達成度によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 「経済政策Ⅰ」や「日本経済論」を受講すると、本講座を理解するのに役立ちます。また、経済新聞を読む事を進めます。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 清水嘉治・松原昭 | 経済政策論を学ぶ(新版) | 有斐閣 | 1987 |
| | 田代・萩原・金澤 | 現代の経済政策(新版) | 有斐閣 | 2000 |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-------|-----|
| 地球と環境 I | | 生井 良一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>地球そのものには元々すばらしいしくみはたらいっている。「生きている地球」と呼んでもいい。地球の環境は長い年月をかけて、生き物それ自身がつくり出してきた。それは、物質と生き物たちの微妙なバランスの上に成り立っている。この地球の環境があるからこそ、我々の生活も成り立っていると言える。</p> <p>ところが、近年の人間活動はそのバランスを崩して、かけがえのない地球の環境を破壊するようになってきた。このままでは、人間も含めた生き物の生存さえ脅かされることになる。環境が壊れては、経済活動も成り立たなくなる。</p> <p>たとえば、オゾン層の破壊、地球温暖化による海面上昇や異常気象、あるいは大気汚染や水汚染がそれである。これらの問題のうち、この「地球と環境 I」ではオゾン層、地球の水について、それからごみの問題を取りあげる。水汚染やごみ問題を考えてみると、環境問題というのは加害者も我々自身であり、被害者も我々自身であることが分かるだろう。</p> <p>授業では、物質循環や生態系など地球のしくみのすばらしさ、環境破壊の現状、破壊を防ぐための取り組みなどについて紹介したい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じプリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、各テーマごとにそのつど参考資料を紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-------|-----|
| 地球と環境 I | | 生井 良一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>地球そのものには元々すばらしいしくみはたらいっている。「生きている地球」と呼んでもいい。地球の環境は長い年月をかけて、生き物それ自身がつくり出してきた。それは、物質と生き物たちの微妙なバランスの上に成り立っている。この地球の環境があるからこそ、我々の生活も成り立っていると言える。</p> <p>ところが、近年の人間活動はそのバランスを崩して、かけがえのない地球の環境を破壊するようになってきた。このままでは、人間も含めた生き物の生存さえ脅かされることになる。環境が壊れては、経済活動も成り立たなくなる。</p> <p>たとえば、オゾン層の破壊、地球温暖化による海面上昇や異常気象、あるいは大気汚染や水汚染がそれである。これらの問題のうち、この「地球と環境 I」ではオゾン層、地球の水について、それからごみの問題を取りあげる。水汚染やごみ問題を考えてみると、環境問題というのは加害者も我々自身であり、被害者も我々自身であることが分かるだろう。</p> <p>授業では、物質循環や生態系など地球のしくみのすばらしさ、環境破壊の現状、破壊を防ぐための取り組みなどについて紹介したい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、必要に応じプリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、各テーマごとにそのつど参考資料を紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-----|
| 地球と環境Ⅱ | | 生井 良一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>地球の環境は長い年月をかけて生命それ自身がつくり出してきたものである。水と生命が大気を造り、土を造り、森林を育て、現在の地球環境を造ってきた。これらが互いに関連し、一体となって生命の星・地球をつくり出してきた。ところが、急速にそのトータルシステムが壊れようとしている。</p> <p>具体的には地球温暖化や酸性雨、あるいは熱帯林の消滅、土壌の侵食や砂漠化、生物種の絶滅などであり、背景には世界人口の爆発、それに伴う食糧問題、エネルギー需要の急増がある。</p> <p>授業ではこれらの問題を取りあげ、環境破壊の原因とその影響、今後の対策について考える。中でも、森林のはたらきや土のはたらきについてはしっかりと認識して欲しい。開発と環境の接点を求める世界の取り組みなども紹介していきたい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、プリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、参考資料は各テーマごとにそのつど紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-----|
| 地球と環境Ⅱ | | 生井 良一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>地球の環境は長い年月をかけて生命それ自身がつくり出してきたものである。水と生命が大気を造り、土を造り、森林を育て、現在の地球環境を造ってきた。これらが互いに関連し、一体となって生命の星・地球をつくり出してきた。ところが、急速にそのトータルシステムが壊れようとしている。</p> <p>具体的には地球温暖化や酸性雨、あるいは熱帯林の消滅、土壌の侵食や砂漠化、生物種の絶滅などであり、背景には世界人口の爆発、それに伴う食糧問題、エネルギー需要の急増がある。</p> <p>授業ではこれらの問題を取りあげ、環境破壊の原因とその影響、今後の対策について考える。中でも、森林のはたらきや土のはたらきについてはしっかりと認識して欲しい。開発と環境の接点を求める世界の取り組みなども紹介していきたい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、プリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、参考資料は各テーマごとにそのつど紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|---|
| 経済データの読み方 | | 久保 真 | |
| 秋学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>自らの主張をヨリ説得力のあるものにする最良の方法の一つは、数字を示すことです。逆に、当たり前のことだと考えている事柄でも、数字の裏付けが全くないようなものもあります。また、このような数字は、元データをいかに加工するかによって、まったく異なった結果が得られることも少なくありません。本講義は、経済データを題材に取りながら、そのような数字のマジックやトリックを見破ったり活用したりするために必要な術を身につけることを目的として、行われます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義と実習とを組み合わせで行います。実習は、表計算ソフト（MS Excel）を用いて、データ分析を行ってまいります（下記参照）。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>具体的には、以下の三つの事柄を行えるようになることが目的です。</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 新聞記事やテレビのニュースのもとになっている元データにアクセスする ● 表計算ソフトを、表作成ソフトとしてではなく、データ分析ソフトとして使う ● ある主張を、データによって、実証または反証する <p>なお、授業にはパソコンをかならず持参して下さい。また、以下の授業情報ページを随時更新してまいりますので、チェックしておいて下さい。 http://campus.kaetsu.ac.jp/staff/kubo/lectures/econ_data/syllabus.asp</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業週に提出される課題や小テスト（50%）と定期試験期間に提出されるレポート（50%）にもとづいて総合的に評価を下します。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>履修人数に制限がありますので、履修を希望するものはかならず初回の授業に参加してください。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|--------|----------|-------|---|
| 時事経済 I | | 下河邊元春 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>実体経済の動きに関心を持つことは、経済を学ぶものにとって不可欠な条件である。本講義では、日々の生活の中で新聞の経済欄を読む習慣を養いながら、時の経済問題を知り、それを自分自身の身近な問題として理解する能力を習得することを目指す。当然のことながら、講義のテーマは新聞、テレビが伝える最新のニュースから選択されるので、受講生諸君には全国紙の中から1紙（できれば日本経済新聞）を選び、継続的に購読してもらうとともに、主要経済記事の切り抜きが義務づけられる。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>授業では、講義のテーマを最新の経済ニュースに求め、検証・考察することを通じて実体経済の動きを見通す目を養うことを目指すが、原則として、講義で取り上げるテーマを事前に示し、予備知識をもって授業に臨んでもらう。ノートパソコンを活用した授業も予定している。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>時事経済 I では、国内経済の現状と問題点を正しく認識してもらうために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 景気情勢 2) 財政事情 3) 金融情勢 4) 雇用情勢 5) 産業の現状 <p>を考察の対象とする。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果に、レポートなど課題での平常点と受講態度を加味して評価点を決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|------------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本経済新聞社(編) | Q&A 日本経済100の常識 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 日本経済新聞社(編) | 経済新語辞典 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 岩田規久男 | 日経を読むための経済学の基礎知識 | 日本経済新聞社 | 1999 |
| | | | | |

| | | | |
|--------|----------|-------|---|
| 時事経済 I | | 下河邊元春 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>実体経済の動きに関心を持つことは、経済を学ぶものにとって不可欠な条件である。本講義では、日々の生活の中で新聞の経済欄を読む習慣を養いながら、時の経済問題を知り、それを自分自身の身近な問題として理解する能力を習得することを目指す。当然のことながら、講義のテーマは新聞、テレビが伝える最新のニュースから選択されるので、受講生諸君には全国紙の中から1紙（できれば日本経済新聞）を選び、継続的に購読してもらうとともに、主要経済記事の切り抜きが義務づけられる。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>授業では、講義のテーマを最新の経済ニュースに求め、検証・考察することを通じて実体経済の動きを見通す目を養うことを目指すが、原則として、講義で取り上げるテーマを事前に示し、予備知識をもって授業に臨んでもらう。ノートパソコンを活用した授業も予定している。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>時事経済 I では、国内経済の現状と問題点を正しく認識してもらうために</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 景気情勢 2) 財政事情 3) 金融情勢 4) 雇用情勢 5) 産業の現状 <p>を考察の対象とする。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果に、レポートなど課題での平常点と受講態度を加味して評価点を決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|------------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本経済新聞社(編) | Q&A 日本経済100の常識 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 日本経済新聞社(編) | 経済新語辞典 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 岩田規久男 | 日経を読むための経済学の基礎知識 | 日本経済新聞社 | 1999 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|-------|---|
| 時事経済Ⅱ | | 下河邊元春 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日々の生活の中で新聞の経済欄を読む習慣をさらに確実なものとし、その時々々の経済問題を自分自身の身近な問題として理解し、考察する能力の向上を目指す。講義のテーマは、時事経済Ⅰと同様、最新の経済ニュースから選ぶ。日常的に新聞の経済欄を読むことと、主要記事の切り抜きが引き続き義務づけられる。 |
| (2)授業の方法 | 原則として講義のテーマを事前に示し、予備知識を持った上で授業に臨んでもらい、随時、配布するプリントの縮訳・要約やレポート提出を課し、受講生の習熟度を高めていく。ノートパソコンを活用した授業も予定している。 |
| (3)授業の体系 | 時事経済Ⅱでは、グローバルに見た日本経済の現状と問題点を把握してもらうことを主眼に 1) 経済のグローバル化 2) 経済ブロックと日本 3) 国際経済機関と日本 4) 経済協力 5) 平成15年度予算案と税制改正案を考察の対象とする。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の結果に、レポートなど提出物の評価による平常点と受講態度を加味して評価点を決定する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本経済新聞社(編) | 日本経済100の常識 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 日本経済新聞社(編) | 経済新語辞典 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 日本経済新聞社(編) | ゼミナール国際経済入門 | 日本経済新聞社 | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|-------|---|
| 時事経済Ⅱ | | 下河邊元春 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日々の生活の中で新聞の経済欄を読む習慣をさらに確実なものとし、その時々々の経済問題を自分自身の身近な問題として理解し、考察する能力の向上を目指す。講義のテーマは、時事経済Ⅰと同様、最新の経済ニュースから選ぶ。日常的に新聞の経済欄を読むことと、主要記事の切り抜きが引き続き義務づけられる。 |
| (2)授業の方法 | 原則として講義のテーマを事前に示し、予備知識を持った上で授業に臨んでもらい、随時、配布するプリントの縮訳・要約やレポート提出を課し、受講生の習熟度を高めていく。ノートパソコンを活用した授業も予定している。 |
| (3)授業の体系 | 時事経済Ⅱでは、グローバルに見た日本経済の現状と問題点を把握してもらうことを主眼に 1) 経済のグローバル化 2) 経済ブロックと日本 3) 国際経済機関と日本 4) 経済協力 5) 平成15年度予算案と税制改正案を考察の対象とする。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の結果に、レポートなど提出物の評価による平常点と受講態度を加味して評価点を決定する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本経済新聞社(編) | 日本経済100の常識 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 日本経済新聞社(編) | 経済新語辞典 | 日本経済新聞社 | 2001 |
| | 日本経済新聞社(編) | ゼミナール国際経済入門 | 日本経済新聞社 | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|----------|------|---|
| 時事・社会用語の基礎知識 | | 森本 孝 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>新聞やテレビニュースなどで用いられる時事的な用語(キーワード)は、現代社会を知る恰好の手がかりとなる。というも、それらの用語は、さまざまな社会制度の特徴や歪み、さまざまな社会階層の利害の対立などに起因する、現代の政治・経済・社会問題を反映しているからである。</p> <p>以上の観点から、本講義では、基本的な時事・社会用語の意味を理解し、さらにその背後にあるさまざまな時事的論点を学ぶことにより、現代社会を考える上で基礎となる国際・経済・政治・科学・社会的知識を習得することを目的とする。</p> |
| (2)授業の方法 | 問題演習を含む講義形式により実施する。 |
| (3)授業の体系 | <p>以下の8つのジャンルの基礎的な用語について、その意味と背後にある論点について解説する。</p> <ol style="list-style-type: none"> ① 国際情勢に関する用語 ② 世界経済に関する用語 ③ 政治・地方自治に関する用語 ④ 国内経済に関する用語 ⑤ 情報通信に関する用語 ⑥ 科学に関する用語 ⑦ 環境に関する用語 ⑧ 社会・生活・文化に関する用語 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>評価点は、学期末の試験期間中に実施する筆記試験の点数により決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 特に教科書は用いない。必要な資料は、随時配布する。 | | | |
| (7)使用参考書 | 参考となる書籍や Web ページは、「学ナビ」の授業情報ページに随時掲示する。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|---------|--------|-----|
| 新聞で読む時事問題 | | 亀卦川 芽以 | |
| 春学期 | 80×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 世界の経済は日々刻々と変化をしています。この講義では新聞を題材としていくつかのトピックスを取り上げ、その問題をめぐる立場によつての現状や解決策を学ぶことで「自分なりの意見を持つこと」を目標とします。 |
| (2)授業の方法 | 授業は講義形式で行ないます。教科書とプリントを使って説明しますので、A4サイズのファイルを用意して下さい。 |
| (3)授業の体系 | 1. 新聞の構成 2. 日本経済の現状 3. 世界経済の現状 2と3の内容に関しては、その時のトピックスにあったものを取り上げる予定です。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 評価については、学期末のレポート（90点）と課題（10点）で評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にはありませんが、日本経済新聞に毎日目をとおすようにして下さい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 日本経済新聞社編 | 日経 経済記事の読み方 | 日本経済新聞社 | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本経済新聞社編 | ゼミナール日本経済入門 | 日本経済新聞社 | |
| | 日本経済新聞社編 | Q&A 日本経済100の常識 | 日本経済新聞社 | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 会計リテラシー | | 井上行忠 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫・前川邦生共著 | 例解演習 基本簿記 | 創成社 | |
| | | 日商簿記検定3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 会計リテラシー | | 井上行忠 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫・前川邦生共著 | 例解演習 基本簿記 | 創成社 | |
| | | 日商簿記検定3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 会計リテラシー | | 井上行忠 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫・前川邦生共著 | 例解演習 基本簿記 | 創成社 | |
| | | 日商簿記検定3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|----------|-------|---|
| 会計リテラシ | | 山本 孝夫 | |
| 通年 | 80分×週2コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この科目は、企業の経営活動を利害関係者（株主・債権者・従業員・税務当局・仕入先・得意先・消費者など）に報告するために、統一した言語として利用される複式簿記について解説する。特に、商業簿記を中心に取り上げ、日本商工会議所の3級検定試験に合格するための基礎知識に重点をおく。 |
| (2)授業の方法 | 簿記の修得方法は、授業内容の復習がポイントとなるので、出来るだけ前回の内容を反復しながら、演習形式で理解を深めたい。 |
| (3)授業の体系 | <p>会計リテラシの修得は、経営・経済の基礎知識として重要な基本科目と考えられるので、理論的側面と実務的側面とを両立させながら実社会に即した授業を進めてゆきたい。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の社会的意義 2. 複式簿記の原理 3. 取引と仕訳 4. 試算表・精算表の作成 5. 決算手続きと会計報告 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>日本商工会議所の3級検定試験合格を単位認定の条件とする。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|--------------|------|-------|
| (6)使用教科書 | 前川邦生・山本孝夫編著 | 例解演習基本簿記 | 創成社 | 2002年 |
| | | 日商簿記検定試験演習3級 | 実業出版 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|-------|------|
| 会計リテラシ | | 前川 道生 | |
| 通年 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。 |
| (3)授業の体系 | <p>（簿記3級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の概要 意義, 目的, 貸借対照表と損益計算書の関係, 取引の要素など 2. 諸取引の処理 現金・預金, 商品売買, 手形, 有価証券, 固定資産, その他の債権・債務など 3. 試算表の作成 4. 決算 5. 精算表の作成 6. 財務諸表の作成 7. 補助簿, 帳簿の締切り |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>日商簿記検定3級合格者のみ単位が取得できる。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫, 前川邦生編著 | 例解演習 基本簿記 (第2版) | 創成社 | 2002 |
| | 税務経理協会編 | 日商簿記検定 3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | 最新 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|-------|------|
| 会計リテラシ | | 前川 道生 | |
| 通年 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。 |
| (3)授業の体系 | <p>（簿記3級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の概要 意義, 目的, 貸借対照表と損益計算書の関係, 取引の要素など 2. 諸取引の処理 現金・預金, 商品売買, 手形, 有価証券, 固定資産, その他の債権・債務など 3. 試算表の作成 4. 決算 5. 精算表の作成 6. 財務諸表の作成 7. 補助簿, 帳簿の締切り |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>日商簿記検定3級合格者のみ単位が取得できる。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫, 前川邦生編著 | 例解演習 基本簿記 (第2版) | 創成社 | 2002 |
| | 税務経理協会編 | 日商簿記検定 3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | 最新 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 会計学総論 | | 山本孝夫 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | われわれの生活において、組織体と会計とは深いかかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容とその関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、会計の基本的項目について、随時小テストを行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書の具体的な例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および課題レポートを総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので、日商簿記3級検定試験と併せて学習することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|---------|-------|-------|
| (6)使用教科書 | 坂本眞一郎著 | 現代会計学特論 | 創成社出版 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 会計学総論 | | 山本孝夫 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | われわれの生活において、組織体と会計とは深いかかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容とその関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、会計の基本的項目について、随時小テストを行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書の具体的な例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および課題レポートを総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので、日商簿記3級検定試験と併せて学習することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|---------|-------|-------|
| (6)使用教科書 | 坂本眞一郎著 | 現代会計学特論 | 創成社出版 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 会計学総論 | | 山本孝夫 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | われわれの生活において、組織体と会計とは深いかかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容とその関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、会計の基本的項目について、随時小テストを行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書の具体的な例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および課題レポートを総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので、日商簿記3級検定試験と併せて学習することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|---------|-------|-------|
| (6)使用教科書 | 坂本眞一郎著 | 現代会計学特論 | 創成社出版 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 会計学総論 | | 山本孝夫 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | われわれの生活において、組織体と会計とは深いかかわりがあり、会計の全体像を把握することは、社会全体を理解する上で有効である。本講義では、会計諸科目の学習を新たに始めようとする学生に対して、会計学の体系的理解を可能にするため、会計諸科目の内容とその関連性について解説する。特に企業会計を取り上げ、経営・経済活動の中で会計の果たす役割について概説する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、会計の基本的項目について、随時小テストを行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>企業会計の枠組みを理解するため、会計報告書の具体的な例示を取り上げ、会計諸科目との関連性を学習する。授業計画は、以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計と社会 2. 会計とディスクロージャー 3. 企業会計の主要領域 4. 損益計算書の本質と表示形態 5. 貸借対照表の本質と表示形態 6. 法会計と会計監査 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および課題レポートを総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 会計学総論の理解を深めるためには、簿記の知識が必要なので、日商簿記3級検定試験と併せて学習することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|---------|-------|-------|
| (6)使用教科書 | 坂本眞一郎著 | 現代会計学特論 | 創成社出版 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|-----------|------|-----|
| 企業論 | | 古賀義弘 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>資本主義の成立・展開は企業の歴史過程でもある。今日、経済のグローバル化は企業の世界的展開の時代ともいえる。したがって企業の現状を分析することは、今日の経済社会を理解する上できわめて重要なことのひとつである。</p> <p>本講義では第一に、世界における企業の成立や特徴について、その歴史的観点から明らかにする。第二に、日本の企業の生成から今日にいたる過程からその特質を明らかにする。第三に企業が直面している今日的課題とその背景について現状と理論面から講義を進め、また第四として内外の代表的な企業家の事跡にも触れる予定である。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義を中心として、時宜に応じてレポートの提出を求める。 |
| (3)授業の体系 | <p>年間を通じて下記の点に重点をおいて進めていく。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業が直面している現代的課題について。 2. 企業の成立とその特徴。特にイギリス、アメリカの企業の特徴うについて 3. 日本企業の成立・展開とその特質について。 4. 企業の現状とその理論的分析。 5. 日本・世界の企業家の事跡について。 <p>講義の進捗状況に合わせて時間配分をして進めていく。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>春学期テスト、レポート（2回程度）を3割、秋学期の総括テストとして4割とすることを基本にする。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 講義時に指示する | | |
| (7)使用参考書 | | 講義時に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|-----------|-------|---|
| 企業論 | | 平井 東幸 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経済活動の主体は、家計と企業と政府（それに最近ではNPO）です。その中心をなす企業(会社)とは、どういうものか、その仕組、役割や使命について基礎的な説明をします。企業について理解を深めておくことは、経済や産業、経営を理解するにも、就職するうえでも、将来ビジネスをするためにも不可欠です。企業論は本学部の科目履修に際して基本的なものであり、必修です。著名な大企業ばかりでなく、中小企業にも焦点を当てながら、メーカーはもとより、小売業、外食産業など多くの業種について具体的な諸問題,当面する課題を広く取り上げて講義をします。また、皆さんからの質問にも適宜答えます。 |
| (2)授業の方法 | 随時、経済・産業・企業に関する時事問題（トピック）を取り上げ、ビデオの上映，OHPの使用により視聴覚にも訴える講義をします。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社とは、企業とは 2. 企業経営学とは 3. 企業の種類と仕組 4. 企業と流通 5. 企業と生産 6. 企業の経営財務 7. 企業と従業員 8. 日本的経営とは 9. ITと企業活動 10. 中小企業の役割 11. 優れた企業とは 12. これからの企業像 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 課題、平常点（受講態度等）定期試験の成績で評価します。 |
| (5)履修の条件 | とくにありません |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------------------|--------|-------|
| (6)使用教科書 | 阪野・平井ほか | 『企業経営学の基礎』 | 税務経理協会 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | 奥村 | 『会社とはなにか』(岩波ジュニア新書) | 岩波書店 | 2001年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|-----------|-------|---|
| 企業論 | | 平井 東幸 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経済活動の主体は、家計と企業と政府（それに最近ではNPO）です。その中心をなす企業(会社)とは、どういうものか、その仕組、役割や使命について基礎的な説明をします。企業について理解を深めておくことは、経済や産業、経営を理解するにも、就職するうえでも、将来ビジネスをするためにも不可欠です。企業論は本学部の科目履修に際して基本的なものであり、必修です。著名な大企業ばかりでなく、中小企業にも焦点を当てながら、メーカーはもとより、小売業、外食産業など多くの業種について具体的な諸問題,当面する課題を広く取り上げて講義をします。また、皆さんからの質問にも適宜答えます。 |
| (2)授業の方法 | 随時、経済・産業・企業に関する時事問題（トピック）を取り上げ、ビデオの上映，OHPの使用により視聴覚にも訴える講義をします。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社とは、企業とは 2. 企業経営学とは 3. 企業の種類と仕組 4. 企業と流通 5. 企業と生産 6. 企業の経営財務 7. 企業と従業員 8. 日本的経営とは 9. ITと企業活動 10. 中小企業の役割 11. 優れた企業とは 12. これからの企業像 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 課題、平常点（受講態度等）定期試験の成績で評価します。 |
| (5)履修の条件 | とくにありません |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------------------|--------|-------|
| (6)使用教科書 | 阪野・平井ほか | 『企業経営学の基礎』 | 税務経理協会 | 2002年 |
| (7)使用参考書 | 奥村 | 『会社とはなにか』(岩波ジュニア新書) | 岩波書店 | 2001年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 日本経済論 | | 渡辺広明 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本講座は専門共通科目の一つで、必修科目です。20世紀末から21世紀を向えた現在、日本経済は平成不況の中で、展開してきています。新政権が誕生し、「構造改革」を実施しつつ、景気の刺激策も模索されているようです。本科目は現段階の日本経済の特徴や構造を解明しつつ、システムの限界を解決する糸口を考えていきたい。そのためには、最初に歴史的視点からのアプローチを実施します。すなわち、第2次世界大戦後の日本経済の展開過程、戦後の復興、高度成長、二つのショック、構造調整期、プラザ合意、バブル経済、平成不況の経済過程を学びます。その後、1980年代の以降を強調して講義を行います。日本経済の構造を解明する上で金融からのアプローチが大切であると考えています。特に、金融に関する「経済事件」・問題について理解を深め、「経済事件」を分析する中で日本経済の限界や問題点を明かにしたい。その講義の中で、基本的な経済用語や数値の意味を学び、新聞の経済欄の理解を深めることも目的にしたいと考えています。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式です。ビデオなどの視聴覚機器を利用したい。 |
| (3)授業の体系 | <p>本講座は経営経済学部 名称にある経済学体系の一分野に属します。すなわち、通常、経済学の体系ではつぎのようなものになります。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 経済理論 2. 経済史 3. 経済政策・経済事情 <p>の3つの体系が掲げられています。その中で経済事情に本科目は位置します。特に日本の経済事情を対象にします。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>学期末に行われるテストの成績と宿題や授業中の課題達成度によって評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | 経済新聞を毎日、読み、日本の経済状況の理解を深めてください。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 矢部・古賀・渡辺・飯島 | 現代日本経済史年表 | 日本経済評論社 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 日本経済論 | | 渡辺広明 | |
| 通年 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 本講座は専門共通科目の一つで、必修科目です。20世紀末から21世紀を向えた現在、日本経済は平成不況の中で、展開してきています。新政権が誕生し、「構造改革」を実施しつつ、景気の刺激策も模索されているようです。本科目は現段階の日本経済の特徴や構造を解明しつつ、システムの限界を解決する糸口を考えていきたい。そのためには、最初に歴史的視点からのアプローチを実施します。すなわち、第2次世界大戦後の日本経済の展開過程、戦後の復興、高度成長、二つのショック、構造調整期、プラザ合意、バブル経済、平成不況の経済過程を学びます。その後、1980年代の以降を強調して講義を行います。日本経済の構造を解明する上で金融からのアプローチが大切であると考えています。特に、金融に関する「経済事件」・問題について理解を深め、「経済事件」を分析する中で日本経済の限界や問題点を明かにしたい。その講義の中で、基本的な経済用語や数値の意味を学び、新聞の経済欄の理解を深めることも目的にしたいと考えています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式です。ビデオなどの視聴覚機器を利用したい。 |
| (3)授業の体系 | 本講座は経営経済学部 名称にある経済学体系の一分野に属します。すなわち、通常、経済学の体系ではつぎのようなものになります。 1. 経済理論 2. 経済史 3. 経済政策・経済事情 の3つの体系が掲げられています。その中で経済事情に本科目は位置します。特に日本の経済事情を対象にします。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 学期末に行われるテストの成績と宿題や授業中の課題達成度によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 経済新聞を毎日、読み、日本の経済状況の理解を深めてください。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 矢部・古賀・渡辺・飯島 | 現代日本経済史年表 | 日本経済評論社 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|---|
| 経済学入門(再履修) | | 久保 真 | |
| 秋学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によって行います。なお、ウェブにて授業情報を発信しますので、これによって予習・復習を行ってください（下記参照）。 |
| (3)授業の体系 | 授業内容の詳細は下記の授業情報ページを参照してください。9月20日までは、秋学期向けに更新しておきます。 http://campus.kaetsu.ac.jp/staff/kubo/lectures/intro_econ/syllabus.asp |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験期間に行う筆答試験（持ち込み可）にもとづいて評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 経済学入門 | | 久保 真 | |
| 春学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によって行います。特に教科書は使いませんので、講義内容の理解に全身全霊を注いでください。 |
| (3)授業の体系 | 前半は、基礎的かつ原理的なテーマについて話をします。具体的には、(1)経済とは何か (2)分業 (3)資本 (4)株式会社 (5)市場 (6)貨幣 (7)政府の役割 (8)国際経済について話をします。 後半は、前半部分の応用として、(9)財政赤字 (10)少子化・高齢化 (11)日本型雇用慣行の崩壊 (12)規制緩和 (13)情報技術革命 といった最近よく耳にするトピックについて話をします。(ただし、広範に扱うテーマは適宜変更することがありますのでご了承下さい) |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験期間に行う筆答試験（持ち込み可）によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第 14 回授業 | |
| | |

授業計画 2

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 15 回授業 | |
| 第 16 回授業 | |
| 第 17 回授業 | |
| 第 18 回授業 | |
| 第 19 回授業 | |
| 第 20 回授業 | |
| 第 21 回授業 | |
| 第 22 回授業 | |
| 第 23 回授業 | |
| 第 24 回授業 | |
| 第 25 回授業 | |
| 第 26 回授業 | |
| 第 27 回授業 | |
| 第 28 回授業 | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 3

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 29 回授業 | |
| 第 30 回授業 | |
| 第 31 回授業 | |
| 第 32 回授業 | |
| 第 33 回授業 | |
| 第 34 回授業 | |
| 第 35 回授業 | |
| 第 36 回授業 | |
| 第 37 回授業 | |
| 第 38 回授業 | |
| 第 39 回授業 | |
| 第 40 回授業 | |
| 第 41 回授業 | |
| 第 42 回授業 | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 経済学入門 | | 久保 真 | |
| 春学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によって行います。特に教科書は使いませんので、講義内容の理解に全身全霊を注いでください。 |
| (3)授業の体系 | 前半は、基礎的かつ原理的なテーマについて話をします。具体的には、(1)経済とは何か (2)分業 (3)資本 (4)株式会社 (5)市場 (6)貨幣 (7)政府の役割 (8)国際経済について話をします。 後半は、前半部分の応用として、(9)財政赤字 (10)少子化・高齢化 (11)日本型雇用慣行の崩壊 (12)規制緩和 (13)情報技術革命 といった最近よく耳にするトピックについて話をします。(ただし、広範に扱うテーマは適宜変更することがありますのでご了承下さい) |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験期間に行う筆答試験（持ち込み可）によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第 14 回授業 | |
| | |

授業計画 2

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 15 回授業 | |
| 第 16 回授業 | |
| 第 17 回授業 | |
| 第 18 回授業 | |
| 第 19 回授業 | |
| 第 20 回授業 | |
| 第 21 回授業 | |
| 第 22 回授業 | |
| 第 23 回授業 | |
| 第 24 回授業 | |
| 第 25 回授業 | |
| 第 26 回授業 | |
| 第 27 回授業 | |
| 第 28 回授業 | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 3

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 29 回授業 | |
| 第 30 回授業 | |
| 第 31 回授業 | |
| 第 32 回授業 | |
| 第 33 回授業 | |
| 第 34 回授業 | |
| 第 35 回授業 | |
| 第 36 回授業 | |
| 第 37 回授業 | |
| 第 38 回授業 | |
| 第 39 回授業 | |
| 第 40 回授業 | |
| 第 41 回授業 | |
| 第 42 回授業 | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 経済学入門 | | 久保 真 | |
| 春学期 | 80分×週一コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 我々現代人は日々買い物などの経済活動をしているにも拘わらず、いやそれだからこそというべきでしょうか、経済の仕組みや成り立ちには無関心な人が少なくありません。しかし他方で、いわゆる「自己責任」の時代の到来とともに、経済に関する知識や理解は普通の人々にもますます求められるようになって来ています。このような現実を鑑み、本講義は、経済学の初学者そして必ずしも経済学を専攻しない学生が、経済というものに興味を持つよう促すことを目的とします。このような目的を果たすために、できるだけ身近なトピックも取り上げるようにしますので、受講生諸君は、新聞やテレビなどで報じられる経済関連ニュースに、日頃から接するように心がけてください。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によって行います。特に教科書は使いませんので、講義内容の理解に全身全霊を注いでください。 |
| (3)授業の体系 | 前半は、基礎的かつ原理的なテーマについて話をします。具体的には、(1)経済とは何か (2)分業 (3)資本 (4)株式会社 (5)市場 (6)貨幣 (7)政府の役割 (8)国際経済について話をします。 後半は、前半部分の応用として、(9)財政赤字 (10)少子化・高齢化 (11)日本型雇用慣行の崩壊 (12)規制緩和 (13)情報技術革命 といった最近よく耳にするトピックについて話をします。(ただし、広範に扱うテーマは適宜変更することがありますのでご了承下さい) |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験期間に行う筆答試験（持ち込み可）によって評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第 14 回授業 | |
| | |

授業計画 2

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 15 回授業 | |
| 第 16 回授業 | |
| 第 17 回授業 | |
| 第 18 回授業 | |
| 第 19 回授業 | |
| 第 20 回授業 | |
| 第 21 回授業 | |
| 第 22 回授業 | |
| 第 23 回授業 | |
| 第 24 回授業 | |
| 第 25 回授業 | |
| 第 26 回授業 | |
| 第 27 回授業 | |
| 第 28 回授業 | |

| | |
|--|--|
| | |
|--|--|

授業計画 3

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 29 回授業 | |
| 第 30 回授業 | |
| 第 31 回授業 | |
| 第 32 回授業 | |
| 第 33 回授業 | |
| 第 34 回授業 | |
| 第 35 回授業 | |
| 第 36 回授業 | |
| 第 37 回授業 | |
| 第 38 回授業 | |
| 第 39 回授業 | |
| 第 40 回授業 | |
| 第 41 回授業 | |
| 第 42 回授業 | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|---|
| 経済学入門 | | 鷲見 研作 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>本格的に経済学についての勉学を始めるための導入の科目です。身の回りにある身近な問題から、経済学的に思考するということはどういうことなのかを学習します。題材は日常生活の中にたくさんあります。</p> <p>ただ、一口に経済学といっても、実は多くの専門分野に分かれています。それらのすべてを本格的に勉強することは困難です。将来どのようなことに勉学の中心をおきたいか、ということ自分で考えることが出来るよう、さまざまな諸問題を解説しながら、経済学の各分野への誘いが出来るようにしたいと思います。</p> |
| (2)授業の方法 | 原則として講義です。講義では出来るだけパソコンを利用して学習するようにしますので、毎回ノートパソコンを持参してください。 |
| (3)授業の体系 | <p>次のような身近なテーマをもとに経済学的思考を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)税金を考える (2)お金を考える (3)金融と財政 (4)ものを作るとは。 (5)作ったものを使うということ (6)老後を考えよう。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業で出される課題と、学期末試験で評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|---|
| 経済学入門 | | 鷺見 研作 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>本格的に経済学についての勉学を始めるための導入の科目です。身の回りにある身近な問題から、経済学的に思考するということはどういうことなのかを学習します。題材は日常生活の中にたくさんあります。</p> <p>ただ、一口に経済学といっても、実は多くの専門分野に分かれています。それらのすべてを本格的に勉強することは困難です。将来どのようなことに勉学の中心をおきたいか、ということ自分で考えることが出来るよう、さまざまな諸問題を解説しながら、経済学の各分野への誘いが出来るようにしたいと思います。</p> |
| (2)授業の方法 | 原則として講義です。講義では出来るだけパソコンを利用して学習するようにしますので、毎回ノートパソコンを持参してください。 |
| (3)授業の体系 | <p>次のような身近なテーマをもとに経済学的思考を身につけます。</p> <p>(1)税金を考える (2)お金を考える (3)金融と財政 (4)ものを作るとは。 (5)作ったものを使うということ (6)老後を考えよう。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業で出される課題と、学期末試験で評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|---|
| 経済学入門 | | 鷺見 研作 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>本格的に経済学についての勉学を始めるための導入の科目です。身の回りにある身近な問題から、経済学的に思考するということはどういうことなのかを学習します。題材は日常生活の中にたくさんあります。</p> <p>ただ、一口に経済学といっても、実は多くの専門分野に分かれています。それらのすべてを本格的に勉強することは困難です。将来どのようなことに勉学の中心をおきたいか、ということ自分で考えることが出来るよう、さまざまな諸問題を解説しながら、経済学の各分野への誘いが出来るようにしたいと思います。</p> |
| (2)授業の方法 | 原則として講義です。講義では出来るだけパソコンを利用して学習するようにしますので、毎回ノートパソコンを持参してください。 |
| (3)授業の体系 | <p>次のような身近なテーマをもとに経済学的思考を身につけます。</p> <p>(1)税金を考える (2)お金を考える (3)金融と財政 (4)ものを作るとは。 (5)作ったものを使うということ (6)老後を考えよう。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業で出される課題と、学期末試験で評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|-------|---|
| 経済学入門 | | 戎野 淑子 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | これから経済学を勉強するにあたり、経済学の最も基礎となる考え方や知識を学ぶ。 具体的には、基礎的な経済理論、戦後の日本経済の歴史、現代の経済状況と諸問題について、概観を理解する |
| (2)授業の方法 | 教科書を使用し、講義形式で行なうが、数回授業内レポートを書いてもらう。 |
| (3)授業の体系 | 1、経済についての基本的な考え方 (1) 市場経済・計画経済 (2) 経済循環の構造 (3) 市場機構の仕組み 2、日本経済の歩み (1) 戦後～高度経済成長 (2) 石油危機～安定成長 (3) バブル経済 3、現在の経済状況と諸問題 (1) バブル崩壊 (2) 空洞化・高齢化等の諸問題 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 原則として試験によって評価するが、授業態度（レポート）等の平常点も考慮する。 |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|--------|--------|-------|
| (6)使用教科書 | 塩澤修平 | 経済学・入門 | 有斐閣アルマ | 1996年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|--------------------------------------|-------|---|
| 経済学入門 | | 鷺見 研作 | |
| 集中授業 | 8/3(土)、8/31(土)、9/2(月)、9/7(土)、9/25(水) | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>本格的に経済学についての勉学を始めるための導入の科目です。身の回りにある身近な問題から、経済学的に思考するということはどういうことなのかを学習します。題材は日常生活の中にたくさんあります。</p> <p>ただ、一口に経済学といっても、実は多くの専門分野に分かれています。それらのすべてを本格的に勉強することは困難です。将来どのようなことに勉学の中心をおきたいか、ということ自分で考えることが出来るよう、さまざまな諸問題を解説しながら、経済学の各分野への誘いが出来るようにしたいと思います。</p> |
| (2)授業の方法 | 原則として講義です。講義では出来るだけパソコンを利用して学習するようにしますので、毎回ノートパソコンを持参してください。 |
| (3)授業の体系 | <p>次のような身近なテーマをもとに経済学的思考を身につけます。</p> <ul style="list-style-type: none"> (1)税金を考える (2)お金を考える (3)金融と財政 (4)ものを作るとは。 (5)作ったものを使うということ (6)老後を考えよう。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>10月3日(木)1時限目に筆記試験を実施する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | なし | | | |
| (7)使用参考書 | なし | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 経営学入門 | | 加藤 敦宣 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式 |
| (3)授業の体系 | 講義体系は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社の仕組み ・ 組織の概念 ・ 組織構造 ・ 権限 ・ コミュニケーション・システム ・ 事業部制 ・ 経営の人間関係 ・ リーダーシップ |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 占部都美・加護野忠男 | 経営学入門 | 中央経済社 | 1997 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 経営学入門 | | 加藤 敦宣 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式 |
| (3)授業の体系 | 講義体系は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社の仕組み ・ 組織の概念 ・ 組織構造 ・ 権限 ・ コミュニケーション・システム ・ 事業部制 ・ 経営の人間関係 ・ リーダーシップ |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 占部都美・加護野忠男 | 経営学入門 | 中央経済社 | 1997 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 経営学入門 | | 加藤 敦宣 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式 |
| (3)授業の体系 | 講義体系は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社の仕組み ・ 組織の概念 ・ 組織構造 ・ 権限 ・ コミュニケーション・システム ・ 事業部制 ・ 経営の人間関係 ・ リーダーシップ |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 占部都美・加護野忠男 | 経営学入門 | 中央経済社 | 1997 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 経営学入門(再履) | | 加藤 敦宣 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営学入門では組織の仕組みや株式の制度、資金の調達といった、企業経営における基本的な枠組みについて学ぶことを目的としています。社会における企業の役割と機能について、今後の経営学関連科目の勉強に必要な基本的な考察力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式 |
| (3)授業の体系 | 講義体系は以下の通りです。 <ul style="list-style-type: none"> ・ 株式会社の仕組み ・ 組織の概念 ・ 組織構造 ・ 権限 ・ コミュニケーション・システム ・ 事業部制 ・ 経営の人間関係 ・ リーダーシップ |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 占部都美・加護野忠男 | 経営学入門 | 中央経済社 | 1997 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|------|
| 経営学入門 | | 山川 肇 | |
| 春学期 | 80分×週 1回 | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>経営学への導入として、経営学の対象とするものは何かについて理解し、現代社会における企業の基本的仕組みや運営に関する知識と用語を体系的に学習する。「企業」について全体的、基本的な展望ができるようにするために、理解し易い内容・構成の授業とし、国際化、情報化、高齢化といった現代社会で進展しているトレンドも研究しながら、できるだけ実践的な講義とする。</p> <p>社会で実際に活動できる知識・用語と考え方を身に付けること、そしてより上級の経営学を研究・学習するための一助となることを目的とする。</p> |
| (2)授業の方法 | 実在する企業の最新ケーススタディを中心に講義し、一部演習も行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>大別して二つの分野で授業体系を構成する。</p> <p>1. 経営の構造</p> <p>① 企業形態</p> <p>② 経営の経済的、技術的、社会的な仕組み</p> <p>2. 経営管理</p> <p>①経営（者）レベルの総合的管理</p> <p>・ 経営政策、経営戦略、経営組織、経営計画等</p> <p>②企業内各部門レベルの管理各論</p> <p>・ 財務管理から情報管理まで</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>成績は原則筆記試験に授業中の積極性や演習の結果等を加味して評価する。試験はレポート提出に変更する場合がある。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 武藤 泰明 | ビジュアル経営の基本（日経文庫665） | 日本経済新聞社 | H7 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|---------------------------------------|-------|---|
| 経営学入門 | | 松行 彬子 | |
| 集中授業 | 7/31(水)、8/1(木)、8/2(金)、9/20(金)、9/26(木) | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本講は、経営学をはじめて学習しようとする学生に対して、経営学に関心を持たせ、その基礎となる知識を習得させることを目的とする。経営学は、理論的であると同時にすぐれて実践的であることから、サイエンスとアーツの両側面から学習する必要がある。経営学の研究対象は、大別すれば、経営、企業、あるいは組織である。本講では、これらのうち、企業を研究対象にし、経営や組織は、企業に関連させて講述する。実践的な視座に立ち、企業の本質を理解するために、本講では、環境の変動に対応する企業構造の変容と企業行動の変革を中心に、その主要概念について学習させることを目標にする。 |
| (2)授業の方法 | 講述を中心とするが、理解を促進させるためにスライドやビデオなどの視聴覚機材を併用することもある。 |
| (3)授業の体系 | I .企業の発展 1 . 企業と経営 2 . 経営形態の発展 3 . 現代企業の特質 4 . グローバル企業の進展 II .現代企業の構造と行動 1 . 第二次産業革命と科学的管理法 2 . 現代企業の全体構造 3 . 会社制度 4 . 企業者職能 5 . 企業と環境 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席、試験、授業時の小テストなどを含む日常点等を加味し評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | なし | | | |
| (7)使用参考書 | なし | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 人間関係論 | | 石川 直弘 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この講義では、日常生活の中でみられる人の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自分と他者との関係およびその背景にある心理の特質と科学的に分析し考察していく。そのために、まず人間関係を科学的に考えていくための基礎的な事項を学ぶ。いかにしてデータが収集され、分析されていくかを、受験・調査・事例研究方法などの研究方法の特徴を理解していく。その後に、さまざまな形の人間関係を例にあげて、具体的に学んでいく。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学 2. 母子関係と人間関係の展開 3. 集団力学 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 人間関係論 | | 石川 直弘 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この講義では、日常生活の中でみられる人の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自分と他者との関係およびその背景にある心理の特質と科学的に分析し考察していく。そのために、まず人間関係を科学的に考えていくための基礎的な事項を学ぶ。いかにしてデータが収集され、分析されていくかを、受験・調査・事例研究方法などの研究方法の特徴を理解していく。その後に、さまざまな形の人間関係を例にあげて、具体的に学んでいく。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学 2. 母子関係と人間関係の展開 3. 集団力学 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 人間関係論 | | 石川 直弘 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この講義では、日常生活の中でみられる人の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自分と他者との関係およびその背景にある心理の特質と科学的に分析し考察していく。そのために、まず人間関係を科学的に考えていくための基礎的な事項を学ぶ。いかにしてデータが収集され、分析されていくかを、受験・調査・事例研究方法などの研究方法の特徴を理解していく。その後に、さまざまな形の人間関係を例にあげて、具体的に学んでいく。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学 2. 母子関係と人間関係の展開 3. 集団力学 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 人間関係論 | | 石川 直弘 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | この講義では、日常生活の中でみられる人の社会的な行動から、いくつかのテーマをとりあげて、自分と他者との関係およびその背景にある心理の特質と科学的に分析し考察していく。そのために、まず人間関係を科学的に考えていくための基礎的な事項を学ぶ。いかにしてデータが収集され、分析されていくかを、受験・調査・事例研究方法などの研究方法の特徴を理解していく。その後に、さまざまな形の人間関係を例にあげて、具体的に学んでいく。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 行動科学 2. 母子関係と人間関係の展開 3. 集団力学 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験によって評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| コンピュータの仕組み | | 中村 修 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| コンピュータの仕組み | | 滑川 光裕 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| コンピュータの仕組み | | 宮本 勉 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| コンピュータと社会 | | 南 憲一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>インターネットに代表される情報技術が社会において重要な位置をしめている。本講義では、コンピュータおよびネットワークと社会の関わり、情報の個人および組織における活用とその問題点について学習する。</p> <p>高度情報化社会の進展、コンピュータやネットワークの取り扱うメディアの変遷とマルチメディアの実現、われわれを取り巻く情報環境、オフィスや家庭、学校のデジタル化、インターネットを使う上で留意すべき点、といった事項について最新のトピックにも触れながら学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。 |
| (3)授業の体系 | デジタル社会の展望 マルチメディア オフィスのデジタル化 イン트라ネットとSOHO 家庭におけるデジタル化 学生生活におけるデジタル化 インターネットのリテラシー WWW と情報発信 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポートと定期試験で評価する</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 斉藤 孝 | デジタル社会の情報リテラシー | 弘学出版 | 2002 |
| (7)使用参考書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| コンピュータと社会 | | 宮本 勉 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>インターネットに代表される情報技術が社会において重要な位置をしめている。本講義では、コンピュータおよびネットワークと社会の関わり、情報の個人および組織における活用とその問題点について学習する。</p> <p>高度情報化社会の進展、コンピュータやネットワークの取り扱うメディアの変遷とマルチメディアの実現、われわれを取り巻く情報環境、オフィスや家庭、学校のデジタル化、インターネットを使う上で留意すべき点、といった事項について最新のトピックにも触れながら学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。 |
| (3)授業の体系 | デジタル社会の展望 マルチメディア オフィスのデジタル化 イン트라ネットとSOHO 家庭におけるデジタル化 学生生活におけるデジタル化 インターネットのリテラシー WWW と情報発信 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポートと定期試験で評価する</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 斉藤 孝 | デジタル社会の情報リテラシー | 弘学出版 | 2002 |
| (7)使用参考書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| コンピュータと社会 | | 宮本 勉 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>インターネットに代表される情報技術が社会において重要な位置をしめている。本講義では、コンピュータおよびネットワークと社会の関わり、情報の個人および組織における活用とその問題点について学習する。</p> <p>高度情報化社会の進展、コンピュータやネットワークの取り扱うメディアの変遷とマルチメディアの実現、われわれを取り巻く情報環境、オフィスや家庭、学校のデジタル化、インターネットを使う上で留意すべき点、といった事項について最新のトピックにも触れながら学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用しながら講義を進めていくので、ノートパソコンを必ず持参すること。 |
| (3)授業の体系 | デジタル社会の展望 マルチメディア オフィスのデジタル化 イン트라ネットとSOHO 家庭におけるデジタル化 学生生活におけるデジタル化 インターネットのリテラシー WWW と情報発信 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポートと定期試験で評価する</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 斉藤 孝 | デジタル社会の情報リテラシー | 弘学出版 | 2002 |
| (7)使用参考書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-------|-----|
| 経営管理論 I | | 加藤 敦宣 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営管理論 I では経営管理の歴史について学ぶことを目的としています。内容としては 20 世紀初頭から現代に至る中で、経営管理手法がどのように変化したのか、について勉強していく予定です。経営管理における歴史展開を勉強することで、経営管理における見方やものの考え方について、十分に考えられる能力を養うことを、学習到達目標の 1 つとしています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式です。 |
| (3)授業の体系 | 講義体系は以下の通りです。 1. 科学的管理法 2. ファヨールの管理論 3. 人間関係論 4. 行動科学 5. 経営組織論 6. 意思決定論 7. 条件適応理論 8. 経営戦略論 9. 組織文化論 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 期末テストを基準とし、これに授業参画の度合いを加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------|------|------|
| (6)使用教科書 | 占部都美 | 新訂 経営管理論 | 白桃書房 | 1997 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 経営学 I | | 小沢 勝之 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経営学は企業行動を明らかにする学問です。企業は社会的に商品やサービスを生産し、販売しています。社会の求めるものを、できる限り良質で安く提供してその存続、成長をはかってきました。そのため経営戦略を立案し、組織や管理を革新して常に社会の期待にそえるように努力してきました。こうした努力によって企業の経営がどのように発展し、現在どのようになっているのかを、経営学の主な分野（管理分野）ごとに明らかにします。経営学Iでは、経営学の全体をわかりやすく示すとともに、特に経営内部のしくみや行動を、具体的な企業の例も使いながら明らかにします。 |
| (2)授業の方法 | 実際の企業の例も紹介しながら、わかりやすい授業にします。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 私達の生活と企業経営ー経営学序論 2. 企業経営とは何か 3. 企業経営の理解の方法 4. 株式会社制度と企業経営 5. 企業環境と経営戦略 6. 経営理念と経営風土 7. 経営組織 8. 経営管理 9. モチベーション論 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末の試験で評価します。試験ではノート、参考書などの持ち込みを許可する予定です。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 特にありません | | | |
| (7)使用参考書 | 斉藤 毅憲 編 | 新次元の経営学 | 文真堂 | 1994 |
| | 別冊宝島373 | 経営学・入門 | 宝島社 | 1998 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|------------|------|------|
| 経営学 I | | 山川 肇 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>経営学が現代社会・経済のもとで企業が経営していくための専門的な知識体系であることを理解し、企業における実践的経営をケーススタディを通じて学ぶことにより、経営学的なものを見方を習得する。</p> <p>実在する企業の具体的経営理論と展開、また経営者論を経て経営とはなにかを確実に習得し、実務に面したときには自信を持って企業活動に参画できるようになることが目的である。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義および演習 |
| (3)授業の体系 | <p>経営学の体系に準じて設定する。</p> <p>I. 企業の形態</p> <p>①現代の企業について</p> <p>②マネジメントの基本と計画、統制</p> <p>③経営組織とリーダーシップ</p> <p>II. 部門管理とマーケティング</p> <p>①労務管理と人事</p> <p>②生産管理、情報管理、財務管理</p> <p>③マーケティング</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>成績は原則筆記試験に授業中の積極性や演習の結果等を加味して評価する。試験はレポート提出に変更する場合がある。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 堀 正久・船越 弘 | 経営学 (KPSシリーズ No. 8) | 建帛社 | H8 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|--------|---|
| 簿記論 I | | 松田 真由美 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 簿記とは、企業がその経済活動を測定、記録、計算そして報告するための手段であるが、本科目では実例を挙げながらさまざまな取引の処理、帳簿への記帳、そして決算について学ぶ。 また、簿記検定の問題を取り上げることで、より理解を深める。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本システム 2. 現金・預金取引 3. 有価証券 4. 商品売買取引 5. 商品の特殊売買取引 6. 債権・債務取引 7. 手形取引 8. 固定資産取引 9. 決算 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| | 定期試験 |
| (5)履修の条件 | 簿記の基礎知識があること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 伊藤 邦雄 | NEW CONCEPT2級商業簿記 | 税務経理協会 | 2002 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 中原章吉 | 簿記の基礎構造 | 創成社 | 2002 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| 簿記論 I | | 中原章吉 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 企業において通常利用されている簿記を学習する事を目的とする。 |
| (2)授業の方法 | 講義 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の基本システム 2. 現金・預金取引の記帳 3. 有価証券の記帳処理 4. 商品売買取引の記帳処理 5. 債権・債務取引の記帳処理 6. 手形取引の記帳処理 7. 固定資産取引の記帳処理 8. 商品の特殊売買取引 9. 決算 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ペーパーテスト |
| (5)履修の条件 | 簿記の基礎知識のあること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|--------------------|--------|-------|
| (6)使用教科書 | 伊藤邦雄 | NEW CONCEPT2 級商業簿記 | 税務経理協会 | 2002/ |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 中原章吉 | 簿記の基礎構造 | 創成社 | 2002 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 国際関係論 | | 安田 利枝 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>近現代の国際秩序は、西欧に生まれた主権国家体系の世界的拡大というかたちで展 示してきました。20世紀の終わり頃から、この国際秩序はさまざまな点で行き詰まり を見せ、経済面での一体化が進む一方、宗教や文明の違いがさまざまなエスニック集 団間の紛争をもたらし、先進地域での排外主義も生じています。諸個人がさまざまな レベルで異質な集団間の共生を模索しなければならない時代だといえます。</p> <p>こうした国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。特 に今回は、今後の世界のありかたを大きく変えるとの予感を世界の人々に抱かせたア メリカ同時多発テロ事件とその後のアフガニスタンのタリバン政権をターゲットに したアメリカによる軍事攻撃という、一連の出来事をトピックスとして取り上げ、ア メリカの軍事攻撃の意味、アメリカの外交、宗教と国際政治、国際社会の成り立ちや 構造、国際法、安全保障、戦争、NGOの活躍、途上国の内戦、民族紛争などの問題 を考えていきます。</p> |
| (2)授業の方法 | 配布するレジュメに基づく講義、ドキュメンタリビデオの視聴、質疑応答をしていきます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ同時多発テロとイスラム原理主義 2. アフガニスタン内戦とタリバン政権 3. アメリカの中東政策とパレスチナ問題 4. 国際法とアメリカの軍事攻撃 5. アメリカなど主要国の外交 6. 民族とエスニシティ 7. 西欧国民国家体系・イスラム国際秩序・東アジアの華夷秩序 8. 国際関係の諸理論 リアリズムとリベラリズム 9. ワード・ポリティクスと国際レジーム論 10. 「文明の衝突」論と世界の三層構造論 11. 国境を越える義務 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参加度 15% 授業の理解度（小テストなど） 45% 勉学度 40%（論述課題 2つ）</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | なし | | | |
| (7)使用参考書 | 高崎通浩 | 『世界の民族地図』 | 作品社 | 1997 |
| | 岡部達味 | 『国際政治の分析枠組』 | 東京大学出版会 | 1992 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 国際関係論 | | 安田 利枝 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>近現代の国際秩序は、西欧に生まれた主権国家体系の世界的拡大というかたちで展 示してきました。20世紀の終わり頃から、この国際秩序はさまざまな点で行き詰まり を見せ、経済面での一体化が進む一方、宗教や文明の違いがさまざまなエスニック集 団間の紛争をもたらし、先進地域での排外主義も生じています。諸個人がさまざまな レベルで異質な集団間の共生を模索しなければならない時代だといえます。</p> <p>こうした国際社会のありようを考える基本的な知識を身につけるための科目です。特 に今回は、今後の世界のありかたを大きく変えるとの予感を世界の人々に抱かせたア メリカ同時多発テロ事件とその後のアフガニスタンのタリバン政権をターゲットに したアメリカによる軍事攻撃という、一連の出来事をトピックスとして取り上げ、ア メリカの軍事攻撃の意味、アメリカの外交、宗教と国際政治、国際社会の成り立ちや 構造、国際法、安全保障、戦争、NGOの活躍、途上国の内戦、民族紛争などの問題 を考えていきます。</p> |
| (2)授業の方法 | 配布するレジュメに基づく講義、ドキュメンタリビデオの視聴、質疑応答をしていきます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. アメリカ同時多発テロとイスラム原理主義 2. アフガニスタン内戦とタリバン政権 3. アメリカの中東政策とパレスチナ問題 4. 国際法とアメリカの軍事攻撃 5. アメリカなど主要国の外交 6. 民族とエスニシティ 7. 西欧国民国家体系・イスラム国際秩序・東アジアの華夷秩序 8. 国際関係の諸理論 リアリズムとリベラリズム 9. ワード・ポリティクスと国際レジーム論 10. 「文明の衝突」論と世界の三層構造論 11. 国境を越える義務 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参加度 15% 授業の理解度（小テストなど） 45% 勉学度 40%（論述課題 2つ）</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | なし | | | |
| (7)使用参考書 | 高崎通浩 | 『世界の民族地図』 | 作品社 | 1997 |
| | 岡部達味 | 『国際政治の分析枠組』 | 東京大学出版会 | 1992 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 生活経済学 | | 大木 麗子 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>21世紀は生活重視の時代と言われるが、長引く不況とリストラが進む中で、安定した生活への展望が求められている。同時に過剰消費の生活見直しの必要も指摘されている。</p> <p>講義では、市場経済の基本的仕組みの理解を前提に、家計を中心とした消費生活の構造的特徴と問題点を学ぶとともに、ジェンダーや環境等の視点をも取り入れながら、豊かな暮らしとその経済的社会的環境の在り方について考える。</p> |
| (2)授業の方法 | 主に講義による。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 生活経済学のパラダイム 2 今日の商品生産・消費・流通 3 生活の単位としての現代家族 4 家計・消費の構造 5 単身家計・共働き家計と女性の経済力 6 生涯家計と高齢期のライフステージ 7 変わる農家の家計と消費 8 生活の社会化と家計 9 情報化と暮らしの変化 10 グローバル経済と消費生活 11 持続可能な消費形態と新しい生活様式 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>中間テストまたはレポート1回と期末テストによる。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 伊藤セツ・川島美保編著 | 新版 消費生活経済学 | 光生館 | 2002 |
| (7)使用参考書 | 伊藤セツ編著 | ジェンダーの生活経済論 | ミネルヴァ書房 | 2000 |
| | 原司郎・酒井泰弘編著 | 生活経済学入門 | 東洋経済新報社 | 1998 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|-----|
| 高等簿記論 | | 中原章吉 | |
| 春学期 | 80分×週2コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 会計制度的な内容を簿記によつて表すとどうなるかを明らかにしていくのがこの科目の目的である。 |
| (2)授業の方法 | 講義 |
| (3)授業の体系 | I . 株式会社会計 II ・ 本支店会計 III ・ 帳簿組織 IV ・ 企業会計の意義 V ・ 資産会計 VI ・ 負債会計 vii ・ 資本会計 viii ・ 損益会計 IX ・ 財務諸表の作成 X ・ 連結財務諸表 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ペーパーテスト |
| (5)履修の条件 | 簿記の基礎知識のあること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 伊藤邦雄 | NEW CONCEPT2級商業簿記 | 税務経理協会 | 2002 |
| | 広瀬義州 | NEW CONCEPT1級会計 | 税務経理協会 | 2002 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-----|
| 経営学 II | | 小沢 勝之 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営学は企業行動を明らかにする学問です。企業は社会的に商品やサービスを生産し、販売しています。社会の求めるものを、できる限り良質で安く提供してその存続、成長をはかってきました。そのため経営戦略を立案し、組織や管理を革新して常に社会の期待にそえるようにしてきました。こうした努力によって企業の経営がどのように発展し、現在どのようになっているのかを、経営学の主な分野ごとに明らかにします。経営学IIでは、経営学の全体をわかりやすく示すとともに、特に経営と外部環境との関係について、具体的な企業の例も紹介しながら、わかりやすく解説します。 |
| (2)授業の方法 | 実際の先進的な企業の例も紹介しながら、わかりやすい授業にします。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 私達の生活と企業経営ー経営学序論 2. 企業経営内部活動と外部活動 3. 企業経営と外部環境 4. これまでの企業経営の発展の軌跡 5. 変化する企業環境とこれまでの企業経営の限界 6. 日本的経営のメリットとデメリット 7. コーポレート・ガバナンスについて 8. 企業の社会的責任 9. 企業の社会的貢献 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末の試験で評価します。試験ではノート、参考書などの持ち込みを許可する予定です。</p> |
| (5)履修の条件 | できるだけ、経営学Iを履修しておいて下さい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 特にありません | | | |
| (7)使用参考書 | 斉藤 毅憲 編 | 新次元の経営学 | 文真堂 | 1994 |
| | 別冊宝島373 | 経営学・入門 | 宝島社 | 1998 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|-------|-----|
| 経営学Ⅱ | | 松行 彬子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経営学入門および経営学Ⅰにおいて、経営学に関する基礎的な専門知識を体系的にすでに講義している。このことを踏まえて、経営学Ⅱでは、伝統的な経営学の領域だけでなく、現代経営学において新しく注目されている領域も同時に網羅し、講義する。近年、企業を取り巻く経営環境の変化は激しい。企業はこの変化をいかにとらえ、いかに創造的に適応しようとしているのか。このような経営の現実をも射程に入れ、今後、学生が経営学の勉学を続けていくにあたって、必要と考えられる興味深い研究テーマを紹介する。 |
| (2)授業の方法 | 講述を中心とする。理解を促進するために、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用することがある。 |
| (3)授業の体系 | 本講における主要な講義内容は、次の通りである。 1. 経営組織論 2. 日本企業のグローバル化 3. ベンチャービジネス論 4. 企業と社会 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験の結果に、小テスト、発表、受講態度などを加味して評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|-------|-----|
| 経営学Ⅱ | | 松行 彬子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営学入門および経営学Ⅰにおいて、経営学に関する基礎的な専門知識を体系的にすでに講義している。このことを踏まえて、経営学Ⅱでは、伝統的な経営学の領域だけではなく、現代経営学において新しく注目されている領域も同時に網羅し、講義する。近年、企業を取り巻く経営環境の変化は激しい。企業はこの変化をいかにとらえ、いかに創造的に適応しようとしているのか。このような経営の現実をも射程に入れ、今後、学生が経営学の勉学を続けていくにあたって、必要と考えられる興味深い研究テーマを紹介する。 |
| (2)授業の方法 | 講述を中心とする。理解を促進するために、スライドやビデオなどの視聴覚教材を使用することがある。 |
| (3)授業の体系 | 本講における主要な講義内容は、次の通りである。 1. 経営組織論 2. 日本企業のグローバル化 3. ベンチャービジネス論 4. 企業と社会 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 試験の結果に、小テスト、発表、受講態度などを加味して評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|------|------|
| 経営学 II | | 山川 肇 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>経営学の基本理論を復習を踏まえて更に確認し、21世紀の経営の在り方を追求する。特に経営管理プロセスの詳細を学ぶと同時に、経営計画や戦略計画の手順・方法を具体的に演習する。</p> <p>日本企業、グローバル企業、ベンチャー企業について理論と実際を、ケーススタディ中心に新しい企業経営の在り方を研究する。</p> <p>自ら起業し、経営に直接取組もうという意欲のある学生にとって、即行動に移せるレベルの理論と知識・ノウハウを確実に習得できることも目標の一つである。</p> <p>企業経営者でもある当職が簡潔平易に解説し、具体的に実践指導する。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義と演習（ディベートを含む） 経営分析も実習するので指定授業時間には電卓を持参すること。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>経営学の体系に沿って、企業構造論と経営管理論に大別する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業形態論 2. 経営の内部構造 3. 一般的経営管理（戦略論や組織論等） 4. 経営管理活動を構成する業務要素別の管理各論 <p>以上の基本的体系の過程で、理論を主体としながらもケーススタディによってより実践的な能力を育成する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>成績は、授業への参画意欲と、小論文（研究課題）および試験（論文）を加味して評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|---------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 市川 彰・名取 修一 | 現代経営学要論 | 同友社 | H7 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|-------|-----|----------|---------|--|
| 経営情報論 | | | 宮本勉・中村修 | |
| 春学期 | 4単位 | 80分×週2コマ | | |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>経営における人・物・資金と並ぶ資源である情報とは何か、それら进行处理する情報技術（IT）発展は目を見張るばかりである。</p> <p>この情報の企業の経営活動のなかでもつ意義と役割を体系的に理解した上で、コンピュータとネットワークを利用した情報システムが企業経営目標達成のために経営管理、情報処理、経営戦略の策定にどのように利用されているかについて学ぶことを目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義を中心に学習する。さらにパソコンを使用してインターネットや電子メールを利用して授業を行う。その他レポート等を提出する。 |
| (3)授業の体系 | <p>春学期中に週2コマ28回の授業を行い完了する</p> <p>経営の基礎から情報化に関する総合的な内容を学習する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 企業組織と経営活動 2、 企業会計 3、 経営工学 4、 情報システムの活用 <p>※この科目は基本情報処理技術者試験の「情報化と経営」の分野について学習する。そのため、この資格取得を目指すものは受講することが望ましい。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時のレポート、テストの結果、授業態度等を総合的に判断して評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>基本的なコンピュータリテラシーができること。</p> <p>授業時にパソコンを使用するばあいがある。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------|------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 情報化と経営 | コンピュータエージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|-------|-----|----------|---------|--|
| 経営情報論 | | | 宮本勉・中村修 | |
| 春学期 | 4単位 | 80分×週2コマ | | |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>経営における人・物・資金と並ぶ資源である情報とは何か、それら进行处理する情報技術（IT）発展は目を見張るばかりである。</p> <p>この情報の企業の経営活動のなかでもつ意義と役割を体系的に理解した上で、コンピュータとネットワークを利用した情報システムが企業経営目標達成のために経営管理、情報処理、経営戦略の策定にどのように利用されているかについて学ぶことを目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義を中心に学習する。さらにパソコンを使用してインターネットや電子メールを利用して授業を行う。その他レポート等を提出する。 |
| (3)授業の体系 | <p>春学期中に週2コマ28回の授業を行い完了する</p> <p>経営の基礎から情報化に関する総合的な内容を学習する</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 企業組織と経営活動 2、 企業会計 3、 経営工学 4、 情報システムの活用 <p>※この科目は基本情報処理技術者試験の「情報化と経営」の分野について学習する。そのため、この資格取得を目指すものは受講することが望ましい。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時のレポート、テストの結果、授業態度等を総合的に判断して評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>基本的なコンピュータリテラシーができること。</p> <p>授業時にパソコンを使用するばあいがある。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------|------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 情報化と経営 | コンピュータエージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|------------|------|------|
| 国際経済学 | | 馬田啓一 | |
| 通年 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 4 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本講義では、最新かつ重要な国際経済の諸問題を平易に解説します。講義を通じて、国際経済の実際の展開に対する学生諸君の関心と理解を高めたいと思う。このため、単なる基礎的な経済理論の説明にとどまらず、いま論議を呼んでいる国際経済のトピックス、例えば、貿易摩擦、海外直接投資、通貨危機、WTO交渉、地域統合の動きなどをできるだけ講義のテーマに取り上げて、わかり易く解説していく方針です。 |
| (2)授業の方法 | 授業は一回完結方式（毎回のテーマについては「授業計画」を参照）。プロジェクトを使用しますが、レジュメも配布する予定です。 |
| (3)授業の体系 | 前期は、日本の対外経済政策、とくにアメリカ、アジアとの経済関係について取り上げ、アメリカ経済の動向と日米経済摩擦、ポスト通貨危機と東アジアの台頭などの問題を中心に、日本の対応のあり方を考察します。 後期は、世界貿易体制の問題を取り上げ、WTO交渉と地域統合（EU, NAFTA, ASEAN, APECなど）の動きを中心に、新たな秩序・システムの構築について、グローバリズムとリージョナリズムの視点から検討を行います。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 レポート提出と定期試験の結果により評価します。試験方法は、講義で取り上げたテーマの中から自由に選んで自分の考えを論述。持込可。 |
| (5)履修の条件 | 経済学の基礎知識があることが望ましいが、なくてもよい。国際経済問題に対する旺盛な問題意識さえあれば、とても興味深く受講できます。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|-----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 青木健・馬田啓一編著 | 経済検証／グローバリゼーション | 文眞堂 | 2001 |
| | 青木健・馬田啓一編著 | ポスト通貨危機の経済学 | 勁草書房 | 2000 |
| | 青木健・馬田啓一編著 | 地域統合の経済学 | 勁草書房 | 1999 |
| (7)使用参考書 | 青木健・馬田啓一編著 | WTOとアジアの経済発展 | 東洋経済新報社 | 1998 |
| | 青木健・馬田啓一編著 | 日本企業と直接投資 | 勁草書房 | 1997 |
| | 青木健・馬田啓一編著 | 日米経済関係 | 勁草書房 | 1996 |
| | 白石孝・馬田啓一編著 | 為替レートと日本経済 | 東洋経済新報社 | 1996 |

| | | | |
|--------|------------|-------|-----|
| 社会福祉概論 | | 坂田 伸子 | |
| 通年 | 80分 × 週1コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>現代社会が抱える社会福祉問題を考える力を身につけることを目指し、問題を克服するために取り組まれる社会福祉実践の有り様、社会福祉制度の現状と課題を学ぶ中で、“社会福祉とは何か”を1年間の講義を通して明らかにしたい。</p> <p>現代社会における、社会福祉の意義と理念、法体系、制度および運用の実際、福祉の基盤としての所得、医療、住宅、雇用および公的扶助などの社会保障制度の概要について学び、公私の福祉活動による福祉社会の確立の必要性について理解を深めることを目的としている。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義と、ビデオを使用しての授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 私たちの生活と社会福祉 2. 社会福祉の概念 3. 社会福祉の歴史 4. 社会福祉の制度と法 5. 社会福祉の財政 6. 社会福祉の対象分野 7. 社会福祉援助活動 8. 社会福祉の仕事と担い手 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験・レポートなどによる総合評価</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 一番ヶ瀬康子他監修 | 現代の社会福祉 三訂版 | 一橋出版 | 2001 |
| | ミネルヴァ書房編集部編 | 社会福祉小六法2002 | ミネルヴァ書房 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 授業時に随時紹介する | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|----------|-------|---|
| 会計学 | | 山本 孝夫 | |
| 秋学期 | 80分×週2コマ | 単位数 | 4 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>会計は、企業の経営活動についての情報を利害関係者へ報告するため、一定期間を人為的に区切り、体系化された経営成績と財政状態の報告内容を研究領域とする学問である。</p> <p>本講座では、現行会計制度の基本構造を明確に捉えるため、会計学の歴史の変遷過程を通して、アングロ・アメリカン系の会計体系について解説する。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>会計学は、きわめて実践的な学問である。そのため、現行の会計実務を参照しながら、例題解答の解説および講義形式で会計思考を養いたい。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>わが国の企業会計原則に準拠して、利益計算構造の基礎分析と応用的技術を具体的に解説する。講義は、主に以下の内容を予定している。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 会計理論の形成と会計の社会的役割 2. 企業会計の基礎概念と会計法規 3. 企業会計原則の体系 4. 損益計算書の基礎構造と分配可能利益 5. 貸借対照表の基礎構造と資産評価 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>理解度を評価するために、適宜、課題レポートの提出および小テストを実施し、総合的な成績評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>会計学の学習は、段階的であるため、積極的に取り組もうとする学生の参加を期待する。また、過去に簿記を学んだことのある者が望ましい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は、開講時に指示する。 | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|-----|
| 中小企業論 | | 和田耕治 | |
| 秋学期 | 80分×週2コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォーディズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォーディズムにとって代わる可能性を秘めている。</p> <p>本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中で中小企業の位置付けを考える。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義形式で行う。</p> <p>受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>講義は以下の点を触れつつ、進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中小企業をみる視点、中小企業 の概念 2. 中小企業 の存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業 の歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業 の近代化 6. ベンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積） 8. 中小企業政策 <p>※最新の統計資料は受講者に対し、e-mailあるいはWeb上で配信する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポート 3割 学期末試験 4割</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 清成忠男 | 中小企業読本(第3版) | 東洋経済 | 1997 |
| | 福島久一編 | 中小企業政策の国際比較(出版予定) | 新評論 | 2002 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|-----|
| 中小企業論 | | 和田耕治 | |
| 秋学期 | 80分×週2コマ | 単位数 | 4単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>20世紀において進展した資本の集中・集積に伴う企業の大規模化は、大量生産・大量消費型の社会を構築させ、我々の生活を飛躍的に豊かにさせた。しかしながら、近年においては、大企業支配型の社会の問題性も顕在化するようになり、20世紀型生産体制（フォーディズム）の変革の必要性が唱えられている。変革に関しては、さまざまな方向性が考えられるが、その回答のひとつは、中小企業型社会の構築があげられよう。中小企業の柔軟性ある専門化（フレキシブルスペシャライゼーション）による協業は、フォーディズムにとって代わる可能性を秘めている。</p> <p>本講義では以上を問題意識としつつ、歴史的、空間的な広がりの中で中小企業の位置付けを考える。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義形式で行う。</p> <p>受講者の理解を促進するために視聴覚教材を使用する。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>講義は以下の点を触れつつ、進める。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 中小企業をみる視点、中小企業 の 概念 2. 中小企業 の 存立形態 3. 大企業と中小企業 4. 中小企業 の 歴史的展開 5. 二重構造論、中小企業 の 近代化 6. ベンチャービジネス 7. 地域社会と中小企業（産業集積） 8. 中小企業政策 <p>※最新の統計資料は受講者に対し、e-mailあるいはWeb上で配信する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポート 3割 学期末試験 4割</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 清成忠男 | 中小企業読本(第3版) | 東洋経済 | 1997 |
| | 福島久一編 | 中小企業政策の国際比較(出版予定) | 新評論 | 2002 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|---------|--------|-----|
| 経済学 I | | 亀卦川 芽以 | |
| 春学期 | 80×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 「経済学 I」では主にマクロ経済について扱います。 経済学の基礎を理解すると共に、具体的な経済問題を中心に扱うことによって現実問題の理解と経済学の理論を結びつけて学習します。 |
| (2)授業の方法 | 授業は講義形式で行ないます。教科書とプリントを使って説明しますので、A4サイズのファイルを用意して下さい。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 国民所得 2. 所得決定理論 3. 貨幣と銀行 4. IS-LM 曲線 5. インフレーションと失業 6. 国際経済 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>評価については、学期末試験（90 点）と課題（10 点）で評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 石橋 春男 | 現代経済学 | 成文堂 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 経済学 I | | 山崎康之 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。 GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。 マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。 マクロ経済学 1. マクロ経済学のデータ 2. 長期の実物経済 3. 長期における貨幣と価格 4. 開放経済のマクロ経済学 5. 短期の景気変動 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の結果により評価します。 |
| (5)履修の条件 | ありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|-----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | N・グレゴリー・マンキュー | マンキュー経済学II マクロ編 | 東洋経済新報社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 経済学 I | | 山崎康之 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現代経済学理論のマクロ経済学（国民所得理論）の部分について講義します。 GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。 マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。 マクロ経済学 1. マクロ経済学のデータ 2. 長期の実物経済 3. 長期における貨幣と価格 4. 開放経済のマクロ経済学 5. 短期の景気変動 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の結果により評価します。 |
| (5)履修の条件 | ありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|-----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | N・グレゴリー・マンキュー | マンキュー経済学II マクロ編 | 東洋経済新報社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 経済学 I | | 山崎康之 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現代経済学理論のマクロ経済学(国民所得理論)の部分について講義します。 GDP（国内総生産）や国民所得、物価上昇率、失業率および経常収支などの一国経済全体の活動水準を示す代表的な変数の意味を明らかにするとともに、それらの変数の決定要因や相互依存関係について学びます。 マクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | この講義で取り上げる主なトピックとその順序は、以下の通りです。 マクロ経済学 1. マクロ経済学のデータ 2. 長期の実物経済 3. 長期における貨幣と価格 4. 開放経済のマクロ経済学 5. 短期の景気変動 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の結果により評価します。 |
| (5)履修の条件 | ありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | N・グレゴリー・マンキュー | マンキュー経済学Ⅱ マクロ編 | 東洋経済新報社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|--------|-----|
| コンピュータソフトウェア | | 宮澤 信一郎 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | Microsoft Windows XP を題材に、パーソナルコンピュータ(PC)のオペレーティングシステム(OS)の操作・環境設定について学びながら OS の機能に関する基本知識を身に付ける。 パソコン検定(P 検)3 級の「OS」の範囲をカバーする内容とする。 |
| (2)授業の方法 | 実習中心の授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows XP の特徴 2. デスクトップの基本操作 3. アイコンとファイル 4. システム設定の変更 5. デスクトップの設定の変更 6. 日本語および多言語入力と表示 7. 標準装備のアプリケーションソフトウェア 8. インターネット 9. LAN の構築 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>受講態度、小テストおよび学期末試験によって総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 授業には PC を持参のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|--------|-----|
| コンピュータソフトウェア | | 宮澤 信一郎 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | Microsoft Windows XP を題材に、パーソナルコンピュータ(PC)のオペレーティングシステム(OS)の操作・環境設定について学びながら OS の機能に関する基本知識を身に付ける。 パソコン検定(P 検)3 級の「OS」の範囲をカバーする内容とする。 |
| (2)授業の方法 | 実習中心の授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. Windows XP の特徴 2. デスクトップの基本操作 3. アイコンとファイル 4. システム設定の変更 5. デスクトップの設定の変更 6. 日本語および多言語入力と表示 7. 標準装備のアプリケーションソフトウェア 8. インターネット 9. LAN の構築 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>受講態度、小テストおよび学期末試験によって総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 授業には PC を持参のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 授業時間内に指示する | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| ホスピタリティ入門 | | 鈴木 敦子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>この講座では、「サービス」および「ホスピタリティ」の理論を学ぶなかで人間としての感性を磨き、主体的かつクリエイティブに行動できる力を養う。</p> <p>またサービス社会といわれる現代の企業にどのような人材が必要とされているか、実際の「ホスピタリティ」実践企業の事例をどうして考え、学んでいく。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション・第一印象は何によって作られるか？ 2. サービスとは？ 3. コミュニケーションとは？ 4. NON VERBAL COMMUNICATION 5. 航空業界のホスピタリティの取組み 1. 6. マナーとエチケット 7. 自己分析と自己プロデュース 8. プレゼンテーション・スキル・アップ 演習 1.準備 9. 企業におけるホスピタリティ実践実例 10. ホスピタリティとサービスの語源と概念 11. 航空業界のホスピタリティの取組み 2. 12. まとめ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法で</p> <p>出席状況、授業への取組姿勢、発表、小論文(宿題)、レポート提出</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------|-----|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | カ石 寛夫 | ホスピタリティ | 商業界 | 1997 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| ホスピタリティ I | | 古閑 博美 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ホスピタリティは、倫理や理念、愛と不可分の人間的行為である。科学文明が発展する 21 世紀にますます注目される概念といえる。 本講座では、人と人、人と自然、人と技術、人と社会などの関係性におけるホスピタリティとそのあり方を考察し、職場や家庭などあらゆる場面で有効かつ希求されるホスピタリティについて学ぶ。ホスピタリティ・スピリット（ホスピタリティの精神）の涵養とホスピタリティを具現できる学生の育成を目指す。 |
| (2)授業の方法 | 講義。演習。視聴覚教材。課題と取り組む（個人的作業）。 |
| (3)授業の体系 | 1.ホスピタリティを理解する 2.ホスピタリティを実践する 3.ホスピタリティ・スピリットの涵養 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 授業中の態度や課題との取り組みなどを総合して評価。提出物は A4 判横書きを原則とし、その他指示に従って提出のこと。 |
| (5)履修の条件 | 机上の学問に終わらせないとの意志をもって臨むこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 古閑博美 | 看護のホスピタリティとマナー | 鷹書房弓プレス | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| ホスピタリティ I | | 古閑 博美 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ホスピタリティは、倫理や理念、愛と不可分の人間的行為である。科学文明が発展する 21 世紀にますます注目される概念といえる。 本講座では、人と人、人と自然、人と技術、人と社会などの関係性におけるホスピタリティとそのあり方を考察し、職場や家庭などあらゆる場面で有効かつ希求されるホスピタリティについて学ぶ。ホスピタリティ・スピリット（ホスピタリティの精神）の涵養とホスピタリティを具現できる学生の育成を目指す。 |
| (2)授業の方法 | 講義。演習。視聴覚教材。課題と取り組む（個人的作業）。 |
| (3)授業の体系 | 1.ホスピタリティを理解する 2.ホスピタリティを実践する 3.ホスピタリティ・スピリットの涵養 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 授業中の態度や課題との取り組みなどを総合して評価。提出物は A4 判横書きを原則とし、その他指示に従って提出のこと。 |
| (5)履修の条件 | 机上の学問に終わらせないとの意志をもって臨むこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 古閑博美 | 看護のホスピタリティとマナー | 鷹書房弓プレス | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|-------|-----|
| サービス・コミュニケーション | | 鈴木 敦子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>近年、病院から IT 関連企業にいたるまでの各企業で、他企業と競合して行く上での強力な理念として「CS 経営」が取り入れられ、ヒューマン部分の重要性が認識されると共に、その能力活用に力が注がれている。</p> <p>この講座では、「サービス」と「コミュニケーション」の理論と知識のみならず、「コミュニケーション能力」の技量アップに重点を置き、演習・実技を通して実際に社会で役立つ「実学」を学び、身につけていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、実技、発表 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. サービスについて…グループ発表 3. サービス・コミュニケーション 4. NON VERBAL COMMUNICATION ブラッシュ・アップ 演習 1. 5. ビジネス・マナー 1 6. NON VERBAL COMMUNICATION ブラッシュ・アップ 演習 2. 7. ビジネス・マナー 2 8. プレゼンテーション・スキル・アップ 演習 1. 9. 苦情対応 演習 10. プレゼンテーション・スキル・アップ 演習 2. (VTR) 11. VTR REVIEW 12. まとめ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法で</p> <p>出席状況、授業への取組姿勢、発表、レポート提出</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | なし | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|----------------|-----------|-------|-----|
| サービス・コミュニケーション | | 鈴木 敦子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>近年、病院から IT 関連企業にいたるまでの各企業で、他企業と競合して行く上での強力な理念として「CS 経営」が取り入れられ、ヒューマン部分の重要性が認識されると共に、その能力活用に力が注がれている。</p> <p>この講座では、「サービス」と「コミュニケーション」の理論と知識のみならず、「コミュニケーション能力」の技量アップに重点を置き、演習・実技を通して実際に社会で役立つ「実学」を学び、身につけていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、実技、発表 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション 2. サービスについて…グループ発表 3. サービス・コミュニケーション 4. NON VERBAL COMMUNICATION ブラッシュ・アップ 演習 1. 5. ビジネス・マナー 1 6. NON VERBAL COMMUNICATION ブラッシュ・アップ 演習 2. 7. ビジネス・マナー 2 8. プレゼンテーション・スキル・アップ 演習 1. 9. 苦情対応 演習 10. プレゼンテーション・スキル・アップ 演習 2. (VTR) 11. VTR REVIEW 12. まとめ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法で</p> <p>出席状況、授業への取組姿勢、発表、レポート提出</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|--------|---|
| CS実践論 | | 菊地 由美子 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>21世紀は、「企業経営」においてサービスの競争力が大きく問われる時代となり、「CS経営」が重要な戦略とされている。</p> <p>「CS」（顧客満足）について実践的に学びながら、社会人として必要な知識、対応能力、感性といった実学を身に付けていく。</p> <p>講義に加え実際に「CS実地調査」を行い、顧客（学生・社会人）としての「サービスの見方」を通してサービス提供者（企業人）としての「サービス」を学んでいく。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、発表、実習（CS実地調査） |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人間を知ろう！・・・コミュニケーションとは？ 2. サービス社会の到来「CS」とは？ 3. プレゼンテーション・スキル・アップ（演習） 4. 企業における「CS」実践論 5. 「CS」（顧客満足）と「ES」（従業員満足） 6. ブランド・マネジメント 7. 「CS実地調査」準備 8. 「CS実地調査」 9. 「CS実地調査」 10. 「CS実地調査」結果と分析・発表 11. 顧客心理 12. 苦情対応こそ「CS」そのもの 13. 自己分析・自己アピール 14. まとめ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>出席状況、授業への取組姿勢、発表、宿題、小テスト、レポート提出</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| ビジネス実務論 I | | 古閑 博美 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ビジネスの基礎知識・機能を学び、ビジネス実務への認識を深める。ビジネス実務を具体的に考察し、実務能力の育成と向上を目指す。実務を通して職業理解を深める。 |
| (2)授業の方法 | 講義に演習を取り入れる。視聴覚教材を使用する。毎週、指名された学生はビジネス実務に関する新聞記事を発表する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ビジネス実務とは 2. 表現実務を学ぶ 3. 情報実務を学ぶ 4. サービス実務を学ぶ 5. 実務能力への関心を高める |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業の参加態度や課題などを総合して評価。提出物はA4判に横書きを基本とし、指示にはずれるものは受理しない。</p> |
| (5)履修の条件 | テキストを通読しておくこと。品位と集中の態度で授業に臨んでください。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|--------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 森脇道子編著 | ビジネス実務 | 建帛社 | 1998 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| ビジネス実務論Ⅱ | | 古閑 博美 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ビジネスの基礎知識・機能を学び、ビジネス実務への認識を深める。ビジネス実務を具体的に考察し、実務能力の育成と向上を目指す。実務を通して職業意識を深める。 |
| (2)授業の方法 | 講義に演習を取り入れる。視聴覚教材を使用する。毎週、指名された学生は「社訓」について発表する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 会社組織や機能をはじめ、職場への理解を深める 2. 態度能力を高める 3. 文章作成能力を高める 4. コミュニケーション能力を高める 5. 人権の遵守、企業倫理について学ぶ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業の参加態度や課題などを総合して評価。提出物はA4判に横書きを基本とし、指示にはずれるものは受理しない。</p> |
| (5)履修の条件 | テキストを通読しておくこと。品位と集中の態度で授業に臨んでください。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|----------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 古閑博美編著 | インターンシップ | 学文社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 簿記 I (普通) | | 井上 行忠 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫・前川邦生共著 | 例解演習 基本簿記 | 創成社 | |
| | | 日商簿記検定3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 簿記 I (普通) | | 井上 行忠 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定3級・全経簿記検定2級の合格を目指す。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、簿記一巡の流れを把握し、前半は個別取引を中心に学習を行い、後半は総合問題対策（試算表作成、精算表作成、補助簿：仕入帳、売上帳、現金出納帳、小口現金出納帳、当座預金出納帳、手形記入帳、商品有高帳等）を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫・前川邦生共著 | 例解演習 基本簿記 | 創成社 | |
| | | 日商簿記検定3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| 国際協力論 | | 安田利枝 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>国際協力とは、諸国の政府や民間団体が協力するパターンやメカニズム、協力の原因や影響を考える分野です。</p> <p>国際協力を途上国の経済開発、開発協力の分野に限定して考えることも多いのですが、本学カリキュラムでは「国際援助論」という独立した科目を置いているため、この「協力論」では様々な問題領域を扱います。すなわち、(通貨、貿易、金融などの国際経済学の問題を除いて)地球規模の問題群である、人口、食糧、資源(海洋・森林)、環境保全と汚染防止、人権、貧困と開発、軍縮、紛争予防、平和維持などの課題について、主要な国際協定、国際組織、各国の協力関係を探っていきます。</p> |
| (2)授業の方法 | 配布する資料とレジュメに基づいての講義が中心になります。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 人口、食糧、資源 2. 地域環境・地球環境問題 3. 武器管理と軍縮 4. 人権保障 5. 紛争処理 6. 武力行使と国際人道法 7. 平和維持と予防外交 8. 途上国への開発協力 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>参加度 15% 理解度 45% (小テストなど) 勉学度 40% (論述課題2つ)</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|------------------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本国際連合学会 | 『21世紀における国連システムの役割と展望』 | 国際書院 | 2000 |
| | 西井正弘編 | 『図説 国際法』 | 有斐閣ブックス | 1998 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|------|---|
| 国際援助論 | | 尾村敬二 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 国際援助論は国際経済コースを学ぶための重要な科目である本科目における学習目的は現代世界経済が抱える国家間の経済的紛争や競争、開発水準の格差課題、食糧問題、環境破壊問題などの実態を理解するとともに、それらの問題をいかに解決するかを考察し、その具体的方策を考えることにある。とくに先進国と開発途上国の間に広がる経済格差と開発途上国における貧困の問題に焦点を当て、日本がどのような援助政策を行うべきかを検討する。また、この援助問題はグローバルな視点を有さない限り理解が深まらないことに留意し、世界経済の動向を常に意識する学習とする。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義にもとづく議論を通じて援助問題を理解する。英文資料調査、インターネット活用などによる調査レポートを作成する。 |
| (3)授業の体系 | 1. 講義録の作成 2. 勉学課題の検索と調査 3. レポート作成と発表 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 原則として平常点評価とする。そのためには出席を重視し、学期中14回の授業に5回以上の欠席者は自動的に不合格とする。 |
| (5)履修の条件 | 経済学入門などの経済学関連の科目単位を取得していること。 英文資料を読みこなす意欲があること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 渡辺利夫 | 開発経済学入門 | 東洋経済新報社 | 2001 |
| | 大野泉 | 世界銀行 開発援助戦略の変革 | NTT出版 | 2000 |
| | ローレンス・J・マッキラン | IMF 改廃論争の論点 | 東洋経済新報社 | 2000 |
| 7)使用参考書 | 日本経済新聞社 | 経済新語辞典 | 日本経済新聞社 | 2000 |
| | 井上直樹他 | 金融先端用語辞典 | 日経BP社 | 2000 |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 地域経済論 | | 飯島 正義 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 戦後の経済発展は、地域格差をもたらし、これまでこれを是正するための地域開発政策が展開されてきました。しかし、大都市圏への集中が是正されることはなく、むしろ東京一極集中をまねく結果となっています。バブル崩壊後、経済の長期停滞が続く中で、グローバル化が一層進み、日本経済の構造を激変させています。このことは地域経済にも大きな影響を与え、地域的しくみの変化を迫っています。この科目では、地域格差が経済発展だけでなく、地域特性と関係しているのかどうかを含めて歴史的に地域経済の実態を把握し、今後の地域経済について考えていきます。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行います。 |
| (3)授業の体系 | 授業では、戦後の経済発展と地域開発政策の関連性を中心としながら地域経済の実態を把握すると共に、今後の地域経済の方向性を考えていきます。 1. 戦後の経済発展と一極一軸型国土構造の形成 2. 産業構造の変化と地域の盛衰 3. 大都市の過密化と農山村の過疎化 4. 人間の生活と自然環境 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中に行う確認、レポート、試験の成績で総合的に評価します。 |
| (5)履修の条件 | 特にありませんが、各自の毎回の授業の積み重ねが大切であると思います。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 特に指定しません。 | | | |
| (7)使用参考書 | 竹内淳彦・井出策夫 | 日本経済地理読本 | 東洋経済新報社 | 1999 |
| | 国土交通省 | 国土レポート2000 | 財務省印刷局 | 2000 |
| | (財)矢野恒太記念会 | 日本国勢図会 | 国勢社 | |
| | | | | |

| | | | |
|------|---------|--------|-----|
| 経済学Ⅱ | | 亀卦川 芽以 | |
| 秋学期 | 80×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 「経済学Ⅱ」では主にミクロ経済について扱います。 経済学の基礎を理解すると共に、具体的な経済問題を中心に扱うことによって現実問題の理解と経済学の理論を結びつけて学習します。 |
| (2)授業の方法 | 授業は講義形式で行ないます。教科書とプリントを使って説明しますので、A4サイズのファイルを用意して下さい。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 需要と供給 2. 消費者行動 3. 生産者行動 4. 不完全競争市場 5. 生産要素市場 6. 資源配分と市場の失敗 7. 国際貿易 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>評価については、学期末試験（90点）と課題（10点）で評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | 特にありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|--------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 鳴村 紘輝 | ミクロ経済学 | 成文堂 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|------|---|
| 経済学Ⅱ | | 山崎康之 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 現代経済学理論のミクロ経済学（価格理論）の部分について講義します。 市場経済において価格がどのように決定され、どのような役割を果たしているかについて学びます。すなわち、さまざまな財・サービスの価格の決定メカニズムと一国経済を構成する家計・企業・政府などの個々の経済主体の消費・生産といった経済行動がこの価格メカニズムを通じていかにして決定、調整されていくのか、またされるべきなのかについて講義します。 ミクロ経済学の分析の基本的枠組みを理解することがその目的です。 |
| (2)授業の方法 | 通常の講義によります。 |
| (3)授業の体系 | この講義で取りあつかうトピックとその順序は、以下の通りです。 ミクロ経済学 1. 市場における需要と供給の作用。 2. 弾力性とその応用。 3. 需要、供給および政府の政策。 4. 消費者、生産者、市場の効率性。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験の結果により評価します。 |
| (5)履修の条件 | ありません。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | N・グレゴリー・マンキュー | マンキュー経済学Ⅱ ミクロ編 | 東洋経済新報社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| 世界の民族と宗教 | | 畑中 敏夫 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>宗教って何だろう？</p> <p>ふだん、私達多くの日本人は、宗教について考える時間をほとんど持たないのではないのでしょうか。というよりむしろ、自分は宗教とは無縁だという思いで大部分の日本人は、生活しているのではないのでしょうか。</p> <p>この講義では、日常、意識することの少ない宗教をテーマに、世界の宗教や人々の信仰の有り方を勉強していきます。それと同時に、日本人にとって宗教とは何かを考えていきたいと思います。宗教を鏡に日本人の特色を明らかにしていくことが、この講義の目標です。</p> |
| (2)授業の方法 | 主に講義形式で授業を進めていきますが、内容によりビデオ教材を利用します。 |
| (3)授業の体系 | <p>授業は、次のような、骨組により成り立っています。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 各宗教の成立 2. 各宗教の教義の内容 3. 各宗教の歴史的発展 4. 宗教儀礼と信仰の形態 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポートと試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | このテーマに興味のあることが前提であるが、毎回、質問して授業を進めていくので、積極的な人が望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 使用せず。 | | | |
| (7)使用参考書 | 授業内で指示。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|----------|---|
| 国際理解と交流 | | クレイ サイモン | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>For students planning to travel abroad and for students interested in international relations, this course looks at both international issues close to home and on a world scale.</p> <p>This course is compulsory for those travelling to UK or China in February and strongly recommended for students wishing to spend their second year in Wuhan or USM</p> |
| (2)授業の方法 | Discussion will form a large part of each class and full participation will be expected |
| (3)授業の体系 | Please check the Internet for the content of each class. In addition to class discussion and group work, there will be speeches by outside guests and video materials. Students will also be given homework exercises. |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>Students will be assessed according to their participation in class and their homework assignments, including a final essay assignment.</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 鈴木 孝夫 | 日本語と外国語 | 岩波新書 | 1997 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|---|
| 国際理解と交流 | | 山田 寛 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>春学期の「国際理解と交流」は、夏休みの「国際交流研修」の前提科目。夏休みに本学の国際交流センターは、10日間あまりの「国際ボランティア体験ツアー」を組織する予定です。前提科目とは、そのツアーに参加して「国際交流研修」の単位を取得するには、まずこの科目を履修して単位をとる必要があるということです。</p> <p>(国際交流研修の単位とせずにツアーに参加することもできます。またツアーに参加しないけれど、この「国際理解と交流」の単位だけとることもできます。)</p> <p>学生時代に国際協力活動を体験するのは、望ましい。そして、まず国際的な理解を深めて体験するのがベストです。言ってみれば、この授業は国際関係入門編で、いろいろな関係・交流をわかりやすく説明します。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義が中心だが、一部演習も。ビデオなどをできるだけたくさん使用します。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>1) 日本にいる難民の体験談、途上国のこどもの苦難、アフリカ、NGO(民間団体)、ODA(政府開発援助)など援助や協力に関わるテーマ。</p> <p>2) そのほか国際交流全般に関わるテーマ、たとえばサッカーのワールドカップ開催を機会とする日韓交流あるいは日本人の国際理解の進展、日本と中国の関係その他</p> <p>3) 体験ツアーで行く国・地域のこと。</p> <p>テーマは、この3つの組み合わせとなります。できれば日本にいる外国人青年との会合にも出てもらいます。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>平常点とレポートをあわせて評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | なし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-----------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使いません。 | | |
| (7)使用参考書 | | 参考書は授業の中で紹介します。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 国際文化論 | | 畑中 敏夫 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | あらゆる分野で国際化の必要性が言われている今日、ともすれば忘れがちになる私達自身の足元を見通すことも大切なことではないでしょうか。この講義では、人種と言語という観点から、日本文化の特色がどこにあるかを考えていきます。この講義を通して、私達の固有性を知ることが異文化理解の条件であることを、理解してもらいたいと思っています。 |
| (2)授業の方法 | 主に講義形式で授業を進めますが、内容により視聴覚教材を利用することがあります。 |
| (3)授業の体系 | 今学期の授業の骨組は、大まかには次のようになっています。 1. 導入、主題の説明 2. 各主題に関する学説の歴史的経緯 3. 各主題の中心的問題の指摘と説明 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 レポートと試験の成績で評価する。 |
| (5)履修の条件 | このテーマに興味の有る人、毎回、質問しながら授業を進めていくので、積極的な人が望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 使用せず。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 授業内で指示。 | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|-------|---|
| 日本文化 I | | 石田 雅彦 | |
| 春学期 | 80 分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本講座の目的は、多くの日本文化の中から、今に生きる伝統文化を選び、それを通じて「日本文化」を知ることにある。日本文化を知るとは後に海外生活のみならず、卒業後社会に出てからの大きな資となるからである。 |
| (2)授業の方法 | 基本史料としてジョアンロドリゲス『日本教会史』を使用し、それと平行して、実際の伝統文化を実体験してもらう。 |
| (3)授業の体系 | 体系は、①『日本教会史』を読む（外国人が日本人をどう見ているか、記事中に書かれている今に伝わる伝統文化を一つずつ引出す。） ② 一つの伝統文化を選び、その歴史ならびにそれに付随する他の文化をも合わせて学ぶ。 ③ 実際にその文化を体験実施する(教室で)。 ④ 上記を最終的に論文(字数 6 2 9 = 朝日・天声人語)にまとめ発表する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 文化は体験しなければ分からない。見て体験してそれを文にまとめる。本講座は出席点以上に参加することに 3 割、論文に 4 割。 |
| (5)履修の条件 | 日本文化に興味をもつこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|-------|------|-----|
| (6)使用教科書 | ジョアン・ロドリゲス・ツツ | 日本教会史 | 岩波書店 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|---|
| 日本文化Ⅱ | | 石田 雅彦 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 本講座の目的は、多くの日本文化の中から、今に生きる伝統文化を選び、それを通じて「日本文化」を知ることにある。日本文化を知るとは後に海外生活のみならず、卒業後社会に出てからの大きな資となるからである。 |
| (2)授業の方法 | 基本史料としてジョアンロドリゲス『日本教会史』を使用し、それと平行して、実際の伝統文化を実体験してもらう。 |
| (3)授業の体系 | 体系は、①『日本教会史』を読む（外国人が日本人をどう見ているか、記事中に書かれている今に伝わる伝統文化を一つずつ引出す。） ② 一つの伝統文化を選び、その歴史ならびにそれに付随する他の文化をも合わせて学ぶ。 ③ 実際にその文化を体験実施する(教室で)。 ④ 上記を最終的に論文(字数629＝朝日・天声人語)にまとめ発表する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 文化は体験しなければ分からない。見て体験してそれを文にまとめる。本講座は出席点以上に参加することに3割、論文に4割。 |
| (5)履修の条件 | 日本文化に興味をもつこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|-------|------|-----|
| (6)使用教科書 | ジョアン・ロドリゲス・ツツ | 日本教会史 | 岩波書店 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|----------|--------|---|
| 家庭経営論 | | 青山 理恵子 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>少子・高齢化と、一口に言われるが、家族を取りまく社会環境は急激に変化している。自立した生活者を育成するためには、家庭、社会、政治、経済ひいては、地球環境と無縁ではいられない自己を認識することから始める必要があると思われる。</p> <p>一度しかない人生を、自由に、自立し生きる力を身につけるには、何気なく生活する日常も、その、日常のヒトコマから社会の仕組みを洞察する力を身につけることからはじまると考える。女性史、消費者運動史、衣食住、消費者行政の歴史、現況、消費者法などを幅広く学び、自らの生活設計を立てられる力を養成したい。1年間の終了時には、今年から、年齢制限のなくなった、消費生活アドバイザーの資格取得にチャレンジ出来る力を身につけられればと思う。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>基本的には、講義形式であるが、買い物相談の事例発表や、商品購入のバーチャル体験などのフィールドワークなども取り入れたい。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1、 消費者問題の基礎 消費者問題とは 2、 消費者問題の歴史と現状 日本と海外の比較 3、 商品・サービスの取引・安全・表示を巡る問題 衣・食・住を巡る安全性及び、法的規制 消費者法の概要 4、 消費生活と環境問題・エネルギー 5、 消費者行政と、企業の消費者対応、消費者教育の諸問題 5、 金融・消費者信用と生活設計 7、 暮らしと情報 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>ペーパーテストではなく、講義の半ばで課題を挙げ、最終の講義時間を発表にあて、ディスカッションを行いながら採点をしたい。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------------------------|--|----------|------|
| (6)使用教科書 | 吉田 良子編著 佐々木貴子、藤井 昭子、 森 千恵 共著 | 消費者問題入門(第2版) | 建ぱく社 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 内閣府国民生活局 | ハンドブック消費者 (これは2000年度で発行を止めているものですが参考書としてよいものです。また、ネットでは最新情報を入れているので、差し替えのベースにもなります) | 内閣府国民生活局 | 2000 |
| | 国民生活センター | くらしの豆知識 | 国民生活センター | 2002 |
| | (財) 家計経済研究所 | 現代女性の生活意識と不安 | 政府刊行物 | 2001 |
| | (社) 日本衣料管理協会 | 新版 消費生活論 | 日本衣料管理協会 | 2001 |

* なお参考書はくらしの豆知識以外は必須ではありません。都度、必要なところをピックアップして情報提供します。

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 生活環境論 | | 生井 良一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>我々の日常生活と、それが引き起こす環境問題について考える。そして環境保全の取り組みについても理解を深めたい。</p> <p>現代生活は、多くの物質を消費し、ますます便利なものになってきているが、一方でその生活スタイルが様々な環境問題も引き起こしている。一人一人では気づかないことでも、それが都市全体となれば目に見える影響となって表れてくる。</p> <p>たとえば、生活排水による水質汚染、深刻なごみ問題、車による大気汚染、エネルギーの浪費による温暖化ガスの排出などである。他に、食品添加物や農薬、遺伝子組み替え食品、狂牛病、そして我々の食習慣など食べ物に対して、あるいは生活に入ってくる様々な化学物質に対しての心配もある。水や空気や食べ物は生命の基本であり、しっかり考えてみたい。</p> <p>一方で、環境やバリアフリーに配慮した町づくりについても紹介する。また過去の4大公害についても学び、環境回復の取り組み、現在の環境と経済活動の接点についても考えてみたい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義内容を具体的に理解できるようにいろいろな事例を紹介する。そのためビデオ教材を使用したり、プリントを配布する。質問は大歓迎。</p> <p>なお、参考資料は各テーマごとにそのつど紹介する。</p> |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 現代社会と福祉 I | | 山崎 常雄 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 豊かな社会の繁栄の中であって、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉のサービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明。児童福祉の課題。女性の社会進出と少子化の到来。 2. 基本的人権としての子どもの権利。親権と子どもの人権。 3. 家族・児童福祉の体系。児童福祉法の理念。児童相談所等の機能。 4. 家族・児童福祉の供給と利用。児童福祉施策について。 5. 家族・児童援助の技術と方法（ソーシャルワーク）援助の担い手。 6. 児童育成環境の範囲、施策、整備など。青少年白書の解説。 7. 保育サービスの基本的考え方と現代の保育ニーズ。サービスの課題。 8. 療育サービス、障害のある子どもと学校教育。 9. 児童養護問題と児童養護施設の課題。 10. ひとり親家族支援。ひとり親家族の生活及び社会的位置。支援の現状。 11. 家族・児童福祉サービスの計画化、総合化。児童政策の課題と展望。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|---------|-----|-------|
| (6)使用教科書 | 庄司洋子・松原康雄・山縣文治編集 | 家族・児童福祉 | 有斐閣 | H. 12 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| 現代社会と福祉 I | | 山崎 常雄 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 豊かな社会の繁栄の中にあつて、児童を取り巻く環境は必ずしも良好とは言えない。少子化傾向が進む中、不登校児童・生徒は年々増加し、いじめによる自殺者も後を絶たない。非行も残虐化し、マスコミによって社会問題として大きく報道され、その原因を究明するが根拠は至って希薄である。一方政府は、子育てを支援する施策を「エンゼルプラン」として事業の目標を示しているが、女性就労の増大と核家族化による児童の環境整備も緊急の課題である。保育所待機数の解消や児童虐待も深刻である。児童福祉の視点から、児童福祉のサービス体系を「法と施策」について紹介し、健全な子育て及び支援のあり方について学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式による。内容は理論と共に実践例を取り上げ、問題を日常的に考え、児童理解を深めることを目指す。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 講義概要の説明。児童福祉の課題。女性の社会進出と少子化の到来。 2. 基本的人権としての子どもの権利。親権と子どもの人権。 3. 家族・児童福祉の体系。児童福祉法の理念。児童相談所等の機能。 4. 家族・児童福祉の供給と利用。児童福祉施策について。 5. 家族・児童援助の技術と方法（ソーシャルワーク）援助の担い手。 6. 児童育成環境の範囲、施策、整備など。青少年白書の解説。 7. 保育サービスの基本的考え方と現代の保育ニーズ。サービスの課題。 8. 療育サービス、障害のある子どもと学校教育。 9. 児童養護問題と児童養護施設の課題。 10. ひとり親家族支援。ひとり親家族の生活及び社会的位置。支援の現状。 11. 家族・児童福祉サービスの計画化、総合化。児童政策の課題と展望。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 基本的には筆記試験による。受講学生が少人数の場合は、レポートによる評価方法も考慮したい。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|---------|-----|-------|
| (6)使用教科書 | 庄司洋子・松原康雄・山縣文治編集 | 家族・児童福祉 | 有斐閣 | H. 12 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| 現代社会と福祉Ⅱ | | 山崎 常雄 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であるとの認識をもって学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現状の高齢者問題と高齢者福祉の課題 2. 要介護高齢者の増加と介護問題 3. 高齢者福祉の法制度とその展開 4. 高齢者の生きがいと社会参加、自立と生活環境 5. 高齢者の保護、医療サービス、保健福祉体系とこれからの展開 6. 在宅福祉サービスの提供方法とサービスシステム 7. 高齢者処遇と援助方法 8. 福祉サービスの多様化と新たな提供主体 9. 要援護高齢者に対する保健福祉施策と課題 10. 保健福祉サービスとマンパワー 11. 高齢者保健福祉サービスと介護費用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>基本的には筆記試験による。受講学生が少ない場合は、レポートによる採点方法も考慮したい。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|-------|-----------|-------|
| (6)使用教科書 | 小笠原祐次、橋本泰子、浅野仁編集 | 高齢者福祉 | 有斐閣 | H. 14 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 責任編集 東條光雄、冷水豊 | 老人福祉論 | メヂカルフレンド社 | H. 12 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| 現代社会と福祉Ⅱ | | 山崎 常雄 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | わが国の高齢者問題は、世界一の長寿国であると同時に総人口に占める65歳以上の高齢者の割合が2015年には4人に1人になるという他に例をみない高齢化の速さにある。この人口構成は様々な分野において問題化し、労働人口不足を始め、年金、介護、医療、生きがい等避けて通ることのできない重要な課題である。誰もが高齢者問題を、健康で生きがいのある生活を送れることは幸せである。一方要介護者の問題も年を追うごとに様々な分野で増加し、その対応が追いつかないのが現状である。老後の問題は身近な家族だけのもの、或いは他人事という考えから、いずれ自分たちの問題であるとの認識をもって学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式による。内容は理論と共に新聞などによる実践例をとりあげ、高齢者をめぐる日常的報道を念頭に置き問題意識をもち理解を深める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 現状の高齢者問題と高齢者福祉の課題 2. 要介護高齢者の増加と介護問題 3. 高齢者福祉の法制度とその展開 4. 高齢者の生きがいと社会参加、自立と生活環境 5. 高齢者の保護、医療サービス、保健福祉体系とこれからの展開 6. 在宅福祉サービスの提供方法とサービスシステム 7. 高齢者処遇と援助方法 8. 福祉サービスの多様化と新たな提供主体 9. 要援護高齢者に対する保健福祉施策と課題 10. 保健福祉サービスとマンパワー 11. 高齢者保健福祉サービスと介護費用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>基本的には筆記試験による。受講学生が少ない場合は、レポートによる採点方法も考慮したい。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|-------|-----------|-------|
| (6)使用教科書 | 小笠原祐次、橋本泰子、浅野仁編集 | 高齢者福祉 | 有斐閣 | H. 14 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 責任編集 東條光雄、冷水豊 | 老人福祉論 | メヂカルフレンド社 | H. 12 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|----------|--------|---|
| 簿記論Ⅱ | | 松田 真由美 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 簿記とは、企業がその経済活動を測定、記録、計算そして報告するための手段であるが、本科目では実例を挙げながらさまざまな取引の処理、帳簿への記帳、そして決算について学ぶ。 また、簿記検定の問題を取り上げることで、より理解を深める。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸取引の処理 2. 株式会社会計 3. 本支店会計 4. 帳簿組織 5. 決算 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| | 定期試験 |
| (5)履修の条件 | 日商簿記検定3級程度の知識があること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 伊藤 邦雄 | NEW CONCEPT2級商業簿記 | 税務経理協会 | 2002 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| 財務諸表論 | | 井上行忠 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 会計理論は簿記によって具体化し、簿記は会計理論の助けを得て機能する。会計は、企業の経営活動を貨幣単位で計算し、報告することに妥当性を与えるための基準を提供する会計（理論）と、その基準に従って経営活動を性格に記録し、報告するための技術である会計（簿記）に分けることが出来る。したがって、会計は簿記と理論を共に理解することにより、会計の全体を理解したことになる。ここに本講義は、会計学（理論）に制約を与える会計法令（商法・証券取引法・企業会計原則・法人税等）を中心に会計学の基本的事項を学習する。 |
| (2)授業の方法 | 理論の解説を中心に行い、計算問題の反復により、理論と簿記を結びつける。 |
| (3)授業の体系 | 授業体型は、前半は、企業会計の意義・目的（会計公準論・会計主体論・商法会計・証券取引法会計等）を中心に学習する。後半は、一般原則（真実性の原則、正規の簿記の原則、資本取引・損益取引区別の原則、明瞭制の原則、継続性の原則、保守主義の原則、単一性の原則等）を中心に学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験等 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|------------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 菊谷正人 | ゼミナール財務諸表論 | 中央経済社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|------------|-------|------|
| 上級簿記 | 中級 | 前川 道生 | |
| 秋学期 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>簿記とは、小規模な個人商店から大企業に至るまで、日々行われている活動（営業活動）を記録・計算・整理するために利用されているツール（道具）である。</p> <p>本講義では、株式会社を対象とした簿記（簿記2級）を中心に進めていくが、基本となる知識（簿記3級）を完全に理解していることが必要である。簿記3級の内容も簿記2級の内容も基本的な処理は全く同じである。違うのは、扱う取引の種類・処理方法が増えたということだけである。これまでに学んだ知識と新しく学んだ知識との違いをはっきり認識しながら、勉学に専念してもらいたい。</p> <p>資格としては、日本商工会議所の簿記2級の合格を目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。</p> <p>また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>簿記2級の範囲が中心となる。各項目について、詳しく解説していく。（簿記2級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸取引の処理 <ol style="list-style-type: none"> (1)現金・当座預金，有価証券，手形など (2)特殊商品売買（未着商品，委託販売，割賦販売，試用販売など） (3)資本（法定準備金），負債（社債，引当金），その他 2. 本支店会計 3. 試算表・精算表 4. 貸借対照表・損益計算書 5. 伝票式会計，特殊仕訳帳 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および小テストにより評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>日商簿記検定3級もしくは同程度の学力があることが望ましい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 税務経理協会編 | 日商簿記検定 2級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | 最新 |
| | | 簿記検定ワークブック 1級 会計 | 英光社 | 最新 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|------------|-----|------|
| 上級簿記 | 前川 道生 | | |
| 秋学期 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>簿記は、小規模な個人商店から大企業まで利用されている記録・計算・整理のシステムである。本講義では、取引（営業活動）の範囲を拡大した株式会社を対象とした簿記を中心に進めていく。個人商店を対象とした簿記（簿記3級）も大企業を対象とした簿記（簿記2級）も基本的な処理は全く同じである。違うのは、扱う取引の種類・処理方法が増えたということだけである。</p> <p>ここでは、簿記Iで習得した知識を確実にする（より完全なものとする）とともに、より高度な知識を身につけていく。</p> <p>具体的には、初めに春学期の復習、そして簿記2級の範囲に入っていく予定である。資格としては、全国経理学校協会の簿記2級の合格を目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。</p> <p>また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>簿記3級の基礎固めが主となるが、以下の項目についても、簡単に触れていく。</p> <p>（簿記2級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸取引の処理 <ol style="list-style-type: none"> (1)現金・当座預金，有価証券，手形など (2)特殊商品売買（未着商品，委託販売，割賦販売，試用販売など） (3)資本（法定準備金），負債（社債，引当金），その他 2. 本支店会計 3. 試算表・精算表 4. 貸借対照表・損益計算書 5. 伝票式会計，特殊仕訳帳 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および小テストにより評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | | 簿記検定ワークブック 2級 | 英光社 | 最新 |
| | 税務経理協会編 | 日商簿記検定 2級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | 最新 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|------|-----|
| 原価計算 | | 井上行忠 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける原価計算を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記範囲を学習する。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、標準原価計算、直接原価計算、個別原価計算、総合原価計算等を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 建設業会計の科目とともに履修しなければならない。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | | 日商簿記検定2級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| 建設業会計 | | 井上行忠 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 複式簿記簿記の基本原則である取引の範囲・取引の八要素（費用・収益・資産・負債・資本）、の認識、及び会計処理（仕訳）を学び、製造業会計にをける工業簿記（建設業会計）の範囲を中心に問題集等を使用して、簿記の基本的な技術を習得する。日商簿記検定2級工業簿記の範囲を学習する。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、費目別計算、個別原価計算、製造原価報告書、部門別原価計算等を中心に授業を行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| | 出席状況・定期試験等による。 |
| (5)履修の条件 | 原価計算の科目とともに履修しなければならない。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | | 日商簿記検定2級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計 I | | 町田耕一 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>情報社会での会計は社外の利害関係者に意思決定情報を開示するものです。この情報は会計情報システム(AIS)によって処理されます。会計情報は企業の経済活動の取引に対応した入力データの処理により生成されます。</p> <p>入力作業は誰でもできますが、正しいデータを作る検証可能性の知識を学びます。また、情報とは目的適合性であり、この情報の意味を学びながら、データ作成をします。最初の授業の時に、環境設定を行います。初歩的なことから段階的に学習します。休むと、操作できなくなるので、休まないこと。休まなければ、誰でも楽しく学習できます。</p> |
| (2)授業の方法 | コンピュータ実習の授業です。データ作成の Excel、仕訳学習の CAI システム、会計システムの実務実習として小番頭ソフトを利用します。 |
| (3)授業の体系 | <p>次のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.会計システムの体系 メインシステムと各種のサブシステム 2.CAI システムにより、仕訳の体系 3.会計システム(小番頭)により、会計サイクルによる統制 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>毎行行う CAI 簿記システムの成績記録(毎回試験があります) 会計システムの最終回の財務諸表出力結果</p> |
| (5)履修の条件 | 簿記初級の知識があること。コンピュータの台数による人数制限があります。初回、授業時の抽選で受講できます。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 町田耕一 | コンピュータ簿記会計 | 創成社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計 I | | 町田耕一 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>情報社会での会計は社外の利害関係者に意思決定情報を開示するものです。この情報は会計情報システム(AIS)によって処理されます。会計情報は企業の経済活動の取引に対応した入力データの処理により生成されます。</p> <p>入力作業は誰でもできますが、正しいデータを作る検証可能性の知識を学びます。また、情報とは目的適合性であり、この情報の意味を学びながら、データ作成をします。最初の授業の時に、環境設定を行います。初歩的なことから段階的に学習します。休むと、操作できなくなるので、休まないこと。休まなければ、誰でも楽しく学習できます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>コンピュータ実習の授業です。データ作成の Excel、仕訳学習の CAI システム、会計システムの実務実習として小番頭ソフトを利用します。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>次のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1.会計システムの体系 メインシステムと各種のサブシステム 2.CAI システムにより、仕訳の体系 3.会計システム(小番頭)により、会計サイクルによる統制 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>毎行行う CAI 簿記システムの成績記録(毎回試験があります) 会計システムの最終回の財務諸表出力結果</p> |
| (5)履修の条件 | <p>簿記初級の知識があること。コンピュータの台数による人数制限があります。初回、授業時の抽選で受講できます。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 町田耕一 | コンピュータ簿記会計 | 創成社 | 2000 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計 I | | 大塚俊仁 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、商業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います。 |
| (2)授業の方法 | 講義及びパソコンを使用した実習 |
| (3)授業の体系 | 1. 会計ソフトの概要及び操作 2. Excelを使用し、給与計算及び減価償却計算のシステム化 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の実習結果（印刷物）により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 日商簿記3級程度の知識 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|---------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会パソコン財務会計主任者試験実施小委員会 | パソコン財務会計主任者試験ガイドブック | ローカス | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計 I | | 大塚俊仁 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、商業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います。 |
| (2)授業の方法 | 講義及びパソコンを使用した実習 |
| (3)授業の体系 | 1. 会計ソフトの概要及び操作 2. Excelを使用し、給与計算及び減価償却計算のシステム化 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の実習結果（印刷物）により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 日商簿記3級程度の知識 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|---------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会パソコン財務会計主任者試験実施小委員会 | パソコン財務会計主任者試験ガイドブック | ローカス | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計Ⅱ | | 町田耕一 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>会計情報は社外の利害関係者と経営管理者との意思決定に役立ちます。この授業は後者の管理会計に主眼をおきます。原価情報は効率的な組織形成に不可欠です。財務会計情報も経営意思決定に利用できる技法が多々あります。</p> <p>原価計算の内部取引の入力を学習します。そして、会計システム(小番頭)を利用して製造原価報告書を出力します。また、財務情報から、利益管理、資金管理をする技法を、表計算ソフトを利用して学習します。最初の授業の時に、環境設定を行います。初歩的なことから段階的に学習します。休むと、操作できなくなるので、休まないこと。休まなければ、誰でも楽しく学習できます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>コンピュータ実習の授業です。データ作成の Excel、仕訳学習の CAI システム、会計システムの実務実習として小番頭ソフトを利用します。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>次のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CAI システムにより、原価計算の仕訳体系 2. 会計システム(小番頭)による製造原価報告書作成 3. Excel による管理会計情報の作成(シラバスの課題後に学習) |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>毎回行う CAI 簿記システムの成績記録(毎回試験があります) 会計システムの最終回の製造原価報告書出力結果</p> |
| (5)履修の条件 | <p>簿記初級の知識があること。コンピュータの台数による人数制限があります。初回、授業時の抽選で受講できます。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------|-----|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 町田耕一・藤沼守利 | 管理会計要論 | 創成社 | 1998 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計Ⅱ | | 町田耕一 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>会計情報は社外の利害関係者と経営管理者との意思決定に役立ちます。この授業は後者の管理会計に主眼をおきます。原価情報は効率的な組織形成に不可欠です。財務会計情報も経営意思決定に利用できる技法が多々あります。</p> <p>原価計算の内部取引の入力を学習します。そして、会計システム(小番頭)を利用して製造原価報告書を出力します。また、財務情報から、利益管理、資金管理をする技法を、表計算ソフトを利用して学習します。最初の授業の時に、環境設定を行います。初歩的なことから段階的に学習します。休むと、操作できなくなるので、休まないこと。休まなければ、誰でも楽しく学習できます。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>コンピュータ実習の授業です。データ作成の Excel、仕訳学習の CAI システム、会計システムの実務実習として小番頭ソフトを利用します。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>次のことを学びます。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. CAI システムにより、原価計算の仕訳体系 2. 会計システム(小番頭)による製造原価報告書作成 3. Excel による管理会計情報の作成(シラバスの課題後に学習) |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>毎回行う CAI 簿記システムの成績記録(毎回試験があります)</p> <p>会計システムの最終回の製造原価報告書出力結果</p> |
| (5)履修の条件 | <p>簿記初級の知識があること。コンピュータの台数による人数制限があります。初回、授業時の抽選で受講できます。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------|-----|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 町田耕一・藤沼守利 | 管理会計要論 | 創成社 | 1998 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計Ⅱ | | 大塚俊仁 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、製造業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います。 |
| (2)授業の方法 | 講義及びパソコンを使用した実習 |
| (3)授業の体系 | 1. 会計ソフトの概要及び操作 2. Excelを使用し、給与計算及び減価償却計算のシステム化 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の実習結果（印刷物）により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 日商簿記3級程度の知識 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|---------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会パソコン財務会計主任者試験実施小委員会 | パソコン財務会計主任者試験ガイドブック | ローカス | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|-----|
| コンピュータ会計Ⅱ | | 大塚俊仁 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の経理業務においてもOA化する事により、転記や集計ミスがなくなり時間の短縮になる等、数多くのメリットがあります。授業内容としては、製造業における財務諸表の作成を目標に、いかに効率よく利用者の目的にあったコンピュータ処理を行えるかという利用者の視点に立脚した利用技術の習得を中心に行います。 |
| (2)授業の方法 | 講義及びパソコンを使用した実習 |
| (3)授業の体系 | 1. 会計ソフトの概要及び操作 2. Excelを使用し、給与計算及び減価償却計算のシステム化 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の実習結果（印刷物）により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 日商簿記3級程度の知識 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--|---------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 日本パーソナルコンピュータソフトウェア協会パソコン財務会計主任者試験実施小委員会 | パソコン財務会計主任者試験ガイドブック | ローカス | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|---------|------|-----|
| パソコン財務会計 I | | 大塚俊仁 | |
| 春学期 | 80分×1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の財務業務をシステム化することにより、作業のスピード化や効率化等のメリットがあります。本講座では、パソコンを使用し、財務諸表を元に税務書類（申告書等）の作成及び経営分析を行います |
| (2)授業の方法 | 講義及びパソコンを使用した実習 |
| (3)授業の体系 | 1. 所得税の申告書の作成。 2. E x c e lを使用した、経営分析。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の実習結果（印刷物）により評価する |
| (5)履修の条件 | 日商簿記3級程度及びE x c e lの基本的な知識 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|---------|------|-----|
| パソコン財務会計Ⅱ | | 大塚俊仁 | |
| 秋学期 | 80分×1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 今日の情報社会において、パソコンの役割はビジネスツールとしてどんどん広がっています。会社の財務業務をシステム化することにより、作業のスピード化や効率化等のメリットがあります。本講座では、パソコンを使用し、財務諸表を元に税務書類（申告書等）の作成及び経営分析を行います |
| (2)授業の方法 | 講義及びパソコンを使用した実習 |
| (3)授業の体系 | 1. 法人税の申告書の作成。 2. E x c e lを使用した、経営分析。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の実習結果（印刷物）により評価する |
| (5)履修の条件 | 日商簿記3級程度及びE x c e lの基本的な知識 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|-----|
| 会計学 I | | 中原章吉 | |
| 春学期 | 80分×週1 コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 会計に関する基本的な内容を明らかにする科目です。企業会計の制度、企業会計のルール、期間損益の認識と測定、資産、負債、資本などを中心に説明します。 |
| (2)授業の方法 | 講義 |
| (3)授業の体系 | I 企業会計制度 2 会計原則、 3 会計法規、 会計主体論 2 期間損益 3 資産 4 負債 5 資本 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 ペーパー・テストおよびレポート |
| (5)履修の条件 | 簿記の基礎知識のあることがのぞましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|---------|-----|-----------|
| (6)使用教科書 | 中原章吉 | 企業会計の基礎 | 創成社 | 1999 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 中原章吉 | 簿記の基礎構造 | 創成社 | 2002 き |
| | | | | |
| | | | | |

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|-------------------|
| 第 1 回授業 | 企業会計制度の概要、展開、前提 |
| 第 2 回授業 | 証券取引法会計、商法会計、会計原則 |
| 第 3 回授業 | 企業主体論 |
| 第 4 回授業 | 発生主義会計 |
| 第 5 回授業 | 期間損益の測定と認識1 |
| 第 6 回授業 | 期間損益の測定と認識2 |
| 第 7 回授業 | 資産1 |
| 第 8 回授業 | 資産2 |
| 第 9 回授業 | 資産3 |
| 第 10 回授業 | 負債1 |
| 第 11 回授業 | 負債2 |
| 第 12 回授業 | 資本1 |
| 第 13 回授業 | 資本2 |

| | | | |
|------|----------|---------|---|
| 会計学Ⅱ | | 長谷川 美千留 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 会計学Ⅰにおいて学習したことを基礎として、それらを確認・復習しながら、財務諸表についての理解を深める。 |
| (2)授業の方法 | 講義 |
| (3)授業の体系 | ①会計学Ⅰの復習 ②財務諸表の基礎 ③財務諸表の構成要素 ④個別企業の財務諸表 ⑤財務諸表会計の展開 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 ペーパーテスト |
| (5)履修の条件 | 会計学Ⅰを履修していること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|---------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 中原章吉 | 企業会計の基礎 | 創成社 | 1999 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|------------|-------|------|
| 簿記実務 I | | 前川 道生 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>企業には、財務部（総務部）といった日々の取引を統括する部署が必ずあり、そのような取引を集計することによって、財務諸表という形で外部に公表する。これら取引の処理に用いられているものが、簿記である。簿記を学ぶことによって、企業内で行われている取引の概要の一端を理解する力をつけることが、この講義の目的である。</p> <p>まず初めに、個人商店を対象範囲とする簿記3級レベルの実力をつけていくことを目指す。その後は、株式会社を対象範囲とする簿記2級につなげるための知識（簿記2級のための導入部分）を習得することを目指す。</p> <p>資格としては、日本商工会議所の簿記3級の合格を目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。</p> <p>また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>（簿記3級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 簿記の概要 意義、目的、貸借対照表と損益計算書の関係、取引の要素など 2. 諸取引の処理 現金・預金、商品売買、手形、有価証券、固定資産、その他の債権・債務など 3. 試算表の作成 4. 決算 5. 精算表の作成 6. 財務諸表の作成 7. 補助簿、帳簿の締切り |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および小テストにより評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 山本孝夫, 前川邦生編著 | 例解演習 基本簿記 (第2版) | 創成社 | 2002 |
| | 税務経理協会編 | 日商簿記検定 3級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | 最新 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|------------|-------|------|
| 簿記実務Ⅱ | | 前川 道生 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>企業内で行われている実務（会計処理）を理解するための最低限の知識を取得することを目標として、講義を進めていく。最低限の知識とは、日常取引の処理（記録・計算・整理）および取引に用いられる用語（勘定科目）の名称・内容を理解することである。</p> <p>簿記実務Ⅰの概要で説明したとおり、簿記は企業で日常の営業活動を会計的に記録し、集計するためのツール（道具）である。ここでは、簿記実務Ⅰで習得した知識をもとに、より高度な知識を身につけていく。</p> <p>具体的には、初めに春学期の復習、そして簿記2級の範囲に入っていく予定である。資格としては、全国経理学校協会の簿記2級の合格を目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>毎回講義を行い、その後練習問題を解くことで理解を深める。</p> <p>また、必要に応じて確認テストを行う。電卓必携。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>簿記3級の基礎固めが主となるが、以下の項目についても、簡単に触れていく。</p> <p>（簿記2級の範囲）</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 諸取引の処理 <ol style="list-style-type: none"> (1)現金・当座預金，有価証券，手形など (2)特殊商品売買（未着商品，委託販売，割賦販売，試用販売など） (3)資本（法定準備金），負債（社債，引当金），その他 2. 本支店会計 3. 試算表・精算表 4. 貸借対照表・損益計算書 5. 伝票式会計，特殊仕訳帳 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験および小テストにより評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | | 簿記検定ワークブック 2級 | 英光社 | 最新 |
| | 税務経理協会編 | 日商簿記検定 2級出題傾向と対策 | 税務経理協会 | 最新 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 産業構造論 | | 古賀 義弘 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経済の展開過程は、換言すれば産業の構造変化過程でもある。一般論として言えば、資本主義の発展を主導してきた産業は、軽工業から重工業そして重化学工業へと変化していった。また第一次産業から第二次産業、第三次産業へと移行するとも言われている。しかし現代では新しい産業も生まれており分類それ自体が困難ともなっている。そこで、本講義では、産業構造の展開過程を歴史的に明らかにするとともに、現代の特徴を述べる。特に日本の戦後の特徴、70年代以降に焦点を当てる予定である。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心として行う。 |
| (3)授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> 1 資本主義の成立・発展と産業 2 日本における産業構造の変化 3 高度経済成長と産業構造の高度化 4 70年代以降の構造変化 5 欧米及びアジア諸国の産業構造 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>レポートの提出を求め、評価点に加える。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 講義時に指示する | | | |
| (7)使用参考書 | 講義時に指示する | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| マーケティング論 I | | 小泉 徹 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 資本、労働コストの上昇による激しいコスト・プッシュ、景気後退による消費水準の低下、販売促進戦術によるプロダクト・ライフ・サイクルの短縮といった企業環境の悪化の中で、企業の需要創造、市場拡大努力としてのマーケティング戦略・戦術への関心は顕著なものとなってきた。この講義では、マーケティングの概念、マーケティング視点での物の見方、考え方について解説し、非営利組織のマーケティングについても触れていきたい。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心である。また、理解を促進するためにビデオ教材を適時使用する予定である。 |
| (3)授業の体系 | I マーケティングとは何か 1.アメリカにおけるマーケティングの生成・発展 2.マーケティングの定義 II マーケティング・マネジメント 1.マーケティング・マネジメントの課題 2.市場 3.マーケティング・ミックス |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績が中心であるが、適時行う小テストの成績も加味し、受講態度も含めて総合的に判断する。 |
| (5)履修の条件 | 単位だけが目的ではなく、知識を吸収しようとする意欲がある学生以外は履修を御遠慮願う。マーケティング論IIも履修することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------|--------------------------|---------|-------|
| (6)使用教科書 | 木綿良行・懸田豊・三村優美子[著] | 『テキストブック・現代マーケティング論』[新版] | 有斐閣ブックス | 1999年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|---|
| マーケティング論Ⅱ | | 小泉 徹 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 資本、労働コストの上昇による激しいコスト・プッシュ、景気後退による消費水準の低下、販売促進戦術によるプロダクト・ライフ・サイクルの短縮といった企業環境の悪化の中で、企業の需要創造、市場拡大努力としてのマーケティング戦略・戦術への関心は顕著なものとなってきた。この講義ではマーケティング論Ⅰに引き続いて、具体的なマーケティング政策について解説していく。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心であるが、理解を促進するためにビデオ教材を適時使用する予定である。 |
| (3)授業の体系 | I 製品政策 II 価格政策 III 販売促進政策 IV マーケティング・チャネル政策 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績が中心であるが、適時行う小テストの成績も加味し、受講態度も含めて総合的に判断する。 |
| (5)履修の条件 | 単位だけが目的ではなく、知識を吸収しようとする意欲のある学生以外は履修を御遠慮願う。マーケティング論Ⅰを履修しておくこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------|-------------------------|---------|-------|
| (6)使用教科書 | 木綿良行・懸田豊・三村優美子[著] | 『テキストブック現代マーケティング論』[新版] | 有斐閣ブックス | 1999年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|------------|------|------|
| 組織行動論 | | 柴崎孝夫 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本講義では、企業等のように「ある目的をもった人の集合体を組織として捉え、組織内に生じる諸現象」を理解することを目的としている。経営組織やその中での人間行動に関する理論を学ぶことと、経営組織内の現象を見る視点を身につけることを目的としている。</p> <p>組織行動は個を基本とした心理学、集団に焦点を合わせる社会学・社会心理学、そして組織全体の価値観を研究する文化人類学、もちろん経営管理論などの学問の成果を体系づけられた学際的問題領域である。本講義では、組織における個人や集団の行動を様々な側面から考察していきたい。</p> |
| (2)授業の方法 | 原則として講義形式をとっていく。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 組織と組織行動 2 個人行動 3 組織行動 4 コミュニケーション論 5 モティベーション論 6 リーダーシップ論 7 組織と個人の統合 8 経営組織の革新と組織行動 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、小テストの成績、レポートの状況を勘案して評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 経営組織論 I・II を合わせて履修することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|---------|------------|------|------|
| 経営組織論 I | | 柴崎孝夫 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>本講義では、企業経営を中心として経営組織のもつ意義や役割などについて学び、またマクロ的な視点から経営組織構造を把握していきたい。そして、実際の企業経営の事例を参照しながら、基本的な専門知識と実践的なものの考え方を身につけることを目標としたい。</p> <p>経営組織論は、企業経営の規模が拡大し経営活動が複雑になるにつれて、その重要性が増し、理論的にも実証的にも盛んに研究されている。そこで、このことをふまえて本講義では、企業の経営目的を達成するために経営組織がどのように編成され、それがどのように機能するかということを理論的・実証的に分析する。経営組織論は関連科目が幅広い。心理学、社会学、組織行動論、経営戦略論、経営管理論等である。</p> |
| (2)授業の方法 | 原則として講義形式をとっていく。講義内容の理解を深めるために、テキスト、参考文献と共にプリントを配布して教材として使用していく。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 現代企業経営における経営組織の持つ意義について。 2 経営組織の概念、目的、役割について。 3 マクロ的視点の経営組織の基本形態について。 4 組織構造の諸形態について。 5 動的な経営組織の編成について。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、小テストの成績、レポートの状況を勘案して評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 経営組織論 I と経営組織論 II を合わせて履修することが望ましい。また、組織行動論とは密接な関連科目であるため、合わせて履修してほしい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|----------------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 高橋正泰・山口善昭他著 | 経営組織論の基礎 | 中央経済社 | 1998 |
| | 小栗崇資他著 | 日本のビックビジネス本田技研・三菱自動車 | 大月書店 | 1997 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|------------|------|------|
| 経営組織論 II | | 柴崎孝夫 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 本講義では、経営組織論 I をふまえて、さらに経営組織論の理解を深めていきたい。企業経営の発展にともない、経営組織の変革が行われてきた。その中で、経営組織論の研究は理論的にも実証的にも進められ、その重要性は増している。そこで本講義では、経営組織論の発展を企業の実例を示しながら、その理論の系譜を学ぶ。また、今日の企業経営で取り込まれている問題にも言及して、実践的なものの考え方を深めることを目標としたい。 |
| (2)授業の方法 | 原則として講義形式をとっていく。講義内容の理解を深めるために、テキスト、参考文献と共にプリントを配布して教材として使用していく。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 経営組織論の生成と発展。 2 科学的管理法から伝統的組織論。 3 人間関係論の組織論。 4 近代的組織論。 5 行動科学的組織論。 6 コンテンジェンシー理論。 7 経営組織の変革。 8 経営戦略と経営組織。 9 除法技術の発展と経営組織。 10 組織と「環境」。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、小テストの成績、レポートの状況を勘案して評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 経営組織論 I と経営組織論 II を合わせて履修することが望ましい。また、組織行動論とは密接な関連科目であるため、合わせて履修してほしい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|-----------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 岡本武昭他編 | 現代組織の基本問題 | 税務経理協会 | 1997 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|-----|
| 経営管理論 | | 加藤 敦宣 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 経営管理論では経営管理の歴史について、学ぶことを目的としています。経営管理は20世紀初頭の工場管理という現場の必要性からスタートし、その後、企業制度の成長と歩調を合わせて、飛躍的な展開を見せます。今日では経営管理の対象は、工場という小さな範囲を超え、企業全般に渡っています。経営管理のあり方は、時代の流れも敏感に反映します。企業が成熟することで、働く人たちにも変化が生じます。経営管理における歴史展開を勉強することは、経営学の世界観を理解することに繋がることでしょう。そこで本講では、そのような経営管理における見方や考え方について、自らが考えられる能力を養うことを、学習到達目標の1つとしています。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式です。 |
| (3)授業の体系 | 講義体系は以下の通りです。 1. 科学的管理法 2. ファヨールの管理論 3. 人間関係論 4. 行動科学 5. 経営組織論 6. 意思決定論 7. 条件適応理論 8. 経営戦略論 9. 組織文化論 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テスト（参照不可）を基準とし、これに授業参面の度合いを加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------|------|------|
| (6)使用教科書 | 占部都美 | 新訂 経営管理論 | 白桃書房 | 1997 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|----------|------|---|
| マーケティング・リサーチ | | 小泉 徹 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | マーケティングが我国に導入されてから半世紀が経過し、その地位は社会において確立されるようになってきた。マーケティング活動を展開するにあたって、過去の慣例や勘に頼ることなく、データと論理に基づいた科学的手法が重要になってきている。適確な情報なくして適確なマーケティング活動は実行できず、情報なしのマーケティングは無謀であり、マーケティングに寄与しないマーケティング・リサーチは無意味である。この講義では、マーケティングとマーケティング・リサーチの関係を整理し、マーケティング・リサーチの理論と方法を解説していくものである。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心であるが、理解を促進するためにビデオ教材を使用する。また、受講生への課題として実際にリサーチを実施してもらう予定である。 |
| (3)授業の体系 | I マーケティング・リサーチの方法論 II マーケティング・リサーチの計画 III データ収集法 IV データ解析 V 統計処理の基礎技法 VI マーケティング・リサーチの活用 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績が中心であるが、適時実施する小テスト、課題の提出、提出課題の内容、受講態度などを含めて総合的に判断する。 |
| (5)履修の条件 | マーケティング論 I、II を履修すること。単位だけが目的の学生は御遠慮願う。出席だけしていても何も得られないだろう。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------|----------------------|-------------|-------|
| (6)使用教科書 | 浅野熙彦・上田隆穂[著] | 『マーケティング&リサーチ通論』 | 講談社サイエンスフィク | 2000年 |
| (7)使用参考書 | 木綿良行・懸田豊・三村優美子[著] | 『テキストブック・現代マーケティング論』 | 有斐閣ブックス | 1999年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|-----------|-------|-----|
| 経営史 | | 小沢 勝之 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 現代の企業経営の実際や課題を理解するために、どのようにして経営は発展してきたのかを実際の企業の発展の軌跡を比較しながら明らかにします。決して「古いもの」だけをやる講義でも、単なる理論や学説を紹介する講義でもありません。実際に行われてきた企業間の競争のケースや、革新的な企業家の活躍の姿とその背景、私達が日頃よく利用しているコンビニエンス・ストアや百貨店などの成立過程などを事例を使ってわかりやすく説明し、企業経営が具体的な人間の活躍によって発展してきたものであることを明らかにします。 |
| (2)授業の方法 | 実際の企業の事例（ケース）の紹介を中心にすすめられますので、ノートを取り方を工夫して下さい。 |
| (3)授業の体系 | 最初に経営史のねらいや方法を理解するために、フォード自動車と GM 自動車の競争のケースをとり上げます。 次に、日本企業の特徴を理解するために、日本の企業家と欧米の企業家の違いとその背景について簡単に解説します。 次に、事業部制組織の形成過程を数社の比較から明らかにしていきます。 最後に、コンビニエンス・ストアがどのように生まれ、どのように発展してきたかを、セブンイレブンをケース紹介しながら明らかにします。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末の試験で評価します。いくつかのケースを前提としていますので、ノートなどの持込みを許可します。 |
| (5)履修の条件 | 経営学関係の授業を多く履修している方が理解が深まると思います。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|--------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | 山下 幸夫 編 | 経営史—欧米 | 日本評論社 | 1998 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 小沢 勝之 | デュボン経営史 | 日本評論社 | 1986 |
| | 川辺 信雄 | セブン—イレブンの経営史 | 有斐閣 | 1994 |
| | | | | |

| | | | |
|------|-----------|-------|-----|
| 商品企画 | | 橋本 孝三 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 商品企画とは、簡単に言うと、「財・サービスについてのアイデアの具現化」である。旅行商品に焦点を当てて、一般商品(財)との差異に論及しつつ、旅行商品の特性、旅行商品の企画、マーケティング、素材と品質、ブランド、価格・原価・利益、販売方法、販売促進、顧客管理・リピーター対策などについて、「どうしたら、より売れる良い商品となり、より売れ続けることができるか」を、詳細に学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義方式。 但し、適切な教科書・参考書がないため、毎授業ごとに出席確認と講義の設問を兼ねた「授業レジメ」を配布する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 商品企画 2. マーケティングと経営戦略 3. 有形商品(財)と無形商品(サービス)との差異 4. 航空運送業と旅行業 5. 旅行商品の素材と品質 6. 旅行商品のブランド 7. 旅行商品の価格と需給関係 8. 旅行商品の原価・収益・利益 9. 旅行のデスティネーション 10. 旅行の個別論 11. 旅行商品の販売・販売促進 12. ダイレクト・マーケティング 13. 顧客管理・リピーター対策 14. 商品企画と販売促進(総括) |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | なし | | | |
| (7)使用参考書 | なし | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|--------|-----|
| 広報・宣伝企画 | | 柴生田 俊一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>我々は日々、新聞やテレビの報道や広告などを通じて、企業経営や新商品についての様々な情報に接している。長引く不況、モノ余りの時代、不祥事件によりいとも簡単に、ブランドが崩壊し、企業が倒産していく。人間と同じく、企業も商品も生き物である。企業にとって、社会的に存続し、商品を買ってもらうためには、コミュニケーション活動としての広報（Public Relations）と宣伝（=広告、Advertisement）が欠かせないのである。</p> <p>企業の広報・宣伝活動の意義や役割を学び、そのコミュニケーション、メディア、マネジメント、マーケティング活動について学習する。また、事例研究や演習を行い、企業人としての心構えや実践的理解を涵養する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1、コミュニケーション（情報発信者、情報媒体、情報受信者）の構造 2、メディア（4媒体、インターネットなど）の性格、潮流 3、広報とは、マネジメントとは。 4、広報の企画（事例研究、演習） 5、これからの広報（新メディア、企業倫理、危機管理など） 6、宣伝とは、マーケティングとは。 7、宣伝の企画（事例研究、演習） 8、これからの宣伝（新メディア、ブランディング、IMCなど） |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>演習、期末レポート</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|---|
| 経営情報論 I | | 坂口寿一 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 経営における情報技術（IT）の活用度は日増しに高まっており、ITを制することが企業生き残りの条件とも言われている。また、企業の情報システムに対する考え方や取り組み方も大きく変化しつつあり、その要因になっているのがインターネットを中心とするコンピュータネットワークである。本講では、企業や社会組織における各種情報システムの概要について今昔併せて学びながら、企業のITへの取り組み姿勢やIT活用の実態を理解する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、一部パソコンを使用した授業も考えている。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業組織と経営活動および情報化戦略 2. 企業の情報システム 3. マーケティングやCS向上の為の情報システム 4. オープンネットワークを活用したシステム 5. ビジネス分野における情報システムの活用 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 学期末(定期)試験で評価するが、途中で課すレポートも加味する。 |
| (5)履修の条件 | 特に無し。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------------|------------------------------------|-----------------|------------|
| (6)使用教科書 | 財)日本情報処理開発協会 監修 | 基本情報技術者テキストNo6「情報化と経営」 (2002年版) | コンピュータ・ エージ社 | 2002 /3 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|----------|------|---|
| 経営情報論Ⅱ | | 坂口寿一 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>社会の情報化やネットワーク化が進めば進むほど、関連する法規を理解したり、システムやデータの標準化を考えたり、リスクやセキュリティの対策をしたりすることが重要になってくる。本講では、関連法規と標準化、情報セキュリティとリスク分析などについて学ぶ。なお、「経営情報論Ⅰ」からの継続で、企業におけるエンジニアリングシステムの活用の実際や、IT活用の現状についても学習する。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>講義形式で授業を進めるが、一部パソコンを使用した授業も考えている。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. エンジニアリング分野の情報システムの活用 2. 情報化関連法規 3. 情報化に関する標準化 4. 情報セキュリティ 5. リスク分析 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>学期末(定期)試験で評価するが、途中で課すレポートも加味する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>特に無し。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------------|------------------------------------|-----------------|------------|
| (6)使用教科書 | 財)日本情報処理開発協会 監修 | 基本情報技術者テキストNo6「情報化と経営」 (2002年版) | コンピュータ・ エージ社 | 2002 /3 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|------|-----|
| 経営情報論Ⅱ | | 南 憲一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>企業経営において求められる分析手法の代表的な二つの体系，IE (Industrial Engineering)，OR (Operations Research)の基礎的な技法について，基本情報技術者の試験範囲に従って学習を進める。</p> <p>IE，ORともに数学的な理論が含まれるが，コンピュータを用いた処理を合わせて行いながら，具体的な分析手法を身につけられるように授業を進めていきたい。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用しながら講義を進めていくので，ノートパソコンを必ず持参すること。 |
| (3)授業の体系 | <p>IE 分析手法</p> <p>品質管理技法</p> <p>確率と統計</p> <p>線形計画法</p> <p>日程計画 (スケジューリング)</p> <p>待ち行列理論</p> <p>在庫管理</p> <p>需要予測</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| | 定期試験で評価する |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------------|---------------------------|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | (財)日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト No6 情報化と経営 | コンピュータエージェンシー社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|------|---|
| 情報産業論 | | 中村 修 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 伝統的な新聞社やテレビ局から最近のネットビジネスまで、各種のメディアを利用して情報というソフトウェアを販売する産業の役割とその現状について学ぶ。授業では、最新の状況理解を目標に、インターネット情報を利用して現状の把握に努める。学習の対象は、主に、情報化・IT化、産業界における業容の変化、新たな取引構造、インターネットの影響、コンテンツ関連ビジネス、家庭生活における情報化、社会における変革などである。また、これらの最新動向を把握することにより、今後進むであろう各種産業メディアの統合など情報社会における変革についての理解も深めていく。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | 概観 情報化・IT化 マクロ経済と情報化 ビジネスの情報化 電子商取引 インターネットとコンテンツ 暮らしの情報化 社会機構と情報化 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末テストにより評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------------------|------------|-----|
| (6)使用教科書 | | 情報化白書2002 | コンピュータエッジ社 | 未刊 |
| (7)使用参考書 | | (必要に応じ適宜授業中に指示する) | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|---|
| ネットワークビジネス論 | | 滑川 光裕 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>ネットワークとビジネスという結びつきは、新たなビジネス手法を生み出し、アマゾンドットコム・ヤフー・楽天市場などの新たな会社を生み出した。しかしながら、古くからの流通網を持つ「老舗」企業も、その信頼性を活用するクリック&モルタルというネットワークを利用した新たなビジネス手法を生みだし、まさに情報技術を駆使したビジネス戦争が起きている。</p> <p>このようなネットワークにおいてビジネスを展開する際に必要となるネットワーク技術とビジネス手法について実例を見ながら、技術動向、問題点について考える。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義により行う |
| (3)授業の体系 | <p>ネットビジネス エレクトロニックコマース 知的所有権 ビジネスモデル 電子マネー 情報セキュリティ</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末のテストとレポートにより評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | ネットワークの基礎を取得していることが好ましい |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | (授業中に指示する) | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| リスクマネジメント | | 山崎 博司 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>保険と金融商品の基本的な理解を目的とします。この科目の最終的な到達目標は、AFP（アフィリエイト・ファイナンシャル・プランナー）の資格取得です。AFPの資格を取得するためには、この科目のほかに次の5科目の履修が必要となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・マネーポートフォリオ ・ファイナンシャルベーシック ・ライフプランニング ・タックスプランニングⅠ ・タックスプランニングⅡ |
| (2)授業の方法 | 講義が中心となりますが、できる限り問題演習を行い、理解を深めていきたいと思えます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命保険 2. 損害保険 3. 貯蓄型金融商品 4. 債権・株式 5. 投資信託 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>第8回の授業時に30分程度の間接テストを行います。この中間テストと定期テストを総合して、評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|---------------|---------------------|-------|
| (6)使用教科書 | | AFP資格審査試験問題集Ⅲ | 日本ファイナンシャル・プランナーズ協会 | 2001年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|-------|-----|
| マネーポートフォリオ | | 山崎 博司 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>保険と金融商品の基本的な知識の定着を目的とします。この科目の到達目標は、AFP（アフィリエイト・ファイナンシャル・プランナー）の資格取得です。AFPの資格を取得するためには、この科目のほかに次の5科目の履修が必要となります。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・リスクマネジメント ・ファイナンシャルベーシック ・ライフプランニング ・タックスプランニングⅠ ・タックスプランニングⅡ |
| (2)授業の方法 | 問題演習を中心に進めていきます。 |
| (3)授業の体系 | <p>前半は下記5分野について分野別に重点整理を行い、後半は総合問題演習を行います。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 生命保険 2. 損害保険 3. 貯蓄型金融商品 4. 債権・株式 5. 投資信託 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>総合問題演習の成績と定期試験の成績を総合して評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | リスクマネジメントを履修していることを前提に授業を進めます。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|------|-----|
| タックスプランニング I | | 井上行忠 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日本における税制（所得税・法人税・地方税・消費税等）の概要、一人医療法人の基礎知識・節税に関する倫理及び税理士の業務に関する基礎知識について学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、所得税、法人税、その他地方税、相続税、贈与税、等について学び、ファイナンシャルプランナー（AFP）取得のための提案書作成書を重点的に行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 AFP取得のための提案書が合格点に達した者のみ。 |
| (5)履修の条件 | 他のAFP取得科目とともに履修しなければならない。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 未定 | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|------|-----|
| タックスプランニングⅡ | | 井上行忠 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 日本における税制（所得税・法人税・地方税・消費税等）の概要、一人医療法人の基礎知識・節税に関する倫理及び税理士の業務に関する基礎知識について学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | テキストを中心に授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 授業体系は、所得税、法人税、その他地方税、相続税、贈与税、等について学び、ファイナンシャルプランナー（AFP）取得のための提案書作成書を重点的に行う。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 AFP取得のための提案書が合格点に達した者のみ。 |
| (5)履修の条件 | 他のAFP取得科目とともに履修しなければならない。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 未定 | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|---|
| オフィス実務 I | | 藤井秀子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|-----------|--|
| (1) 科目の概要 | <p>企業や社会を支える大切な人材となるための、必要不可欠な基本的知識と技能を身につける事を目的とする。</p> <p>初めに会社組織の理解と、オフィスワーカーとしての心構えを学び、次に組織の中で、各個人が単なる補助職ではない、主体性をもった働き手となるための、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・情報処理能力について学ぶ。</p> <p>なお、現在の状況下で、社会人として最低知っていなければならないカタカナ言葉についても、毎回授業の初めに学ぶ。</p> |
| (2) 授業の方法 | <p>まず基本的知識を講義し、次に実習・演習という形式で、オフィスにおける実務を身につける。必要に応じてVTRによる学習も行う。</p> |
| (3) 授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> ① 企業に関する基本的知識 ② 働く心構え ③ コミュニケーション能力 ④ プレゼンテーション能力 ⑤ 接遇と電話応対 |
| (4) 評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験・随時行う小テスト・発表能力からの総合評価</p> |
| (5) 履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|-----------|----------|-----------|-----|-----|
| (6) 使用教科書 | 水原道子他 6名 | 実践オフィスワーク | 樹村房 | 平13 |
| (7) 使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|---|
| オフィス実務 I | | 藤井秀子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|-----------|--|
| (1) 科目の概要 | <p>企業や社会を支える大切な人材となるための、必要不可欠な基本的知識と技能を身につける事を目的とする。</p> <p>初めに会社組織の理解と、オフィスワーカーとしての心構えを学び、次に組織の中で、各個人が単なる補助職ではない、主体性をもった働き手となるための、コミュニケーション能力・プレゼンテーション能力・情報処理能力について学ぶ。</p> <p>なお、現在の状況下で、社会人として最低知っていなければならないカタカナ言葉についても、毎回授業の初めに学ぶ。</p> |
| (2) 授業の方法 | <p>まず基本的知識を講義し、次に実習・演習という形式で、オフィスにおける実務を身につける。必要に応じてVTRによる学習も行う。</p> |
| (3) 授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> ① 企業に関する基本的知識 ② 働く心構え ③ コミュニケーション能力 ④ プレゼンテーション能力 ⑤ 接遇と電話応対 |
| (4) 評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験・随時行う小テスト・発表能力からの総合評価</p> |
| (5) 履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|-----------|----------|-----------|-----|-----|
| (6) 使用教科書 | 水原道子他 6名 | 実践オフィスワーク | 樹村房 | 平13 |
| (7) 使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|---|
| ビジネス文書 I | | 下河邊元春 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 企業においては、社内的な意思の伝達を目的とした文書（社内文書）と、取引先などとの業務を円滑に進めるための文書（社外文書）が欠かせません。特に、最近のようにファクシミリ（FAX）や電子メール（e-mail）が多用される状況では、誰もが文書を書くことと無縁ではいられなくなりました。この授業ではそうした社会的な要請を踏まえて、ビジネス文書を作成するのに不可欠な約束事などの基礎知識や文書作成の技法を学びます。 |
| (2)授業の方法 | 実例を用いてビジネス文書を作成するために必要な基本を講義するとともに、ノートパソコンを使って実際に文書を作成してもらいます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務における文書の重要性と役割を学ぶ 2. 文書作成の基本を学ぶ 3. 文章力を伸ばすための方法を学ぶ 4. 文書ツールの TPO を学ぶ 5. 手紙の書き方を通じてビジネス文書作成の実際を学ぶ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果に、講義内容の理解度を測るために随時提出を求める課題の評価ならびに受講態度を加味して評価点を決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------|-------|------|
| (6)使用教科書 | キャリア教育教材開発研究会 | 文書技法テキスト | 実教出版 | 1991 |
| | 社団法人共同通信社 | 記者ハンドブック | 共同通信社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|---|
| ビジネス文書 I | | 下河邊元春 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 企業においては、社内的な意思の伝達を目的とした文書（社内文書）と、取引先などとの業務を円滑に進めるための文書（社外文書）が欠かせません。特に、最近のようにファクシミリ（FAX）や電子メール（e-mail）が多用される状況では、誰もが文書を書くことと無縁ではいられなくなりました。この授業ではそうした社会的な要請を踏まえて、ビジネス文書を作成するのに不可欠な約束事などの基礎知識や文書作成の技法を学びます。 |
| (2)授業の方法 | 実例を用いてビジネス文書を作成するために必要な基本を講義するとともに、ノートパソコンを使って実際に文書を作成してもらいます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務における文書の重要性と役割を学ぶ 2. 文書作成の基本を学ぶ 3. 文章力を伸ばすための方法を学ぶ 4. 文書ツールの TPO を学ぶ 5. 手紙の書き方を通じてビジネス文書作成の実際を学ぶ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果に、講義内容の理解度を測るために随時提出を求める課題の評価ならびに受講態度を加味して評価点を決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------|-------|------|
| (6)使用教科書 | キャリア教育教材開発研究会 | 文書技法テキスト | 実教出版 | 1991 |
| | 社団法人共同通信社 | 記者ハンドブック | 共同通信社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| ビジネス文書 II | | 下河邊元春 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ビジネス文書 I で習得した知識をもとに、文書作成能力をさらに発展させることを目指して、メモの活用法や会議録、報告書のまとめ方、ビジネス敬語、差別語・不快語の存在など、実務に即した文書技法、文書の発受信、ファイリングについて学びます。 |
| (2)授業の方法 | 実例の基づく講義のほか、ノートパソコンを用いての各種文書作成の練習や双方向形式の授業によりビジネス敬語等の習得を目指します。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社内文書および社外文書の種類と内容、その取り扱いの注意点を設問による文書作成を通じて学ぶ。 2. メモの活用法を学ぶ。 3. 報告書、会議録のまとめ方を学ぶ。 4. ビジネスの場での禁句、差別語・不快語について学ぶ。 5. 文書の発受信とファイリングについて学ぶ。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果に、講義内容の理解度を測るために随時提出を求める課題の評価ならびに受講態度を加味して評価点を決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------|-------|------|
| (6)使用教科書 | キャリア教育教材開発研究会 | 文書技法テキスト | 実教出版 | 1991 |
| | 社団法人共同通信社 | 記者ハンドブック | 共同通信社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| ビジネス文書 II | | 下河邊元春 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ビジネス文書 I で習得した知識をもとに、文書作成能力をさらに発展させることを目指して、メモの活用法や会議録、報告書のまとめ方、ビジネス敬語、差別語・不快語の存在など、実務に即した文書技法、文書の発受信、ファイリングについて学びます。 |
| (2)授業の方法 | 実例の基づく講義のほか、ノートパソコンを用いての各種文書作成の練習や双方向形式の授業によりビジネス敬語等の習得を目指します。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社内文書および社外文書の種類と内容、その取り扱いの注意点を設問による文書作成を通じて学ぶ。 2. メモの活用法を学ぶ。 3. 報告書、会議録のまとめ方を学ぶ。 4. ビジネスの場での禁句、差別語・不快語について学ぶ。 5. 文書の発受信とファイリングについて学ぶ。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果に、講義内容の理解度を測るために随時提出を求める課題の評価ならびに受講態度を加味して評価点を決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------------|----------|-------|------|
| (6)使用教科書 | キャリア教育教材開発研究会 | 文書技法テキスト | 実教出版 | 1991 |
| | 社団法人共同通信社 | 記者ハンドブック | 共同通信社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 事務管理論 I | | 杉浦 允 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>情報社会の到来に伴い、企業を経営し発展させて行くには、広範囲の知識と情報が必要となります。そのため企業の経営においては、情報を生産し、活用する活動が重要視されるようになってきています。</p> <p>この情報を生産し、活用する活動が事務なのです。</p> <p>また事務は、経営の後始末的存在から、経営活動を支援する重要な情報を扱うようになってきているのです。</p> <p>この授業では、事務とは何か？それを明確にし、どのように生産し、活用すればよいのか？また事務システムの構築をどのようにすればよいかなど、基本的な考え方を習得する。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業は、講義を主体とし、理解促進のための演習を加えながら進めます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務とは何か？ ビジネスの基本事項 2. 事務管理と経営管理 3. 経営活動と情報 4. 事務システムについて、生産管理システム 5. 販売管理システム、販売組織、販売経路、 6. 人事管理システム、人事の要素、人事情報とは、 7. 事務の合理化、その目的、内容、進め方、 8. 事務統制、事務の標準化、事務組織、管理監督責任、 9. 事務の品質管理、事務ミスの原因とミス防止対策、 10. コンピュータの概要、本質、機能、 11. OA化の管理者に及ぼす影響 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>学期末に、定期試験（ペーパーテスト）を実施し、評価基準に基づいて評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 杉浦 允著 | オフィス・マネジメント | 学文社 | '94 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 事務管理論 I | | 杉浦 允 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>情報社会の到来に伴い、企業を経営し発展させて行くには、広範囲の知識と情報が必要となります。そのため企業の経営においては、情報を生産し、活用する活動が重要視されるようになってきています。</p> <p>この情報を生産し、活用する活動が事務なのです。</p> <p>また事務は、経営の後始末的存在から、経営活動を支援する重要な情報を扱うようになってきているのです。</p> <p>この授業では、事務とは何か？それを明確にし、どのように生産し、活用すればよいのか？また事務システムの構築をどのようにすればよいかなど、基本的な考え方を習得する。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業は、講義を主体とし、理解促進のための演習を加えながら進めます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 事務とは何か？ ビジネスの基本事項 2. 事務管理と経営管理 3. 経営活動と情報 4. 事務システムについて、生産管理システム 5. 販売管理システム、販売組織、販売経路、 6. 人事管理システム、人事の要素、人事情報とは、 7. 事務の合理化、その目的、内容、進め方、 8. 事務統制、事務の標準化、事務組織、管理監督責任、 9. 事務の品質管理、事務ミスの原因とミス防止対策、 10. コンピュータの概要、本質、機能、 11. OA化の管理者に及ぼす影響 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>学期末に、定期試験（ペーパーテスト）を実施し、評価基準に基づいて評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 杉浦 允著 | オフィス・マネジメント | 学文社 | '94 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| 事務管理論 II | | 杉浦 允 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>オフィスには、多くの情報が日々発生しています。この情報を上手に使いこなすにはどうすればいいのか、オフィスにおける文書情報を管理し、活用する基本について講義する。</p> <p>文書の作り方や扱い方及び整理の仕方など情報管理に近い考え方で講義を進める。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>授業は講義方式で行います。</p> <p>時々理解促進のための演習を含めて進めていきます。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文書業務 2. 通信業務 3. 文書整理 (ファイリング・システム) 4. 情報管理 5. オフィス環境の整備 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>学期末に、定期試験 (ペーパーテスト) を実施し、評価基準に基づいて評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 杉浦 允著 | オフィス・マネジメント | 学文社 | '94 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| 事務管理論 II | | 杉浦 允 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>オフィスには、多くの情報が日々発生しています。この情報を上手に使いこなすにはどうすればいいのか、オフィスにおける文書情報を管理し、活用する基本について講義する。</p> <p>文書の作り方や扱い方及び整理の仕方など情報管理に近い考え方で講義を進める。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>授業は講義方式で行います。</p> <p>時々理解促進のための演習を含めて進めていきます。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 文書業務 2. 通信業務 3. 文書整理 (ファイリング・システム) 4. 情報管理 5. オフィス環境の整備 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>学期末に、定期試験 (ペーパーテスト) を実施し、評価基準に基づいて評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|-------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 杉浦 允著 | オフィス・マネジメント | 学文社 | '94 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|----------|-------|---|
| ビジネスルールとマナー | | 青野 忠義 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>学生生活から社会人生活への変化は、学生が想像する以上に大きいものです。その変化に対応し、新しい環境に前向きな生活を築く為には、ビジネスルールとマナーの学習が必要です。この学習により積極的に自己実現をはかり、職業人としての楽しい生活が送れるような基礎を築きます。</p> <p>学習の重点1、経済やビジネス社会の大きな変化を理解し、変わる部分と変わらない部分の基本を学ぶ。</p> <p>2、ビジネスルールとマナーの本質を十分に理解することで、応用力を習得する。</p> <p>3、学習成果を企業実習、就職、進学などでの活用を視野に入れて実践的に学ぶ。</p> <p>4、ビジネス能力検定3級以上の取得を具体的な目標レベルとする。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>テキストとともに新聞・テレビの引用も含め現実社会を、ビデオ・パワーポイント等活用し興味を引出し、わかりやすく実戦力を指導する。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>主なポイントは、</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 ビジネスを取り巻く環境と変化 2、 ビジネス社会における成功と成長 3、 社会や会社のルール 4、 仕事に対する取り組み、基本姿勢 5、 対人関係とマナー、コミュニケーション |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業に対する取り組み姿勢、テスト、資格取得等。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>この科目の履修条件はないが、企業実習（インターンシップ）を履修する学生は、この科目の履修が原則的に必要である。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|-----------------------|------------------|-----|
| (6)使用教科書 | (財)専修学校教育振興会 | 文部化学省認定ビジネス能力検定3級テキスト | 日本能率協会マネジメントセンター | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|-----|
| ホテルビジネス I | | 須藤 眞一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>ホテルは、しばしば Home Away From Home と言われるように、我が家にいるかのようなサービスを求められる。そのサービスの基本は、良質のホスピタリティが継続して提供されることである。</p> <p>ホテルビジネスは、サービス産業の中でもとりわけ提供するホスピタリティの質が明瞭に顧客に伝わる事業である。このホテル事業におけるホスピタリティについて、その基礎を考察する。</p> <p>また、ホテルビジネスは、観光、仕事、会議、宴会、結婚式など、さまざまな機能を持つが、その実態について、事例に則しながら、全貌を理解する。</p> <p>春学期においては、ホテルビジネスの基礎とホスピタリティの基本理念を学ぶ。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義・演習・実習(含、ホテル見学)、視聴覚教材・パソコン |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ホテルビジネスとはなにか 2. ホテル産業の歴史 3. ホテル事業の組織形態 4. ホテル・サービスにおけるホスピタリティ 5. 宿泊部門における業務 6. 料飲部門における業務 7. 購買部門における業務 8. マーケティング部門における業務 9. ホテルの施設と設備及びコンピューター・システム 10. ホテル事業関連法視と管理部門における業務 11. ホテル事業の将来 12. ホテル英語の学習と訓練 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>各授業における小テスト、小問題、及び、期末に提出する各自のレポート。</p> |
| (5)履修の条件 | ホテルビジネスに興味、関心があること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------------|-------------------------------------|----------------|------|
| (6)使用教科書 | 高月 章介 | 基礎からわかるホテルマンの仕事 | 柴田書店 | 1999 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | R.T.Sparrowe | Welcome to Hospitality | Delmar | 2000 |
| | Rocco M.Angelo | Hospitality Today | American Hotel | 2000 |
| | William S.Gray | Hotel & Motel,Management&Operations | Prentice Hall | 2000 |
| | 土井 久太郎 | よくわかるホテル業界 | 日本実業出版社 | 1999 |
| | 日本ホテル教育センター編 | ホテルビジネス(基礎編) | 日本ホテル教育センター | 1999 |

| | | | | |
|------------|-----|------|-------|--|
| ホテルビジネス II | | | 須藤 眞一 | |
| 秋学期 | 2単位 | 週1コマ | | |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>21世紀はホスピタリティ産業の時代ともいわれ、中でもホテル事業は、観光業、旅行業と関連して、その重要な位置を占めるものである。</p> <p>ホテルビジネス II においては、ホテルビジネス I (春学期) に比較し、専門性を高め、ホテル事業の各部門の具体的な機能に関し、管理者の視点から考察し、そこにおいて求められるホスピタリティの、より一層深化した理念について授業を行う。</p> <p>春学期のホテルビジネス I を受講した学生は、ホテルビジネス II においてホテルの業務知識の専門性を高め、より高度なレベルのホスピタリティを学習する。</p> <p>また、ホテルビジネス I を受講していない学生も、管理者の視点でのホテルビジネスの概要を理解し、ホテル事業におけるホスピタリティについて学習する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義・演習・実習 (含. ホテル見学)、視聴覚教材・パソコン |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ホテル産業の歴史・その発達と変遷・組織事業形態 2. ホテル見学 3. ホテル・サービスにおけるホスピタリティの理念 4. 宿泊部門における業務と管理 5. 料飲部門における業務と管理 6. 購買部門における業務と管理 7. マーケティング部門における業務と管理 8. ホテルの施設・設備及びコンピューター・システムに関する業務と管理 9. ホテル会計を含む管理部門における業務と管理 10. ホテル事業関連法規 11. 世界のホテル業界の将来展望 12. ホテル英語 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業への参画度、適宜行う小テスト、小論文、及び期末のレポート。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>ホテルビジネスに興味、関心があること。</p> <p>ホテルビジネス I (春学期) を受講していない学生も受講可能。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------------|--|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | 高月 章介 | 基礎からわかるホテルマンの仕事 | 柴田書店 | |
| (7)使用参考書 | R. T. Sparrowe | Welcome to Hospitality | Delmar | |
| | Rocco M. Angelo | Hospitality Today | American Hotel | |
| | William S. Gray | Hotel & Motel, Management & Operations | Prentice Hall | |
| | 土井 久太郎 | よくわかるホテル業界 | 日本実業出版社 | |
| | 日本ホテル教育センター編 | ホテルビジネス(管理編) | 日本ホテル教育センター | |

| | | | |
|-----------|-----------|--------|-----|
| トラベルビジネスⅡ | | 柴生田 俊一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>トラベルビジネスとは、狭義では旅行業をいうが、広義では交通業・宿泊業・飲食業・レジャー業なども含まれる。</p> <p>「トラベルビジネスⅠ」では、旅行業に必要な国内旅行実務と国内観光資源について学習したが、「トラベルビジネスⅡ」では、資格試験対策という制約を外し、海外旅行を含め、旅行・旅行実務・観光資源全般にわたって学習する。</p> <p>旅行業が中心であるが、旅行産業を構成するその他事業についても学習する。各事業には、どんな企業があり、どんな部門に分れ、どんな仕事をしているのか。旅行市場や技術の変化に対応して、どんな人材が求められているのか。経営理念、顧客満足、情報技術など、各事業・企業の経営課題や経営目標などについても学習する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、臨地研修 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 旅行市場の構造（旅行商品、需要者、供給者、仲介者） 2. 旅行市場の動向（旅行者、旅行先、旅行目的、旅行形態） 3. 観光資源の魅力（自然、歴史文化、温泉、都市、テーマパーク、行事・イベント、名産・飲食など） 4. 旅行業の機能（代理販売・主催販売、卸売・小売） 5. 旅行業の実務（企業、グループ企業、部門） 6. 旅行業の関連先の動向（鉄道・航空・宿泊・飲食など） 7. 旅行業の環境変化（顧客満足、情報技術、流通コストなど） 8. 旅行業の経営と人材 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>ミニレポート、ネット検索、期末レポート</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------------|----------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 長沼石根 | 図解旅行業界ハンドブック | 東洋経済新報社 | 1998 |
| | 今井成男、古田正一 | 観光概論 | JTB 能力開発 | 1999 |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|---|
| ホスピタリティⅡ | | 古閑 博美 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ホスピタリティは、倫理や理念、愛と不可分の人間的行為である。科学文明が発展する21世紀にますます注目される概念といえる。 本講座では、人と人、人と自然、人と技術、人と社会などの関係性におけるホスピタリティとそのあり方を考察し、職場や家庭などあらゆる場面で有効かつ希求されるホスピタリティについて学ぶ。ホスピタリティ・スピリット（ホスピタリティの精神）の涵養とホスピタリティを具現できる学生の育成を目指す。 |
| (2)授業の方法 | 講義。演習。視聴覚教材。課題と取り組む（グループ作業）。 |
| (3)授業の体系 | 1.ホスピタリティを理解する 2.ホスピタリティを実践する 3.ホスピタリティ・スピリットの涵養 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の態度や課題との取り組みなどを総合して評価。提出物はA4判横書きを原則とし、その他指示に従って提出のこと。 |
| (5)履修の条件 | 机上の学問に終わらせないとの意志をもって臨むこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 古閑博美 | 看護のホスピタリティとマナー | 鷹書房弓プレス | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|---|
| ホスピタリティⅡ | | 古閑 博美 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | ホスピタリティは、倫理や理念、愛と不可分の人間的行為である。科学文明が発展する21世紀にますます注目される概念といえる。 本講座では、人と人、人と自然、人と技術、人と社会などの関係性におけるホスピタリティとそのあり方を考察し、職場や家庭などあらゆる場面で有効かつ希求されるホスピタリティについて学ぶ。ホスピタリティ・スピリット（ホスピタリティの精神）の涵養とホスピタリティを具現できる学生の育成を目指す。 |
| (2)授業の方法 | 講義。演習。視聴覚教材。課題と取り組む（グループ作業）。 |
| (3)授業の体系 | 1.ホスピタリティを理解する 2.ホスピタリティを実践する 3.ホスピタリティ・スピリットの涵養 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の態度や課題との取り組みなどを総合して評価。提出物はA4判横書きを原則とし、その他指示に従って提出のこと。 |
| (5)履修の条件 | 机上の学問に終わらせないとの意志をもって臨むこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 古閑博美 | 看護のホスピタリティとマナー | 鷹書房弓プレス | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|-------|---|
| フードサービス | | 杉山 繁雄 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>百花繚乱のフードサービスビジネス。一億総グルメと言われる今日、フードサービスビジネスには、単なる食の提供者以上の、観光やレジャーなど同様の、総合エンタテインメント産業やホスピタリティー産業としての経営が求められている。</p> <p>この授業では、これまでの「経営ホスピタリティーコース」で培われた知識に実践性を融合させるため、実際の企業経営がどのように行われているか、特にホスピタリティー精神が重視されるフードサービスビジネスにつき、そのマネジメントの概要を知るとともに、ホスピタリティーの観点からの考察をさらに深める。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>学生の参加、発表を重視した授業。教科書の事前学習が前提となる。 (その都度、事前学習範囲をアサインする。)</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. オリエンテーション (どんな授業かな?) 2. フードサービスビジネスの現状 (フードサービスとは?) 3. フードサービスの基礎 (基礎知識、基本技量の確認) 顧客ニーズとお店の対応 良いサービスとは? 4. 良いフードサービスの調査、または研究 (深める、行動する) 5. 良いサービスの提供とマネジメント(役立つマネジメント) 企業経営はどう行われているか? トップマネジメント、ミドルマネジメント 6. ケースに学ぶ接客サービス技量 (身につけたい実務に役立つ技量) 電話対応(基本)と苦情処理(総合) 7. まとめ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>出席点3割、評価点7割 評価点7割の部分は、授業での発表、態度、小論文(宿題)、試験など</p> |
| (5)履修の条件 | <p>授業に関心と熱意を持って、真面目に参加、勉強できること</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------------------------|---------------|------------------|-----|
| (6)使用教科書 | (株)日本コンサルタントグループフードサービス研究室 | フードサービス接客テキスト | (株)日本コンサルタントグループ | |
| (7)使用参考書 | なし | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|--------|-----|
| 現代社会と観光 I | | 柴生田 俊一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>観光 (Tourism) は自由時間活動の中でもっとも人気が高く、現代社会の代表的なライフスタイルである。観光産業の経済規模は、直接関連 (交通・宿泊・飲食・レジャー・旅行業など) だけで GDP の約 5%、間接関連 (自動車、ガソリン、別荘など) を含めると約 10% を占め、経済的な影響力は極めて大きい。</p> <p>「現代社会と観光 I」では、まず、観光の意義、観光市場の構造を確認し、次に、主として観光客 (観光需要) の側から、観光資源や観光地、国内・海外旅行の動向、観光スタイルの特長や変化を学習する。さらに、交通や情報通信の技術革新、観光客の意識変化などに伴い、観光市場がどう変化しつつあるかを展望する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、レポート作成指導 |
| (3)授業の体系 | <p>春学期は、国内旅行取扱主任者試験対策の科目と連動させ、日本人の観光スタイル、国内の観光資源や観光地の学習に重点をおく。本科目は旅行業だけでなく、交通業 (航空・鉄道・バス)、宿泊業、テーマパーク業など、観光産業全般に関心のある学生への知識・教養を涵養する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光とは、観光の意義 2. 観光市場の構造 (観光サービス、需要者、供給者、仲介者) 3. 観光資源、観光地 (自然資源、人文有形資源、人文無形資源) 4. 観光動向 (日本人・外国人、国内・海外) 5. 観光スタイル (参詣観光、温泉観光、周遊型観光、滞在型観光) 6. 観光市場の変貌 (交通技術、情報通信技術、価値観) |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>演習、ミニレポート、期末レポート</p> |
| (5)履修の条件 | 観光産業に関心のある学生は、「現代社会と観光 II」も受講すること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------------|-----------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 国土交通省 | 観光白書(最新版) | 政府刊行物センター | 2002 |
| | 日本観光協会 | 観光の実態と志向(最新版) | 日本観光協会 | 2002 |
| | 教材出版事業部 | 国内旅行実務・観光資源 | JTB 能力開発 | 2002 |
| | 帝国書院 | 地歴高等地図(最新版) | 帝国書院 | 2002 |

| | | | |
|----------|-----------|--------|-----|
| 現代社会と観光Ⅱ | | 柴生田 俊一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>観光は、現代社会の代表的なライフスタイルである。「現代社会と観光Ⅰ」では、観光市場（サービス需要、サービス、サービス供給）における観光動向を、主として需要側（観光客）から学習した。</p> <p>「現代社会と観光Ⅱ」では、供給側（交通・宿泊・飲食・レジャー・旅行業など）から学習する。まず、産業革命以降の社会の推移を概観し、現代社会における観光の意義、観光産業の役割を学習する。</p> <p>次に、移動手段の技術革新に伴う観光スタイルの変遷、近代ツーリズムの始祖=トマスコックの功績を辿る。さらに、価値観の変化に伴う観光のまなざしの変化を辿り、最後に、21世紀の観光を展望する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、レポート作成指導 |
| 授業の体系 | <p>春学期は、国内旅行業務取扱主任者試験対策の科目と連動させ、日本人の観光スタイル、国内の観光資源や観光地の学習に重点をおいたが、秋学期は欧米人の観光スタイル、海外の観光資源や観光地の学習に重点を置く。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 観光の意義（経済、文化、社会） 2. 観光の発展（近代社会、工業化社会、情報化社会） 3. 移動手段の変遷（帆船・馬車、鉄道、汽船、自動車、航空機） 4. 近代ツーリズムの誕生（トマス・クック） 5. 観光のまなざし（名所旧跡・周遊観光、山岳・高原リゾート、温泉・海浜リゾート、都市観光・テーマパーク） 6. 21世紀の観光（情報技術の発達、価値観の変化、アジアの台頭） |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>演習、ミニレポート、期末レポート</p> |
| (5)履修の条件 | 観光産業に関心のある学生は、「現代社会と観光Ⅰ」も受講すること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|----------|----------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 石井昭夫訳 | トマスコック物語 | 中央公論社 | 1995 |
| | 白幡洋三郎 | 旅行のススメ | 中公新書 | 1996 |
| | 加太宏邦訳 | 観光のまなざし | 法政大学出版局 | 1995 |
| | 教材出版事業部 | 海外観光資源 | JTB 能力開発 | 2002 |
| | 帝国書院 | 地歴高等地図 | 帝国書院 | 2002 |

| | | | |
|----------|-----------|------|---|
| 紛争の政治経済学 | | 山田 寛 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>2001年9月11日のアメリカでの同時多発テロは世界を揺るがせた。そして、その後のアフガン・タリバン政権への攻撃ともあわせて、さまざまな問題を提起した。</p> <p>そうした問題に取り組む。武力紛争の実情、宗教や人種の対立、イスラム原理主義、文明の衝突、経済的権益の争い、過激な愛国主義とナショナリズム、紛争のなかでの言論の自由、同盟国の責任、難民といったいろいろな問題を勉強し、どうしたら問題を予防できるかを考える。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義が中心だが、ビデオなどをできるだけ使用する。 |
| (3)授業の体系 | <p>1) アフガニスタン、パレスチナ、インド・パキスタン（カシミール）をはじめ、世界の主な紛争の実態</p> <p>2) 長い内戦でボロボロになったアフリカ諸国の実情</p> <p>3) アジアにはどんな火種があるか</p> <p>4) 紛争が引き起こしている政治的、経済的問題、民衆の苦難などの総まとめ</p> <p>5) どうしたら紛争を防げるか、日本にとって何が問題か、日本は何ができるか</p> <p>などのテーマを順番に取り扱う。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末試験の結果と平常点をあわせて評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使用しない | | |
| (7)使用参考書 | | 参考書は授業の中でそのつど紹介する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 地方自治論 1 | | 内田和夫 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>21世紀は市民の時代といわれるが、それは人間生活のありようを再創造しようという問題意識が高まってきたからである。その時、地域というもの、自治体というものへの着目も必然のものとなる。</p> <p>たとえば、少子化・高齢化が急速に進む中で、従来、福祉といわれてきたものが実現する、市民主体の新しい地域社会はつぎのようなシステムとなるのではないか。</p> <p>隣人としての市民同士がボランティア活動やNGO・NPOを通じて助け合い、福祉ビジネス市場による、消費者の選択を可能としたサービス提供があり、そして、地方政府たる自治体によるシビルミニマムの確保と地域総合調整が行われている。</p> <p>この地方自治論1では、そうした社会を構想していくために必要とされる、地方自治のしくみの基礎的理解と基礎知識の習得を目指している。</p> |
| (2)授業の方法 | 教科書を使用し、地方自治のしくみの基本を理解していく。現場見学、ゲスト・スピーカーによる講義も適宜交える。 |
| (3)授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> (1) なぜ、地域か、なぜ、地方自治か。 (2) 日本国憲法と地方自治の保障 (3) 歴史からみた地方自治 (4) 2元的な代表制と2層制 (5) 行政財政のしくみと実際 (6) 住民参加のシステム (7) 地域の政治と議会 (8) 首長と自治体行政 (9) 自治体職員 (10) コミュニティと地方自治 (11) 社会変動と地方自治 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>講義中の基礎理解チェック、意見レポート、最終試験の結果を勘案する。</p> |
| (5)履修の条件 | 関心のある人はどなたでも。しくみについての基礎理解のいる科目なので、しっかりついてきてほしい。地方自治論2と必ず、あわせて履修のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|--------------------------|-----------|-----|
| (6)使用教科書 | 大森弥 | 「現代日本の地方自治」 | 放送大学教育振興会 | |
| | | *ただし、開講時に変更を指示する場合があります。 | | |
| (7)使用参考書 | | 講義中に適宜紹介する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|-----|
| 地方自治論 2 | | 内田和夫 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>21世紀は市民の時代といわれるが、それは人間生活のありようを再創造しようという問題意識が高まってきているからである。その時、地域というもの、自治体というものへの着目も必然のものとなる。</p> <p>この講義は地方自治論1が、地方自治のしくみの基礎的理解を目指していることと連動しながら、いわば、地方自治が社会的課題をどのように解決しようとするものなのか、その動的展開をいっしょにたどってみようとするものである。</p> <p>本年度は共生型社会への道と地方自治の可能性をテーマとして取り上げ、それに関連する、いくつかのテーマを取り上げて、地方自治とはどのように意味あるものなのかを考えてみよう。</p> |
| (2)授業の方法 | 教科書を使用しない予定である。現場見学、ゲスト・スピーカーによる講義、簡単な論文のその場での読み込みなど、問題状況をまず、しっかりとらえてもらう方法をとる。 |
| (3)授業の体系 | <p>「本年度のテーマ-----共生型社会への道と地方自治の可能性」</p> <p>(1) 日本の地域にコミュニティはあるか。 (2) 従来型の福祉制度の大転換はなぜ必要とされたのか。 福祉国家には1度もなっていない国、日本で。 (3) 自治体による環境保全はなぜ、進まない。 (4) 市民にまちづくりの権限はあるか。 (5) 異質なものを受け入れる地域社会は可能か。 (6) 地域政治に民主主義が息づくために必要なこと。 (7) 分権型社会はどのような社会システムか。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>講義中の、意見レポート、最終試験の結果を勘案する。</p> |
| (5)履修の条件 | 関心のある人はどなたでも。地方自治論1と必ずセットで履修のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|---------------------------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 特に指定しないが、取り上げるテーマについて、必読文献を指定することがある。 | | |
| (7)使用参考書 | | 講義中に適宜紹介する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|------------|-------|-----|
| 民 法 | | 和知 恵一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 民法は、市民生活における様々な問題に対処するために、自由・平等を基調として、規律をたてて整えられた法律である。「法律なんて、関係ないわ。」と思っている人も多いと思う。しかし、実は私たちの生活は、すべてが法的な側面を持っているのだ。例えば、スーパーで食品を買う場合には、民法 555 条以下の売買契約に関する規定が、アパートを借りる場合には、民法 601 条以下の賃貸借に関する規定が適用される。ただ、私たちは、そのことに気づいていないだけなのだ。買った食品で、中毒を起し、入院したら、折角引っ越したのに、急に出て行けと言われたら、電器店で購入した MD プレーヤーが、故障していたら？など、市民生活に発生する紛争に対処するために、前もって定められたものが民法である。この民法の概要を理解する。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心に進める。具体的な事例を通して、市民生活関係を捕えられるよう、身近で興味ある問題を題材に、時々質問も交える。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 初めに 2. 民法の構成と基本原則 3. 私権の主体である「人」について 4. 私権の客体である「物」について 5. 法律行為とは 6. 代理と時効 7. 所有権を中心に物権について 8. 売買契約を中心に債権について 9. 親族とは何か 10. 結婚と親子関係 11. 相続と遺言 12. まとめ |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験の成績に、授業態度をもとにした平常点を加味して、評価する。また、任意のレポートも受けつけ、加点する。</p> |
| (5)履修の条件 | できるだけ、法学に関する基礎知識を持っていることが望ましい。私語することなく真面目に授業に取り組む者。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------|---|-----|------|
| (6)使用教科書 | 平井宣雄等編 | ポケット六法平成 14 年版(すでに持っている六法=法律集があればそれで良い) | 有斐閣 | 2001 |
| | 大久保治男編 | トピックス 暮らしの法 | 芦書房 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|------------|-------|------|
| 商法 | | 和知 恵一 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 商法とは、企業の組織・活動といった企業生活関係に特有の法規をひとまとめにして、呼ばれているものである。これには、商法総則・会社に関する法、商行為・保険・海商・手形・小切手に関する法の分野などがある。この前半部分は、会社法において、後半部分を商法で取り扱うこととする。本講座では、企業の取引や、企業の支払い手段はどうなっているのかという視点から、商法の基礎をわかりやすく解説する。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心に進める。具体的な事例を通して、企業生活関係を捕えられよう、なるべく身近で興味ある問題を題材にしようと思う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. はじめに 2. 商行為の種類と、商法適用の法的効果 3. 企業間及び消費者との取引 4. 消費者保護 5. 企業取引の補助者 6. 物や人の移動・管理に関わる取引 7. 保険 8. 海商 9. 手形・小切手の機能と仕組み 10. 手形行為 11. 為替手形・小切手 12. まとめ |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験に、授業態度を平常点として加味して評価する。任意のレポートも受けつける。 |
| (5)履修の条件 | 法学的基礎知識のある学生を対象とする。まず民法を履修しておいてほしい。会社法もあわせて履修することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|--------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 近藤光男 編 | 現代商法入門第5版 | 有斐閣 | 2002 |
| | 平井宣雄 等編 | ポケット六法平成14年版 | 有斐閣 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 大久保治男 編 | トピックス 暮らしの法 | 芦書房 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----|---------|------|-----|
| 税法 | | 前川邦生 | |
| 秋学期 | 80×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 憲法 30 条は「国民は、法律の定めるところにより、納税の義務を負う」と定め、84 条で、租税法律主義を明確に示している。租税とは何かを明確にするため、憲法 30 条や 84 条の歴史的背景を理解させる。その内容は、国家と税との関係、国家と国民との関係を明確にしつつ、租税法（税法）を学ばせることに主眼をおく。税法は「一読して難解、二読して誤解、三読して混迷」といわれるほど難しいものである。特に経済事象が複雑になればなるだけ、税を公平という観点から、税法の規定を理解しておかなければならない。経理担当者だけに要求されるものではなく、企業、金融機関、官公庁等も含め、租税法の基礎的知識が要請されている。 |
| (2)授業の方法 | テキスト、および資料を配布して講義を進める。受講者に税法の理解を深めさせる。 |
| (3)授業の体系 | 租税法の基本的諸問題の解明を受講生とともに考え、整理すること。 憲法 30 条、84 条との関係と、国家と税の役割、国家と国民との関係の解明し、整理すること。（税とは何かを明らかにすることと、理解度をふかめさせること） 各税法をまず、身近な所得税の概要を把握させ、法人税法、その他の税法の概要を理解させることに主眼を置き講義をすすめる。 総合的に判断するために、簿記論や財務諸表と会計学との関係を理解させる。（経済学や財政学等の関係も含め理解を深めるよう講義をすすめる。） |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 レポート・期末試験等を中心に総合的評価を行う。 |
| (5)履修の条件 | 簿記論や経済学（一般教養科目）を履修されていることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------|----------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 前川邦生・菊谷正人 編 | 租税法全書 | 同文館 | 2001 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 石 弘光 著 | 税金の論理 | 講談社 | 1994 |
| | 尾崎 護 著 | 税の常識 | 日本経済新聞社 | 2002 |
| | 井掘 利宏 著 | あなたがはらった税金の使い方 | 東洋経済新報社 | 2001 |
| | 小室 直樹 著 | 痛快 憲法学 | 集英社 | 2001 |

| | | | |
|-------|------------|---------|------|
| 会 社 法 | | 和 知 恵 一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現代社会の構成員である我々は、社会にとって必要不可欠である多くの法に取り囲まれています。たとえば、電車やバスに乗ること、本やジュースを買うこと、洋服を買うことなど、すべて「法」というルールによって規制されたり、保護されたりしているのです。自分は法と無縁であると思っている人は、そのことを知らないだけなのです。「商法」はこの「法」の中でも特に、会社を中心とした企業生活関係を対象とする法なのです。専門的でとても細かい制度が定められていると思いき敬遠されがちですが、そこには企業社会において知っておくべき、大切な事がたくさん書かれているのです。この企業社会を生き抜いていくためには、商法についての理解が不可欠です。そこで、本講座においては、会社法を中心として、企業法としての商法の基礎をわかりやすく解説します。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心に進めます。具体的な事例を通して、企業生活関係を捕えられるように、なるべく身近で興味ある問題を題材にしようと思います。法律の条文も参照します。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1 はじめに 2 一般法と特別法 3 商人とは何か 4 商人と営業 5 企業の形態について 6 商号と登記 7 会社とは何か 8 会社の社員とは誰か 9 会社の設立について 10 会社の機関について 11 株式と会社の計算 12 まとめ |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験に平常点(受講態度及び出席を重視します)を加味して評価します。 |
| (5)履修の条件 | 法学的基礎知識のある学生を対象とする。まず民法を履修しておいてほしい。商法もあわせて履修することが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|----------------------------------|-----|------|
| (6)使用教科書 | 近藤光男編 | 現代商法入門 (第5版) | 有斐閣 | 2002 |
| | 平井直雄 等編 | ポケット六法(既に所有している六法があればそれを持参すればよい) | 有斐閣 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 大久保治男編 | トピックス 暮らしの法 | 芦書房 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|------------|------|------|
| デザインの基礎 | | 森 康夫 | |
| 春学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここでは DTP やウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインとレイアウトの基礎を学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | 講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 |
| (3)授業の体系 | <p>< 講義 ></p> <ul style="list-style-type: none"> ・デザインとは何か / デザインと芸術 ・デザインの基本 (点、線、面) ・視覚伝達デザイン (サイン、マーク、ポスターの効果) ・レイアウトの基本 (様式の 8 要素 / 視覚度、図版率、文字のジャンプ率、写真のジャンプ率、グリッド拘束率、版面率、構成の原則、書体のイメージ) (造形の 8 原則 / 主役を明示する、純主役を離す、群化、あいまいは不安、流れを整理する、余白は主役の領域、四隅をおさえる、反面線を利用する) ・レイアウトの手順 <p>< 実習 ></p> <p>様々なレイアウトの実習</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 授業への取組方、提出物の状況などを重視する。また、知識も必要なのでテストを行い、総合して評価する。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|---------|------------|------|------|
| デザインと色彩 | | 森 康夫 | |
| 秋学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 人がコミュニケーションをしていく上で言葉や文字だけでは表現しきれない物がある。それらに対しては色や形、材料という造形言語表現を使って情報をビジュアルに表わしコミュニケーションする方法がある。ここでは DTP やウェブページなどをデザインする上で役立つ一般的なデザインと色彩の基礎を学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | 講義だけではなく実習を行うことで更に認識を高める。 |
| (3)授業の体系 | <p>< 講義 ></p> <p>1、日常生活の色彩（流行色、インテリア、ファッションなど） 色彩の心理的効果／環境と色彩／経済と色彩 色の表現（絵画と色彩、ポスター、サイン、標識）</p> <p>2、三原色（色料、色光）／色の三属性（色相、明度、彩度） トーンの問題／色の分類と体系／混色／色の見え・対比 配色の基本</p> <p>< 実習 > 様々な配色の実習</p> |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 授業への取組方、提出物の状況などを重視する。また、知識も必要なので、テストも行い、総合して評価する。 |
| (5)履修の条件 | 実習があるので必ず教科書及び配色カードを用意すること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----------------|------------|-----|
| (6)使用教科書 | | デザインの色彩 | 日本色研事業株式会社 | |
| | | その他／配色カード 199a | (同上) | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|-------|-----|
| 人の心理と行動 | | 石川 直弘 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>この講義では、人間とその行動を3つの側面から、考察していく。</p> <p>第1は、行動の力動性である。人を行動にかりたてるものは何かという問いに答えるために、欲求、動機づけについて学ぶ。第2は、人間の知的過程である。人はどのようにして、自分をとりまく環境を認知するのであろうか。また、環境に対処し、適応するために、いかなる技術を習得しなければならないのであろうか。知覚、認知、学習というテーマを通してそれを学んでいく。第3は、パーソナリティである。第1の側面と第2の側面は、個人のなかで高次のレベルで統一され、ユニークな特徴を示している。先の2つを統合して、あらためて人間を全体としてみつめていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 通常の講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 欲求・動機づけ 2. 知覚・学習 3. 人格 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験によって評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|------|------------|------|-----|
| 心と造形 | | 森 康夫 | |
| 秋学期 | 80分× 週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>近年、人々の抱えている悩みや不安が増大し深刻化してきているなかで、「心の癒し」の問題が取り上げられるようになってきた。その解消法は様々だが、当授業ではそれを美術（造形）の面から考えていく。悩みや不安は考えているだけでは解消されるものではない。頭で考えるだけではなく行動することも大事であり、体験することで何かが得られると考える。そこで、当授業では講義だけではなく、造形の遊びを通して心の解放を目指し、どんなことが「心の癒し」に効果があるのかも探究していく。様々な体験を通して新たな発見や感動、創造することの喜びなどを実感して欲しい。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>前提講義の後、各テーマに添って作業をする。主に平面に取り組む。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>< 講義 > 造形とは何か、人とどのように関わっているのか。 子供のこころの発達／美術教育の弊害</p> <p>< 各テーマの講義と実習 > 形の遊び（既成概念にとらわれない自由な表現について） （抽象画／素朴画を描く） [形の深層心理]（形が人に与える影響） [形と色の深層心理] フロッタージュ／デカルコマニー／コラージュからヒントを得る。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> |
| | <p>授業への取り組み及び作品提出状況を重視し、最終的にはレポート提出により決定する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>手を使って何かを創造することが本当に好きなこと。</p> |

| | | | |
|--------|-----------|-------|-----|
| 人間性の発達 | | 石川 直弘 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>生理的早産のかたちで誕生した人間が、どのような経過を通して人間的発達を遂げていくのかを、考察していく。</p> <p>直立二足歩行、手の操作、ことばの使用から、最終的には、形式的操作思考にいたるまで、そのプロセスを可能な限り詳細に扱っていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 通常の講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 生理的早産 2. 量的変化と質的变化 3. 発達段階 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験によって評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| コンピュータ入門 | | 中村 修 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム (Windows XP) の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク (LAN) のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| コンピュータ入門 | | 滑川 光裕 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム (Windows XP) の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク (LAN) のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| コンピュータ入門 | | 南 憲一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム (Windows XP) の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク (LAN) のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| コンピュータ入門 | | 南 憲一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 授業時間内の演習課題提出と宿題提出によって評価を行う。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------------|-----|
| コンピュータ入門 | | 南・宮本・中村・滑川 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータはハードウェアとソフトウェアで構成され、最近では、コンピュータどうしが、お互いにネットワークで接続されるような形で利用される。本講義では最初に、ハードウェアを構成する5つの基本装置と、これに接続して利用される周辺機器について学ぶ。次に、コンピュータを利用する上で最も基本的なソフトウェアであるオペレーティングシステム（Windows XP）の利用方法について学ぶ。さらに、学内のネットワーク（LAN）のしくみと利用方法について学び、最後にインターネットについて学習する。パソコン検定試験の3級に受かるレベルを目標に、学習を進めていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 実際にパソコンを使用しながら講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. パソコンのしくみ 2. ハードウェアの5つの基本装置 3. 各種の周辺機器 4. Windows XP の概要 5. Windows XP の利用 6. 学内 LAN の概要 7. 学内 LAN の利用 8. インターネットの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験の成績で評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | パソコン検定委員会 監修 | パソコン検定試験対策テキスト3級 | FOM 出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|------|---|
| コンピュータアーキテクチャ | | 中村 修 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本授業では、主にコンピュータのハードウェアを中心とした講義を行う。コンピュータの基本機能からプロセッサ内部およびメモリでの処理方法、プロセッサ、メモリの種類、入出力とのインタフェースなどについて学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | 情報素子（集積回路・半導体メモリ） プロセッサアーキテクチャ メモリアーキテクチャ 補助記憶装置 入出力アーキテクチャと装置 コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末のテストにて評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-------------------------|-------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト「コンピュータシステム」 | コンピュータ・エージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|-------|---|
| コンピュータアーキテクチャ | | 滑川 光裕 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 本授業では、主にコンピュータのハードウェアを中心とした講義を行う。コンピュータの基本機能からプロセッサ内部およびメモリでの処理方法、プロセッサ、メモリの種類、入出力とのインタフェースなどについて学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | 情報素子（集積回路・半導体メモリ） プロセッサアーキテクチャ メモリアーキテクチャ 補助記憶装置 入出力アーキテクチャと装置 コンピュータの種類とアーキテクチャの特徴 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末のテストにて評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-------------------------|-------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト「コンピュータシステム」 | コンピュータ・エージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|------|-----|
| オペレーティングシステム論 | | 南 憲一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | オペレーティングシステムはコンピュータを利用する上で必要不可欠なソフトウェアである。また、その他の基本的なソフトウェアとして、ミドルウェア、言語処理系がある。本講義では最初に、OS の構成について学び、ジョブ管理、プロセス管理、主記憶管理、仮想記憶管理、入出力管理、データ管理、セキュリティ管理、障害管理といった機能について学習する。ミドルウェアとしては、DBMS(データベース管理システム)、通信管理システム、ソフトウェア管理支援ツール等について学ぶ。最後に言語処理系の種類と、プログラムの実行における言語処理系の役割について学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | OS の構成と機能 OS の種類 ミドルウェア 言語処理系 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 定期試験で評価する |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------------|--------------------------------|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | (財)日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト No.1 コンピュータシステム | コンピュータエー ジ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|------|---|
| 情報社会論 I | | 坂口寿一 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 東西ドイツを隔てたベルリンの壁の崩壊やソ連の崩壊は、まさしく情報の力によるものであった。また、コンピュータやインターネットは、皮肉にも戦争や冷戦が生みそして育てたと言っても良いだろう。本講では、このような事実を理解し、さらにコンピュータや通信ネットワークなどによって生み出された情報社会の歴史的性質を学ぶ。また、それが企業、家庭など社会の様々な側面にもたらす影響についても学ぶ。なお、「情報社会論Ⅱ」に於いては、社会が情報化するにつれて浮き彫りになりつつある諸問題、特に情報社会においてプライバシー保護、著作権保護、セキュリティ保持などをいかに達成するかについても総合的観点から考察し、学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、一部パソコンを使用した授業も考えている。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 社会の変化 2. 高度情報社会 3. 情報 4. コンピュータの歴史 5. メディアの変化 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| | 学期末(定期)試験で評価するが、途中で課すレポートも加味する。 |
| (5)履修の条件 | 特に無し。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|--------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 小池澄男 | 「新・情報社会論」改訂版 | 学文社 | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|---------|------|----------|------|--|
| 情報社会論 I | | | 宮本 勉 | |
| 春学期 | 2 単位 | 80分×週1コマ | | |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>コンピュータの利用は企業のみならず社会の隅々まで浸透してきた。この情報化社会においてはインターネットや電子メールがあたりまえに利用されているようになってきた。</p> <p>この情報化社会に関する情報について学ぶ。さらにコンピュータや通信ネットワークについて学ぶ</p> |
| (2)授業の方法 | この科目についてはレポート、インターネット、電子メールを利用した課題を実施するのでパソコン等も使用する |
| (3)授業の体系 | <p>春学期については情報に関するコンピュータ社会についての周辺知識を中心に学ぶ。</p> <p>具体的には基本情報技術者認定試験の「情報化と社会」の範囲のうち</p> <ol style="list-style-type: none"> 1、 関連法規 2、 セキュリティ 3、 その他の関連知識 <p>の内容を中心に学ぶ。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験やレポートにより総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 基本情報技術者認定試験を目指すものは受講することが望ましい |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------|------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 情報化と経営 | コンピュータエージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

授業計画 1

| | 内容 |
|--------|----|
| 第1回授業 | |
| 第2回授業 | |
| 第3回授業 | |
| 第4回授業 | |
| 第5回授業 | |
| 第6回授業 | |
| 第7回授業 | |
| 第8回授業 | |
| 第9回授業 | |
| 第10回授業 | |
| 第11回授業 | |
| 第12回授業 | |
| 第13回授業 | |
| 第14回授業 | |

| | | | |
|--------|----------|------|---|
| 情報社会論Ⅱ | | 坂口寿一 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 東西ドイツを隔てたベルリンの壁の崩壊やソ連の崩壊は、まさしく情報の力によるものであった。また、コンピュータやインターネットは、皮肉にも戦争や冷戦が生みそして育てたと言っても良いだろう。本講では、このような事実を理解し、さらにコンピュータや通信ネットワークなどによって生み出された情報社会の歴史的特質を学ぶ。また、それが企業、家庭など社会の様々な側面にもたらす影響についても学ぶ。なお、「情報社会論Ⅱ」に於いては、社会が情報化するにつれて浮き彫りになりつつある諸問題、特に情報社会においてプライバシー保護、著作権保護、セキュリティ保持などをいかに達成するかについても総合的観点から考察し、学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を進めるが、一部パソコンを使用した授業も考えている。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. インターネットの基礎知識 2. インターネットのビジネスでの活用 3. プライバシーの保護 4. 著作権、知的所有権の保護 5. セキュリティ保持 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 学期末(定期)試験で評価するが、途中で課すレポートも加味する。 |
| (5)履修の条件 | 特に無し。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|--------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 小池澄男 | 「新・情報社会論」改訂版 | 学文社 | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |

| | | | | |
|--------|------|-------|-------------|--|
| 情報社会論Ⅱ | | | 宮本 勉 | |
| 秋学期 | 2 単位 | 週1 コマ | Office Hour | |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>経営における人・物・資金と並ぶ資源である情報とは何か、それら进行处理する情報技術（IT）発展は目を見張るばかりである。</p> <p>この情報の企業の経営活動のなかでもつ意義と役割を体系的に理解した上で、コンピュータとネットワークを利用した情報システムが企業経営目標達成のために経営管理、情報処理、経営戦略の策定にどのように利用されているかについて学ぶことを目標とする。</p> |
| (2)授業の方法 | この科目についてはレポート、インターネット、電子メールを利用した課題を実施するのでパソコン等も使用する |
| (3)授業の体系 | <p>具体的には基本情報技術者認定試験の「システム開発と運用」の範囲について学ぶ。</p> <p>1、 システム開発 2、 システムの運用と保守 の内容を中心に学ぶ。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験やレポートにより総合的に評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 基本情報技術者認定試験を目指すものは受講することが望ましい |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | システム開発と運用 | コンピュータエージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

授業計画

| | 内容 |
|--------|----|
| 第1回授業 | |
| 第2回授業 | |
| 第3回授業 | |
| 第4回授業 | |
| 第5回授業 | |
| 第6回授業 | |
| 第7回授業 | |
| 第8回授業 | |
| 第9回授業 | |
| 第10回授業 | |
| 第11回授業 | |
| 第12回授業 | |
| 第13回授業 | |
| 第14回授業 | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| 情報システム論 I | | 滑川 光裕 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「情報」の概念について考え、「情報システム」の役割について考える。</p> <p>実際に社会で運用されているシステムの実例をもとに、そこで利用されている情報技術（マンマシンインタフェース・データベースの設計技法など）や、システムのライフサイクルについて学ぶことで、情報システムの本質を理解することを目的としている。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>情報</p> <p>エントロピー</p> <p>情報システム</p> <p>データ処理システム</p> <p>データベース</p> <p>ネットワークシステム</p> <p>システム開発</p> <p>システムの品質管理</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末のテストにて評価を行う。また、小テスト・レポートの評価点も加算する。</p> |
| (5)履修の条件 | 情報システム論Ⅱも同時に履修すること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | (授業中に指示する) | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|---|
| 情報システム論Ⅱ | | 滑川 光裕 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>情報システムを支える高度な理論・技術について学び、より複雑な情報システムの構築について考える。</p> <p>具体的には、情報システムの分析・設計技法としての予測・最適化・シミュレーション技術や、並列・分散処理技術、ファジィ・ニューラルネットの理論などである。また、最新のネットワーク技術と情報システムの関わりなどについても学ぶ。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>システム最適化</p> <p>システムシミュレーション</p> <p>並列・分散システム</p> <p>マルチエージェントシステム</p> <p>ピアツーピア</p> <p>V P N</p> <p>システムセキュリティー</p> <p>アクセス制御</p> <p>暗号化技術</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末のテストにて評価を行う。また、小テスト・レポートの評価点も加算する。</p> |
| (5)履修の条件 | 情報システム論Ⅰも同時に履修すること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | (授業中に指示する) | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|------|-----|
| データ構造とアルゴリズム | | 南 憲一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | データ構造とアルゴリズムはコンピュータのプログラムを構成する重要な概念である。最初に基本データ構造として、基本データ型、構造型、抽象データ型、問題向きデータ構造としてリスト構造、スタック、キュー、ツリー構造、ハッシュについて学ぶ。次に、探索アルゴリズム、整列アルゴリズム、再起的アルゴリズムといった各種のアルゴリズムについて学ぶ。最後にアルゴリズムの評価とアルゴリズムの設計方法について学習する。 |
| (2)授業の方法 | C言語によるプログラミングを取り入れながら授業を進める。 |
| (3)授業の体系 | 基本データ構造 問題向きデータ構造 アルゴリズムの基礎 各種アルゴリズム アルゴリズムの評価 アルゴリズムの設計方法 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験で評価する |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------------|---------------------------------|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | (財)日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト No3 内部設計とプログラミング | コンピュータエー ジ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|-------|---|
| UNIX論 | | 滑川 光裕 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>一般的にUNIXという言葉は聞き慣れないが、Windows や MacOS などのいわゆるエンドユーザレベルのコンピュータよりも一段上のレベルのコンピュータであり、主にエンジニアたちが利用している。</p> <p>このUNIXは、1969年にベル研究所で生まれてからネットワーク社会を発展させるために非常に大きな貢献をしてきたキャラクタ（コマンド）ベースの操作によるコンピュータシステムである。</p> <p>本授業では、その一種である Linux を使ってUNIXの本質を知ることが目的である。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義が中心であるが、UNIXの動作・特徴を知るために、実際にUNIXの操作も行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>UNIXの概要（種類・歴史）</p> <p>UNIXの特徴</p> <p>PC・UNIXの環境</p> <p>インターネットとUNIX</p> <p>UNIXコマンド</p> <p>UNIX操作</p> <p>エディタの利用</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>途中での提出物と期末テストによる評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | (授業中に指示する) | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|------|-----|
| インターネットの理論と実際 | | 山際 基 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現在いたるところでインターネットを利用する機会が増えてきている。それは単なるホームページの閲覧だけでなく、ネットショッピングやネットバンキングなど様々な利用が行なわれている。そして新たなサービスや技術が毎日のように提供されておりインターネットに関する技術の変化は著しいものになっている。またインターネットを利用した犯罪も増加していることも事実である。本講義では、コンピュータネットワークの通信方式、通信形態、各種サーバーの働きといったインターネットを支える基礎技術、メーリングリストやFTPなどのインターネット上の各種サービス、CGI や XML、Java などのインターネット関連技術、さらにそれらを活用したインターネットビジネス(エレクトロニックコマース)やファイアーウォール、暗号化などのインターネットセキュリティについて学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心に行なうが、各種実例をパソコン、インターネットを利用して実習、閲覧することで理解を深める。 |
| (3)授業の体系 | 利用者のデータがどのようにしてインターネット上を介してサーバーに到達し、さらに目的とするデータが利用者に帰ってくるか、インターネットにおけるデータのやりとりの方法とその際に出てくる名称・用語について学習する。さらに ISDN や ADSL、FTTH などインターネットに接続するための回線の種類や料金について、学内でインターネットに接続した時のデータのやりとりや通信方法についても学習する。その後インターネット上に提供される様々なサービスやサービスを提供するサーバーについて、CGI や XML、Java といったホームページ関連技術について学習する。これらを理解した上でイントラネット、エクストラネット、企業消費者間(企業間)EC などの実施例(セブンイレブン、ネットバンキング)をあげてそれらの手法について学習し、さらに関連するファイアーウォールや公開鍵方式による暗号化、電子認証(電子署名)、電子マネーといった技術について学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | インターネット活用演習を履修していることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 小林 修 | 図解でわかるインターネットのすべて | 日本実業出版社 | |
| | 田口 美帆 | 図解でわかるインターネットテクノロジー | 日本実業出版社 | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|-----------|------|-----|
| インターネットの理論と実際 | | 山際 基 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 現在いたるところでインターネットを利用する機会が増えてきている。それは単なるホームページの閲覧だけでなく、ネットショッピングやネットバンキングなど様々な利用が行なわれている。そして新たなサービスや技術が毎日のように提供されておりインターネットに関する技術の変化は著しいものになっている。またインターネットを利用した犯罪も増加していることも事実である。本講義では、コンピュータネットワークの通信方式、通信形態、各種サーバーの働きといったインターネットを支える基礎技術、メーリングリストやFTPなどのインターネット上の各種サービス、CGI や XML、Java などのインターネット関連技術、さらにそれらを活用したインターネットビジネス(エレクトロニックコマース)やファイアーウォール、暗号化などのインターネットセキュリティについて学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義中心に行なうが、各種実例をパソコン、インターネットを利用して実習、閲覧することで理解を深める。 |
| (3)授業の体系 | 利用者のデータがどのようにしてインターネット上を介してサーバーに到達し、さらに目的とするデータが利用者に帰ってくるか、インターネットにおけるデータのやりとりの方法とその際に出てくる名称・用語について学習する。さらに ISDN や ADSL、FTTH などインターネットに接続するための回線の種類や料金について、学内でインターネットに接続した時のデータのやりとりや通信方法についても学習する。その後インターネット上に提供される様々なサービスやサービスを提供するサーバーについて、CGI や XML、Java といったホームページ関連技術について学習する。これらを理解した上でイントラネット、エクストラネット、企業消費者間(企業間)EC などの実施例(セブンイレブン、ネットバンキング)をあげてそれらの手法について学習し、さらに関連するファイアーウォールや公開鍵方式による暗号化、電子認証(電子署名)、電子マネーといった技術について学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | インターネット活用演習を履修していることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 小林 修 | 図解でわかるインターネットのすべて | 日本実業出版社 | |
| | 田口 美帆 | 図解でわかるインターネットテクノロジー | 日本実業出版社 | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|---|
| コンピュータ科学の基礎 | | 滑川 光裕 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>基数変換・論理演算・符号理論・情報量などの情報における数学を交えた基礎理論について勉強する。また、情報処理の信頼・効率などの面からプログラム構築技法を考えるアルゴリズムの概念について学ぶ。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う |
| (3)授業の体系 | <p>基数変換 数値表現 文字表現 演算方法と精度 最適化問題 論理演算 符号理論 データ構造 アルゴリズム</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末の試験と小テストによって評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------------------|-------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト「ネットワーク技術」 | コンピュータ・エージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用 I | | 木下 恂 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるExcelを用いて、表計算の概念を学び、様々な表やデータを整理するために必要な基本操作を習得することを目的とする。</p> <p>更に、関数機能、グラフ機能などを利用して経営・経済分析に関わる各種の統計処理、統計分析、シミュレーション等を行う際の技法を学び、あわせて効果的なプレゼンテーションを行うための手法を身に付けることも目的とする。</p> <p>秋学期の「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」を受講したい場合は、この科目をあらかじめ受講していることが条件となる。</p> |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1.表作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ Excel の基本操作、入力と編集、計算式を使った表の作成 2.関数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関数の設定方法、いろいろな関数、関数の活用 3.グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの作成とアレンジ、目的に合ったグラフの選択 ・ 複雑なグラフ、グラフでの分析 4.分析とシミュレーション 5.複数ページの利用 6.データ処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ データ処理用の表の規則、データの集計 7.マクロの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用 I | | 木下 恂 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるExcelを用いて、表計算の概念を学び、様々な表やデータを整理するために必要な基本操作を習得することを目的とする。</p> <p>更に、関数機能、グラフ機能などを利用して経営・経済分析に関わる各種の統計処理、統計分析、シミュレーション等を行う際の技法を学び、あわせて効果的なプレゼンテーションを行うための手法を身に付けることも目的とする。</p> <p>秋学期の「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」を受講したい場合は、この科目をあらかじめ受講していることが条件となる。</p> |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1.表作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ Excel の基本操作、入力と編集、計算式を使った表の作成 2.関数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関数の設定方法、いろいろな関数、関数の活用 3.グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの作成とアレンジ、目的に合ったグラフの選択 ・ 複雑なグラフ、グラフでの分析 4.分析とシミュレーション 5.複数ページの利用 6.データ処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ データ処理用の表の規則、データの集計 7.マクロの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用 I | | 木下 恂 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるExcelを用いて、表計算の概念を学び、様々な表やデータを整理するために必要な基本操作を習得することを目的とする。</p> <p>更に、関数機能、グラフ機能などを利用して経営・経済分析に関わる各種の統計処理、統計分析、シミュレーション等を行う際の技法を学び、あわせて効果的なプレゼンテーションを行うための手法を身に付けることも目的とする。</p> <p>秋学期の「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」を受講したい場合は、この科目をあらかじめ受講していることが条件となる。</p> |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1.表作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ Excel の基本操作、入力と編集、計算式を使った表の作成 2.関数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関数の設定方法、いろいろな関数、関数の活用 3.グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの作成とアレンジ、目的に合ったグラフの選択 ・ 複雑なグラフ、グラフでの分析 4.分析とシミュレーション 5.複数ページの利用 6.データ処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ データ処理用の表の規則、データの集計 7.マクロの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用 I | | 木下 恂 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>パソコンの代表的なアプリケーションソフトであるExcelを用いて、表計算の概念を学び、様々な表やデータを整理するために必要な基本操作を習得することを目的とする。</p> <p>更に、関数機能、グラフ機能などを利用して経営・経済分析に関わる各種の統計処理、統計分析、シミュレーション等を行う際の技法を学び、あわせて効果的なプレゼンテーションを行うための手法を身に付けることも目的とする。</p> <p>秋学期の「ビジネスアプリケーション応用Ⅱ」を受講したい場合は、この科目をあらかじめ受講していることが条件となる。</p> |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1.表作成 <ul style="list-style-type: none"> ・ Excel の基本操作、入力と編集、計算式を使った表の作成 2.関数 <ul style="list-style-type: none"> ・ 関数の設定方法、いろいろな関数、関数の活用 3.グラフ <ul style="list-style-type: none"> ・ グラフの作成とアレンジ、目的に合ったグラフの選択 ・ 複雑なグラフ、グラフでの分析 4.分析とシミュレーション 5.複数ページの利用 6.データ処理 <ul style="list-style-type: none"> ・ データ処理用の表の規則、データの集計 7.マクロの利用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用Ⅱ | | 木下 恂 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-----------|---------|-----------|--------------|----------|--------|---------|------------|-----------|--|---------|--|---------|--|----------------|--|-----------|--|---------|--|
| (1)科目の概要 | <p>表計算アプリケーションExcelに付属するプログラミング言語 Visual Basic for Application を利用した独自のプロシージャの作成により、データ処理の自動化、データベースなど他のアプリケーションとの連携、効果的なユーザーインターフェースの設計を行う技法を身に付けることを目的とする。</p> <p>更に、一般的なプログラミングを行う際に必要となる技法や作法を学ぶ。</p> <p>なお、本講座を受講するには、「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を、あらかじめ受講済みであること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)授業の体系 | <table border="0"> <tr> <td>1. マクロの基礎</td> <td>11. 文字列</td> </tr> <tr> <td>2. マクロの登録</td> <td>12. ユーザーフォーム</td> </tr> <tr> <td>3. 関数と変数</td> <td>13. 配列</td> </tr> <tr> <td>4. 条件分岐</td> <td>14. プロシージャ</td> </tr> <tr> <td>5. オブジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. イベント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 繰り返し</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. I f と F o r</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. マクロの記録</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.セル操作</td> <td></td> </tr> </table> | 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | 3. 関数と変数 | 13. 配列 | 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | 5. オブジェクト | | 6. イベント | | 7. 繰り返し | | 8. I f と F o r | | 9. マクロの記録 | | 10.セル操作 | |
| 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 関数と変数 | 13. 配列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. オブジェクト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. イベント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 繰り返し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. I f と F o r | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. マクロの記録 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10.セル操作 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を受講済みであること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用Ⅱ | | 木下 恂 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-----------|---------|-----------|--------------|----------|--------|---------|------------|-----------|--|---------|--|---------|--|----------------|--|-----------|--|---------|--|
| (1)科目の概要 | <p>表計算アプリケーションExcelに付属するプログラミング言語 Visual Basic for Application を利用した独自のプロシージャの作成により、データ処理の自動化、データベースなど他のアプリケーションとの連携、効果的なユーザーインターフェースの設計を行う技法を身に付けることを目的とする。</p> <p>更に、一般的なプログラミングを行う際に必要となる技法や作法を学ぶ。</p> <p>なお、本講座を受講するには、「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を、あらかじめ受講済みであること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)授業の体系 | <table border="0"> <tr> <td>1. マクロの基礎</td> <td>11. 文字列</td> </tr> <tr> <td>2. マクロの登録</td> <td>12. ユーザーフォーム</td> </tr> <tr> <td>3. 関数と変数</td> <td>13. 配列</td> </tr> <tr> <td>4. 条件分岐</td> <td>14. プロシージャ</td> </tr> <tr> <td>5. オブジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. イベント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 繰り返し</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. I f と F o r</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. マクロの記録</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.セル操作</td> <td></td> </tr> </table> | 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | 3. 関数と変数 | 13. 配列 | 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | 5. オブジェクト | | 6. イベント | | 7. 繰り返し | | 8. I f と F o r | | 9. マクロの記録 | | 10.セル操作 | |
| 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 関数と変数 | 13. 配列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. オブジェクト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. イベント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 繰り返し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. I f と F o r | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. マクロの記録 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10.セル操作 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を受講済みであること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用Ⅱ | | 木下 恂 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-----------|---------|-----------|--------------|----------|--------|---------|------------|-----------|--|---------|--|---------|--|----------------|--|-----------|--|---------|--|
| (1)科目の概要 | <p>表計算アプリケーションExcelに付属するプログラミング言語 Visual Basic for Application を利用した独自のプロシージャの作成により、データ処理の自動化、データベースなど他のアプリケーションとの連携、効果的なユーザーインターフェースの設計を行う技法を身に付けることを目的とする。</p> <p>更に、一般的なプログラミングを行う際に必要となる技法や作法を学ぶ。</p> <p>なお、本講座を受講するには、「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を、あらかじめ受講済みであること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)授業の体系 | <table border="0"> <tr> <td>1. マクロの基礎</td> <td>11. 文字列</td> </tr> <tr> <td>2. マクロの登録</td> <td>12. ユーザーフォーム</td> </tr> <tr> <td>3. 関数と変数</td> <td>13. 配列</td> </tr> <tr> <td>4. 条件分岐</td> <td>14. プロシージャ</td> </tr> <tr> <td>5. オブジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. イベント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 繰り返し</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. I f と F o r</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. マクロの記録</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.セル操作</td> <td></td> </tr> </table> | 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | 3. 関数と変数 | 13. 配列 | 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | 5. オブジェクト | | 6. イベント | | 7. 繰り返し | | 8. I f と F o r | | 9. マクロの記録 | | 10.セル操作 | |
| 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 関数と変数 | 13. 配列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. オブジェクト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. イベント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 繰り返し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. I f と F o r | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. マクロの記録 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10.セル操作 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を受講済みであること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------------|-----------|------|---|
| ビジネスアプリケーション応用Ⅱ | | 木下 恂 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2 |

| | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
|----------------|--|-----------|---------|-----------|--------------|----------|--------|---------|------------|-----------|--|---------|--|---------|--|----------------|--|-----------|--|---------|--|
| (1)科目の概要 | <p>表計算アプリケーションExcelに付属するプログラミング言語 Visual Basic for Application を利用した独自のプロシージャの作成により、データ処理の自動化、データベースなど他のアプリケーションとの連携、効果的なユーザーインターフェースの設計を行う技法を身に付けることを目的とする。</p> <p>更に、一般的なプログラミングを行う際に必要となる技法や作法を学ぶ。</p> <p>なお、本講座を受講するには、「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を、あらかじめ受講済みであること。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (2)授業の方法 | Excel が搭載されているノート型パソコンを用い、実習と演習を中心とした実践的な授業をすすめる。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (3)授業の体系 | <table border="0"> <tr> <td>1. マクロの基礎</td> <td>11. 文字列</td> </tr> <tr> <td>2. マクロの登録</td> <td>12. ユーザーフォーム</td> </tr> <tr> <td>3. 関数と変数</td> <td>13. 配列</td> </tr> <tr> <td>4. 条件分岐</td> <td>14. プロシージャ</td> </tr> <tr> <td>5. オブジェクト</td> <td></td> </tr> <tr> <td>6. イベント</td> <td></td> </tr> <tr> <td>7. 繰り返し</td> <td></td> </tr> <tr> <td>8. I f と F o r</td> <td></td> </tr> <tr> <td>9. マクロの記録</td> <td></td> </tr> <tr> <td>10.セル操作</td> <td></td> </tr> </table> | 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | 3. 関数と変数 | 13. 配列 | 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | 5. オブジェクト | | 6. イベント | | 7. 繰り返し | | 8. I f と F o r | | 9. マクロの記録 | | 10.セル操作 | |
| 1. マクロの基礎 | 11. 文字列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 2. マクロの登録 | 12. ユーザーフォーム | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 3. 関数と変数 | 13. 配列 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 4. 条件分岐 | 14. プロシージャ | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 5. オブジェクト | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 6. イベント | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 7. 繰り返し | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 8. I f と F o r | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 9. マクロの記録 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| 10.セル操作 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>課題、レポートの成績、および日頃の実習態度により総合判断する。</p> | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |
| (5)履修の条件 | Windows を中心とするパソコン開発環境に慣れていること。「ビジネスアプリケーション応用Ⅰ」を受講済みであること。 | | | | | | | | | | | | | | | | | | | | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 使用しない | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| データベース入門 | | 村上 哲也 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。 |
| (2)授業の方法 | 演習及び講義による。 |
| (3)授業の体系 | 身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素（下記）の作成を通し、システム全体関係を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の課題の提出、出席等で評価 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 若山芳三郎 | 学生のための Access | 東京電気大学 | 1999 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| データベース入門 | | 村上 哲也 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。 |
| (2)授業の方法 | 演習及び講義による。 |
| (3)授業の体系 | 身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素（下記）の作成を通し、システム全体関係を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の課題の提出、出席等で評価 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 若山芳三郎 | 学生のための Access | 東京電気大学 | 1999 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| データベース応用 | | 村上 哲也 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計には RDBMS (Relational DataBase Management System) を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語”SQL”を学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格”Microsoft Access”を使用してデータベースを設計・運用していく。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず、データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。はじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。その後、Microsoft Access を使用してデータベースを設計・運用する。まず Microsoft Access のもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリーの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 提出課題により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|------------------------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 手塚忠則 | やさしいSQL入門 ー演習問題で学ぶデータベース操作法ー | カットシステム | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| データベース応用 | | 村上 哲也 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計には RDBMS (Relational DataBase Management System) を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語”SQL”を学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格”Microsoft Access”を使用してデータベースを設計・運用していく。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず、データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。はじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。その後、Microsoft Access を使用してデータベースを設計・運用する。まず Microsoft Access のもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリーの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 提出課題により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|------------------------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 手塚忠則 | やさしいSQL入門 ー演習問題で学ぶデータベース操作法ー | カットシステム | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|------------|-------|------|
| マルチメディア演習 I | | 由木尾 武 | |
| 春学期 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>科目の目的：パソコンを使用して文書を編集し、仮想のレイアウト用紙上にデザインして、印刷を行う「DTP (DeskTop Publishing)」に必要な知識と技能を習得する。</p> <p>使用ソフト：Adobe InDesign 1.0</p> <p>到達目標：自己表現のツールとして、InDesign の操作方法の基礎を習得する。</p> <p>受講対象：DTP 初心者</p> |
| (2)授業の方法 | 机上の講義やマニュアル的な操作習得ではなく、教材をもとに、“本”を作る製作作業の流れにそって、In Design の操作方法を実習する。 |
| (3)授業の体系 | <p>次の各項目を履修しながら、DTP についての知識と InDesign の操作方法を習得する。最終的には、自作の小冊子をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DTP ソフトウェアの種類と機能 2. 本と文字組みの基礎知識 3. デザインの基礎知識 4. InDesign による本の制作作業 5. 自作小冊子をつくるための素材集め 6. InDesign による自作小冊子の製作作業 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期間中に作成する作品の出来映えで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 初回講義は必ず受講のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|---------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 菅野雄一 | InDesignで本を作る | 株式会社SCC | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|------------|-------|------|
| マルチメディア演習 I | | 由木尾 武 | |
| 春学期 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>科目の目的：パソコンを使用して文書を編集し、仮想のレイアウト用紙上にデザインして、印刷を行う「DTP (DeskTop Publishing)」に必要な知識と技能を習得する。</p> <p>使用ソフト：Adobe InDesign 1.0</p> <p>到達目標：自己表現のツールとして、InDesign の操作方法の基礎を習得する。</p> <p>受講対象：DTP 初心者</p> |
| (2)授業の方法 | 机上の講義やマニュアル的な操作習得ではなく、教材をもとに、“本”を作る製作作業の流れにそって、In Design の操作方法を実習する。 |
| (3)授業の体系 | <p>次の各項目を履修しながら、DTP についての知識と InDesign の操作方法を習得する。最終的には、自作の小冊子をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. DTP ソフトウェアの種類と機能 2. 本と文字組みの基礎知識 3. デザインの基礎知識 4. InDesign による本の制作作業 5. 自作小冊子をつくるための素材集め 6. InDesign による自作小冊子の製作作業 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>期間中に作成する作品の出来映えで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 初回講義は必ず受講のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|---------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 菅野雄一 | InDesignで本を作る | 株式会社SCC | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|------------|-------|------|
| マルチメディア演習Ⅱ | | 由木尾 武 | |
| 秋学期 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>科目の目的：パソコンを使ったビデオ編集やオーディオ編集など、これからの時代の新たなパソコンの活用方法を習得する。また、インターネット上でのリアルタイム音声会議およびビデオ会議など、最新の通信・コミュニケーション方法を学習する。</p> <p>使用ソフト：Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE、PowerPoint、Windowsムービーマーカー、Windows Messenger</p> <p>到達目標：自己表現のツールとして、MediaStudio Pro 6.0 VEでのビデオ作成方法を習得する。また、その他のマルチメディア機能を学ぶ。</p> <p>受講対象：ビデオ編集、オーディオ編集の初心者</p> |
| (2)授業の方法 | 机上の講義ではなく、操作実習を中心に、自己表現としてのビデオ、オーディオの編集や、メディアコミュニケーション方法の実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>次の各項目を履修しながら、ビデオ編集、オーディオ編集、インターネットでの通信・コミュニケーション方法を習得する。最終的には、自分の作品をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. PowerPointによるビデオスライドの作成 2. Windowsムービーマーカーによるビデオの試作 3. MediaStudio Proによるビデオの作成 4. Windows Messenger機能の学習 5. タブレット入力、音声入力の学習 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期間中に作成する作品の出来映えで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 初回講義は必ず受講のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 教科書の購入なし | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|------------|-------|------|
| マルチメディア演習Ⅱ | | 由木尾 武 | |
| 秋学期 | 80分×週 2 コマ | 単位数 | 2 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>科目の目的：パソコンを使ったビデオ編集やオーディオ編集など、これからの時代の新たなパソコンの活用方法を習得する。また、インターネット上でのリアルタイム音声会議およびビデオ会議など、最新の通信・コミュニケーション方法を学習する。</p> <p>使用ソフト：Ulead MediaStudio Pro 6.0 VE Windows XP の Windows Messenger</p> <p>到達目標：自己表現のツールとして、MediaStudio Pro 6.0 VE 及び Windows Messenger の活用方法を習得する。</p> <p>受講対象：ビデオ編集、オーディオ編集の初心者</p> |
| (2)授業の方法 | 机上の講義ではなく、操作実習を中心に、自己表現としてのビデオ、オーディオの編集や、コミュニケーションの実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>次の各項目を履修しながら、ビデオ編集、オーディオ編集、インターネットでの通信・コミュニケーション方法を習得する。最終的には、自分の作品をつくる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ビデオ編集作業の流れ 2. オーディオ編集作業の流れ 3. Windows Messenger の機能 4. リアルタイム音声会議、ビデオ会議 5. アプリケーションの共有、リモートアシスタンス 6. 自分の作品を作るための素材集め 7. 自分の作品の作成 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期間中に作成する作品の出来映えで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | 初回講義は必ず受講のこと。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | 未定 | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|------|-----|
| インターネット活用演習 | | 山際 基 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | インターネットは単に画像や文字情報を得るだけのものではない。音声や映像を得ることはもちろんのこと、情報交換やその応用とも言えるバーチャルショッピングやインターネットオークション、また時には自ら情報を発信することも可能であり、それらを利用するためのソフトウェアが数多く提供されている。それらをうまく使いこなしてこそインターネットを活用していると言える。本講義ではメール、メッセージング、telnet、ftp など他の人やサーバーと情報をやりとりするアプリケーションの活用、音声や動画の視聴、情報の検索、Web 会議室の活用、バーチャルショップでの購入・決済方法の知識などインターネットの多様な利用法について学習する。またインターネットを通じて、所有するノートパソコンの OS やインストール済みのソフトウェアのアップグレードについても実習していく。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | 講義では WWW ブラウザや講義中に使用するソフトウェアを操作することで、その利用法を学習する。インストールされていないソフトウェアを使用する場合には、自らインターネット上からソフトウェアをダウンロードし、インストールを行なう。メールには Outlook Express を、メッセージングには MSN Messenger Service を、音声や映像の視聴には Microsoft MediaPlayer、Apple QuickTime、RealNetworks RealPlayer を、ftp には FFFTP を、telnet には OS 付属のアプリケーションをそれぞれ使用する。また web 会議室の利用はナビゲーションシステムに用意されたものを、情報検索は yahoo や goo、バーチャルショップでの購入・決済の例には楽天市場などそれぞれ目的に応じた WWW サイトを、閲覧・操作する。また、システムやソフトウェアのアップグレードでは Windows Upgrade や窓の杜を利用する。講義中はほぼソフトウェアの操作や WWW サイトの閲覧・操作に終始費やすことになる。習うより慣れろの精神で次々とトライしていただきたい。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 毎回の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|------|-----|
| インターネット活用演習 | | 山際 基 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | インターネットは単に画像や文字情報を得るだけのものではない。音声や映像を得ることはもちろんのこと、情報交換やその応用とも言えるバーチャルショッピングやインターネットオークション、また時には自ら情報を発信することも可能であり、それらを利用するためのソフトウェアが数多く提供されている。それらをうまく使いこなしてこそインターネットを活用していると言える。本講義ではメール、メッセージング、telnet、ftp など他の人やサーバーと情報をやりとりするアプリケーションの活用、音声や動画の視聴、情報の検索、Web 会議室の活用、バーチャルショップでの購入・決済方法の知識などインターネットの多様な利用法について学習する。またインターネットを通じて、所有するノートパソコンの OS やインストール済みのソフトウェアのアップグレードについても実習していく。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | 講義では WWW ブラウザや講義中に使用するソフトウェアを操作することで、その利用法を学習する。インストールされていないソフトウェアを使用する場合には、自らインターネット上からソフトウェアをダウンロードし、インストールを行なう。メールには Outlook Express を、メッセージングには MSN Messenger Service を、音声や映像の視聴には Microsoft MediaPlayer、Apple QuickTime、RealNetworks RealPlayer を、ftp には FFFTP を、telnet には OS 付属のアプリケーションをそれぞれ使用する。また web 会議室の利用はナビゲーションシステムに用意されたものを、情報検索は yahoo や goo、バーチャルショップでの購入・決済の例には楽天市場などそれぞれ目的に応じた WWW サイトを、閲覧・操作する。また、システムやソフトウェアのアップグレードでは Windows Upgrade や窓の杜を利用する。講義中はほぼソフトウェアの操作や WWW サイトの閲覧・操作に終始費やすことになる。習うより慣れろの精神で次々とトライしていただきたい。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 毎回の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| ウェブページ作成演習 | | 暮田 豊 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML(Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず情報の発信に必要な環境や既に公開されているホームページがどのような構成になっているか講義を行なう。そしてホームページを作成するのに必要なHTMLについてその概念、基本文法について学習する。基本文法は文字の大きさや色などの変更といったワープロ的なことから学習を始め、ページの色つけやリンクの作成、図の貼り付けといったホームページならではの機能の実現、表組みや送信フォーム、フレーム、スタイルシートといった応用を学習し、徐々に作成したホームページを充実した内容にしていく。作成されたホームページはFTP Explorerを使用して学内に用意されたサーバーコンピュータに接続し、HTMLファイルやホームページを構成するファイルのアップロード・ダウンロード、サーバーコンピュータにアップロードされたファイルのアクセス権の設定を行なう。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 河西朝雄・河西雄一 | ホームページの制作 | 技術評論社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| ウェブページ作成演習 | | 暮田 豊 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML(Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず情報の発信に必要な環境や既に公開されているホームページがどのような構成になっているか講義を行なう。そしてホームページを作成するのに必要なHTMLについてその概念、基本文法について学習する。基本文法は文字の大きさや色などの変更といったワープロ的なことから学習を始め、ページの色つけやリンクの作成、図の貼り付けといったホームページならではの機能の実現、表組みや送信フォーム、フレーム、スタイルシートといった応用を学習し、徐々に作成したホームページを充実した内容にしていく。作成されたホームページはFTP Explorerを使用して学内に用意されたサーバーコンピュータに接続し、HTMLファイルやホームページを構成するファイルのアップロード・ダウンロード、サーバーコンピュータにアップロードされたファイルのアクセス権の設定を行なう。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 河西朝雄・河西雄一 | ホームページの制作 | 技術評論社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| ウェブページ作成演習 | | 山際 基 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML(Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず情報の発信に必要な環境や既に公開されているホームページがどのような構成になっているか講義を行なう。そしてホームページを作成するのに必要なHTMLについてその概念、基本文法について学習する。基本文法は文字の大きさや色などの変更といったワープロ的なことから学習を始め、ページの色つけやリンクの作成、図の貼り付けといったホームページならではの機能の実現、表組みや送信フォーム、フレーム、スタイルシートといった応用を学習し、徐々に作成したホームページを充実した内容にしていく。作成されたホームページはFTP Explorerを使用して学内に用意されたサーバーコンピュータに接続し、HTMLファイルやホームページを構成するファイルのアップロード・ダウンロード、サーバーコンピュータにアップロードされたファイルのアクセス権の設定を行なう。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 河西朝雄・河西雄一 | ホームページの制作 | 技術評論社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|-----|
| ウェブページ作成演習 | | 山際 基 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | インターネットは情報を得るだけのものではない。自ら情報を発信することも可能である。情報を発信するにはHTML(Hyper Text Markup Language)を記述してホームページを作成し、なおかつ作成したホームページをサーバーコンピュータへアップロードしなければならない。本講義では、インターネット上に自分の情報を発信する為の基本作業であるホームページの作成とサーバーコンピュータとのアクセス方法(アップロード・ダウンロードなど)についての実習を行なう。ホームページの作成には、エディタを利用してHTMLを記述することでHTMLの文字修飾やページレイアウトを構成する為の各種文法といった基本的な技法を身につける。また、作成・変更したホームページを随時サーバーコンピュータへアップロード、または不要となったファイルの削除を行なうことで情報の発信・更新の手法を身につける。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず情報の発信に必要な環境や既に公開されているホームページがどのような構成になっているか講義を行なう。そしてホームページを作成するのに必要なHTMLについてその概念、基本文法について学習する。基本文法は文字の大きさや色などの変更といったワープロ的なことから学習を始め、ページの色つけやリンクの作成、図の貼り付けといったホームページならではの機能の実現、表組みや送信フォーム、フレーム、スタイルシートといった応用を学習し、徐々に作成したホームページを充実した内容にしていく。作成されたホームページはFTP Explorerを使用して学内に用意されたサーバーコンピュータに接続し、HTMLファイルやホームページを構成するファイルのアップロード・ダウンロード、サーバーコンピュータにアップロードされたファイルのアクセス権の設定を行なう。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------|-------|-----|
| (6)使用教科書 | 河西朝雄・河西雄一 | ホームページの制作 | 技術評論社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|------|-----|
| ウェブページデザイン演習 | | 暮田 豊 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者のおもったとおりに作成されているかどうか WWW ブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して動画や音声といった様々な素材を活用したより複雑なホームページの作成を行ったり、既存の CGI や Java Script を配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>代表的なホームページ作成専用ソフトである、Microsoft FrontPage2002 を使用してホームページの作成を行なう。まず、それぞれのソフトの機能や使用方法を学ぶ。その後、文字やページの修飾といったワープロ的な機能の利用したり、画像や音声、映像といった様々な素材の活用していくことにより、より複雑なホームページを作成していく。ホームページの作成についてひととおり学習した後、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作成について講義・実習を行なう。具体的には、より見やすいホームページにするにはどうしたら良いのか？ホームページにアクセスした時にすばやく表示させるにはどうしたら良いのか？について学習する。さらにアクセス解析やゲストブックなどの設置、アクセス権の管理といったホームページ全体の管理についても学習する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>ウェブページ作成演習を履修済みであることが望ましい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|---------------------------------|------------|------|
| (6)使用教科書 | Stephen.L.Nelson | ひと目でわかる Microsoft FrontPage2002 | 日経BPソフトプレス | 2001 |
| (7)使用参考書 | 視覚デザイン研究所 編 | 確実に好感度をあげる Web デザイン初級講座 | 視覚デザイン研究所 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|------|-----|
| ウェブページデザイン演習 | | 暮田 豊 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者のおもったとおりに作成されているかどうか WWW ブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して動画や音声といった様々な素材を活用したより複雑なホームページの作成を行ったり、既存の CGI や Java Script を配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>代表的なホームページ作成専用ソフトである、Microsoft FrontPage2002 を使用してホームページの作成を行なう。まず、それぞれのソフトの機能や使用方法を学ぶ。その後、文字やページの修飾といったワープロ的な機能の利用したり、画像や音声、映像といった様々な素材の活用していくことにより、より複雑なホームページを作成していく。ホームページの作成についてひととおり学習した後、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作成について講義・実習を行なう。具体的には、より見やすいホームページにするにはどうしたら良いのか？ホームページにアクセスした時にすばやく表示させるにはどうしたら良いか？について学習する。さらにアクセス解析やゲストブックなどの設置、アクセス権の管理といったホームページ全体の管理についても学習する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>ウェブページ作成演習を履修済みであることが望ましい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|---------------------------------|-----------|------|
| (6)使用教科書 | Stephen.L.Nelson | ひと目でわかる Microsoft FrontPage2002 | 日経BPソフトプレ | 2001 |
| | | | ス | |
| (7)使用参考書 | 視覚デザイン研究所 編 | 確実に好感度をあげる Web デザイン初級講座 | 視覚デザイン研 | 2001 |
| | | | 究所 | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|------|-----|
| ウェブページデザイン演習 | | 山際 基 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者のおもったとおりに作成されているかどうか WWW ブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して動画や音声といった様々な素材を活用したより複雑なホームページの作成を行ったり、既存の CGI や Java Script を配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>代表的なホームページ作成専用ソフトである、Microsoft FrontPage2002 を使用してホームページの作成を行なう。まず、それぞれのソフトの機能や使用方法を学ぶ。その後、文字やページの修飾といったワープロ的な機能の利用したり、画像や音声、映像といった様々な素材の活用していくことにより、より複雑なホームページを作成していく。ホームページの作成についてひととおり学習した後、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作成について講義・実習を行なう。具体的には、より見やすいホームページにするにはどうしたら良いのか？ホームページにアクセスした時にすばやく表示させるにはどうしたら良いのか？について学習する。さらにアクセス解析やゲストブックなどの設置、アクセス権の管理といったホームページ全体の管理についても学習する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>ウェブページ作成演習を履修済みであることが望ましい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|---------------------------------|-----------|------|
| (6)使用教科書 | Stephen.L.Nelson | ひと目でわかる Microsoft FrontPage2002 | 日経BPソフトプレ | 2001 |
| | | | ス | |
| (7)使用参考書 | 視覚デザイン研究所 編 | 確実に好感度をあげる Web デザイン初級講座 | 視覚デザイン研 | 2001 |
| | | | 究所 | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------|-----------|------|-----|
| ウェブページデザイン演習 | | 山際 基 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>エディタを使用してHTML(Hyper Text Markup Language)を記述しホームページを作成するのは、時間も手間もかかる。さらに作成したホームページが作成者のおもったとおりに作成されているかどうか WWW ブラウザを使用して確認しなければならない。一般にホームページを作成する場合、ウェブページ作成専用ソフトを用いて作成されている。本講義ではウェブページ作成専用ソフトを使用して動画や音声といった様々な素材を活用したより複雑なホームページの作成を行ったり、既存の CGI や Java Script を配置してより充実したホームページの作成を行なう。また、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作りやホームページの管理に必要な知識、実習を行なう。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>代表的なホームページ作成専用ソフトである、Microsoft FrontPage2002 を使用してホームページの作成を行なう。まず、それぞれのソフトの機能や使用方法を学ぶ。その後、文字やページの修飾といったワープロ的な機能の利用したり、画像や音声、映像といった様々な素材の活用していくことにより、より複雑なホームページを作成していく。ホームページの作成についてひととおり学習した後、情報を閲覧する側からの観点に基づいたホームページ作成について講義・実習を行なう。具体的には、より見やすいホームページにするにはどうしたら良いのか？ホームページにアクセスした時にすばやく表示させるにはどうしたら良いのか？について学習する。さらにアクセス解析やゲストブックなどの設置、アクセス権の管理といったホームページ全体の管理についても学習する。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義中の演習課題および期末のレポートで評価する。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>ウェブページ作成演習を履修済みであることが望ましい。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|---------------------------------|------------|------|
| (6)使用教科書 | Stephen.L.Nelson | ひと目でわかる Microsoft FrontPage2002 | 日経BPソフトプレス | 2001 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 視覚デザイン研究所 編 | 確実に好感度をあげる Web デザイン初級講座 | 視覚デザイン研究所 | 2001 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------|------------|-------|------|
| コンピュータプレゼンテーション演習 | | 湖東 善明 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 代表的なプレゼンテーション用アプリケーションであるマイクロソフトPowerPointの基本操作について学ぶ。 続いて、目的に応じた適切なプレゼンテーションをおこなう能力を養成する。 |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用して講義と実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | 1. PowerPoint <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本操作 ・ スライドの作成、編集、実行 ・ マスターの利用 ・ 特殊効果 2. プレゼンテーション <ul style="list-style-type: none"> ・ 企画立案 ・ ストーリの作成 ・ プログラムの作成 ・ 発表 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 平常の実習課題で評価する。 |
| (5)履修の条件 | Windows 2000の基本操作ができること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-------------------------------------|------|------|
| (6)使用教科書 | 永井、仲久保、佐藤 | 30時間でマスター プレゼンテーション+ PowerPoint2000 | 実教出版 | 2001 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 広瀬 | これでわかる パワーポイント2000 | SCC | 2001 |
| | | | | |

| | | | |
|---------------------|-----------|--------|-----|
| Microsoft Word 特別演習 | | 大橋 けい子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定 (P 検) 3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS Word 試験一般レベルの評価スキル単位で Word の機能を学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP) を利用して行う。</p> |
| (2)授業の方法 | デスクトップパソコンを利用した演習形式 |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 一般レベルの評価スキルをカバーする内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字列の挿入と変更 文字列の挿入、変更、および移動、文字列の書式の適用と変更、スペルミスと文法上の誤りの修正、フォントおよび文字飾りの設定、日付と時刻の入力と書式設定、文字スタイルの適用 ○段落の作成と変更 段落書式の変更、タブの設定と変更、段落への箇条書き、アウトライン、および段落番号書式の適用、段落スタイルの適用 ○文書の書式設定 ヘッダーとフッターの作成と変更、段組みの設定と変更、文書のレイアウトおよび[ページ設定]の変更、表の作成と変更、文書、封筒、およびラベルの [印刷プレビュー] と [印刷] ○文書の管理 文書のファイルとフォルダの管理、テンプレートを使用した文書の作成、別の名前およびファイル形式での文書の保存 ○画像の操作 イメージと画像の挿入、図表とグラフの作成と変更 ○ワークグループでのグループ作業 校正用の文書の配布、文書の比較と反映、コメントの挿入、表示および文書の Web ページへの変換 ○ 段落のカスタマイズ 改ページ位置の自動修正、箇条書きおよび表内の段落の並べ替え ○ 文書の書式設定 文書のセクションの作成と書式設定、文字スタイルおよび段落スタイルの作成と適用、文書の索引、目次、図表目次、および引用文献一覧の作成と更新、相互参照の作成、文末脚注と脚注の追加と編集、グループ文書とサブ文書の作成と管理、文書内の移動、さまざまなフォーム コントロールによるフォームの作成と変更、フォームの作成と配布用フォームの準備 ○ 表のカスタマイズ 表での Excel データの使用、Word の表での計算の実行 ○ 画像の作成と変更 画像の作成、変更、および配置、ほかのアプリケーションのデータを使用してグラフを作成および変更する操作、文字列と画像の配置 ○ Word のカスタマイズ マクロの作成、編集、および実行、メニューとツールバーのユーザー設定 ○ ワークグループでのグループ作業 文書の変更履歴の記録、変更の反映、および変更を元に戻す操作、複数の校閲者の入力の反映、ほかの文書および Web ページへのハイパーリンクの挿入と変更、Word での Web ドキュメントの作成と編集、文書の版の作成、文書の保護、ワークグループ テンプレートの既定のファイル場所の定義と変更 文書へのデジタル署名の添付 ○ 差し込み印刷の使用 定型書簡への Word、Excel、または Access データの差し込み、ラベルへの Word、Excel、または Access データの差し込み、差し込み印刷のデータ ファイルとして Outlook データを使用する操作 |

| | | | | |
|----------|---|---|------|---------|
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 | | | |
| | 評価点は、最後の週の授業時間中に実施する実技テストに基づき決定する。 | | | |
| (5)履修の条件 | 短期大学部情報インストラクターコースの学生は履修できない。 | | | |
| (6)使用教科書 | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
| | 山本麻津子 著、アスキー書籍編集部 編 | MOUS Word 2002 試験対策テキスト 一般編 ★Word 2000 対策テキストではなく、Word 2002 対策テキストを購入すること。 | アスキー | 2002 年度 |
| | システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 | MOUS Word 2002 模擬問題集 一般編 ★Word 2000 対策問題集ではなく、Word 2002 対策問題集を購入すること。 | アスキー | 2002 年度 |

| | | | |
|---------------------|-----------|--------|-----|
| Microsoft Word 特別演習 | | 大橋 けい子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定 (P 検) 3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS Word 試験一般レベルの評価スキル単位で Word の機能を学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP) を利用して行う。</p> |
| (2)授業の方法 | デスクトップパソコンを利用した演習形式 |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 一般レベルの評価スキルをカバーする内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字列の挿入と変更 文字列の挿入、変更、および移動、文字列の書式の適用と変更、スペルミスと文法上の誤りの修正、フォントおよび文字飾りの設定、日付と時刻の入力と書式設定、文字スタイルの適用 ○段落の作成と変更 段落書式の変更、タブの設定と変更、段落への箇条書き、アウトライン、および段落番号書式の適用、段落スタイルの適用 ○文書の書式設定 ヘッダーとフッターの作成と変更、段組みの設定と変更、文書のレイアウトおよび[ページ設定]の変更、表の作成と変更、文書、封筒、およびラベルの [印刷プレビュー] と [印刷] ○文書の管理 文書のファイルとフォルダの管理、テンプレートを使用した文書の作成、別の名前およびファイル形式での文書の保存 ○画像の操作 イメージと画像の挿入、図表とグラフの作成と変更 ○ワークグループでのグループ作業 校正用の文書の配布、文書の比較と反映、コメントの挿入、表示および文書の Web ページへの変換 ○ 段落のカスタマイズ 改ページ位置の自動修正、箇条書きおよび表内の段落の並べ替え ○ 文書の書式設定 文書のセクションの作成と書式設定、文字スタイルおよび段落スタイルの作成と適用、文書の索引、目次、図表目次、および引用文献一覧の作成と更新、相互参照の作成、文末脚注と脚注の追加と編集、グループ文書とサブ文書の作成と管理、文書内の移動、さまざまなフォーム コントロールによるフォームの作成と変更、フォームの作成と配布用フォームの準備 ○ 表のカスタマイズ 表での Excel データの使用、Word の表での計算の実行 ○ 画像の作成と変更 画像の作成、変更、および配置、ほかのアプリケーションのデータを使用してグラフを作成および変更する操作、文字列と画像の配置 ○ Word のカスタマイズ マクロの作成、編集、および実行、メニューとツールバーのユーザー設定 ○ ワークグループでのグループ作業 文書の変更履歴の記録、変更の反映、および変更を元に戻す操作、複数の校閲者の入力への反映、ほかの文書および Web ページへのハイパーリンクの挿入と変更、Word での Web ドキュメントの作成と編集、文書の版の作成、文書の保護、ワークグループ テンプレートの既定のファイル場所の定義と変更 文書へのデジタル署名の添付 ○ 差し込み印刷の使用 定型書簡への Word、Excel、または Access データの差し込み、ラベルへの Word、Excel、または Access データの差し込み、差し込み印刷のデータ ファイルとして Outlook データを使用する操作 |

| | | | | |
|----------|---|---|------|---------|
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 | | | |
| | 評価点は、最後の週の授業時間中に実施する実技テストに基づき決定する。 | | | |
| (5)履修の条件 | 短期大学部情報インストラクターコースの学生は履修できない。 | | | |
| (6)使用教科書 | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
| | 山本麻津子 著、アスキー書籍編集部 編 | MOUS Word 2002 試験対策テキスト 一般編 ★Word 2000 対策テキストではなく、Word 2002 対策テキストを購入すること。 | アスキー | 2002 年度 |
| | システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 | MOUS Word 2002 模擬問題集 一般編 ★Word 2000 対策問題集ではなく、Word 2002 対策問題集を購入すること。 | アスキー | 2002 年度 |

| | | | |
|---------------------|-----------|--------|-----|
| Microsoft Word 特別演習 | | 大橋 けい子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS(Microsoft Office User Specialist)試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定(P 検)3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS Word試験一般レベルの評価スキル単位で Word の機能を学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP)を利用して行う。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>デスクトップパソコンを利用した演習形式</p> |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 一般レベルの評価スキルをカバーする内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字列の挿入と変更 文字列の挿入、変更、および移動、文字列の書式の適用と変更、スペルミスと文法上の誤りの修正、フォントおよび文字飾りの設定、日付と時刻の入力と書式設定、文字スタイルの適用 ○段落の作成と変更 段落書式の変更、タブの設定と変更、段落への箇条書き、アウトライン、および段落番号書式の適用、段落スタイルの適用 ○文書の書式設定 ヘッダーとフッターの作成と変更、段組みの設定と変更、文書のレイアウトおよび[ページ設定]の変更、表の作成と変更、文書、封筒、およびラベルの [印刷プレビュー] と [印刷] ○文書の管理 文書のファイルとフォルダの管理、テンプレートを使用した文書の作成、別の名前およびファイル形式での文書の保存 ○画像の操作 イメージと画像の挿入、図表とグラフの作成と変更 ○ワークグループでのグループ作業 校正用の文書の配布、文書の比較と反映、コメントの挿入、表示および文書の Web ページへの変換 ○ 段落のカスタマイズ 改ページ位置の自動修正、箇条書きおよび表内の段落の並べ替え ○ 文書の書式設定 文書のセクションの作成と書式設定、文字スタイルおよび段落スタイルの作成と適用、文書の索引、目次、図表目次、および引用文献一覧の作成と更新、相互参照の作成、文末脚注と脚注の追加と編集、グループ文書とサブ文書の作成と管理、文書内の移動、さまざまなフォーム コントロールによるフォームの作成と変更、フォームの作成と配布用フォームの準備 ○ 表のカスタマイズ 表での Excel データの使用、Word の表での計算の実行 ○ 画像の作成と変更 画像の作成、変更、および配置、ほかのアプリケーションのデータを使用してグラフを作成および変更する操作、文字列と画像の配置 ○ Word のカスタマイズ マクロの作成、編集、および実行、メニューとツールバーのユーザー設定 ○ ワークグループでのグループ作業 文書の変更履歴の記録、変更の反映、および変更を元に戻す操作、複数の校閲者の入力への反映、ほかの文書および Web ページへのハイパーリンクの挿入と変更、Word での Web ドキュメントの作成と編集、文書の版の作成、文書の保護、ワークグループ テンプレートの既定のファイル場所の定義と変更 文書へのデジタル署名の添付 ○ 差し込み印刷の使用 定型書簡への Word、Excel、または Access データの差し込み、ラベルへの Word、Excel、または Access データの差し込み、差し込み印刷のデータ ファイルとして Outlook データを使用する操作 |

| | | | | |
|----------|---|---|------|---------|
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 | | | |
| | 評価点は、最後の週の授業時間中に実施する実技テストに基づき決定する。 | | | |
| (5)履修の条件 | 短期大学部情報インストラクターコースの学生は履修できない。 | | | |
| (6)使用教科書 | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
| | 山本麻津子 著、アスキー書籍編集部 編 | MOUS Word 2002 試験対策テキスト 一般編 ★Word 2000 対策テキストではなく、Word 2002 対策テキストを購入すること。 | アスキー | 2002 年度 |
| | システムインテリジェント株式会社 著、アスキー書籍編集部 編 | MOUS Word 2002 模擬問題集 一般編 ★Word 2000 対策問題集ではなく、Word 2002 対策問題集を購入すること。 | アスキー | 2002 年度 |

| | | | |
|-------------------------|------------|-------|------|
| Microsoft Office 特別演習 I | | 太田 幸雄 | |
| 春学期 | 80 分×週 1コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定 (P 検) 3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS の評価スキル単位での Word の機能を学ぶ。</p> <p>まず、MOUS 一般レベルの評価スキルを学び、理解度に応じて、上級レベルの評価スキルを含む内容とする。</p> <p>なお、2年春学期の「Microsoft Office 特別演習Ⅲ」では、「MOUS 試験 Word 2002 上級レベル」の評価スキルを中心に学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP) を利用して行う。</p> <p>※2 年生の再履修者は Microsoft Word 2002 のインストールが必要なので、IT センターに申し出ること。</p> |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 の評価スキルをカバーする内容とする。</p> <p>■一般レベル(中心的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字列の挿入と変更 文字列の挿入、変更、および移動、文字列の書式の適用と変更、スペルミスと文法上の誤りの修正、フォントおよび文字飾りの設定、日付と時刻の入力と書式設定、文字スタイルの適用 ○段落の作成と変更 段落書式の変更、タブの設定と変更、段落への簡条書き、アウトライン、および段落番号書式の適用、段落スタイルの適用 ○文書の書式設定 ヘッダーとフッターの作成と変更、段組みの設定と変更、文書のレイアウトおよび[ページ設定]の変更、表の作成と変更、文書、封筒、およびラベルの [印刷プレビュー] と [印刷] ○文書の管理 文書のファイルとフォルダの管理、テンプレートを使用した文書の作成、別の名前およびファイル形式での文書の保存 ○画像の操作 イメージと画像の挿入、図表とグラフの作成と変更 ○ワークグループでのグループ作業 校正用の文書の配布、文書の比較と反映、コメントの挿入、表示および文書の Web ページへの変換 <p>■上級レベル(理解度に応じて追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○段落のカスタマイズ ○文書の書式設定 ○表のカスタマイズ ○画像の作成と変更 ○Word のカスタマイズ ○ワークグループでのグループ作業 ○差し込み印刷の使用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>評価点は、授業の最終週におこなう実力判定をもとに採点する。</p> <p>試験期間中の定期試験は実施しない。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>履修の条件は特に無い。</p> <p>授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|------------------------------------|-----|---------|
| (6)使用教科書 | オフィスウインカル | MOUS 教科書 Word Version 2002 一般試験 | 翔泳社 | 2002 年度 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------------|------------|-------|------|
| Microsoft Office 特別演習 I | | 太田 幸雄 | |
| 春学期 | 80 分×週 1コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定 (P 検) 3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS の評価スキル単位での Word の機能を学ぶ。</p> <p>まず、MOUS 一般レベルの評価スキルを学び、理解度に応じて、上級レベルの評価スキルを含む内容とする。</p> <p>なお、2年春学期の「Microsoft Office 特別演習Ⅲ」では、「MOUS 試験 Word 2002 上級レベル」の評価スキルを中心に学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP) を利用して行う。</p> <p>※2 年生の再履修者は Microsoft Word 2002 のインストールが必要なので、IT センターに申し出ること。</p> |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 の評価スキルをカバーする内容とする。</p> <p>■一般レベル(中心的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○文字列の挿入と変更 文字列の挿入、変更、および移動、文字列の書式の適用と変更、スペルミスと文法上の誤りの修正、フォントおよび文字飾りの設定、日付と時刻の入力と書式設定、文字スタイルの適用 ○段落の作成と変更 段落書式の変更、タブの設定と変更、段落への簡条書き、アウトライン、および段落番号書式の適用、段落スタイルの適用 ○文書の書式設定 ヘッダーとフッターの作成と変更、段組みの設定と変更、文書のレイアウトおよび[ページ設定]の変更、表の作成と変更、文書、封筒、およびラベルの [印刷プレビュー] と [印刷] ○文書の管理 文書のファイルとフォルダの管理、テンプレートを使用した文書の作成、別の名前およびファイル形式での文書の保存 ○画像の操作 イメージと画像の挿入、図表とグラフの作成と変更 ○ワークグループでのグループ作業 校正用の文書の配布、文書の比較と反映、コメントの挿入、表示および文書の Web ページへの変換 <p>■上級レベル(理解度に応じて追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○段落のカスタマイズ ○文書の書式設定 ○表のカスタマイズ ○画像の作成と変更 ○Word のカスタマイズ ○ワークグループでのグループ作業 ○差し込み印刷の使用 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>評価点は、授業の最終週におこなう実力判定をもとに採点する。</p> <p>試験期間中の定期試験は実施しない。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>履修の条件は特に無い。</p> <p>授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|------------------------------------|-----|---------|
| (6)使用教科書 | オフィスウインカル | MOUS 教科書 Word Version 2002 一般試験 | 翔泳社 | 2002 年度 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------------------------|-----------|-------|-----|
| Microsoft Office 特別演習 II | | 太田 幸雄 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | | | | |
|----------|--|------------------------------------|-----|---------|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 上級レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定 (P 検) 3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS Word 試験上級レベルの評価スキル単位で Word の機能を学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP) を利用して行う。</p> <p>※2 年生の再履修者は、この授業ではなく、「Microsoft Office 特別演習 II (再履修クラス)」を履修すること。</p> | | | |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) | | | |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 上級レベルの評価スキルをカバーする内容とする。</p> <p>■上級レベル(中心的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 段落のカスタマイズ 改ページ位置の自動修正、箇条書きおよび表内の段落の並べ替え ○ 文書の書式設定 文書のセクションの作成と書式設定、文字スタイルおよび段落スタイルの作成と適用、文書の索引、目次、図表目次、および引用文献一覧の作成と更新、相互参照の作成、文末脚注と脚注の追加と編集、グループ文書とサブ文書の作成と管理、文書内の移動、さまざまなフォーム コントロールによるフォームの作成と変更、フォームの作成と配布用フォームの準備 ○ 表のカスタマイズ 表での Excel データの使用、Word の表での計算の実行 ○ 画像の作成と変更 画像の作成、変更、および配置、ほかのアプリケーションのデータを使用してグラフを作成および変更する操作、文字列と画像の配置 ○ Word のカスタマイズ マクロの作成、編集、および実行、メニューとツールバーのユーザー設定 ○ ワークグループでのグループ作業 文書の変更履歴の記録、変更の反映、および変更を元に戻す操作、複数の校閲者の入力の反映、ほかの文書および Web ページへのハイパーリンクの挿入と変更、Word での Web ドキュメントの作成と編集、文書の版の作成、文書の保護、ワークグループ テンプレートの既定のファイル場所の定義と変更 文書へのデジタル署名の添付 ○ 差し込み印刷の使用 定型書簡への Word、Excel、または Access データの差し込み、ラベルへの Word、Excel、または Access データの差し込み、差し込み印刷のデータ ファイルとして Outlook データを使用する操作 | | | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>評価点は、授業の最終週におこなう実力判定および授業中の提出物をもとに採点する。</p> <p>試験期間中の定期試験は実施しない。</p> | | | |
| (5)履修の条件 | <p>履修の条件は特に無い。</p> <p>授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。</p> | | | |
| (6)使用教科書 | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
| | オフィスウインカル | MOUS 教科書 Word Version 2002 上級試験 | 翔泳社 | 2002 年度 |

| | | | |
|--------------------------|-----------|-------|-----|
| Microsoft Office 特別演習 II | | 太田 幸雄 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | | | | |
|----------|--|------------------------------------|-----|---------|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2002 上級レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2002 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>「コンピュータリテラシ I」が、パソコン検定 (P 検) 3 級を目標に Word 2002 の機能を全般的に学ぶのに対して、この演習では、より実践的に MOUS Word 試験上級レベルの評価スキル単位で Word の機能を学ぶ。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされた Word 2002 (Office XP) を利用して行う。</p> <p>※2 年生の再履修者は、この授業ではなく、「Microsoft Office 特別演習 II (再履修クラス)」を履修すること。</p> | | | |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) | | | |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Word 2002 上級レベルの評価スキルをカバーする内容とする。</p> <p>■上級レベル(中心的な内容)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 段落のカスタマイズ 改ページ位置の自動修正、箇条書きおよび表内の段落の並べ替え ○ 文書の書式設定 文書のセクションの作成と書式設定、文字スタイルおよび段落スタイルの作成と適用、文書の索引、目次、図表目次、および引用文献一覧の作成と更新、相互参照の作成、文末脚注と脚注の追加と編集、グループ文書とサブ文書の作成と管理、文書内の移動、さまざまなフォーム コントロールによるフォームの作成と変更、フォームの作成と配布用フォームの準備 ○ 表のカスタマイズ 表での Excel データの使用、Word の表での計算の実行 ○ 画像の作成と変更 画像の作成、変更、および配置、ほかのアプリケーションのデータを使用してグラフを作成および変更する操作、文字列と画像の配置 ○ Word のカスタマイズ マクロの作成、編集、および実行、メニューとツールバーのユーザー設定 ○ ワークグループでのグループ作業 文書の変更履歴の記録、変更の反映、および変更を元に戻す操作、複数の校閲者の入力の反映、ほかの文書および Web ページへのハイパーリンクの挿入と変更、Word での Web ドキュメントの作成と編集、文書の版の作成、文書の保護、ワークグループ テンプレートの既定のファイル場所の定義と変更 文書へのデジタル署名の添付 ○ 差し込み印刷の使用 定型書簡への Word、Excel、または Access データの差し込み、ラベルへの Word、Excel、または Access データの差し込み、差し込み印刷のデータ ファイルとして Outlook データを使用する操作 | | | |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>評価点は、授業の最終週におこなう実力判定および授業中の提出物をもとに採点する。</p> <p>試験期間中の定期試験は実施しない。</p> | | | |
| (5)履修の条件 | 履修の条件は特に無い。 授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。 | | | |
| (6)使用教科書 | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
| | オフィスウインカル | MOUS 教科書 Word Version 2002 上級試験 | 翔泳社 | 2002 年度 |

| | | | |
|-----------------------------------|------------|------|------|
| Microsoft Office 特別演習 II (再履修クラス) | | 森本 孝 | |
| 春学期 | 80 分×週 1コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Excel 2000 一般レベル」の高得点での合格を目標に、問題演習を行いながら MOUS 2000 の評価スキルを身につけることを目標とする。</p> <p>※授業は、ノートパソコンにインストールされたExcel 2000 を利用して行う。</p> <p>※1年生は、この授業ではなく、「Microsoft Office 特別演習 II」(太田幸雄先生)を履修すること。</p> |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) |
| (3)授業の体系 | <p>以下の MOUS Excel 2000 一般レベルの評価スキルをカバーする内容とする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ セルの操作 [元に戻す] [やり直し] [繰り返す] の使用、セルの数式と値のクリア、文字列、日付、数値の入力、セルの内容の編集、特定のセルへのジャンプ、選択したセルの挿入/削除、選択したセルの切り取り、コピー、貼り付け、および形式を選択した貼り付け (Office クリップボードの使用)、検索と置換の使用、セルの書式のクリア、連続データの操作 (オートフィル)、ハイパーリンクの作成 ○ ファイルの操作 [保存] の使用、[名前を付けて保存] の使用 (異なるファイル名、保存先、ファイル形式)、既存のワークブックを見つけて開く操作、フォルダの作成、テンプレートを使って新規ワークブックを作成する操作、ワークシート/ワークブックを Web ページとして保存する操作、ワークブックを電子メールで送信する操作、Office アシスタントの使用 ○ ワークシートの書式設定 フォント書式の適用 (フォント名、サイズ、色、スタイル)、数値の形式の適用 (通貨、パーセンテージ、日付、コンマ)、行の高さと列幅の変更、セルの内容の配置変更、小数点以下の桁数の調整、[書式のコピー/貼り付け] を使って書式をコピーする操作、オートフォーマットの適用、罫線、網かけ、塗りつぶしの適用、セルの結合、文字列の方向とインデントの変更、スタイルの定義、適用、および削除 ○ ページ設定と印刷 ワークシート/ワークブックの印刷プレビューと印刷、[ブラウザでプレビュー] の使用、選択した部分の印刷、印刷の向きと拡大縮小印刷の設定、ページ余白とページ中央の設定、改ページの挿入と削除、印刷範囲の設定とクリア、ヘッダーとフッターの設定、印刷タイトルとオプションの設定 (枠線、簡易印刷、行列番号) ○ ワークシートとワークブックの編集 行と列の挿入と削除、行と列の非表示と再表示、ウィンドウ枠の固定と固定解除、ズーム設定の変更、ワークブック内のワークシート間の移動、スペル チェック、ワークシートの名前の変更、ワークシートの挿入と削除、ワークシートの移動とコピー、3D 参照を使ってワークシートをリンクしデータを統合する操作 ○ 数式と関数の使用 セルをドラッグして数式にセル範囲を入力する操作、数式バーを使ってセルに数式を入力する操作、数式の編集、データ参照の使用 (絶対参照と相対参照)、[オート SUM] の使用、[関数貼り付け] を使って関数を挿入する操作、基礎的な関数の使用 (AVERAGE, SUM, COUNT, MIN, MAX)、数式パレットを使って、関数を入力する操作、日付関数の使用 (NOW と DATE)、財務関数の使用 (FV と PMT)、論理関数の使用 (IF) ○ グラフとオブジェクトの使用 グラフのプレビューと印刷、グラフ ウィザードを使ってグラフを作成する操作、グラフの編集、オブジェクト (図) の挿入、移動および削除、線やオブジェクトの作成と編集 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>評価点は、授業の最終週におこなう実力判定と授業態度をもとに採点する。</p> <p>試験期間中の定期試験は実施しない。</p> |

| | | | | |
|----------|--|---|-----|---------|
| (5)履修の条件 | 「Microsoft Office 特別演習Ⅱ」の再履修者のみ。 授業ではノートパソコンを利用するので、忘れないように気をつけること。 | | | |
| (6)使用教科書 | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
| | オフィスウインカル | MOUS 教科書 Excel Version 2000 一般試験 ★昨年度「Microsoft Office 特別演習Ⅱ」で利用したテキスト。 | 翔泳社 | 2000 年度 |

| | | | |
|--------------------------------|-----------|------|-----|
| Microsoft Office 特別演習 Ⅲ(上級クラス) | | 仲島暁美 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | Microsoft Office 特別演習Ⅰの学習を前提として、「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2000」合格を目標に問題演習中心の授業を行う。 実際の MOUS 試験の模擬問題を利用して問題演習と答え合わせを行い、間違ったところを昨年度のテキストと今年度のテキストを使いながら復習する形で授業を進行する。 上級クラスは、MOUS 上級合格を目標に学習する。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) |
| (3)授業の体系 | 指定した内容について予習したことを前提に、質問対応とポイントの解説を行う。さらに確認テストを行い、理解を深める。 特に間違えやすい問題や難解なスキルについては、昨年度のテキストと本年度のテキストを利用しながら復習を行う。 授業時間中にネットワーク上の CD-ROM(あるいはファイルサーバ)を用いて実際の試験同様の模擬問題を実施する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 評価点は、平常点での評価(授業態度・確認テスト他などで評価する)。 定期試験は実施しない。 |
| (5)履修の条件 | 履修の条件は特に無い。 但し、以下の点に注意すること。 1. 初回の授業から、パソコンとテキスト(今年度のテキストと昨年度の Microsoft Office 特別演習Ⅰのテキスト)を持参すること。 2. 授業を休んだ場合は、友人に聞くなどして埋め合わせをしておくこと。 3. 質問などがある場合には、Office Hour の時間に、C 棟3F リテラシ講師室に来るか、Eメールで問い合わせること。 ★Office Hour の時間、E-Mail アドレスは、 コンピュータリテラシ On Line に掲載する。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|---|-------|-------|
| (6)使用教科書 | 本郷PC塾 | 合格! MOUS テキストWord2000 上級 | 技術評論社 | 2001年 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | オフィスウインカル | Word2000 一般試験 MOUS 教科書 ※昨年度の「Microsoft Office 特別演習Ⅰ」の教科書 | 翔泳社 | 2000年 |
| | オフィスウインカル | Word2000 上級試験 MOUS 教科書 ※昨年度の「Microsoft Office 特別演習Ⅰ」の教科書 | 翔泳社 | 2000年 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------------------------------|-----------|-------|-----|
| Microsoft Office 特別演習 III(普通クラス) | | 塚田 妙子 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | | | |
|----------|--|----------------------|---|
| (1)科目の概要 | Microsoft Office 特別演習 I の学習を前提として、「MOUS (Microsoft Office User Specialist) 試験 Word 2000」合格を目標に問題演習中心の授業をおこなう。 実際の MOUS 試験の模擬問題を利用して問題演習と答え合わせを行い、間違ったところを昨年度のテキストと今年度のテキストを使いながら復習する形で授業を進行する。 普通クラスは、MOUS 一般合格を目標に学習する。 | | |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを利用した演習形式(ノートパソコンの持参が必須) | | |
| (3)授業の体系 | 回数 | テーマ | 授業内容 |
| | 1 | MOUS試験の概要 文字列の操作1 | 元に戻す やり直し 繰り返し フォントスタイル スペルチェック 類義語辞典 文書校正 改ページ 蛍光ペン テキストの挿入と移動 |
| | 2 | 文字列の操作2 | Office クリップボード 書式のコピー フォント フォントサイズ 検索 置換 文字飾り 日付と時刻 記号と特殊文字 オートコレクト |
| | 3 | 段落の操作 | 段落の配置 箇条書きと段落番号 間隔の設定 罫線 網掛け インデント タブとリーダー アウトライン |
| | 4 | 文書の操作1 | 印刷 印刷プレビュー ブラウザでプレビュー 移動 ページ番号 印刷の向き 余白の設定 ジャンプ |
| | 5 | 文書の操作2 | ヘッダーとフッター テキストの配置 段組 宛名ラベル スタイル セクション クリックアンドタイプ |
| | 6 | ファイルの操作 | 保存 開く フォルダ 新規作成 Web ページとして保存 テンプレート ハイパーリンク Office アシスタント 電子メール |
| | 7 | 表の使用 | 表作成 罫線 網掛け 行・列の挿入 削除 セル結合 文字列の向き |
| | 8 | 図とグラフの操作 | 図形描画ツールバー ワードアート クリップアート 画像ファイル |
| | 9 | 模擬問題1 | 模擬試験 1回目 |
| | 10 | 模擬問題2 | 模擬試験 2回目 |
| | 11 | 模擬問題3 | 模擬試験 3回目 |
| | 12 | 模擬問題4 | 模擬試験 4回目 |
| | 13 | 模擬問題5 | 模擬試験 5回目 |
| 14 | まとめ | 春学期講座のまとめ | |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 評価点は、平常点での評価(授業態度 確認テストなど)。 定期試験は実施しない。 | | |

| | |
|----------|--|
| (5)履修の条件 | <p>履修の条件は特に無い。 但し、以下の点に注意すること。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 初回の授業から、パソコンとテキスト(今年度のテキストと昨年度の Microsoft Office 特別演習 I のテキスト)を持参すること。 2. 授業を休んだ場合は、友人に聞くなどして埋め合わせをしておくこと。 3. 質問などがある場合には、Office Hour の時間に、C 棟3F リテラシ講師室に来るか、E メールで問い合わせること。 <p>★Office Hour の時間、E-Mail アドレスは、コンピュータリテラシ On Lineに掲載する。</p> |
|----------|--|

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|---|------|--------|
| (6)使用教科書 | アスキー書籍編集部 | MOUS 試験対策シリーズ⑨ 改訂版 MOUS 模擬問題集 CD-ROM Word2000 一般編 ※「改訂版」を購入すること。 | アスキー | 2002 年 |
| | オフィスウインカル | Word2000 一般試験 MOUS 教科書 ※昨年度の「Microsoft Office 特別演習 I」の教科書 | 翔泳社 | 2000 年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|------|---|
| エンドユーザーコンピューティング | | 宮本 勉 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | データベースシステムを中心とした企業におけるコンピュータの利用技術について、導入事例を参考にしながらシステムアドミニストレータによる自発的なコンピュータ応用の企画、基本設計、運用にいたる過程を学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | テキストと例題を中心に学ぶ。パソコン等を利用して授業を進める。 |
| (3)授業の体系 | 初級システムアドミニストレータ試験の午後の範囲の内容を含む。 1、 仕事とコンピュータ 2、 基幹業務とのかかわり 3、 エンドユーザーコンピューティング」 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 講義にかするレポート作成と授業への意欲について評価点を決定する |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|---------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 授業で指示する | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

授業計画 1

| | 内容 |
|----------|----|
| 第 1 回授業 | |
| 第 2 回授業 | |
| 第 3 回授業 | |
| 第 4 回授業 | |
| 第 5 回授業 | |
| 第 6 回授業 | |
| 第 7 回授業 | |
| 第 8 回授業 | |
| 第 9 回授業 | |
| 第 10 回授業 | |
| 第 11 回授業 | |
| 第 12 回授業 | |
| 第 13 回授業 | |
| 第14回授業 | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| データベース基礎 | | 山際 基 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ワードプロセッサ、表計算、データベースの三つは、パーソナルコンピュータで利用するソフトウェアの基本と言われている。その中でワードプロセッサと表計算は文書作成のために使われるいわば付随的なソフトウェアであるのに対し、データベースは、パーソナルコンピュータに限らず、本来コンピュータの事務的な使用の基本であるデータ処理を行うためのソフトウェアである。このソフトウェアを使って作るのは、文書のようなデータではなく、データを処理するための様々な仕組みである。この仕組みを理解するためにデータベースの設計・データ入力・データベースの利用を演習を通し習得する。 |
| (2)授業の方法 | 演習及び講義による。 |
| (3)授業の体系 | 身近な情報をもとに、データベースシステムを構成する各要素（下記）の作成を通し、システム全体関係を理解する。 <ul style="list-style-type: none"> ・ テーブル ・ フォーム ・ レポート ・ クエリ 最終的にはリレーションシップ・マクロの利用により、ある程度実用に耐えられるデータベースシステムの作成ができることを目標とする。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の課題の提出、出席等で評価 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------|---------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 若山芳三郎 | 学生のための Access | 東京電気大学 | 1999 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| データベース演習 | | 山際 基 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | データを効率良く管理、蓄積する手段としてデータベースがある。データベースを利用することでデータを容易に管理することができるため、顧客管理や仕入れ・受注管理から個人の住所録まで企業や個人を問わず広く利用されている。本講義では、データベースの意味や利用例から講義を行ない、実際にデータベースを設計、運用することによりデータベースの作成法やデータの操作、編集といったデータベースの基礎について学習する。データベースの設計には RDBMS (Relational DataBase Management System) を採用し、データベースの作成やデータの操作を行なうための基礎ともいえるプログラム言語”SQL”を学習する。さらに、パーソナルコンピュータ向けの RDBMS ソフトウェアの代表格”Microsoft Access”を使用してデータベースを設計・運用していく。 |
| (2)授業の方法 | ノートパソコンを用いた実習を中心に講義を進めていく。 |
| (3)授業の体系 | まず、データベースとは何かについて講義を行なう。データベースがどのような場所でどのような場合において利用されているか、データベースの種類などについて講義する。さらに実際に RDBMS を使用してデータベースを設計、運用することによりデータベースの使用法の基礎を学ぶ。はじめにリレーショナル・データベース向けに規格化、標準化された言語である SQL の基礎について講義・実習を行なうことでデータベースの作成やデータの検索、操作を行なうための基本手法を学ぶ。その後、Microsoft Access を使用してデータベースを設計・運用する。まず Microsoft Access のもつ機能やその使用方法について学習し、テーブルの作成ではデータベースの作成方法を、クエリーの作成ではデータの操作法を、フォームの作成やレポートの作成では運用時のデータの表示や印刷について順次学習する。また他のアプリケーションとの連携やマクロなど独自の機能についても学習する。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 提出課題により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|--------------------------------|---------|-----|
| (6)使用教科書 | 手塚忠則 | やさしいSQL入門 – 演習問題で学ぶデータベース操作法 – | カットシステム | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| データベース設計 | | 湖東 善明 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | データベースの設計方法に関する講義を行う。最初にデータベースの目的, データベースのモデルといった, データベースの概要について学ぶ。次に SQL を用いたデータベースの操作について学ぶ。さらに DBMS(データベース管理システム), 分散型データベースによるデータベースの制御, および, データウェアハウス等のデータベースの応用について学ぶ。最後にデータベースシステムの構成と方式について学ぶ |
| (2)授業の方法 | Microsoft Access による SQL プログラミングを取り入れながら授業を進める。 |
| (3)授業の体系 | データベースの概要 データベース言語 データベースの制御 データベースの応用 システムの構成と方式 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験で評価する |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------------|-----------------------------|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | (財)日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト No5 データベース技術 | コンピュータエージェンシー社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|------------|-------|------|
| ウェブページプログラミング | | 湖東 善明 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | HTMLによる静的（表示のみ）なWebページとはことなり、Webサーバーで動作するインタラクティブなWebページ作成技法を習得する。アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームなどの作成を行う。言語としては、perl&cgiを使用するが、言語そのものは入門程度としサンプル集にあるものを修正する方法で行う。またJava Scriptについても学ぶ。 |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用して講義と実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ul style="list-style-type: none"> • Webサーバーの基本的な仕組み • サーバーの利用方法（FTP, Telnetなど） • perl、Java Script入門 • アクセスカウンタ、会議室、メール送信フォームの作成 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 平常の実習課題で評価する。 |
| (5)履修の条件 | Windows 2000の基本操作ができること。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-----------------|--------|------|
| (6)使用教科書 | 国司明宏 | はじめてのWebプログラミング | 明日香出版社 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| プログラミング I | | 清水 智 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本科目では、C言語を用いてプログラム作成方法についての学習を行う。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベル（つまり機械に近い）の処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。</p> <p>資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、資格取得においても重要なプログラム言語となっている。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業の最初に説明を行い、演習を中心に行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>プログラミング I では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なCプログラムの書き方 ・ 入出力文の使い方 ・ 変数の利用 ・ 演算と型について ・ 制御文(if, switch, for, while など)の利用方法 ・ 配列の使い方 (・ 関数の利用) <p>についての演習を行う。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時間内の演習課題提出と宿題提出によって評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 柴田望洋 | 明解 C 言語第 I 巻入門編 | ソフトバンク | |
| (7)使用参考書 | | 授業中に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|------|-----|
| プログラミング I | | 清水 智 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本科目では、C言語を用いてプログラム作成方法についての学習を行う。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベル（つまり機械に近い）の処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。</p> <p>資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、資格取得においても重要なプログラム言語となっている。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業の最初に説明を行い、演習を中心に行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>プログラミング I では、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 基本的なCプログラムの書き方 ・ 入出力文の使い方 ・ 変数の利用 ・ 演算と型について ・ 制御文(if, switch, for, while など)の利用方法 ・ 配列の使い方 (・ 関数の利用) <p>についての演習を行う。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時間内の演習課題提出と宿題提出によって評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 柴田望洋 | 明解 C 言語第 I 巻入門編 | ソフトバンク | |
| (7)使用参考書 | | 授業中に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| プログラミングⅡ | | 清水 智 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本科目では、C言語を用いてプログラム作成方法についての学習を行う。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベル（つまり機械に近い）の処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。</p> <p>資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、資格取得においても重要なプログラム言語となっている。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業の最初に説明を行い、演習を中心に行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>プログラミングⅡでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・基本型と数 ・整数型と文字型 ・浮動小数点型 ・演算 ・関数形式マクロ ・列挙体 ・再帰 ・入出力と文字 <p>についての演習を行う。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時間内の演習課題提出と宿題提出によって評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 柴田望洋 | 明解C言語第Ⅰ巻入門編 | ソフトバンク | |
| (7)使用参考書 | | 授業中に指示する | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| プログラミングⅢ | | 南 憲一 | |
| 春学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本科目では、C言語を用いてプログラム作成方法についての学習を行う。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベル（つまり機械に近い）の処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。</p> <p>資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、資格取得においても重要なプログラム言語となっている。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業の最初に説明を行い、演習を中心に行う。 |
| (3)授業の体系 | <p>プログラミングⅢでは、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字列の操作 ・ポインタ ・文字列とポインタ ・構造体 <p>についての演習を行う。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時間内の演習課題提出と宿題提出によって評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 柴田望洋 | 明解 C 言語第 I 巻入門編 | ソフトバンク | |
| (7)使用参考書 | | 授業中に指示する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|-----|
| プログラミングⅣ | | 南 憲一 | |
| 秋学期 | 80分×週 2コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>本科目では、C言語を用いてプログラム作成方法についての学習を行う。C言語は、柔軟性が高い上に、低レベル（つまり機械に近い）の処理についても行えることから、様々な場所で利用されている。</p> <p>資格試験においても、最近では、C言語をサポートしないものはないほど、資格取得においても重要なプログラム言語となっている。</p> |
| (2)授業の方法 | 授業の最初に説明を行い、演習を中心に行う。 |
| (3)授業の体系 | プログラミングⅣでは、プログラミングⅠ～Ⅲで学んだ内容を元に、基本情報技術者試験で取り上げられるレベルのプログラムの作成方法を学ぶ。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業時間内の演習課題提出と宿題提出によって評価を行う。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|-----------------|--------|-----|
| (6)使用教科書 | 柴田望洋 | 明解 C 言語第 I 巻入門編 | ソフトバンク | |
| (7)使用参考書 | | 授業中に指示する | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------|-----------|--------|---|
| アプリケーションプログラミング I | | 五十嵐 忠夫 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>アプリケーションプログラムとは特定の目的や仕事のために使うプログラムのことをいいます。目的とする仕事（情報処理）を行うには、既存の汎用的なソフトウェアだけを使うのではなく、目的に最適なプログラムを新たに作成することも必要になります。</p> <p>Visual Basic というプログラム言語を使うと、問題を解決するための計算や処理を行うプログラムを作成することができます。</p> <p>Visual Basic はG U I（画面を使った処理）ですので、データ処理はもちろん画像を取扱うなど多目的に使えるプログラムを作成することができます。例題の内容を理解し、練習問題のプログラムを作成するという方法で授業を進めていきます。プログラミングを楽しみながら、プログラミングの基本をマスターすることをこの科目の目標とします。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用して講義と実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1、 Visual Basic の基本操作 2、 アプリケーションの作成の基本 3、 各コントロールの種類と利用法 4、 基本プログラミング作成（各種コントロールを利用） |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>平常の実習課題と授業態度をもって評価点（7割）とする</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|------------------------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 川口広美・水上慎吾・新井智恵子著 | 30時間でマスター Visual Basic | 実教出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------------|-----------|--------|---|
| アプリケーションプログラミング I | | 五十嵐 忠夫 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>アプリケーションプログラムとは特定の目的や仕事のために使うプログラムのことをいいます。目的とする仕事（情報処理）を行うには、既存の汎用的なソフトウェアだけを使うのではなく、目的に最適なプログラムを新たに作成することも必要になります。</p> <p>Visual Basic というプログラム言語を使うと、問題を解決するための計算や処理を行うプログラムを作成することができます。</p> <p>Visual Basic はG U I（画面を使った処理）ですので、データ処理はもちろん画像を取扱うなど多目的に使えるプログラムを作成することができます。例題の内容を理解し、練習問題のプログラムを作成するという方法で授業を進めていきます。プログラミングを楽しみながら、プログラミングの基本をマスターすることをこの科目の目標とします。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用して講義と実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1、 Visual Basic の基本操作 2、 アプリケーションの作成の基本 3、 各コントロールの種類と利用法 4、 基本プログラミング作成（各種コントロールを利用） |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>平常の実習課題と授業態度をもって評価点（7割）とする</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|------------------------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 川口広美・水上慎吾・新井智恵子著 | 30時間でマスター Visual Basic | 実教出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------------|-----------|--------|---|
| アプリケーションプログラミングⅡ | | 五十嵐 忠夫 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>アプリケーションプログラミングⅠで習得した Visual Basic によるプログラミング能力を基に、より高度なプログラミング技法を Visual Basic を使って学習します。</p> <p>各種の標準コントロールを使ったプログラミングやアルゴリズムの基本を確認して、さらに、ゲームプログラムの作成、データベースやオペレーティングシステムなどを操作するプログラミングについて学習を進めます。</p> <p>各テーマを例題プログラム作成によって学習します。さらに練習問題のプログラムを作成することによって理解を深める、という方法で授業を進めます。</p> <p>この科目によって、Visual Basic を使った実用的なプログラミング能力を習得することを学習目標とします。</p> |
| (2)授業の方法 | パソコンを使用して講義と実習を行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1、 Visual Basic の操作、プログラミングの復習 2、 各種の標準コントロールを使ったプログラミング 3、 カスタムコントロールを使うプログラミング技法 4、 API 関数を使うプログラム作成 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>平常の実習課題達成度と授業態度をもって評価点 (7 割) とする</p> |
| (5)履修の条件 | 科目「アプリケーションプログラミングⅠ」履修、あるいはプログラミングについての基礎知識があればよい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------------|------------------------|------|-----|
| (6)使用教科書 | 川口広美・水上慎吾・新井智恵子著 | 30時間でマスター Visual Basic | 実教出版 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|-------|-----|
| ソフトウェア設計 | | 湖東 善明 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | ソフトウェア設計の3つの過程, 内部設計, プログラム設計, プログラム実装について学ぶ。最初に内部設計の手順として, 機能分割と構造化, 物理データ設計, 入出力詳細設計, プログラムの部品化と再利用, 内部設計書の作成について学ぶ。次にプログラム設計の手順としてプログラムの構造化設計, モジュール仕様とテスト仕様の作成, プログラム設計書の作成について学ぶ。最後に, プログラミングとテストの方法について学習する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で授業を行う。 |
| (3)授業の体系 | 機能分割と構造化 物理データ設計と入出力詳細設計 部品化と再利用 内部設計書の作成 プログラム設計の目標と手順 プログラムの構造化設計 モジュール仕様とテスト仕様の作成 プログラム設計書の作成 プログラミングとテスト |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 定期試験で評価する |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-------------------------|---------------------------------|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | (財)日本情報処理開発協会 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト No3 内部設計とプログラミング | コンピュータエー ジ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-----------|------|---|
| メディアの現在と未来 | | 山田 寛 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | メディア学入門。メディアとは何かから始めて、いろいろなメディアの歴史を大急ぎでたどった上で、現状と問題を勉強する。いまや多メディア化、多チャンネル化時代。新旧のメディア、アナログとデジタルのメディアの両方を上手に利用することが重要になる。そこで、新旧さまざまなメディアについて理解し、21世紀のメディア情報社会を生きるための基礎を作ってほしい。できるだけわかりやすく説明したい。 |
| (2)授業の方法 | 講義が中心だが、できるだけ各メディアの実物、実態にふれてもらう。ビデオなどもできるだけ使う。 |
| (3)授業の体系 | 本、新聞からラジオ、テレビ、インターネット、ケータイ電話、デジタル放送まで、新旧のメディアの現状と問題を順番に取り上げる。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 期末試験と平常点をあわせて評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|-------------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は用いない。 | | |
| (7)使用参考書 | | 役に立つ参考書は、授業の中でそのつど紹介する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|---|
| メディア情報論 | | 山田 寛 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 新聞やテレビ、インターネットなど、メディアが送ってくる情報をきちんと読み取る。理解し、判断し、分析し、批判もする。そしてメディアを通じて自分の考えや情報を知らせる。そうしたことができる能力を「メディア・リテラシー」という。それを身につけることが、ますます重要になっている。メディアの実態はどうか、私たちはそれにどう対応したらよいかを学び、メディア・リテラシーを養いたい。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習とをミックス。ビデオなどもたくさん使用する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1) 新聞、テレビ、インターネットなどの問題について講義する。 2) テレビ番組を見て採点し、批評する演習。 3) 新聞各紙を読み比べてもらう。 4) メディアの第一線で活動している人たちを招いて話を聞く。 <p>こうした授業を組み合わせる。</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>平成13年度は平常点だけで評価したが、今年度は期末試験の結果もあわせる予定。</p> |
| (5)履修の条件 | 「メディアの現在と未来」を履修していることが望ましい。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|---------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使用しない。 | | |
| (7)使用参考書 | | 参考書は、授業の中でそのつど紹介する。 | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|-----|
| 編集・出版・印刷の基礎 | | 板谷 成雄 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 情報伝達に重要な位置を占める紙メディア＝多様な出版物はどのようにして作られるのか、その制作工程と各種の出版物それぞれの役割を理解する。編集～印刷～出版という流れにおけるさまざまな場面で行われていることを、講義と実習で修得する。また、出版に関わる産業の現状について理解する。 |
| (2)授業の方法 | 講義を中心とし、関連する実習やミニテストなどを行う。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 出版物の定義・種類・役割 2. 出版物の制作工程と編集の役割 3. 印刷の知識・インキの知識 4. 文字の扱い方 5. 図版の扱い方 6. 校正の知識 7. レイアウト・製版の知識～モノクロとカラー 8. 製本と加工の知識 9. 紙の知識 10. 出版流通と出版産業の現状・展望 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 実習やミニテストなど提出課題と定期試験の成績により評価を行う。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------|---------------------|-------------------|------|
| (6)使用教科書 | 特になし | | | |
| (7)使用参考書 | | 標準編集必携 日本エディタースクール編 | 日本エディタースクール刊 | 1987 |
| | | 出版社の日常用語集 | 社団法人 日本書籍出版協会刊 | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|-----------|------|---|
| マスメディア論 | | 山田 寛 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 1年次の「メディアの現在と未来」「メディア情報論」での学習をさらに進めて、世界と日本でマスメディアが果たしている役割と問題点を考える。新聞やテレビ報道にさらになじんでもらうことも目的です。 |
| (2)授業の方法 | 講義が中心だが、できるだけマスメディアの実物、実態にふれてもらう。 |
| (3)授業の体系 | 1) 情報社会のなかでマスメディアがいかに重要な役割を果たしているかを理解する。 2) そのうえで、メディアを取り巻く問題、たとえば報道の自由をめぐる戦い、誤報、報道と人権、戦争やテロとメディア、日本の記者クラブ、NHKと民放のそれぞれの問題点、情報量の格差などを考える。 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 平常点と期末試験結果をあわせて評価する。 |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|--------------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | 教科書は使わない | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | 参考書は、授業の中でそのつど紹介する | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|----------|-----------|------|---|
| マルチメディア論 | | 中村 修 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 今や各種の企業活動などにおいては、コンピュータを利用した情報処理技術は、社会人に必須のスキルとして要求される。その中において、処理の対象となるマルチメディア情報は、多彩な活動を生む原点である。そして、関連する処理技術の修得は、個人の可能性をも広げる。本講義では、このマルチメディアに関連する、人間の感覚、デザイン、処理技術、ソフトウェア、コンピュータシステム、ネットワーク利用、および応用システムについて、初歩となる基礎知識について解説する。また、学習の1つの指針としてCG-ARTS協会主催のマルチメディア検定の内、入門レベルである3級までの内容を網羅する。 |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う。 |
| (3)授業の体系 | マルチメディアと人間 コミュニケーションデザインの概念 メディア処理技術 メディア処理ソフトウェア コンピュータシステム インターネット マルチメディア応用システム 社会論(リテラシ、社会倫理、市民社会) |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業中の小テスト、受講態度、および期末試験により評価する。 |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|----------------------|-----------|------|
| (6)使用教科書 | CG-ARTS協会 | 入門編 マルチメディア標準テキストブック | CG-ARTS協会 | 2001 |
| (7)使用参考書 | | (必要に応じ授業中に指示する) | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|-------------|------|------|
| デジタル出版演習 I | | 海野京子 | |
| 春学期 | 80 分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>ワープロソフトとして定番の MicrosoftWord を使い、案内状、チラシ、ポスターなどデザイン性の高い印刷物を作るテクニックとノウハウを学びます。</p> <p>ビジネスで Word は必須ソフトですが、ただ文書が作れるだけではライバルに差が付きません。読みやすい文字組、自由度の高いレイアウト、確実に印刷物を出力する力は、現場で高く評価されます。本講座では、案内状やチラシなど具体的な作品を制作しながらこれらの力を身に付けます。</p> <p>DTP 検定Ⅲ種取得程度の能力を身に付けることを目標とします。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>パソコンによる実習中心、レイアウト作成の知識等については講義形式で行います。</p> |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ハードとソフトの基礎知識と基本操作 2. ワードによるレイアウト作成 3. レイアウト作成の知識 4. 正確なレイアウトの作成 5. PS・非 PS 出力のためのデータ作成 6. サービスビューローを利用する 7. 作品制作 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>実習中に行う提出課題 6 割、最終作品で 4 割を評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | <p>パソコンとワードの基本操作ができること(文字入力や簡単な文書の作成程度)</p> |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|--------------|------------------|------------------|-------|
| (6)使用教科書 | 株式会社コンテンツウェア | DTP 検定Ⅲ種公式ガイドブック | 株式会社ワークスコーポレーション | 2000年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|----------|------|-----|
| デジタル出版演習Ⅱ | | 海野京子 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 1単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | In Design、Photoshop など本格的な DTP ソフトを使い、企業の印刷物を発注したり制作したりする際の知識と基本操作を学びます。 会社のパンフレット、広報紙、ポスターなどの印刷物をきちんと作るには、制作者はもちろん発注する側にも相応の知識と経験が求められます。そこで本講座では、実際に使われる DTP ソフトを使いながら、印刷物の作られるワークフローを知り、発注のポイントやデータの修正の仕方など現場に即した知識と基本操作を身に付けます。DTP 検定Ⅱ種取得程度の能力を身に付けることを目標とします。 |
| (2)授業の方法 | パソコンによる実習中心、レイアウト作成の知識等については講義形式で行います。 |
| (3)授業の体系 | 1. レイアウトデザインの依頼 2. 印刷工程の知識 3. 印刷物の基礎知識 4. DTP 作業の環境 5. DTP ソフトの基本操作 6. レイアウト作成の実際 7. 作品制作 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 実習中に行う提出課題 6 割、最終作品で 4 割を評価します。 |
| (5)履修の条件 | 編集・出版・印刷の基礎の履修が望ましい |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|--|----------------------|-----------|
| (6)使用教科書 | 株式会社オラリオ | DTP 検定公式ガイドブックⅡ種 2002 年発売の改訂版を使用します | 株式会社ワークス コーポレーション | 2002 年 |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| ネットワークの基礎 | | 滑川 光裕 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>前半は、インターネットの発展と歴史、それを支える技術（クライアント&サーバシステム、TCP/IP、通信速度など）について学ぶ。</p> <p>後半は、ネットワークの中でも、LANというより具体的な枠組みで、ユーザやグループなどのアクセス権、ファイル・プリンタ共有などについて学ぶ。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式で行う |
| (3)授業の体系 | <p>インターネット</p> <p>クライアント&サーバ</p> <p>TCP/IP</p> <p>HUB</p> <p>スイッチ</p> <p>ユーザ設定</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末の試験での評価を行う。ただし、小テストやレポートの点数を加算し、最終評価とする。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------------|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | (授業中に指示する) | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------|-----------|-------|---|
| ネットワーク技術論 | | 滑川 光裕 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>今日の社会では、コンピュータネットワーク（インターネット）なしに成り立たなくなりました。今年、ついに電話さえもコンピュータネットワークに取り込まれてしまうことが現実になった。</p> <p>そのコンピュータネットワークについて、身近な話題を取り込みながら、複雑な技術について学ぶ。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義により行う。途中で小テスト・レポートも実施する予定である。 |
| (3)授業の体系 | <p>ネットワークアーキテクチャ</p> <p>通信プロトコル</p> <p>変調・符号化</p> <p>伝送技術</p> <p>LANとインターネット</p> <p>ネットワークセキュリティ</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>期末テストに小テスト・レポートの評価点を加えて最終評価とする。</p> |
| (5)履修の条件 | 特になし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|-----------------------|-------------|-----|
| (6)使用教科書 | 中央情報教育研究所 | 基本情報技術者テキスト「ネットワーク技術」 | コンピュータ・エージ社 | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------|----------|--------|---|
| 情報検索の方法 | | 中村 百合子 | |
| 秋学期 | 80分×週2コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | まず、情報や情報メディアの種類と収集法、情報の分析と索引付け、情報の組織化とアクセス提供の使命を持つ機関と専門職など、情報管理の基礎を学ぶ。その上で、主要なデータベースの種類やデータベース活用に必要な検索コマンドを学び、効率的なデジタルデータの検索技術を身につける。11月の情報検索基礎能力試験(情報科学技術協会)受験準備への足がかりとなる内容である。 |
| (2)授業の方法 | 講義と演習。演習では、各自実際に検索を行い、レポートを提出する。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報、情報メディアとは 2. 情報管理とは 3. 情報探索とは 4. 情報検索とは 5. データベースの種類と構造 6. 主なデータベースの特徴とその検索法 7. インターネットの検索エンジン 8. インターネット上の情報の評価法 9. 情報活用と著作権理解 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 成績は、2回の課題レポートにより評価する。 |
| (5)履修の条件 | なし |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------|--------------------|---------------|------|
| (6)使用教科書 | 渡部満彦編集 | 情報検索演習 | 樹村房 | 1998 |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | 緑川信之編著 | 情報検索演習 | 東京書籍 | 1998 |
| | 原野守弘 | 探す力: インターネット検索の新発想 | ソフトバンクパブリッシング | 2001 |
| | 情報科学技術協会編 | 情報の管理と検索 | 情報科学技術協会 | 2000 |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|------|-----|
| インストラクター技法 | | 海野京子 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | インストラクターとは、パソコンやソフトウェアの機能や操作手順を人に教える仕事です。そのため、コンピュータに詳しくればよい、自分が操作できれば教えられる、と思われがちですが、そうではありません。よいインストラクターは、パソコンやソフトの知識とともに、モチベーションの持たせ方、説明の組み立て方、教材の作り方、話し方、板書など、「わかりやすさ」のテクニックを身に付けています。 この講座では、こうしたインストラクションの基本とそのテクニックを実践を交えながら学習していきます。 |
| (2)授業の方法 | 講義に実践やトレーニングを交えながら進めます。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. インストラクターとは？ 2. 仕事の流れ 3. 講師用マニュアルの作成 4. 話し方 5. 教材の準備 6. インストラクションの実践トレーニング 7. ビジネスマナー |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 授業態度や実習意欲、提出課題などを評価します。 |
| (5)履修の条件 | パソコンとワードの基本操作ができること |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | なし | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-----------------|----------|-------|---|
| ホテルビジネス検定トレーニング | | 須藤 眞一 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>ホテルビジネス検定は、(財)日本ホテル教育センターが実施する民間の検定制度である。ホテル業界での実務経験が1カ月以上必要なベーシックレベル2級、同経験が2年以上のベーシックレベル1級、更に、同経験が3年以上必要なマネージメントレベル2級、及び最上級のマネージメントレベル1級の合計4階級よりなる。</p> <p>本学においては何れも受験資格に該当しないものの、ベーシックレベル2級と同等の学力を身につけておくことは、将来、ホテル業界を目指す学生にとって、貴重なものとなる。</p> <p>従って、将来、ホテル関係業界に進む希望を持つ学生の受講が望ましい。授業は、毎回の小テストと、最終の模擬テストを行い、本学において検定レベルを判定する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義・演習・実習(含.ホテル見学)、視聴覚教材・パソコン |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. ホテルの歴史・社会的使命と役割 2. ホテルの運営組織と経営形態 3. ホテル・サービスの基本とホスピタリティ 4. 宿泊部門における基本業務 5. 料飲部門における基本業務 6. 宴会部門における基本業務 7. 調理部門における業務と管理 8. ホテル関連法規と関連政府機関及び団体 9. 世界のホテル産業の現状と将来展望 10. ホテル英語の基本 11. ホテル見学 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>各授業において行う小テスト及び最終授業における模擬テストによる。</p> |
| (5)履修の条件 | ホテルビジネスに興味、関心があること。ホテルビジネスIIを受講している方が望ましいが、当該科目の単独の受講も可能。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----------------|--|----------------|-----|
| (6)使用教科書 | 日本ホテル教育センター編 | ホテルビジネス[基礎編] | 日本ホテル教育センター | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | R.T. Sparrowe | Welcome to Hospitality | Delmar | |
| | Rocco M. Angelo | Hospitality Today | American Hotel | |
| | William S. Gray | Hotel & Motel, Management & Operations | Prentice Hall | |
| | 土井 久太郎 | よくわかるホテル業界 | 日本実業出版社 | |
| | 日本ホテル教育センター編 | ホテルビジネス(管理編) | 日本ホテル教育センター | |

| | | | |
|------------------|---------------------------------|-------|---|
| 旅行業務取扱主任者トレーニングⅡ | | 山内 直美 | |
| 春学期集中 | 8/26(月)、27(火)、28(水)、29(木)、30(金) | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」に引き続き、この講座では9月に実施される国家試験「国内旅行業務取扱主任者」の取得を目指します。</p> <p>試験直前のため実際の試験科目にあわせたミニテストを繰り返し実施いたします。</p> <p>本講座では「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」の基礎知識を再認識し、応用力を身に付けなければなりません。</p> <p>従って「旅行業務取扱主任者トレーニングⅠ」と「トラベルビジネスⅠ」を併せて受講する必要があります。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義形式とミニテストおよび模擬試験の実施 |
| (3)授業の体系 | <p>国内旅行業務取扱主任者国家試験科目（3科目）</p> <p>（1）旅行業法及びこれに基づく法令についての知識</p> <p>（2）旅行業約款、運送約款及び宿泊約款に関する知識</p> <p>（3）国内旅行実務</p> <p>イ 国内の運送機関及び宿泊施設の利用料金、その他旅行業務に関する料金に関する知識</p> <p>ロ 国内旅行を取扱う旅行業務に関する実務処理の能力</p> |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>9月実施の国家試験「国内旅行業務取扱主任者試験」を受験する事。</p> <p>ミニテストと模擬試験を実施します。特に出席を重視します。</p> |
| (5)履修の条件 | 「トラベルビジネスⅠ」「国内旅行取扱主任者トレーニングⅠ」を併せて受講する事。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|----------|---|----------|------|
| (6)使用教科書 | JTB 能力開発 | 旅行業法・約款 運送・宿泊約款 国内運賃・料金 国内旅行実務・観光資源 予想問題集 （上記5冊は「トラベルビジネスⅠ」及び「トレーニングⅠ」で利用したもの） | JTB 能力開発 | 2002 |
| (7)使用参考書 | 帝国書院 | 地歴高等地図(最新版) （上記は「トラベルビジネスⅠ」で利用したもの） | 帝国書院編集部 | |

| | | | |
|-------------|----------|-------|-----|
| 販売士トレーニング I | | 櫻木 孝司 | |
| 春学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>日本商工会議所および全国商工会連合会主催の販売士検定試験は、わが国の流通業界において、唯一の公的な資格制度として高く評価され、現在注目を集めている。そのため有資格者は就職時の有力な武器ともなり、また最近では企業などでも昇給・昇格等の人事考課の際の有力な評価ポイントとして、この制度を採用しているところも増えてきている。</p> <p>本科目はこの販売士検定試験3級の合格と商品販売の実務に関する知識を身につけることを目標としている。試験科目に合わせた講義を主体とし、さらに過去の試験問題などの練習問題もあわせて実施することにより、検定試験合格に必要な力を身につけていく。</p> |
| (2)授業の方法 | 試験科目に合わせた講義を主体に、練習問題の解答を詳細に解説することにより、理解を深めていく。 |
| (3)授業の体系 | <p>以下の販売士検定試験3級の科目を中心に授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 常識 ② 販売技術 ③ 商品知識 ④ 販売事務管理 ⑤ 接客マナー |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、レポート、授業態度などを加味して総合的に評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|----------------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 日本商工会議所 他編 | 販売士検定試験ハンドブック3級(改訂版) | キャリアック | 2002 |
| | 渡貫 正治/古川 徹 | 販売士検定試験問題集 3級 | 実教出版 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 小沢 勝之 | すぐわかる資格ガイド 販売士 | 日本経済新聞社 | 1997 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|------------|----------|-------|-----|
| 販売士トレーニングⅡ | | 櫻木 孝司 | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>日本商工会議所および全国商工会連合会主催の販売士検定試験は、わが国の流通業界において、唯一の公的な資格制度として高く評価され、現在注目を集めている。なぜならば、消費者ニーズの多様化・個性化に対応するため「消費者は何を求めているのか」「売れる商品とは何か」がキーワードとなっているからである。販売士はこのような時代にまさに求められている資格となってきた。</p> <p>本科目はこの販売士検定試験3級の合格と商品販売の実務に関する知識を身につけることを目標としている。「販売士トレーニングⅠ」の内容をさらに発展させ、練習問題の解答を解説することに比重を置き、各項目については重要事項の解説もあわせて実施することにより、検定試験合格に必要な力を身につけていく。</p> |
| (2)授業の方法 | <p>練習問題の解答を詳細に解説することに比重を置きながら、重要事項にも解説をくわえることにより、理解を深めていく。</p> |
| (3)授業の体系 | <p>以下の販売士検定試験3級の科目を中心に授業を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 常識 ② 販売技術 ③ 商品知識 ④ 販売事務管理 ⑤ 接客マナー |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>定期試験、レポート、授業態度などを加味して総合的に評価します。</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|------------|----------------------|---------|------|
| (6)使用教科書 | 日本商工会議所 他編 | 販売士検定試験ハンドブック3級(改訂版) | キャリアック | 2002 |
| | 渡貫 正治/古川 徹 | 販売士検定試験問題集 3級 | 実教出版 | 2001 |
| (7)使用参考書 | 小沢 勝之 | すぐわかる資格ガイド 販売士 | 日本経済新聞社 | 1997 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|---------------|------------|-------|---|
| 日本文化実習 I (書道) | | 井口 浩一 | |
| 春学期 | 80 分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | 主として、漢字を表現する行為を通して、日本文化の根本を自得することが、本科目の目的です。 このために最も重要なことは洗心ということです。心が表れて清浄になると、自然に生命（美）が奔流します。それが表現です。（創造性です）これは、生活（学習を含め）に無類の貢献をし、学習を生きたものとしします。 |
| (2)授業の方法 | 講義・実習 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 書のあらまし 2. 点画の形成と一字の構成 3. 墨色 4. 書の機能 5. 中国の書の変遷 6. 日本の書の変遷 7. 書の意義と特質 |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。 授業中の態度・提出物（評価 5 段階。秀・優・良・可・不可。可以上を提出したものとみなす） |
| (5)履修の条件 | 既成観念を洗い、毎時、次の心がけを実践できること。（関心・感謝・感動）毎時間・用具持参とその清浄化。（手本は必要に応じ手交します）（ノート・必要） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|-----------|--------|-----|
| 日本文化 I | | 柴生田 俊一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | <p>世界各地での民族や国家間の対立は激化しているが、その根元にあるのはイデオロギーや政治・経済の違いでなく、宗教や価値観などの文化の違いである。</p> <p>「我々は一体何者なのか」という基本的な問いに答え、日本人としてのアイデンティティをもつためには、日本の祖先・宗教・言語・歴史・価値観・習慣・制度などを再確認する必要がある。</p> <p>日本は、ユーラシア大陸の東端にあつて、先史以来、様々な文化を選択的に受け入れ、融合させ、また日本独特の文化を創り出してきた。何を選択し、どう融合させ、何を創ってきたのか。「日本文化 I」では、今日的視点に立って、日本文化の形成過程を振り返り、日本のかたち、日本人のこころ、日本文化の特質などについて考える。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、ネット検索 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 民族の形成 2. 宗教の形成 3. 天皇制の変遷 4. 外来文化の受容 5. 日本文化の熟成 6. 文化の地域性（関東、関西、琉球など） 7. 中華文明圏との交流 8. 西欧文明圏との交流 9. 都市（都など）の変遷 10. 交通・通信・メディアの変遷 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>ミニレポート、期末レポート</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------------|-------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 網野善彦 | 日本とは何か、0巻 | 講談社 | 2000 |
| | ハンチントン | 文明の衝突と21世紀の日本 | 集英社新書 | 2000 |
| | 帝国書院編集部 | 地歴高等地図(最新版) | 帝国書院 | 2002 |

| | | | |
|----------|------------|-------|------|
| 日本文化実習 I | | 市川 宗成 | |
| 春学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 茶道を通じて、日本の伝統文化についての理解を深めると同時に感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し仕え合う心などを学ぶ。茶道の作法、実技（湯をわかし、茶を点て、菓子を味わい、茶をいただく）心の持ち方、動作の美しさを習得する。 |
| (2)授業の方法 | 茶道の稽古の実習をベースに講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 道（心）精神面の充実。 2. 学（学問）茶道に於ける日本伝統工芸、文化の知識。 3. 実（実技）茶道の作法の習得。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点 7 割、出席点 3 割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点 7 割の部分についての方法です。</p> <p>授業中の態度、実技習得への積極性。</p> |
| (5)履修の条件 | 用具等（茶、菓子、懐紙、楊子）の実費を必要とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------|----------|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 千宗室 | 新版茶道 | 茶道教育センター | S57 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|-------------|-----------|-------|---|
| 日本文化実習Ⅱ(書道) | | 井口 浩一 | |
| 秋学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 1 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>主として、仮名を表現する行為を通して、日本文化の根本を自得することが、本科目の目的です。</p> <p>平安時代・中葉の国風文化興隆が、その後の日本文化の大きな柱となりました。この国風文化を支えた表現形式が仮名の発明とその洗練であったことは明らかです。何故、私達の先祖は仮名を創り、それに生命を与え、永く我が国文化の基調とするまでに発展させたのかを実習を通じ探ります。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義・実習 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 万葉集とその表記法。仮名発明の必要性。 2. 宇多・醍醐朝と国風の興隆 3. 平安中期の文字とその記載方法及び伝播 4. 三跡の書 5. 古今和歌週と書 6. 百人一首と書 7. 旅と書 8. 創作 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業中の態度・提出物（評価5段階。秀・優・良・可・不可。可以上を提出したものとみなす）</p> |
| (5)履修の条件 | 既成観念を洗い、毎時、次の心がけを実践できること。（関心・感謝・感動）毎時間・用具持参とその清浄化。（手本は必要に応じ手交します）（ノート・必要） |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |

| | | | |
|-------|-----------|--------|-----|
| 日本文化Ⅱ | | 柴生田 俊一 | |
| 春学期 | 80分×週 1コマ | 単位数 | 2単位 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | <p>「日本文化Ⅰ」では、今日的視点に立って、日本文化の形成過程を辿り、我々のアイデンティティを探ってきた。</p> <p>「日本文化Ⅱ」では、諸外国と比較しながら、日本文化の特質、日本人の性格、日本社会の特徴などを学習し、21世紀における日本人の生き方、日本企業のビジネスの仕方を考える。</p> <p>既に身近な生活文化（衣食住、祭祀、行事など）や今後実社会で経験する企業文化（意思決定、取り引き、社内作法など）を中心に、諸外国の文化と比較し、日本人のライフスタイルや日本企業のビジネススタイルの特徴を把握する。</p> |
| (2)授業の方法 | 講義、演習、ネット検索 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 北東アジアの風土と文化（日・韓・中） 2. 北東アジアの衣食住（日・韓・中） 3. 北東アジアの宗教・思想（日・韓・中） 4. 東アジア漢字文化圏（日・韓・中・ヴェトナム） 5. 縮み志向の日本人（日本人の性格、日本文化の特異性） 6. 西欧人による日本文化発見 （禅、茶、家屋、庭園、陶磁器、浮世絵、能、花、武士道など） 7. 現代の日本文化（カラオケ、マンガ、アニメ、ゲーム、ケータイ） 8. 日本社会、日本企業の特徴 9. 21世紀の日本人、日本企業 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>ミニレポート、ネット検索、期末レポート</p> |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|---------|---------------|------|------|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 王少鋒 | 日・韓・中3国の比較文化論 | 明石書店 | 2000 |
| | 李御寧 | 「縮み」志向の日本人 | 学生社 | 1984 |
| | 帝国書院編集部 | 地歴高等地図(最新版) | 帝国書院 | 2002 |
| | | | | |

| | | | |
|---------|------------|-------|------|
| 日本文化実習Ⅱ | | 市川 宗成 | |
| 秋学期 | 80分×週 1 コマ | 単位数 | 1 単位 |

| | |
|----------|--|
| (1)科目の概要 | 茶道を通じて、日本の伝統文化についての理解を深めると同時に感謝と思いやりの心、相手の人格を尊重し仕え合う心などを学ぶ。茶道の作法、実技（湯をわかし、茶を点て、菓子を楽しむ、茶をいただく）心の持ち方、動作の美しさを習得する。 |
| (2)授業の方法 | 茶道の稽古の実習をベースに講義を進める。 |
| (3)授業の体系 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 道（心）精神面の充実。 2. 学（学問）茶道に於ける日本伝統工芸、文化の知識。 3. 実（実技）茶道の作法の習得。 |
| (4)評価の方法 | <p>最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。</p> <p>授業中の態度、実技習得への積極性。</p> |
| (5)履修の条件 | 用具等（茶、菓子、懐紙、楊子）の実費を必要とする。 |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|------|----------|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| (7)使用参考書 | 千宗室 | 新版茶道 | 茶道教育センター | S57 |
| | | | | |
| | | | | |

| | | | |
|--------|----------|----------|---|
| 国際交流研修 | | クレイ サイモン | |
| 秋学期 | 80分×週1コマ | 単位数 | 2 |

| | |
|----------|---|
| (1)科目の概要 | イギリスで行なう集中講座（研修旅行）。 |
| (2)授業の方法 | |
| (3)授業の体系 | |
| (4)評価の方法 | 最終評価は、評価点7割、出席点3割で計算して算出します。ここでの評価の方法は、評価点7割の部分についての方法です。 |
| (5)履修の条件 | |

| | 著者名 | 書名 | 出版社 | 出版年 |
|----------|-----|----|-----|-----|
| (6)使用教科書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |
| (7)使用参考書 | | | | |
| | | | | |
| | | | | |